

uCosminexus DocumentBroker Version 3  
**メッセージ**

操作書

3000-3-F12-30

## 対象製品

R-1M95D-13 uCosminexus DocumentBroker Server Version 3 03-67 (適用 OS : AIX 5L V5.1 , AIX 5L V5.2 , AIX 5L V5.3)

R-1595D-13 uCosminexus DocumentBroker Server Version 3 03-70 (適用 OS : Windows Server 2003 , Windows Server 2003 R2 , Windows Server 2003 R2 x64 Edition , Windows Server 2008 x86 , Windows Server 2008 x64 , Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2012 )

R-1M95D-43 uCosminexus DocumentBroker Development Kit Version 3 03-67 (適用 OS : AIX 5L V5.1 , AIX 5L V5.2 , AIX 5L V5.3)

R-1595D-43 uCosminexus DocumentBroker Development Kit Version 3 03-70 (適用 OS : Windows Server 2003 , Windows Server 2003 R2 , Windows Server 2003 R2 x64 Edition , Windows Server 2008 x86 , Windows Server 2008 x64 , Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2012 , Windows XP , Windows Vista , Windows 7 , Windows 8 )

R-1M95D-53 uCosminexus DocumentBroker Runtime Version 3 03-67 (適用 OS : AIX 5L V5.1 , AIX 5L V5.2 , AIX 5L V5.3)

R-1595D-53 uCosminexus DocumentBroker Runtime Version 3 03-70 (適用 OS : Windows Server 2003 , Windows Server 2003 R2 , Windows Server 2003 R2 x64 Edition , Windows Server 2008 x86 , Windows Server 2008 x64 , Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2012 , Windows XP , Windows Vista , Windows 7 , Windows 8 )

これらのプログラム製品のほかにもこのマニュアルをご利用になれる場合があります。詳細は「リリースノート」でご確認ください。

印の製品については、サポート時期をご確認ください。

## 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

## 商標類

Acrobat Distiller は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

AIX は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

Borland のブランド名および製品名はすべて、米国 Borland Software Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

CORBA は、Object Management Group が提唱する分散処理環境アーキテクチャの名称です。

GIF は、米国 CompuServe Inc. が開発したフォーマットの名称です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

OLE は、米国 Microsoft Corporation が開発したソフトウェア名称です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

TIFF は、米国 Aldus Corp. が開発したフォーマットの名称です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

活文、PDFstaff は、株式会社日立ソリューションズの登録商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

## 発行

2013 年 9 月 3000-3-F12-30

## 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, Hitachi, Ltd.

All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, 2013, Hitachi Solutions, Ltd.

## 変更内容

変更内容 ( 3000-3-F12-30 ) DocumentBroker Server Version 3 03-70 ( 適用 OS : Windows Server 2003 , Windows Server 2003 R2 , Windows Server 2003 R2 x64 Edition , Windows Server 2008 x86 , Windows Server 2008 x64 , Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2012 ) , DocumentBroker Development Kit Version 3 03-70 ( 適用 OS : Windows Server 2003 , Windows Server 2003 R2 , Windows Server 2003 R2 x64 Edition , Windows Server 2008 x86 , Windows Server 2008 x64 , Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2012 , Windows XP , Windows Vista , Windows 7 , Windows 8 ) , DocumentBroker Runtime Version 3 03-70 ( 適用 OS : Windows Server 2003 , Windows Server 2003 R2 , Windows Server 2003 R2 x64 Edition , Windows Server 2008 x86 , Windows Server 2008 x64 , Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2012 , Windows XP , Windows Vista , Windows 7 , Windows 8 )

追加・変更内容	変更箇所
次の前提 OS をサポートしました。 <ul style="list-style-type: none"><li>DocumentBroker Server Windows Server 2012</li><li>DocumentBroker Development Kit , DocumentBroker Runtime Windows Server 2012 , Windows 8</li></ul>	-

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

# はじめに

---

このマニュアルは、次に示すプログラムプロダクトが出力するメッセージについて説明したものです。

- R-1M95D-13 uCosminexus DocumentBroker Server Version 3
- R-1595D-13 uCosminexus DocumentBroker Server Version 3
- R-1M95D-43 uCosminexus DocumentBroker Development Kit Version 3
- R-1595D-43 uCosminexus DocumentBroker Development Kit Version 3
- R-1M95D-53 uCosminexus DocumentBroker Runtime Version 3
- R-1595D-53 uCosminexus DocumentBroker Runtime Version 3

## 対象読者

このマニュアルは、次の方を対象にしています。

- uCosminexus DocumentBroker の環境を管理および運用する方
- uCosminexus DocumentBroker Development Kit で提供するクラスライブラリを利用して、クライアントアプリケーションを開発する方
- uCosminexus DocumentBroker Development Kit で開発したクライアントアプリケーションを実行する方

なお、このマニュアルでは、上記の方が次の知識を持っていることを前提としています。

- HiRDB に関する知識
- UNIX または Windows に関する知識
- C++ 言語に関する知識
- XML に関する知識
- SQL 言語に関する知識
- 分散オブジェクト技術に関する知識

## マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章から構成されています。

### 第 1 章 メッセージの概要

uCosminexus DocumentBroker が出力するメッセージの出力先、出力形式およびこのマニュアルでのメッセージの記述形式について説明しています。

### 第 2 章 共通メッセージ

uCosminexus DocumentBroker の各機能に共通するメッセージについて説明しています。

### 第 3 章 機能別メッセージ

uCosminexus DocumentBroker の機能別のメッセージについて説明しています。

### 第 4 章 各ユティリティのメッセージ

uCosminexus DocumentBroker の各ユティリティに関するメッセージについて説明しています。

### 第 5 章 詳細エラーメッセージ

uCosminexus DocumentBroker で発生したエラーの詳細に関するメッセージについて説明しています。

### 第 6 章 オブジェクト操作ツールのメッセージ

オブジェクト操作ツールに関するメッセージについて説明しています。

### 第 7 章 統計解析ツールのメッセージ

統計解析ツールに関するメッセージについて説明しています。

## 第 8 章 戻り値一覧

クラスライブラリのメソッドを発行したときに返される戻り値について、一覧形式で説明しています。

### 関連マニュアル

このマニュアルは次のマニュアルと関連がありますので、必要に応じてお読みください。なお、本文に記載のマニュアル名称は、「uCosminexus DocumentBroker」を「DocumentBroker」と表記しています。

#### uCosminexus DocumentBroker のマニュアル

##### DocumentBroker Version 3 システム導入・運用ガイド (3000-3-D01)

##### uCosminexus DocumentBroker Version 3 システム導入・運用ガイド (3020-3-U71)

uCosminexus DocumentBroker を使用する環境を定義、管理および運用する場合に参照してください。

UNIX の場合は、資料番号が 3000-3-D01 のマニュアルを参照してください。

Windows の場合は、資料番号が 3020-3-U71 のマニュアルを参照してください。

##### uCosminexus DocumentBroker Version 3 クラスライブラリ C++ 解説 (3000-3-F13)

uCosminexus DocumentBroker Development Kit で提供するクラスライブラリの機能と、クラスライブラリを使用するために必要なオブジェクトモデルについて知りたい場合に参照してください。

##### uCosminexus DocumentBroker Version 3 クラスライブラリ C++ リファレンス 基本機能編 (3000-3-F14)

uCosminexus DocumentBroker Development Kit が提供するクラスライブラリのクラスの詳細とメソッドの文法について知りたい場合に参照してください。

##### uCosminexus DocumentBroker Version 3 オブジェクト操作ツール (3000-3-F15)

uCosminexus DocumentBroker Development Kit または uCosminexus DocumentBroker Runtime で提供するオブジェクト操作ツールの機能について知りたい場合に参照してください。

##### uCosminexus DocumentBroker Version 3 統計解析ツール (3000-3-F11)

uCosminexus DocumentBroker Server で提供する統計解析ツールの機能について知りたい場合に参照してください。

##### DocumentBroker Rendering Option Version 3 (3020-3-N47)

Adobe Acrobat Distiller と連携した DocumentBroker Rendering Option と連携して、レンディション変換要求機能を使用するために必要な DocumentBroker Rendering Option の知識およびコマンドの文法について知りたい場合に参照してください。

##### DocumentBroker Rendering Option Version 3 (活文 PDFstaff 編) (3020-3-N49)

PDFstaff Runtime および PDFstaff SDK と連携した DocumentBroker Rendering Option と連携して、レンディション変換要求機能を使用するために必要な DocumentBroker Rendering Option の知識およびコマンドの文法について知りたい場合に参照してください。

#### 関連製品のマニュアル (HiRDB)

- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 6 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用) (3000-6-238) <sup>1</sup>
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 6 メッセージ (Windows(R) 用) (3020-6-128) <sup>1</sup>
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用) (3000-6-278) <sup>1</sup>
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 メッセージ (Windows(R) 用) (3020-6-278) <sup>1</sup>
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 メッセージ (3020-6-358) <sup>1</sup>
- HiRDB デジタルコンテンツアクセスプラグイン HiRDB File Link (UNIX(R) 用) (3000-6-253) <sup>2</sup>
- HiRDB デジタルコンテンツアクセスプラグイン HiRDB File Link (Windows(R) 用) (3020-6-141) <sup>2</sup>

関連製品のマニュアル（その他）

- VisiBroker for C++ プログラマーズガイド（3000-3-651）<sup>3</sup>
- VisiBroker for C++ プログラマーズガイド（Windows(R)用）（3000-3-678）<sup>3</sup>

注 1

このマニュアルでは、これらのマニュアルを「HiRDB メッセージ」と表記しています。

注 2

このマニュアルでは、これらのマニュアルを「HiRDB File Link」と表記しています。

注 3

このマニュアルでは、これらのマニュアルを「VisiBroker for C++ プログラマーズガイド」と表記していません。

### このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称を次に示す略称で表記しています。

製品名称	略称	
AIX 5L V5.1	AIX	
AIX 5L V5.2		
AIX 5L V5.3		
DABroker	DABroker	
DABroker for C++		
uCosminexus DocumentBroker Development Kit Version 3	DocumentBroker	
uCosminexus DocumentBroker Runtime Version 3		
uCosminexus DocumentBroker Server Version 3		
uCosminexus DocumentBroker Development Kit Version 3	DocumentBroker Development Kit	
uCosminexus DocumentBroker Runtime Version 3	DocumentBroker Runtime	
uCosminexus DocumentBroker Server Version 3	DocumentBroker Server または DocumentBroker サーバ	
uCosminexus DocumentBroker Text Search Index Loader Version 3	DocumentBroker Text Search Index Loader	
DocumentBroker Life Cycle Suite Version 2	DocumentBroker Life Cycle Suite	
HiRDB/Single Server Version 6	HiRDB	
HiRDB/Single Server Version 7		
HiRDB/Single Server Version 8		
HiRDB /Parallel Server Version 6		
HiRDB /Parallel Server Version 7		
HiRDB /Parallel Server Version 8		
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition 日本語版	Windows Server 2003	Windows
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition 日本語版		
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版	Windows Server 2003 R2	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition 日本語版		
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版	Windows Server 2003 R2 または Windows Server 2003 R2 x64 Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版		

製品名称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit 日本語版	Windows Server 2008
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit 日本語版	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise 日本語版	Windows Server 2008 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard 日本語版	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard 日本語版	Windows Server 2012
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter 日本語版	
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System	Windows XP
Microsoft(R) Windows Vista(R) Business 日本語版	Windows Vista
Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise 日本語版	
Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate 日本語版	
Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版 (32 ビット版)	Windows 7
Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)	
Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版 (32 ビット版)	
Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版 (64 ビット版)	
Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版 (64 ビット版)	
Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版 (64 ビット版)	
Windows(R) 8 Pro 日本語版 (32 ビット版)	Windows 8
Windows(R) 8 Pro 日本語版 (64 ビット版)	
Windows(R) 8 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)	
Windows(R) 8 Enterprise 日本語版 (64 ビット版)	
活文 PDFstaff Runtime	PDFstaff Runtime
活文 PDFstaff SDK	PDFstaff SDK

このほか、このマニュアルでは、次に示す表記方法を使用しています。

- AIX を UNIX と表記することがあります。

## uCosminexus DocumentBroker のマニュアルで使用する略語

uCosminexus DocumentBroker のマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
ACE	Access Control Element
ACFlag	Access Control Flag
ACL	Access Control List
AIIM	Association for Information and Image Management International
API	Application Programming Interface
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
BES	Back End Server
BLOB	Binary Large Object

英略語	英字での表記
BMP	Bit Map
BNF	Backus Normal Form
BOA	Basic Object Adapter
CD-ROM	Compact Disc Read Only Memory
CGI	Common Gateway Interface
CORBA	Common Object Request Broker Architecture
CPU	Central Processing Unit
CR	Carriage Return
CSV	Comma Separated Value
DAP	Directory Access Protocol
DAT	Digital Audio Tape
DB	Database
DBMS	Database Management System
DCD	Document Content Description
DDE	Dynamic Data Exchange
DIT	Directory Information Tree
DLL	Dynamic Linking Library
DMA	Document Management Alliance
DN	Distinguished Name
EOF	End of File
ESIS-B	Element Structure Information Set-Binary Format
EUC	Extended UNIX Code
FAM	File Access Module
GIF	Graphics Interchange Format
GUI	Graphical User Interface
GUID	Globally Unique Identifier
HTML	Hypertext Markup Language
HTTP	Hypertext Transfer Protocol
IANA	Internet Assigned Numbers Authority
ID	Identifier
IPF	Itanium(R) Processor Family
ISO	International Organization for Standardization
JIS	Japanese Industrial Standards
JPEG	Joint Photographic Expert Group
LAN	Local Area Network
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
LF	Line Feed
MFC	Microsoft Foundation Class
MIME	Multipurpose Internet Mail Extensions
OCR	Optical Character Reader

英略語	英字での表記
OIID	Object Instance Identifier
OLE	Object Linking and Embedding
OMG	Object Management Group
ORB	Object Request Broker
ORDB	Object Relational Database
OS	Operating System
OTS	Object Transaction Service
PC	Personal Computer
PDF	Portable Document Format
RDB	Relational Database
RDN	Relative Distinguished Name
RFC	Request for Comment
RTF	Rich Text Format
SQL	Structured Query Language
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
TIFF	Tag Image File Format
UOC	User Own Coding
URL	Uniform Resource Locator
UTC	Universal Time Coordinated
UTF-8	8-bit UCS Transformation Format
W3C	World Wide Web Consortium
WWW	World Wide Web
XML	Extensible Markup Language

### このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」を意味します。 (例) A   B A または B を指定することを示します。
[ ]	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。複数の項目が横に並べて記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか一つを選択します。 (例 1) [A] 「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。 (例 2) [B   C] 「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示します。
:	: の左にあるものを右にあるもので定義することを示します。 (例) A : B 「A とは B である」と定義することを示します。

### このマニュアルで使用する構文要素

このマニュアルで使用する構文要素の種類を次に示します。

種類	定義
英字	A ~ Z a ~ z
英小文字	a ~ z
英大文字	A ~ Z
数字	0 ~ 9
英数字	A ~ Z a ~ z 0 ~ 9
記号	! " # \$ % & ' ( ) + , _ . / : ; < = > @ [ ] ^ - { } タブ 空白

注 すべての半角文字を使用してください。

### KB (キロバイト) などの単位表記について

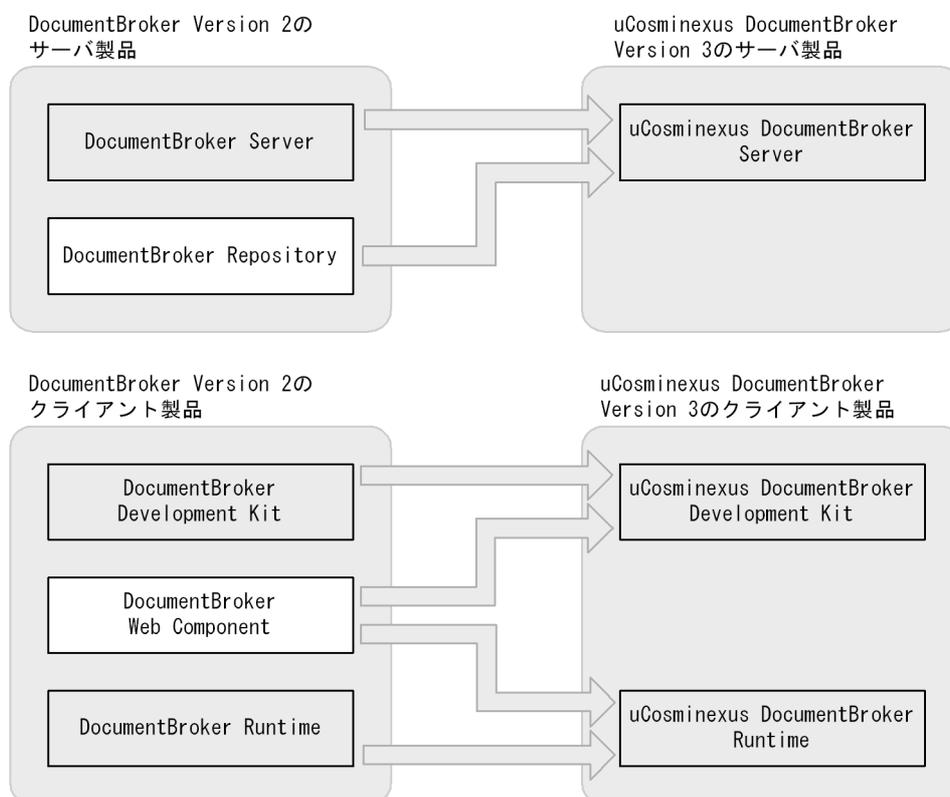
1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ  $1,024$  バイト,  $1,024^2$  バイト,  $1,024^3$  バイト,  $1,024^4$  バイトです。

### DocumentBroker Version 2 と uCosminexus DocumentBroker Version 3 の製品体系の違い

uCosminexus DocumentBroker Version 3 では次のように製品の統合を行いました。

- DocumentBroker Repository を uCosminexus DocumentBroker Server に統合しました。
- DocumentBroker Web Component を uCosminexus DocumentBroker Development Kit および uCosminexus DocumentBroker Runtime に統合しました。

DocumentBroker Version 2 と uCosminexus DocumentBroker Version 3 の製品体系の違いを次に示します。



## DocumentBroker Version 2 と uCosminexus DocumentBroker Version 3 のマニュアルの対応

バージョンアップおよび製品体系の変更に伴い、uCosminexus DocumentBroker Version 3 では次に示すようにマニュアル名称を変更しました。

Version 2 のマニュアル名称	Version 3 のマニュアル名称
DocumentBroker Version 2 システム導入・運用ガイド	uCosminexus DocumentBroker Version 3 システム導入・運用ガイド
DocumentBroker Version 2 クラスライブラリ 解説	uCosminexus DocumentBroker Version 3 クラスライブラリ C++ 解説
DocumentBroker Version 2 クラスライブラリ リファレンス 基本機能編	uCosminexus DocumentBroker Version 3 クラスライブラリ C++ リファレンス 基本機能編
DocumentBroker Version 2 クラスライブラリ リファレンス 概念 SGML 文書管理機能編	廃版
DocumentBroker Version 2 オブジェクト操作ツール	uCosminexus DocumentBroker Version 3 オブジェクト操作ツール
DocumentBroker Version 2 統計解析ツール	uCosminexus DocumentBroker Version 3 統計解析ツール
DocumentBroker Version 2 メッセージ	uCosminexus DocumentBroker Version 3 メッセージ
DocumentBroker Web Component Version 2 解説	uCosminexus DocumentBroker Version 3 クラスライブラリ Java 解説
DocumentBroker Web Component Version 2 リファレンス	uCosminexus DocumentBroker Version 3 クラスライブラリ Java リファレンス
DocumentBroker Web Component Version 2 サンプル Web アプリケーション	uCosminexus DocumentBroker Version 3 クラスライブラリ Java サンプル Web アプリケーション
DocumentBroker Text Search Index Loader Version 2	uCosminexus DocumentBroker Text Search Index Loader Version 3
DocumentBroker Rendering Option システム導入・運用ガイド	uCosminexus DocumentBroker Rendering Option Version 3
DocumentBroker Object Loader Version 2	uCosminexus DocumentBroker Object Loader Version 3

## 目次

<b>1</b>	<b>メッセージの概要</b>	<b>1</b>
1.1	メッセージの出力先	2
1.2	メッセージの出力形式	3
1.3	メッセージの記述形式	4
<b>2</b>	<b>共通メッセージ</b>	<b>7</b>
2.1	KMBR00000 ~ KMBR01999	8
<b>3</b>	<b>機能別メッセージ</b>	<b>11</b>
3.1	KMBR02000 ~ KMBR09999	12
<b>4</b>	<b>各ユティリティのメッセージ</b>	<b>83</b>
4.1	KMBR10000 ~ KMBR19999	84
4.2	文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処	252
<b>5</b>	<b>詳細エラーメッセージ</b>	<b>255</b>
5.1	KMBR20000 ~ KMBR29999	256
<b>6</b>	<b>オブジェクト操作ツールのメッセージ</b>	<b>279</b>
6.1	KMBR30000 ~ KMBR39999	280
<b>7</b>	<b>統計解析ツールのメッセージ</b>	<b>315</b>
7.1	KMBR50000 ~ KMBR59999	316
<b>8</b>	<b>戻り値一覧</b>	<b>337</b>
8.1	クラスライブラリの戻り値	338
8.2	DMA の戻り値	339
8.3	クラスライブラリ独自の戻り値 (ERR_DBR の場合)	344
8.4	データベースエラーが発生した場合の戻り値 (ERR_DB の場合)	350
<b>索引</b>		<b>351</b>



# 1

## メッセージの概要

この章では、DocumentBroker が出力するメッセージの出力先、出力形式およびこのマニュアルでのメッセージの記述形式について説明します。

---

1.1 メッセージの出力先

---

1.2 メッセージの出力形式

---

1.3 メッセージの記述形式

---

## 1.1 メッセージの出力先

---

DocumentBroker が出力するメッセージの出力先を次に示します。

### (1) syslog ファイルまたはイベントログ

syslog ファイル (UNIX の場合) またはイベントログ (Windows の場合) には、DocumentBroker が運用中であることを示すメッセージが出力されます。syslog ファイル (AIX の場合: /var/adm/syslog/syslog.log) には、英文メッセージだけが出力されます。

なお、このマニュアルでは、メッセージの出力先に関する記述は、UNIX を標準 OS としています。したがって、Windows をお使いの場合は、syslog ファイルをイベントログと読み替えてください。

### (2) 標準出力またはコマンドプロンプト

標準出力 (UNIX の場合) またはコマンドプロンプト (Windows の場合) には、次に示すメッセージが出力されます。

コマンドが実行中であることを示すメッセージ

クラスライブラリのメソッドに関する詳細メッセージ

ただし、ここに詳細メッセージが出力されるのは、クライアント環境変数「DBR\_DETAIL\_ERRORLOG」に「ON」が設定されている場合です。

なお、このマニュアルでは、メッセージの出力先に関する記述は、UNIX を標準 OS としています。したがって、Windows をお使いの場合は、標準出力をコマンドプロンプトと読み替えてください。

### (3) 詳細エラーログファイル

詳細エラーログファイルには、クラスライブラリのメソッドに関する詳細メッセージが出力されます。ただし、このファイルに詳細メッセージが出力されるのは、クライアント環境変数「DBR\_DETAIL\_ERRORLOG」に「ON」が設定されている場合です。

### (4) トレースファイル

トレースファイルには、詳細エラーログファイルに出力されるメッセージ以外のすべてのメッセージが出力されます。したがって、syslog ファイル (UNIX の場合)、イベントログ (Windows の場合)、標準出力 (UNIX の場合) またはコマンドプロンプト (Windows の場合) にメッセージが出力された場合、同一内容のメッセージがトレースファイルにも出力されます。

## 1.2 メッセージの出力形式

---

DocumentBroker が出力するメッセージの出力形式を次に示します。

### (1) syslog ファイルに出力されるメッセージの出力形式

syslog ファイル (UNIX の場合) に出力されるメッセージの出力形式を次に示します。

" 出力日時 ホスト名 DocumentBroker[ プロセス ID] : 出力メッセージ "

### (2) イベントログに出力されるメッセージの出力形式

イベントログ (Windows の場合) に出力されるメッセージは、イベントログの出力形式で出力されます。

### (3) 標準出力, コマンドプロンプト, 詳細エラーログファイルおよびトレースファイルに出力されるメッセージの出力形式

標準出力 (UNIX の場合), コマンドプロンプト (Windows の場合), 詳細エラーログファイルおよびトレースファイルに出力されるメッセージの出力形式を次に示します。

" メッセージ ID メッセージテキスト "

## 1.3 メッセージの記述形式

---

このマニュアルでのメッセージの記述形式を次に示します。

### **KMBRnnnnn-i <Y>**

---

日本語のメッセージテキスト

英語のメッセージテキスト

補足説明

(S)

DocumentBroker の動作

(O)

ユーザが実施する対策

KMBR

メッセージを出力したプログラム (DocumentBroker) を表します。

nnnnn

メッセージの番号です。それぞれのメッセージに 5 けたの固有の番号が付いています。

i

メッセージの種類を表します。

I : システムの動作を通知します。

W : 処理は続行しますが、障害が発生したので警告します。

E : 障害が発生したので、処理を中止します。

<Y>

メッセージの出力先を表します。

UNIX の場合

C : syslog ファイル

P : 標準出力

F : トレースファイル

D : 詳細エラーログファイル

Windows の場合

C : イベントログ

P : コマンドプロンプト

F : トレースファイル

D : 詳細エラーログファイル

注

統計解析ツールのメッセージは、統計解析ツールのメッセージトレースファイルに出力されません。

注意

メッセージの出力先は、マニュアル内で使用している付加情報です。したがって、メッセージの出力先は、DocumentBroker から出力されるメッセージには表示されません。

メッセージテキスト

DocumentBroker から出力されるメッセージテキストを示します。メッセージテキストに表示される

%n ( n は挿入句の順番 ) は、メッセージが出力される状況によって変わる値です。なお、メッセージによっては、英語のメッセージテキストが出力されないものもあります。

補足説明

メッセージテキストに対する補足説明を示します。メッセージによっては記述しないものもあります。

(S)

DocumentBroker の動作または処理を示します。

(O)

ユーザが実施する対策を示します。



# 2

## 共通メッセージ

この章では、DocumentBroker の各機能に共通するメッセージについて説明します。

---

2.1 KMBR00000 ~ KMBR01999

## 2.1 KMBR00000 ~ KMBR01999

---

### KMBR00000-E <C,F>

---

領域長のメモリを確保できなかったため、処理を続行できませんでした。

領域名 : %1

領域長 : %2

Memory of the required area size cannot be allocated, so processing stops.

Area name : %1

Area size : %2

(S)

処理を中止します。

(O)

メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。

### KMBR00001-E <C,F>

---

クラスのインスタンスを作成するためのメモリを確保できなかったため、処理を続行できませんでした。

クラス名 : %1

Memory to create a class instance cannot be allocated, so processing stops.

Class name : %1

(S)

処理を中止します。

(O)

メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。

### KMBR00002-E <C,F>

---

ファイルシステムに入出力エラーが発生しました。

対象 : %1

操作 : %2

要因コード : %3

付加情報 : %4

An I/O error occurred in the file system.

Object : %1

Operation : %2

Reason code : %3

Additional information : %4

ファイルシステム内のオブジェクト (%1) に操作 (%2) を実行するときにエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

%3 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

処理を中止します。

(O)

要因コード (%3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

## KMBR00003-E <C,F>

---

システムコールでエラーが発生しました。

関数名 : %1

要因コード : %2

付加情報 : %3

An error occurred during a system call.

Function name : %1

Reason code : %2

Additional information : %3

システムコール (%1) でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

処理を中止します。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

## KMBR00004-E <P>

---

プロダクト情報ファイルが見つかりません。

The product information file was not found.

プロダクト情報ファイルが見つからないため、処理を実行できませんでした。

(S)

処理を中止します。

(O)

次のファイルが存在するか確認してください。存在しない場合は、該当する製品を再インストールしてください。

DocumentBroker Server の場合

/opt/HiEDMS/adm/productdef.ini

## 2. 共通メッセージ

DocumentBroker Development Kit または DocumentBroker Runtime の場合  
/opt/HiEDMS/client/adm/productdef.ini

# 3

## 機能別メッセージ

この章では , DocumentBroker の機能別のメッセージについて説明します。

---

3.1 KMBR02000 ~ KMBR09999

## 3.1 KMBR02000 ~ KMBR09999

---

### KMBR02000-E <C,F>

---

DocumentBroker の文書空間で、内部インターフェースエラーが発生しました。

要因コード : %1

クラス名 : %2

関数名 : %3 (ファイル名 : %4, %5)

クラス名 : %6

関数名 : %7

引数 : %8

An internal interface error occurred in the document space of DocumentBroker.

Reason code : %1

Class name : %2

Function name : %3 (File name : %4,%5)

Class name : %6

Function name : %7

Arguments : %8

(S)

処理を中止します。

(O)

次の手順で必要な情報を収集してから、保守員に連絡してください。

1. トランザクションをロールバックする。
2. 埋め込み文字の内容を記録する。
3. トレース情報を保存する。

### KMBR02001-E <C,F>

---

必要な動作環境メタ情報ファイルが見つかりません。

ファイル名 : %1

The required operating-environment meta-information file was not found.

File name : %1

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- メタ情報が未登録の場合  
EDMInitMeta コマンドを実行してください。
- メタ情報が登録済みの場合

-F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行してください。

## KMBR02002-E <C,F>

---

動作環境メタ情報ファイルに対するアクセス権がありません。

ファイル名 : %1

You do not have access permission for the operating-environment meta-information file.

File name : %1

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc/meta\_files (UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%etc%meta\_files (Windows の場合) の下位にあるファイル (%1) に対するアクセス権 (読み取り権または書き込み権) を設定してから、DocumentBroker サーバを起動してください。

## KMBR02003-E <C,F>

---

メモリが不足しているため、処理を続行できませんでした。

Memory became insufficient, so processing could not continue.

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

DocumentSpace 構成定義ファイルの XdkShmemSize エントリの値を見直すか、環境変数「XDK\_SHMEM\_SIZE」の値を見直してください。また、不要なアプリケーションまたはメモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、処理を再実行してください。  
なお、上記で対処できない場合は、次の対策を実施してください。

- スワップ (仮想メモリ) を増やす。
- AIX の場合、ユーザ属性 data\_hard を見直す。

## KMBR02004-E <C,F>

---

メモリが不足しているため、メタ情報管理用の共用メモリが確保できませんでした。

領域名 : %1

領域サイズ : %2

Memory became insufficient, so shared memory for managing meta-information could not be allocated.

Area name : %1

Area size : %2

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

共用メモリを使用しているほかのプロセスを終了してください。

## KMBR02005-E <C,F>

---

メタ情報管理用の共用メモリの初期化でエラーが発生しました。

付加情報 : %1

An error occurred during initialization of the shared memory for managing meta-information.

Additional information : %1

DocumentSpace 構成定義ファイルの XdkShmemManage エントリに MEMHOLD が指定されている状態で、共用メモリを初期化しようとしたが、ほかのプロセスが共用メモリを参照していたため、初期化できませんでした。

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

DocumentSpace 構成定義ファイルの XdkShmemManage エントリの値に NORMAL を指定してから、DocumentBroker サーバを起動してください。

## KMBR02006-E <C,F>

---

システムコールでエラーが発生しました。

関数名 : %1

要因コード : %2

付加情報 1 : %3

付加情報 2 : %4

An error occurred during a system call.

Function name : %1

Reason code : %2

Additional information 1 : %3

Additional information 2 : %4

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、DocumentBroker サーバを起動してください。

表 3-1 要因コード別の対策一覧

関数名	要因コード	エラーの要因	対策
shmget	22	共有メモリのサイズがシステムの最大値を超えました。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DocumentSpace 構成定義ファイルの XdkShmemSize エントリの値を見直す。</li> <li>環境変数「XDK_SHMEM_SIZE」の値を見直す。</li> </ul>
		DocumentBroker の使用する共有メモリが、DocumentBroker 以外のプロセスによって生成され、64 ビット空間にすでに存在しています。	次のどちらかを実施して、共有メモリを削除してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>共有メモリを使用しているプロセスを終了する。</li> <li>UNIX の場合、iperm コマンドを実行する。</li> </ul>
	28	共有メモリの識別子の数が、システムの上限值を超えました。	共有メモリを使用している、ほかのプロセスを終了してください。
	その他	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
semget	22	セマフォの構造体数が、システムの上限值を超えました。	セマフォを使用している、ほかのプロセスを終了してください。
		DocumentBroker の使用するセマフォが、DocumentBroker 以外のプロセスによって生成されずに存在しています。	次のどちらかを実施して、セマフォを削除してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セマフォを使用しているプロセスを終了する。</li> <li>UNIX の場合、iperm コマンドを実行する。</li> </ul>
	28	セマフォ識別子の数が、システムの上限值を超えました。	セマフォを使用している、ほかのプロセスを終了してください。
	その他	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
shmat	12	メモリが不足しています。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>メモリを増設する。</li> <li>メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。</li> </ul>
	24	アタッチした共有メモリ数がシステムの上限值を超えました。	環境変数「EXTSHM」に「ON」を設定してください。
	その他	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。

### 3. 機能別メッセージ

関数名	要因コード	エラーの要因	対策
shmctl	1	DocumentBroker の使用する共有メモリが、DocumentBroker の実行ユーザ以外によって作成され、すでに存在していません。	次のどちらかを実施して、共有メモリを削除してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>共有メモリを使用しているプロセスを終了する。</li> <li>UNIX の場合、ipcrm コマンドを実行する。</li> </ul>
	その他	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
semctl	1	DocumentBroker の使用するセマフォが、DocumentBroker の実行ユーザ以外によって作成され、すでに存在していません。	次のどちらかを実施して、セマフォを削除してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セマフォを使用しているプロセスを終了する。</li> <li>UNIX の場合、ipcrm コマンドを実行する。</li> </ul>
	その他	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
semop	-	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
ftok	0	共有資源のキーの生成に失敗しました。	DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc/meta_files をアクセス可能にしてください。
CreateFileMapping		付加情報 1 に示す理由によって、メモリマップトファイルの確保に失敗しました。	付加情報 1 に示すシステムのメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
CreateMutex		付加情報 1 に示す理由によって、ミューテックスの確保に失敗しました。	付加情報 1 に示すシステムのメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
CreateMutex		付加情報 1 に示す理由によって、ミューテックスの確保に失敗しました。	付加情報 1 に示すシステムのメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
MapViewOfFile		付加情報 1 に示す理由によって、メモリマップトファイルのビューの取得に失敗しました。	付加情報 1 に示すシステムのメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
UnmapViewOfFile		付加情報 1 に示す理由によって、メモリマップトファイルのビューの解放に失敗しました。	付加情報 1 に示すシステムのメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
その他	該当なし	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。

注

付加情報 1 (%3) に対応する要因コードが出力されます。

### KMBR02007-E <C,F>

環境変数の指定が不正です。

環境変数に指定した値に、数字以外の文字が含まれているか、指定した値が範囲外です。

環境変数名 : %1

値 : %2

An environment variable is invalid.

The specified value in the environment variable includes a non-numeric character or exceeds the permitted range.

Environment variable name : %1

Value : %2

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

環境変数「XDK\_SHMEM\_SIZE」には、3,000,000 ~ 1,073,741,824 の整数値を指定してください。

### KMBR03000-I <C,P,F>

---

DocumentBroker サーバを起動しています。

The DocumentBroker server is starting.

(S)

DocumentBroker サーバを起動しています。

(O)

-

### KMBR03001-I <C,P,F>

---

監視プロセスを起動しました。

The monitor process started.

(S)

監視プロセスを起動しました。

(O)

-

### KMBR03002-I <C,P,F>

---

DocumentBroker サーバを停止しています。

The DocumentBroker server is terminating.

(S)

DocumentBroker サーバを停止しています。

(O)

-

### KMBR03003-I <C,P,F>

---

DocumentBroker サーバを停止しました。

### 3. 機能別メッセージ

The DocumentBroker server terminated.

(S)

DocumentBroker サーバを停止しました。

(O)

-

## KMBR03005-E <C,P,F>

DocumentSpace 構成定義ファイルの読み込み中に、エラーが発生したため、DocumentBroker サーバを起動できませんでした。

要因 : %1

位置 : [%2]%3

The DocumentBroker server could not start because an error occurred while the DocumentSpace configuration definition file was being read.

Reason : %1

Location : [%2] %3

DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) の読み込み中に、要因 (%1) に示すエラーが発生したため、DocumentBroker サーバを起動できませんでした。

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、DocumentBroker サーバを再起動してください。

表 3-2 詳細メッセージ別の対策一覧

要因 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
docspace.ini file was not found.	DocumentSpace 構成定義ファイルが、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc (UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%etc (Windows の場合) の下位に格納されていません。	DocumentSpace 構成定義ファイルを DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc (UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%etc (Windows の場合) の下位に格納してください。
docspace.def file was not found.	docspace.def が DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /adm (UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%adm (Windows の場合) の下位に格納されていません。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>UNIX の場合 DocumentBroker の EDMSetup コマンドを再度実行して、docspace.def を DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /adm の下位に格納してください。</li> <li>Windows の場合 DocumentBroker Server を再インストールしてください。</li> </ul>

要因 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
contents of docspace.def file are incorrect.	docspace.def の定義内容が不正です。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>UNIX の場合 DocumentBroker Server を再インストールしてから、EDMSetup コマンドを実行してください。</li> <li>Windows の場合 DocumentBroker Server を再インストールしてください。</li> </ul>
section is not omissible.	DocumentSpace 構成定義ファイルに、セクション (%2) の指定がありません。	セクション (%2) は、指定を省略できません。セクション (%2) を指定してください。
entry is not omissible.	DocumentSpace 構成定義ファイルのセクション (%2) にエントリ (%3) の指定がありません。	エントリ (%3) は、指定を省略できません。エントリ (%3) を指定してください。
entry value is invalid.	DocumentSpace 構成定義ファイルのセクション (%2) に指定したエントリ (%3) の値が不正です。	DocumentSpace 構成定義ファイルの定義方法に従って、エントリ (%3) を指定してください。 DocumentSpace 構成定義ファイルの定義方法については、マニュアル「DocumentBroker Version 3 システム導入・運用ガイド」を参照してください。

## KMBR03006-E <C,P,F>

続行できないエラーが発生したため、DocumentBroker サーバを起動できませんでした。

The DocumentBroker server could not start because an error that stops processing occurred.

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

このメッセージの前出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、DocumentBroker サーバを再起動してください。

なお、エラーの要因が、KMBR00003-E のシステムコール「StartServiceCtrlDispatcher」の場合は、しばらくしてから DocumentBroker Server サービスを再起動してください。

## KMBR03008-W <C,F>

サービスプロセスが停止しているのを検知したため、サービスプロセスを再起動しています。

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

プロセス識別子 : %3

The system detected that the service process has stopped, so the service process is restarting.

Document space ID : %1

Process No : %2

Process ID : %3

### 3. 機能別メッセージ

(S)

サービスプロセスを再起動して、要求された処理を続行します。

(O)

必要に応じてサービスプロセスが停止した要因を取り除いてください。

#### KMBR03009-E <C,F>

---

サービス監視プロセスが停止しているのを検知したため、サービスプロセスを終了します。

文書空間識別子 : %1

プロセス識別子 : %2

The system detected that the service monitor process has stopped, so the service process will now end.

Document space ID : %1

Process ID : %2

(S)

サービス監視プロセスが停止しているのを検知したため、サービスプロセスの処理を終了します。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、DocumentBroker サーバを再起動してください。

#### KMBR03010-I <C,P,F>

---

DocumentBroker サーバが起動しました。

The DocumentBroker server started.

(S)

DocumentBroker サーバが起動しました。

(O)

-

#### KMBR03011-I <C,P,F>

---

文書空間 (%1) のサービスを起動しました。

The service of the document space (%1) started.

サービスは実行可能な状態です。

(S)

文書空間 (%1) のサービスを起動しました。

(O)

-

#### KMBR03012-E <C,F>

---

サーバ監視プロセス (%1) が停止しているのを検知したため、文書空間 (%2) のサービスを終了します。

The system detected that the server monitor process (%1) has stopped, so the service of the document space (%2) will now end.

(S)  
サーバ監視プロセスが監視していたサービスをすべて終了します。

(O)  
サーバ監視プロセスが停止した要因を取り除いてから、DocumentBroker サーバを再起動してください。

### KMBR03013-W <C,F>

---

サービス監視プロセス(%1)が停止しているのを検知したため、文書空間(%2)のサービスを再起動します。

The system detected that the service monitor process (%1) has stopped, so the service of the document space (%2) will now restart.

(S)  
サービス監視プロセスが監視していたサービスプロセスをすべて終了してから、サービス監視プロセスを再起動します。

(O)  
サービス監視プロセスが停止した要因を取り除いてから、必要であれば DocumentBroker サーバを再起動してください。

### KMBR03014-E <C,P,F>

---

サービス監視プロセス又はサービスプロセスでエラーが発生したため、文書空間(%1)のサービスを開始できませんでした。

The service of the document space (%1) could not start because an error occurred in the service monitor process or the service process.

(S)  
起動済みのサービスプロセスをすべて終了してから、サービス監視プロセスを終了します。

(O)  
サービス監視プロセスまたはサービスプロセスが停止した要因を取り除いてから、DocumentBroker サーバを再起動してください。

### KMBR03015-I <C,F>

---

監視プロセス(%1)により、サービス監視プロセスを起動します。

The monitor process (%1) will start the service monitor process.

(S)  
監視プロセス(%1)によって、サービス監視プロセスを起動します。

(O)  
-

### KMBR03016-I <C,F>

---

サービス監視プロセス(%1)により、サービスプロセスを起動します。

The service monitor process (%1) will start the service process.

### 3. 機能別メッセージ

(S)

サービス監視プロセス (%1) によって、サービスプロセスを起動します。

(O)

-

#### KMBR03017-I <C,F>

---

サービスプロセスを起動します。

The service process will now start.

(S)

サービスプロセスを起動します。

(O)

-

#### KMBR03018-I <C,F>

---

DocumentBroker サーバを終了しています。

The DocumentBroker server is terminating.

(S)

DocumentBroker サーバを終了しています。

(O)

-

#### KMBR03019-I <C,F>

---

監視プロセス (%1) により、サービス監視プロセスを終了します。

The monitor process (%1) terminates the service monitor process.

(S)

監視プロセス (%1) によって、サービス監視プロセスを終了します。

(O)

-

#### KMBR03022-I <C,F>

---

文書空間 (%1) のサービスを終了しました。

The service of the document space (%1) ended.

(S)

文書空間 (%1) のサービスを終了しました。

(O)

-

### KMBR03023-I <C,F>

---

DocumentBroker サーバを停止しました。

The DocumentBroker server terminated.

(S)

DocumentBroker サーバを停止しました。

(O)

-

### KMBR03024-I <C,F>

---

DocumentBroker サーバを強制終了しています。

The DocumentBroker server is being forcibly terminated.

(S)

DocumentBroker サーバを強制終了しています。

(O)

-

### KMBR03025-I <C,F>

---

監視プロセスにより、サービス監視プロセス(%1)を強制終了します。

The monitor process is forcibly terminating the service monitor process (%1).

(S)

監視プロセスによって、サービス監視プロセス(%1)を強制終了します。

(O)

-

### KMBR03026-I <C,F>

---

監視プロセスにより、サービス監視プロセス(%1)を強制終了しました。

The monitor process forcibly terminated the service monitor process (%1).

(S)

監視プロセスによって、サービス監視プロセス(%1)を強制終了しました。

(O)

-

### KMBR03027-I <C,F>

---

監視プロセスにより、サービスプロセス(%1)を強制終了しています。

The monitor process is forcibly terminating the service process (%1).

(S)

監視プロセスによって、サービスプロセス(%1)を強制終了しています。

### 3. 機能別メッセージ

(O)

-

#### KMBR03028-I <C,F>

---

監視プロセスにより、サービスプロセス(%1)を強制終了しました。

The monitor process forcibly terminated the service process (%1).

(S)

監視プロセスによって、サービスプロセス(%1)を強制終了しました。

(O)

-

#### KMBR03029-I <C,F>

---

サービス監視プロセスにより、サービスプロセス(%1)を強制終了しています。

The service monitor process is forcibly terminating the service process (%1).

(S)

サービス監視プロセスによって、サービスプロセス(%1)を強制終了しています。

(O)

-

#### KMBR03030-I <C,F>

---

サービス監視プロセスにより、サービスプロセス(%1)を強制終了しました。

The service monitor process forcibly terminated the service process (%1).

(S)

サービス監視プロセスによって、サービスプロセス(%1)を強制終了しました。

(O)

-

#### KMBR03031-I <C,F>

---

DocumentBroker サーバを強制終了しました。

The DocumentBroker server was forcibly terminated.

(S)

DocumentBroker サーバを強制終了しました。

(O)

-

#### KMBR03032-E <C,P,F>

---

環境定義ファイルが不正です。

要因 : %1

位置 : [%2]%3

The environment definition file is incorrect.

Reason : %1

Location : [%2]%3

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、DocumentBroker サーバを再起動してください。

表 3-3 要因別の対策一覧

要因 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
parameter is incorrect.	DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) 内のエントリに指定した値が不正、またはエントリの指定形式が不正。	DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) 内の、位置 [%2]%3) にあるエントリに指定した値、またはエントリの指定形式を修正する。

## KMBR03034-E <C,F>

システムリソースが存在しないため、処理を続行することができません。

Processing cannot continue because the system resource does not exist.

(S)

DocumentBroker サーバまたはファイル転送サービスの処理を中止します。

(O)

DocumentBroker サーバまたはファイル転送サービスを再起動してください。

## KMBR03042-E <C,F>

サービスプロセス定義ファイルの読み込み中に、エラーが発生しました。

要因 : %1

位置 : [%2]%3

An error occurred while the service process definition file was being read.

Reason : %1

Location : [%2]%3

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、DocumentBroker サーバを再起動してください。

3. 機能別メッセージ

表 3-4 要因別の対策一覧

要因 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
process.ini file cannot access.	DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc (UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %server%etc (Windows の場合) の下位にあるサービスプロセス定義ファイルにアクセスできません。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
entry value is invalid.	サービスプロセス定義ファイルのセクション (%2) に指定したエントリ (%3) の値が正しくありません。	サービスプロセス定義ファイルの定義方法に従ってエントリ (%3) を指定してください。サービスプロセス定義ファイルの定義方法については、マニュアル「DocumentBroker Version 3 システム導入・運用ガイド」を参照してください。

KMBR03043-E <C,F>

サービスプロセスの ORB オプションおよび BOA オプションの指定が不正です。

詳細 1 : %1

詳細 2 : %2

The ORB option and the BOA option of the service process is invalid.

Detail 1 : %1

Detail 2 : %2

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、詳細 1 (%1)、詳細 2 (%2) に示されている ORB オプションおよび BOA オプションの指定を見直してください。

表 3-5 要因別の対策一覧

詳細 1 (%1) に出力されるメッセージ	詳細 2 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
The DocumentSpace configuration definition file. Location: [セクション名] エントリ名	The service process definition file. Location: [セクション名] エントリ名	詳細 1 または詳細 2 に示す ORB オプションおよび BOA オプションの値のうち、どちらか、または両方が不正です。 なお、詳細 1 と詳細 2 の [セクション名] エントリ名は、UNIX の場合、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc の下位にある docspace.ini ファイルのセクション名とエントリ名、または DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc の下位にある process.ini ファイルのセクション名とエントリ名です。 Windows の場合、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ %etc の下位にある docspace.ini ファイルのセクション名とエントリ名、または DocumentBroker の実行環境ディレクトリ %etc の下位にある process.ini ファイルのセクション名とエントリ名です。	詳細 1、詳細 2 に示す ORB オプションおよび BOA オプションの指定を見直してください。

## KMBR03044-E <C,F>

サービスプロセスの VisiBroker プロパティの指定が不正です。

詳細 1 : %1

詳細 2 : %2

The VisiBroker property of the service process is invalid.

Detail 1 : %1

Detail 2 : %2

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、詳細 1 (%1)、詳細 2 (%2) に示されている VisiBroker プロパティの指定を見直してください。

表 3-6 要因別の対策一覧

詳細 1 (%1) に出力されるメッセージ	詳細 2 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
The DocumentSpace configuration definition file. Location: [セクション名] エントリ名	The service process definition file. Location: [セクション名] エントリ名	詳細 1 または 詳細 2 に示す VisiBroker プロパティの値のうち、どちらか、または両方が不正です。 なお、詳細 1 と 詳細 2 の [セクション名] エントリ名は、UNIX の場合、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc の下位にある docspace.ini ファイルのセクション名とエントリ名、または DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc の下位にある process.ini ファイルのセクション名とエントリ名です。 Windows の場合、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ %etc の下位にある docspace.ini ファイルのセクション名とエントリ名、または DocumentBroker の実行環境ディレクトリ %etc の下位にある process.ini ファイルのセクション名とエントリ名です。	詳細 1、詳細 2 に示す VisiBroker プロパティの指定を見直してください。

### KMBR03045-I <C,F>

DocumentBroker サーバ終了コマンドにより、サービス起動制御プロセス (%1) を強制終了します。

The DocumentBroker server termination command is forcibly terminating the service start control process (%1).

サービス起動制御プロセスを強制終了中です。

(S)

DocumentBroker サーバ終了コマンドによって、サービス起動制御プロセス (%1) を強制終了します。

(O)

-

### KMBR03046-I <C,F>

DocumentBroker サーバ終了コマンドにより、サービス起動制御プロセス (%1) を強制終了しました。

The DocumentBroker server termination command forcibly terminated the service start control process (%1).

サービス起動制御プロセスを強制終了しました。

(S)

DocumentBroker サーバ終了コマンドによって、サービス起動制御プロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

-

### KMBR03047-I <C,F>

---

DocumentBroker サーバ終了コマンドにより、監視プロセス(%1)を強制終了します。

The DocumentBroker server termination command is forcibly terminating the monitor process (%1).

監視プロセスを強制終了中です。

(S)

DocumentBroker サーバ終了コマンドによって、監視プロセス(%1)を強制終了します。

(O)

-

### KMBR03048-I <C,F>

---

DocumentBroker サーバ終了コマンドにより、監視プロセス(%1)を強制終了しました。

The DocumentBroker server termination command forcibly terminated the monitor process (%1).

監視プロセスを強制終了しました。

(S)

DocumentBroker サーバ終了コマンドによって、監視プロセス(%1)を強制終了しました。

(O)

-

### KMBR03049-I <C,F>

---

DocumentBroker サーバ終了コマンドにより、サービス監視プロセス(%1)を強制終了します。

The DocumentBroker server termination command is forcibly terminating the service monitor process (%1).

サービス監視プロセスを強制終了中です。

(S)

DocumentBroker サーバ終了コマンドによって、サービス監視プロセス(%1)を強制終了します。

(O)

-

### KMBR03050-I <C,F>

---

DocumentBroker サーバ終了コマンドにより、サービス監視プロセス(%1)を強制終了しました。

The DocumentBroker server termination command forcibly terminated the service monitor process (%1).

サービス監視プロセスを強制終了しました。

(S)

DocumentBroker サーバ終了コマンドによって、サービス監視プロセス(%1)を強制終了しました。

(O)

-

## KMBR03051-I <C,F>

DocumentBroker サーバ終了コマンドにより、サービスプロセス (%1) を強制終了します。

The DocumentBroker server termination command is forcibly terminating the service process (%1).

サービスプロセスを強制終了中です。

(S)

DocumentBroker サーバ終了コマンドによって、サービスプロセス (%1) を強制終了します。

(O)

-

## KMBR03052-I <C,F>

DocumentBroker サーバ終了コマンドにより、サービスプロセス (%1) を強制終了しました。

The DocumentBroker server termination command forcibly terminated the service process (%1).

サービスプロセスを強制終了しました。

(S)

DocumentBroker サーバ終了コマンドによって、サービスプロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

-

## KMBR03053-E <C,P,F>

ネットワークリソース情報ファイルの読み込み中にエラーを検知したため、DocumentBroker サーバを起動できません。

ファイル : %1

詳細 : %2

位置 : [%3]%4

DocumentBroker server cannot start because an error occurred during a read of the network resource information file (%1). Reason: %2 Location: [%3]%4

ネットワークリソース情報ファイル (%1) の読み込み中に、詳細 (%2) に示すエラーを検知したため、DocumentBroker サーバを起動できません。

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、DocumentBroker サーバを再起動してください。

表 3-7 要因別の対策一覧

詳細 (%2) に示されるメッセージ	エラーの要因	対策
parameter is not omissible.	ファイル (%1) の [%3]%4 で示されるエントリは省略できません。	[%3]%4 で示されるエントリを定義してください。
parameter is incorrect.	ファイル (%1) の [%3]%4 で示されるエントリの設定が不正です。	[%3]%4 で示されるエントリを見直してください。

## KMBR03054-W <C,F>

ネットワークリソース (%1) とのコネクションでエラーが発生しました。

要因 : %2

詳細 1 : %3

詳細 2 : %4

A connection error occurred for the network resource (%1) access. Reason: %2 Detail 1: %3 Detail 2: %4

ネットワークリソースの接続でエラーが発生しました。

( S )

処理を続行します。

( O )

%1 で示すネットワークリソースを使用する場合には、次の表に示す対策一覧を基にエラーを取り除いてから、ネットワークリソースを使用してください。

表 3-8 要因別の対策一覧

要因 (%2) に示されるメッセージ	エラーの要因	対策
Already connected by other user.	接続しようとしたネットワークリソース (%1) は、すでにほかのユーザ (%3) を使用して接続されています。	このネットワークリソースをネットワークリソース情報ファイルに定義したユーザで接続して使用するためには、DocumentBroker を再起動してください。接続済みのユーザを使用する場合には、ネットワークリソース情報ファイルのユーザを変更して DocumentBroker を再起動してください。
Method error.	ネットワークリソース (%1) とのコネクション ( Win32API (%3) ) が失敗しました。	エラーコード (%4) で示す情報を基にエラー要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

## KMBR03115-W <C,F>

一定時間のアクセスがないため、セッションを強制終了します。

文書空間識別子 : %1

プロセス識別子 : %2

セッション識別子 : %3

The session was forcibly terminated because there was no access during the set period.

Document space ID : %1

Process ID : %2

Session ID : %3

DocumentSpace 構成定義ファイルに定義されている SessionTimeOut の時間を超えてアクセスがないため、セッションを強制終了します。

( S )

セッションを強制終了します。

( O )

再度ログインして処理を実行してください。

### KMBR03117-E <C,F>

セッション用にメモリページを割り当てる処理で、エラーが発生しました。

文書空間識別子：%1

プロセス識別子：%2

セッション識別子：%3

要因：%4

An error occurred while memory was being allocated for a session.

Document space ID：%1

Process ID：%2

Session ID：%3

Reason：%4

(S)

セッションを終了します。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

### KMBR03207-E <C,F>

通信受付準備中に、エラーが発生しました。

詳細：%1

要因コード：%2

An error occurred during preparations for communication reception.

Detail：%1

Reason code：%2

(S)

起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

表 3-9 要因コード別の対策一覧

詳細 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
dmaConnect SystemManager_T0	-2147024882	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
	その他	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
GetMalloc0	-	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。

詳細 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
EnumerateSystems()	-2147024882	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
	その他	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
GetNextObject()	-2147418113	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
		DocumentBrokerの実行環境が不正です。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• UNIX の場合 DocumentBroker を再度セットアップしてから、DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc から smgrreg.ini を DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc にコピーしてください。</li> <li>• Windows の場合 DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\adm\etc_org から、smgrreg.ini を DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\etc にコピーしてください。</li> </ul>
	-2147220873	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
		DocumentBrokerの実行環境が不正です。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• UNIX の場合 DocumentBroker を再度セットアップしてから、DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc から smgrreg.ini を DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc にコピーしてください。</li> <li>• Windows の場合 DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\adm\etc_org から、smgrreg.ini を DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\etc にコピーしてください。</li> </ul>
		sssysobj.ini の内容が不正です。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• UNIX の場合 DocumentBroker を再度セットアップしてから、DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc から ssysobj.ini を DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc にコピーしてから、EDMInitMeta コマンドを実行してメタ情報ファイルを再登録してください。</li> <li>• Windows の場合 DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\adm\etc_org から、sssysobj.ini を DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\etc にコピーしてから、EDMInitMeta コマンドを実行してメタ情報ファイルを再登録してください。</li> </ul>
	その他	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
dmaClass_System::QueryInterface (IID_IdmaProperties_T)	-	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。

### 3. 機能別メッセージ

詳細 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
dmaClass_System::QueryInterface (IID_IdmaSystem_T)	-	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
dmaClass_System::GetPropertyValIdById(dmaProp_SystemId)	-	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
ConnectDocSpace()	-2147024882	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
	-2147220943	データベースのアクセスエラーが発生しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
	-2147220966	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
		DocumentBrokerの実行環境が不正です。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• UNIX の場合  DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc から、slocalreg.ini を DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc にコピーしてください。その後、slocalreg.ini の ServiceObjectID エントリに、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc/docspace.ini の [Entry0001] セクションの SerialId エントリと同じ値を設定してください。</li> <li>• Windows の場合  DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\adm\etc_org から、slocalreg.ini を DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\etc にコピーしてください。その後、slocalreg.ini の ServiceObjectID エントリに、DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\etc\docspace.ini の [Entry0001] セクションの SerialId エントリと同じ値を設定してください。</li> </ul>

詳細 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
		文書空間の識別子が不正です。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• UNIX の場合 次に示す各エントリに指定する文書空間の識別子がすべて一致していることを確認してください。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc/docspace.ini の [Entry0001] セクションの SerialId エントリ</li> <li>• DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc/slocalreg.ini の ServiceObjectID エントリ</li> <li>• DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc/meta_files/edms.ini の [dmaClass_DocSpace] セクションの dmaProp_DocSpaceId エントリ</li> </ul> </li> <li>• Windows の場合 次に示す各エントリに指定する文書空間の識別子がすべて一致していることを確認してください。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\etc\docspace.ini の [Entry0001] セクションの SerialId エントリ</li> <li>• DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\etc\slocalreg.ini の ServiceObjectID エントリ</li> <li>• DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\etc\meta_files\edms.ini の [dmaClass_DocSpace] セクションの dmaProp_DocSpaceId エントリ</li> </ul> </li> </ul>
	-2147024809	DocumentBroker の実行環境が不正です。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• UNIX の場合 DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc から、slocalreg.ini を DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc にコピーしてください。その後、slocalreg.ini の ServiceObjectID エントリに、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc/docspace.ini の [Entry0001] セクションの SerialId エントリと同じ値を設定してください。</li> <li>• Windows の場合 DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\adm\etc_org から、slocalreg.ini を DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\etc にコピーしてください。その後、slocalreg.ini の ServiceObjectID エントリに、DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\etc\docspace.ini の [Entry0001] セクションの SerialId エントリと同じ値を設定してください。</li> </ul>
	その他	-	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
CdmaDocSpace::Initialize()	-2147220966	メタ情報管理用に確保するメモリが小さ過ぎます。	DocumentSpace 構成定義ファイルの XdkShmemSize エントリの値を見直すか、環境変数「XDK_SHMEM_SIZE」の値を見直してください。
	その他	-	DMA の戻り値に応じて対策を実施してください。DMA の戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。
その他	1007	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションまたはプロセスを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
	その他	-	DMA の戻り値に応じて対策を実施してください。DMA の戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR03302-E <C,F>

---

ネットワーク環境でエラーが発生しました。

CORBA の初期化に失敗しました。

A network error occurred.

CORBA could not be initialized.

(S)

処理を中止します。

(O)

ネットワーク環境を確認してください。

また、クライアントアプリケーション動作定義ファイル ( application.ini ) に、OrbOption エントリ

または VBProperty エントリを指定している場合は、その値を見直してください。

## KMBR03309-I <C,P,F>

---

DocumentBroker の実行環境を作成しています。

The execution environment for DocumentBroker is being created.

(S)

DocumentBroker の実行環境を作成しています。

(O)

-

## KMBR03310-I <C,P,F>

---

DocumentBroker の実行環境を作成しました。

The execution environment for DocumentBroker was created successfully.

(S)

DocumentBroker の実行環境を作成しました。

(O)

-

## KMBR03311-I <C,P,F>

---

DocumentBroker の実行環境を削除しています。

The execution environment for DocumentBroker is being deleted.

(S)

DocumentBroker の実行環境を削除しています。

(O)

-

### KMBR03312-I <C,P,F>

---

DocumentBroker の実行環境を削除しました。

The execution environment for DocumentBroker was deleted.

(S)

DocumentBroker の実行環境を削除しました。

(O)

-

### KMBR03313-W <C,P,F>

---

ファイル (%1) は既にあるため、ファイルの作成処理をスキップしました。

File create processing was skipped because the file (%1) already exists.

(S)

ファイルの作成処理をスキップしました。

(O)

-

### KMBR03314-E <C,P,F>

---

ディレクトリ (%1) と同じ名称のファイル又はシンボリックリンクがあるため、ディレクトリを作成できません。

The directory cannot be created because a file or the symbolic link with the same name as the directory (%1) already exists.

(S)

ディレクトリの作成処理を中止します。

(O)

ディレクトリ (%1) と同じ名称のファイルまたはシンボリックリンクを削除するか、別のディレクトリを指定してから、再度コマンドを実行してください。

### KMBR03315-E <C,P,F>

---

ファイル (%1) がインストールディレクトリ下にあるため、処理を続行できません。

Processing cannot continue because the file (%1) exists in the installation directory.

ファイル (%1) がインストールディレクトリの下位にあるため、open システムコールに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

syslog ファイルおよびトレースファイルに出力された open システムコールのエラーメッセージを参照して、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

### KMBR03316-E <C,P,F>

---

コマンドを実行した環境の文字コードセットの指定が不正です。

文字コードセット : %1

The character code set of the environment that executed the command is invalid.

Character code set : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文字コードセットを正しく指定してください。

### KMBR03317-E <C,P,F>

---

コマンドを実行した環境の環境変数の指定が不正です。

環境変数名 : %1

An environment variable for the environment that executed the command is invalid.

Environment variable : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

環境変数を正しく指定してください。

### KMBR03318-E <C,P,F>

---

続行できないエラーが発生したため、DocumentBroker サーバを正常に終了できませんでした。

The DocumentBroker server could not end normally because an error that stops processing occurred.

(S)

DocumentBroker サーバの停止処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、終了コマンドを再度実行してください。

### KMBR03319-I <C,P,F>

---

DocumentBroker サーバが起動していません。

The DocumentBroker server is not running.

コマンドを実行しましたが、DocumentBroker サーバは起動していません。

(S)

コマンドの実行を中止します。

(O)

-

## KMBR03320-W <C,P,F>

---

DocumentBroker サーバは、既に起動しています。

The DocumentBroker server is already running.

コマンドを実行しましたが、DocumentBroker サーバはすでに起動しています。

(S)

コマンドの実行を中止します。

(O)

-

## KMBR03321-E <C,P,F>

---

指定したディレクトリがないか、DocumentBroker のインストールディレクトリがありません。

位置 : %1

The specified directory or the DocumentBroker installation directory does not exist.

Location : %1

環境作成先のディレクトリ (%1) または DocumentBroker のインストールディレクトリ (/opt/HiEDMS) がありません。

(S)

DocumentBroker サーバの実行環境の作成処理、またはファイル転送サービスの実行環境の作成処理を中止します。

(O)

DocumentBroker のインストールディレクトリ (/opt/HiEDMS) がない場合は、正しくインストールされていないので、再インストールしてください。DocumentBroker のインストールディレクトリ (/opt/HiEDMS) がある場合は、指定した環境作成先のディレクトリ (%1) があるか確認して、必要に応じてディレクトリを作成してください。

## KMBR03322-E <C,P,F>

---

環境作成先ディレクトリに対するアクセス権がありません。

位置 : %1

You do not have access permission for the directory for creating the environment.

Location : %1

環境作成先のディレクトリ (%1) に対するすべてのアクセス権 (読み取り権、書き込み権および実行権) がありません。

(S)

DocumentBroker サーバの実行環境の作成、またはファイル転送サービスの実行環境の作成を中止します。

(O)

環境作成先のディレクトリ (%1) に対するアクセス権 (読み取り権、書き込み権および実行権) があるかどうか確認してください。アクセス権 (読み取り権、書き込み権および実行権) がない場合は、アクセス権を設定してから再度実行してください。

## KMBR03323-E <C,P,F>

---

指定したディレクトリ下には、削除の対象となるディレクトリがありません。

There is no directory to be deleted.

(S)

DocumentBroker サーバの実行環境の削除処理を中止します。

(O)

削除するディレクトリを正しく指定しているか確認してください。

## KMBR03324-E <C,P,F>

---

インストールディレクトリの直下は指定できません。

You cannot specify directly under the installation directory.

EDMSetup コマンドを実行して、DocumentBroker のインストールディレクトリ (/opt/HiEDMS) の下位に DocumentBroker の実行環境を作成したり、DocumentBroker のインストールディレクトリの下位にある環境を削除したりはできません。

また、FtpSvSetup コマンドを実行して、DocumentBroker Development Kit または DocumentBroker Runtime のインストールディレクトリ (/opt/HiEDMS/client) の下位に、ファイル転送サービスの実行環境は作成できません。

(S)

DocumentBroker サーバの実行環境の作成または削除処理を中止するか、ファイル転送サービスの実行環境の作成処理を中止します。

(O)

次に示すディレクトリの下位のディレクトリを指定していないか確認してください。

- DocumentBroker のインストールディレクトリ (/opt/HiEDMS)
- DocumentBroker Development Kit または DocumentBroker Runtime のインストールディレクトリ (/opt/HiEDMS/client)

## KMBR03325-E <C,P,F>

---

エラーが発生したため、EDMSetup を中止します。

EDMSetup will now stop because an error occurred.

(S)

EDMSetup を中止します。

(O)

標準出力、syslog ファイルおよびトレースファイルに出力されているエラーメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、EDMSetup を再度実行してください。

## KMBR03328-I <C,P,F>

---

文書空間 (%1) のサービスプロセスを起動しました。

プロセス通番: %2

The service process for the document space (%1) started.

Process No : %2

(S)

文書空間 (%1) のサービスプロセスを起動しました。

(O)

-

### KMBR03329-E <C,P,F>

---

続行できないエラーが発生したため、文書空間 (%1) のサービスプロセスを終了しました。

プロセス通番 : %2

The service process for the document space (%1) ended because an error that stops processing occurred.

Process No : %2

(S)

文書空間 (%1) のサービスプロセスを終了しました。

(O)

syslog ファイルを参照して、このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。必要であれば、DocumentBroker サーバを再起動してください。

### KMBR03330-E <C,F>

---

続行できないエラーが発生したため、サービスプロセスを終了しました。

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

プロセス識別子 : %3

The service process ended abnormally because an error that stops processing occurred.

Document space ID : %1

Process No : %2

Process ID : %3

続行できないエラーが発生したため、%1 の文書空間に対応するサービスプロセスを終了しました。

(S)

サービスプロセスを終了しました。

(O)

syslog ファイルを参照して、このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。必要であれば、DocumentBroker サーバを再起動してください。

### KMBR03331-E <C,F>

---

LDAP ユーザ認証のための環境が不正です。

詳細 : %1

The environment for LDAP user authentication is invalid.

### 3. 機能別メッセージ

Detail : %1

DocumentSpace 構成定義ファイル ( docspace.ini ) ファイル内の詳細 ( %1 ) に示すエントリに設定されている値が不正なため、LDAP ユーザ認証処理を続行できません。

( S )

LDAP ユーザ認証の処理を中止します。

( O )

不正なエントリの値を正しく設定してから、DocumentBroker サーバを再起動してください。

## KMBR03332-E <C,F>

LDAP ユーザ認証の処理中に、エラーが発生しました。

要因コード : %1

詳細 1 : %2

詳細 2 : %3

An error occurred during LDAP user authentication.

Reason code : %1

Detail 1 : %2

Detail 2 : %3

( S )

LDAP ユーザ認証の処理を中止します。

( O )

syslog ファイルおよびトレースファイルに出力されているエラーメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。syslog ファイルおよびトレースファイルに出力される要因コードについては、次の表に示す対策一覧を参照してください。

表 3-10 要因コード別の対策一覧

要因コード	詳細 1	詳細 2	エラーの要因	対策
0	invalid environment	-	環境不正	UNIX の場合 DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /adm の下位にある customize.ini ファイルを、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc の下位にコピーしてください。 Windows の場合 DocumentBroker の実行環境ディレクトリ ¥adm¥etc_org の下位にある customize.ini ファイルを、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ ¥etc の下位にコピーしてください。

要因コード	詳細 1	詳細 2	エラーの要因	対策
	not found ldap library	ライブラリ名またはライブラリ名: 保守情報	LDAP クライアントライブラリがありません。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• LdapClientLib エントリで指定したライブラリの種別に対応した LDAP クライアントライブラリが、インストールされているかどうか確認してください。</li> <li>• 環境変数 LIBPATH (AIX の場合) に、LDAP クライアントライブラリが指定されているかどうか確認してください。</li> <li>• UNIX の場合、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /adm の下位にある customize.ini ファイルを、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc の下位にコピーしてください。</li> <li>• Windows の場合、DocumentBroker のインストールディレクトリ %adm%etc_org の下位にある customize.ini ファイルを、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ %etc の下位にコピーしてください。</li> </ul>
	not support	LDAP クライアントライブラリの種別	LdapClientLib エントリに未サポートのライブラリ種別を指定しました。	次のどれかの対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• LdapClientLib エントリの値を見直してください。</li> <li>• UNIX の場合、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /adm の下位にある customize.ini ファイルを、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc の下位にコピーしてください。</li> <li>• Windows の場合、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ %adm%etc_org の下位にある customize.ini ファイルを、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ %etc の下位にコピーしてください。</li> </ul>
	上記以外	補助情報	LDAP クライアントライブラリのローディングに失敗しました。	保守員に連絡してください。
32	ldap_simple_bind	次のどちらかが出力されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• LDAP サーバで認識できた DN</li> <li>• ログイン名</li> </ul>	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• LdapPrefixDn エントリの指定が不正です。</li> <li>• LdapUserId エントリの指定が不正です。</li> <li>• ログイン名の指定が不正です。</li> </ul>	次のどれかの対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 詳細 2 に出力された DN と LdapPrefixDn エントリの値が異なる場合 LdapPrefixDn エントリの指定が正しいかどうか確認してください。</li> <li>• 詳細 2 に出力された DN と LdapPrefixDn エントリの値が同じ場合 LdapUserId エントリまたはログイン名の指定が正しいかどうか確認してください。</li> <li>• LdapPrefixDn エントリに値を指定していない場合 ログイン名が正しいかどうか確認してください。</li> </ul>
	ldap_search_ext	次のどれかが出力されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• LDAP サーバで認識できた DN</li> <li>• LdapUserRoot エントリの指定値</li> <li>• LdapGroupRoot エントリの指定値</li> </ul>	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• LdapUserRoot エントリの指定が不正です。</li> <li>• LdapGroupRoot エントリの指定が不正です。</li> </ul>	LdapUserRoot エントリまたは LdapGroupRoot エントリの指定が正しいかどうか確認してください。

### 3. 機能別メッセージ

要因コード	詳細 1	詳細 2	エラーの要因	対策
49	ldap_simple_bind	none	パスワードが不正です。	正しいパスワードを入力してください。
87	ldap_search_ext	検索フィルタの内容	検索フィルタのシンタクスエラーが発生しました。	DocumentSpace 構成定義ファイルに設定する次のエントリに、正しい検索フィルタの文字列が指定されているかどうか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• LdapUserFilterLeft</li> <li>• LdapUserFilterRight</li> <li>• LdapUserClass</li> <li>• LdapUserID</li> <li>• LdapGroupFilterLeft</li> <li>• LdapGroupFilterRight</li> <li>• LdapGroupClass</li> </ul>
91	ldap_simple_bind	LdapHost エントリの指定値	LDAP サーバに接続できません。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• LdapHost エントリおよび LdapPort エントリの指定が正しいかどうか確認する。</li> <li>• LDAP サーバがビジーである可能性があるため、再接続する。</li> </ul>
その他	ldap_get_values	検索開始点の DN	LdapUserId エントリに指定した属性値の取得でエラーが発生しました。	ディレクトリのアクセス権を確認してください。
	-	-	エラーの要因が不明です。	保守員に連絡してください。

#### 注

大文字、小文字の違いは該当しません。

## KMBR03333-E <C,F>

UOC ライブラリとの連携でエラーが発生しました。

要因コード : %1

詳細 1 : %2

詳細 2 : %3

An error occurred during connection to the UOC library.

Reason code : %1

Detail 1 : %2

Detail 2 : %3

UOC ライブラリのロードまたは呼び出しでエラーが発生しました。

(S)

UOC ライブラリのロードまたは呼び出し処理を中止します。

(O)

syslog ファイルおよびトレースファイルに出力されているエラーメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。対策は UOC を提供するユーザが決めてください。syslog ファイルおよびトレースファイルに表示される要因コードについては、次の表に示す要因コード一覧を参照してください。

表 3-11 要因コード一覧

要因コード	エラーの要因
-1	ライブラリハンドルが不正です。
-2	セッションハンドルが不正です。
-3	ユーザ名またはパスワードが設定されていません。
-4	指定したユーザは存在しません。
-5	指定したパスワードは不正です。
-6	認証できません。
-7	UOC ライブラリまたは UOC セッションの終了処理に失敗しました。
-8	UOC ライブラリのロードまたは初期化処理に失敗しました。
その他	UOC によって定義されています。

### KMBR03334-I <C,F>

サービス [%1] を開始しました。

The service [%1] has started.

(S)

サービス (%1) を開始しました。

(O)

-

### KMBR03335-I <C,F>

サービス [%1] を停止しました。

The service [%1] has terminated.

(S)

サービス (%1) を停止しました。

(O)

-

### KMBR03336-E <C,F>

続行できない障害が発生したため、ファイル転送サービスを開始できません。

The file transfer service cannot start because an error that stops processing occurred.

(S)

処理を中止します。

(O)

イベントログおよびトレースファイルに出力されたエラーメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

なお、エラーの要因が KMBR00003-E のシステムコール「StartServiceCtrDispatcher」の場合は、しばらくしてからコマンド (%1) を再度実行してください。

### KMBR03337-E <C,F>

---

ファイル転送サービスのスタートアップパラメタ (%1) が不正です。

A startup parameter (%1) for the file transfer service is invalid.

(S)

処理を中止します。

(O)

スタートアップパラメタを修正してから、ファイル転送サービスを再起動してください。

### KMBR03350-E <C,P,F>

---

ほかのコマンドが実行されているため、DocumentBroker サーバを起動できません。

The DocumentBroker server cannot start because another command is being executed.

メタ情報の更新系コマンドなどを実行しているため、DocumentBroker サーバを起動できません。

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

メタ情報の更新系コマンドなどの終了を待って、DocumentBroker サーバを起動してください。

### KMBR03351-E <C,P,F>

---

DocumentBroker サーバ起動中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while the DocumentBroker server was starting.

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を中止します。

(O)

DocumentBroker サーバを再起動してください。

### KMBR03352-I <C,P,F>

---

DocumentBroker に接続しているユーザの一覧を出力します。

A list of users connected to DocumentBroker will be output.

(S)

出力処理を開始します。

(O)

-

### KMBR03353-I <C,P,F>

---

DocumentBroker に接続しているユーザの一覧を出力しました。

A list of users connected to DocumentBroker was output.

(S)

出力処理を完了しました。

(O)

-

### KMBR03354-E <C,P,F>

---

このコマンドは実行中のため、新たに実行できません。

This command is now executing, so you cannot execute another instance of the command now.

指定したコマンドは、同時に複数実行することはできません。

(S)

コマンドの実行を中止します。

(O)

実行中のコマンドの終了を確認してから、再度実行してください。

### KMBR03355-E <C,P,F>

---

指定したパスが存在しないため、処理を続行できません。

パス名 : %1

Processing cannot continue because the specified path does not exist.

Path name : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

正しいパスを指定してから、再度実行してください。

### KMBR03356-E <C,P,F>

---

指定したディレクトリに対するアクセス権がないため、処理を続行できません。

ディレクトリ名 : %1

Processing cannot continue because you do not have access permission for the specified directory.

Directory name : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ディレクトリ (%1) に対して、コマンドの実行に必要なアクセス権を指定してください。

### KMBR03357-I <C,P,F>

---

出力先ディレクトリ名のプリフィックスは %1 となります。

The prefix of the directory to which the file is output is %1.

(S)

処理を続行します。

(O)

-

### KMBR03358-E <C,P,F>

---

ユーザ情報出力中に、DocumentBroker サーバでエラーが発生しました。

要因：%1

An error occurred at the DocumentBroker server during output of user information.

Reason：%1

(S)

ユーザ情報の出力を中止します。

(O)

DocumentBroker サーバからリターンされたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

### KMBR03359-E <C,P,F>

---

DocumentBroker サーバからの応答がないため、処理を中断します。

Processing is interrupted because there is no response from the DocumentBroker server.

サーバからの応答待ち時間を超過したため、タイムアウトによって処理を中断します。

(S)

サーバからの応答待ち状態を解除してから、後処理をします。EDMRefresher コマンドの場合、EDMRefresher コマンドは処理を中断しますが、サーバは、リフレッシュを続行しています。

(O)

タイムアウトが発生した要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。  
EDMRefresher コマンドの実行で本メッセージが出力された場合、メモリサイズ監視によるサービスプロセスのリフレッシュを実行中の可能性があります。メモリサイズ監視によるサービスプロセスのリフレッシュを実行中の場合は、実行中のサービスプロセスのリフレッシュを完了後に、全サービスプロセスに対して順次リフレッシュが実行されるため、コマンドを再実行する必要はありません。

### KMBR03360-E <C,P,F>

---

処理できない障害が発生したため、EDMUIView を中止します。

EDMUIView will now stop because an error that stops processing occurred.

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR03361-E <C,F>

---

Life Cycle Suite との連携でエラーが発生しました。

要因 : %1

要因コード : %2

詳細 : %3

An error occurred during connection to Life Cycle Suite.

Reason : %1

Reason code : %2

Detail : %3

(S)

処理を中止します。

(O)

要因 (%1) および要因コード (%2) を基に、DocumentBroker Life Cycle Suite が実行できる環境が確認してから、再度実行してください。

### KMBR03362-I <C,P,F>

---

ファイル転送サービスの実行環境を作成します。

The execution environment for the file transfer service will be created.

(S)

ファイル転送サービスの実行環境を作成します。

(O)

-

### KMBR03363-I <C,P,F>

---

ファイル転送サービスの実行環境を作成しました。

The execution environment for the file transfer service was created.

(S)

ファイル転送サービスの実行環境を作成しました。

(O)

-

### KMBR03364-E <C,P,F>

---

続行できない障害が発生したため、ファイル転送サービスの実行環境の作成を中止します。

The creation of the execution environment for the file transfer service will now stop because an error that stops processing occurred.

(S)

ファイル転送サービスの実行環境の作成処理を中止します。

(O)

このメッセージの前出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、ファイル転送サービスの実行環境を再度作成してください。

## KMBR03365-E <C,P,F>

---

DocumentBroker サーバ停止中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while the DocumentBroker server was terminating.

(S)

DocumentBroker サーバは、停止処理を続行して自動終了します。

(O)

DocumentBroker サーバで実行中の処理がある可能性があります。実行中の処理が終了すれば、DocumentBroker サーバは自動終了します。しばらく待っても DocumentBroker サーバが自動終了しないときは、DocumentBroker サーバを強制終了してください。ただし、DocumentBroker サーバを強制終了した場合、DocumentBroker サーバで実行中の処理は無効になります。

## KMBR03366-E <C,P,F>

---

パス名がシステムの制限を超過したため、コマンド (%1) の処理を続行できません。

詳細 : %2

Command (%1) processing cannot continue because path name exceeds system limitations.

Detail : %2

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

パス名を短くして、コマンド (%1) を再度実行してください。

## KMBR03367-I <C,F>

---

LDAP クライアントライブラリのローディング処理が、正常に終了しました。

詳細 : %1

Loading of LDAP client library ended normally.

Detail : %1

%1 : LdapClientLib エントリ値 = ローディングした LDAP クライアントライブラリ名称  
または  
LdapClientLib エントリ値 = ローディングした LDAP クライアントライブラリ名称 : 保守情報

(S)

DocumentBroker サーバの起動処理を続行します。

(O)

-

## KMBR03368-E <C,F>

---

実行環境が不正です。

要因コード : %1

The execution environment is invalid.

Reason code : %1

(S)

処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

表 3-12 要因コード別の対策一覧

要因コード	エラーの要因	対策
1003	システムコールでエラーが発生しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
1007	メモリ不足が発生しました。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>メモリを増設する。</li> <li>メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。</li> </ul>
1009	実行環境ファイルが壊れています。	-p オプションを指定して、EDMRegEnvId コマンドを実行してください。
1018	次の要因が考えられます。 1. 実行環境を登録していません。 2. 実行環境は登録済みですが、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ / etc (UNIX の場合) または DocumentBroker の実行環境ディレクトリ ¥etc (Windows の場合) の下に実行環境ファイルが存在しません。	要因に応じて次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>要因 1 の場合 -r オプションを指定して、EDMRegEnvId コマンドを実行してください。</li> <li>要因 2 の場合 -p オプションを指定して、EDMRegEnvId コマンドを実行してください。</li> </ul>
1021	環境変数「DOCBROKERDIR」に指定している DocumentBroker の実行環境ディレクトリのパス名およびホスト名が、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc (UNIX の場合) または DocumentBroker の実行環境ディレクトリ ¥etc (Windows の場合) 下の実行環境ファイルの実行環境のパス名およびホスト名と一致しません。	-u オプションを指定して、EDMRegEnvId コマンドを実行してください。

## KMBR03373-I <C,P,F>

DocumentBroker の実行環境を更新します。

The execution environment for DocumentBroker is being updated.

(S)

DocumentBroker の実行環境を更新します。

(O)

-

## KMBR03377-I <C,P,F>

DocumentBroker サーバのリフレッシュを開始します。

Refreshment of the DocumentBroker server is starting.

(S)

### 3. 機能別メッセージ

DocumentBroker サーバのリフレッシュを開始します。

(O)

-

#### KMBR03378-I <C,P,F>

---

DocumentBroker サーバのリフレッシュを終了しました。

Refreshment of the DocumentBroker server has terminated.

(S)

DocumentBroker サーバのリフレッシュを終了しました。

(O)

-

#### KMBR03379-I <C,F>

---

サービスプロセスのリフレッシュを開始します。

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

プロセス識別子 : %3

Refreshment of the service process is starting.

Document space ID : %1

Process No : %2

Process ID : %3

プロセス識別子は、リフレッシュ前のサービスプロセス識別子を出力します。

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを開始します。

(O)

-

#### KMBR03380-I <C,F>

---

サービスプロセスのリフレッシュを終了しました。

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

プロセス識別子 : %3

Refreshment of the service process has terminated.

Document space ID : %1

Process No : %2

Process ID : %3

プロセス識別子は、リフレッシュ後のサービスプロセス識別子を出力します。

- (S)  
サービスプロセスのリフレッシュを終了しました。
- (O)  
-

## KMBR03381-E <C,P,F>

DocumentSpace 構成定義ファイルの内容が不正です。

要因 : %1

位置 : [%2]%3

The content of the DocumentSpace configuration definition file is invalid.

Reason : %1

Location : [%2]%3

- (S)  
処理を中止します。
- (O)  
次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてください。

表 3-13 要因別の対策一覧

要因 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
entry is not omissible.	DocumentSpace 構成定義ファイルのセクション (%2) に、エン트리 (%3) の指定がありません。	エン트리 (%3) は、指定を省略できません。エン트리 (%3) を指定してください。
entry value is invalid.	DocumentSpace 構成定義ファイルのセクション (%2) に指定したエン트리 (%3) の値が不正です。	DocumentSpace 構成定義ファイルの定義方法に従って、エン트리 (%3) を指定してください。 DocumentSpace 構成定義ファイルの定義方法については、マニュアル「DocumentBroker Version 3 システム導入・運用ガイド」を参照してください。

## KMBR03382-E <C,P,F>

続行できないエラーが発生したため、DocumentBroker サーバのリフレッシュを中止します。

Refreshment of the DocumentBroker server will now stop because an error that stops processing occurred.

続行できない障害が発生したため、DocumentBroker サーバのリフレッシュを中止します。

- (S)  
DocumentBroker サーバのリフレッシュを中止します。
- (O)  
このメッセージの前出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

## KMBR03383-E <C,P,F>

---

DocumentBroker サーバでエラーが発生しました。

要因 : %1

An error occurred at the DocumentBroker server.

Reason : %1

(S)

処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。なお、要因が「time-out occurred while terminate of the service process.」または「time-out occurred while force refresh of the service process.」の場合は、DocumentBroker サーバを再起動してください。要因が「refreshment is now executing at the DocumentBroker server.」または「refreshment by the memory size administration is now processing.」の場合は、必要に応じてしばらく時間をおいてから再度実行してください。

## KMBR03384-W <C,P,F>

---

DocumentBroker サーバでエラーが発生したため、一部のサービスプロセスがリフレッシュできませんでした。

要因 : %1

The some service processes could not be refreshed because an error occurred at the DocumentBroker server.

Reason : %1

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを中止します。

(O)

必要に応じてこのメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。  
なお、要因が「time-out occurred while terminate of the service process.」または「time-out occurred while force refresh of the service process.」の場合は、DocumentBroker サーバを再起動してください。

## KMBR03385-E <C,P,F>

---

サービス監視プロセス(%1)が停止しているのを検知したため、処理を中断します。

The command detected that the service monitor process (%1) has stopped, so the processing is interrupted.

(S)

処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に KMBR03022-I または KMBR03025-I が出力されている場合は、DocumentBroker サーバを再起動することでリフレッシュした状態になります。出力されていない場合は、サービス監視プロセスが停止した要因を取り除いてから、再度実行してください。

### KMBR03386-E <C,F>

---

サービスプロセスのリフレッシュ中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while refreshment of the service process.

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを中止します。

(O)

DocumentBroker サーバを再起動してください。

### KMBR03387-I <C,F>

---

指定した猶予時間が経過したため、以降サービスプロセスを強制リフレッシュします。

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

Since the specified grace time passed, forcibly refreshment of the service process is executed after this.

Document space ID : %1

Process No : %2

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを強制的に実行します。

(O)

-

### KMBR03388-E <C,F>

---

エラーが発生したため、サービスプロセスをリフレッシュできませんでした。

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

プロセス識別子 : %3

The service process could not be refreshed because an error occurred.

Document space ID : %1

Process No : %2

Process ID : %3

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

### KMBR03389-W <C,F>

---

サービスプロセスのリフレッシュを中止します。

### 3. 機能別メッセージ

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

プロセス識別子 : %3

要因 : %4

Refreshment of the service process is stopped.

Document space ID : %1

Process No : %2

Process ID : %3

Reason : %4

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを中止します。

(O)

-

表 3-14 要因の内容

要因 (%4) に出力されるメッセージ	説明
service process is now restarting.	プロセス識別子 (%3) で示すサービスプロセスの再起動中です。

### KMBR03390-I <C,F>

メモリサイズ監視によるサービスプロセスのリフレッシュを開始します。

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

プロセス識別子 : %3

メモリサイズ : %4

Refreshment of the service process by the memory size administration is starting.

Document space ID : %1

Process No : %2

Process ID : %3

Memory Size : %4

メモリサイズ (%4) が DocumentSpace 構成定義ファイルに定義されている SRefreshLimit の値を超えているため、サービスプロセスをリフレッシュします。

プロセス識別子 (%3) には、リフレッシュ前のサービスプロセス識別子が出力されます。

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを開始します。

(O)

-

## KMBR03391-I <C,F>

---

メモリサイズ監視によるサービスプロセスのリフレッシュを終了しました。

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

プロセス識別子 : %3

Refreshment of the service process by the memory size administration has terminated.

Document space ID : %1

Process No : %2

Process ID : %3

プロセス識別子 (%3) には、リフレッシュ後のサービスプロセス識別子が出力されます。

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを終了しました。

(O)

-

## KMBR03392-I <C,F>

---

メモリサイズ監視によるサービスプロセスのリフレッシュが実行待ちになりました。

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

プロセス識別子 : %3

猶予時間 : %4

要因 : %5

Now waiting for refreshment execution of the service process by the memory size administration.

Document space ID : %1

Process No : %2

Process ID : %3

Grace Time : %4

Reason : %5

プロセス識別子 (%3) には、リフレッシュ前のサービスプロセス識別子が出力されます。

(S)

サービスプロセスのリフレッシュの実行を待ちます。

(O)

(%4) で示す時間内に、(%5) で示す要因を基に対処してください。

### 3. 機能別メッセージ

表 3-15 要因の対策一覧

要因 (%5) に出力されるメッセージ	要因	対策
The session is connected or the transaction of undecided wear exists.	セッションが接続されているか、または未決着のトランザクションが存在しています。	セッションを切断するか、または未決着のトランザクションを完結させてください。

#### KMBR03393-I <C,F>

メモリサイズ監視によるサービスプロセスのリフレッシュで指定した猶予時間が経過したため、サービスプロセスを強制リフレッシュします。

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

プロセス識別子 : %3

セッション数 : %4

トランザクション数 : %5

Since the specified grace time passed at the refreshment execution of the service process by the memory size administration, forcibly refreshment of the service process is executed.

Document space ID : %1

Process No : %2

Process ID : %3

Number of sessions : %4

Number of transactions : %5

猶予時間が DocumentSpace 構成定義ファイルに定義されている SRefreshGraceTime の値を超えました。プロセス識別子 (%3) には、リフレッシュ前のサービスプロセス識別子が出力されます。

(S)

(%5) で示す数のトランザクションを無視して、(%4) で示す数のセッションを強制的に切断し、サービスプロセスをリフレッシュします。

(O)

必要に応じて再度ログインして処理を実行してください。

#### KMBR03394-I <C,P,F>

DocumentBroker サーバのリフレッシュが実行待ちになりました。

要因 : %1

Now waiting for refreshment execution of the DocumentBroker server.

Reason : %1

(S)

DocumentBroker サーバのリフレッシュの実行を待ちます。

(O)

-

表 3-16 要因の内容

要因 (%1) に出力されるメッセージ	説明
refreshment by the memory size administration is now processing.	メモリサイズ監視によるサービスプロセスのリフレッシュ実行中です。 メモリサイズ監視によるサービスプロセスのリフレッシュの終了を待って DocumentBroker サーバをリフレッシュします。

### KMBR03395-E <C,F>

エラーが発生したため、メモリサイズ監視によるサービスプロセスのリフレッシュができませんでした。

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

プロセス識別子 : %3

要因 : %4

The service process could not be refreshed by the memory size administration because an error occurred.

Document space ID : %1

Process No : %2

Process ID : %3

Reason : %4

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。なお、要因が「time-out occurred while terminate of the service process.」の場合は、DocumentBroker サーバを再起動してください。

### KMBR03401-I <P,F>

ファイル転送サービスを静的モードで起動しています。

The file transfer service is starting in the static mode.

(S)

ファイル転送サービスを静的モードで起動しています。

(O)

-

### KMBR03402-I <C,F>

ファイル転送サービスを静的モードで起動しています。

The file transfer service is starting in the static mode.

(S)

ファイル転送サービスを静的モードで起動しています。

### 3. 機能別メッセージ

(O)

-

#### KMBR03403-I <C,F>

---

ファイル転送サービス監視プロセス(%1)によりファイル転送サービスプロセスを起動します。

The file transfer service monitor process (%1) starts the file transfer service process.

(S)

ファイル転送サービス監視プロセス(%1)によって、ファイル転送サービスプロセスを起動します。

(O)

-

#### KMBR03404-I <C,F>

---

ファイル転送サービスプロセスを起動しました。

The file transfer service process started.

(S)

ファイル転送サービスプロセスを起動しました。

(O)

-

#### KMBR03405-I <C,F>

---

ファイル転送サービスを静的モードで起動しました。

The file transfer service started in the static mode.

(S)

ファイル転送サービスを静的モードで起動しました。

(O)

-

#### KMBR03406-I <P,F>

---

ファイル転送サービスを静的モードで起動しました。

The file transfer service started in the static mode.

(S)

ファイル転送サービスを静的モードで起動しました。

(O)

-

#### KMBR03411-I <P,F>

---

ファイル転送サービスを停止しています。

The file transfer service is terminating.

(S)  
ファイル転送サービスを停止しています。  
(O)  
-

### KMBR03412-I <C,F>

---

ファイル転送サービスを停止しています。  
The file transfer service is terminating.

(S)  
ファイル転送サービスを停止しています。  
(O)  
-

### KMBR03413-I <C,F>

---

ファイル転送サービス監視プロセス(%1)により、ファイル転送サービスプロセスを停止します。  
The file transfer service monitor process (%1) terminates the file transfer service process.

(S)  
ファイル転送サービス監視プロセス(%1)によって、ファイル転送サービスプロセスを停止します。  
(O)  
-

### KMBR03414-I <C,F>

---

ファイル転送サービスプロセスを停止しました。  
The file transfer service process has terminated.

(S)  
ファイル転送サービスプロセスを停止しました。  
(O)  
-

### KMBR03415-I <C,F>

---

ファイル転送サービスを停止しました。  
The file transfer service has terminated.

(S)  
ファイル転送サービスを停止しました。  
(O)  
-

### KMBR03416-I <P,F>

---

ファイル転送サービスを停止しました。

The file transfer service has terminated.

(S)

ファイル転送サービスを停止しました。

(O)

-

### KMBR03419-I <C,F>

---

ファイル転送サービスを強制終了しています。

The file transfer service is being forcibly terminated.

(S)

ファイル転送サービスを強制終了しています。

(O)

-

### KMBR03420-I <C,F>

---

ファイル転送サービス監視プロセスにより、ファイル転送サービスプロセス(%1)を強制終了します。

The file transfer service monitor process is forcibly terminating the file transfer service process (%1).

(S)

ファイル転送サービス監視プロセスによって、ファイル転送サービスプロセス(%1)を強制終了します。

(O)

-

### KMBR03421-I <C,F>

---

ファイル転送サービス監視プロセスにより、ファイル転送サービスプロセス(%1)を強制終了しました。

The file transfer service monitor process forcibly terminated the file transfer service process (%1).

(S)

ファイル転送サービス監視プロセスによって、ファイル転送サービスプロセス(%1)を強制終了しました。

(O)

-

### KMBR03422-I <C,F>

---

ファイル転送サービスを強制終了しました。

The file transfer service has been forcibly terminated.

- (S)  
ファイル転送サービスを強制終了しました。
- (O)  
-

### KMBR03423-E <C,F>

---

ファイル転送サービス監視プロセス(%1)が停止しているのを検知したため、ファイル転送サービスプロセスを終了します。

The file transfer service process stops because the file transfer service monitor process (%1) has terminated.

- (S)  
ファイル転送サービス監視プロセス(%1)が停止しているのを検知したため、ファイル転送サービスプロセスを終了します。
- (O)  
syslog ファイルを参照して、ファイル転送サービス監視プロセスが停止した要因を取り除いてから、ファイル転送サービスを再起動してください。

### KMBR03424-W <C,P,F>

---

ファイル転送サービスは、既に起動しています。

The file transfer service is already running.

- ファイル転送サービス起動コマンドを実行しましたが、ファイル転送サービスはすでに起動しています。
- (S)  
コマンドの実行を中止します。
- (O)  
-

### KMBR03425-I <C,P,F>

---

ファイル転送サービスが起動していません。

The file transfer service is not running.

- ファイル転送サービス終了コマンドを実行しましたが、ファイル転送サービスは起動していません。
- (S)  
ファイル転送サービス終了コマンドの実行を中止します。
- (O)  
-

### KMBR03426-E <C,P,F>

---

ファイル転送サービス起動中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while the file transfer service was starting.

- (S)  
ファイル転送サービスの起動処理を中止します。

### 3. 機能別メッセージ

(O)

しばらくしてから、ファイル転送サービスを再起動してください。

#### KMBR03427-E <C,P,F>

---

ファイル転送サービス監視プロセス起動中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while the file transfer service monitor process was starting.

(S)

起動中にタイムアウトが発生したファイル転送サービス監視プロセス、およびこのファイル転送サービス監視プロセスが監視する、ファイル転送サービスプロセスを停止します。

(O)

ファイル転送サービス起動コマンドの処理が終了したあと、ファイル転送サービスを再起動してください。

#### KMBR03428-E <C,P,F>

---

ファイル転送サービスプロセス起動中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while the file transfer service process was starting.

(S)

ファイル転送サービスプロセスを停止します。

(O)

ファイル転送サービス起動コマンドの処理が終了したあと、ファイル転送サービスを再起動してください。

#### KMBR03431-E <C,P,F>

---

続行できないエラーが発生したため、ファイル転送サービスを起動できませんでした。

The file transfer service could not start because an error that stops processing occurred.

(S)

ファイル転送サービスの起動処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、ファイル転送サービスを再起動してください。

#### KMBR03432-E <C,P,F>

---

続行できないエラーが発生したため、ファイル転送サービス監視プロセスを起動できませんでした。

The file transfer service monitor process could not start because an error that stops processing occurred.

(S)

ファイル転送サービス監視プロセスの起動処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、ファイル転送サービスを再起動してください。

### KMBR03435-E <C,P,F>

---

ファイル転送サービス停止中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while the file transfer service was terminating.

(S)

ファイル転送サービスは、停止処理を続行して自動終了します。

(O)

ファイル転送サービスで実行中の処理がある可能性があります。実行中の処理が終了すれば、ファイル転送サービスは自動終了します。しばらく待ってもファイル転送サービスが自動終了しないときは、ファイル転送サービスを強制終了してください。ただし、ファイル転送サービスを強制終了した場合、ファイル転送サービスで実行中の処理は無効になります。

### KMBR03436-E <C,P,F>

---

続行できないエラーが発生したため、ファイル転送サービスを正常に終了できませんでした。

The file transfer service could not terminate normally because an error that stops processing occurred.

(S)

ファイル転送サービスの停止処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、終了コマンドを再度実行してください。

### KMBR03437-W <C,F>

---

ファイル転送サービスプロセスが停止しているのを検知したため、ファイル転送サービスプロセスを再起動しています。

プロセス識別子 : %1

The file transfer service process is restarting because the file transfer service process has terminated.

Process ID : %1

(S)

ファイル転送サービスプロセスを再起動して、要求された処理を続行します。

(O)

必要に応じてファイル転送サービスプロセスが停止した要因を取り除いてください。

### KMBR03438-W <C,F>

---

ファイル転送サービス環境定義ファイルの読み込み中に、エラーを検知しました。

詳細 : %1

位置 : [%2]%3

An error was detected while the file transfer service environment definition file was being read.

Detail : %1

Location : [%2]%3

### 3. 機能別メッセージ

ファイル転送サービス環境定義ファイルの読み込み中に、詳細（%1）に示すエラーを検知しました。

（S）

処理を続行します。

（O）

次の表に示す対策一覧を基に、必要に応じてエラーの要因を取り除いてください。

表 3-17 要因別の対策一覧

詳細（%1）に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
ftpsv.ini file cannot access.	ファイル転送サービスの実行環境ディレクトリ /etc（UNIX の場合）またはファイル転送サービスの実行環境ディレクトリ %etc（Windows の場合）の下位にある ftpsv.ini ファイルにアクセスできません。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
entry value is invalid.	ftpsv.ini のセクション（%2）に指定されたエントリ（%3）の値が不正です。	エントリ（%3）に指定できる範囲内の値を指定してください。
section name is invalid.	ftpsv.ini のセクション（%2）のセクション名が不正です。 なお、セクション（%2）に指定されたエントリは、無効です。	正しいセクション名を指定してください。
entry name is invalid.	ftpsv.ini のセクション（%2）に指定されたエントリ（%3）のエントリ名が不正です。	正しいエントリ名を指定してください。
section is duplicated.	ftpsv.ini のセクション（%2）が重複定義されています。 なお、セクション（%2）に指定されたエントリは、無効です。	ftpsv.ini のセクション（%2）の重複定義を取り除いてください。
entry is duplicated.	ftpsv.ini のセクション（%2）中に、重複定義されたエントリ（%3）が存在します。	ftpsv.ini のセクション（%2）から、エントリ（%3）の重複定義を取り除いてください。
entry is in an invalid section.	ftpsv.ini のエントリ（%3）は不正なセクション（%2）中に定義されています。	正しいセクション名を指定するか、セクション（%2）の重複定義を取り除いてください。

## KMBR03439-E <C,P,F>

ファイル転送サービス環境定義ファイルが不正です。

要因：%1

位置：[%2]%3

The file transfer service environment definition file is incorrect.

Reason：%1

Location：[%2]%3

（S）

ファイル転送サービス監視プロセスの起動処理を中止します。

（O）

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、ファイル転送サービスを再起動してください。

表 3-18 要因別の対策一覧

要因 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
entry value is invalid.	ftpsv.ini のセクション (%2) に指定されたエントリ (%3) の値が不正です。	エントリ (%3) に指定できる範囲内の値を指定してください。

## KMBR03440-E <C,F>

ファイル転送サービスプロセスの ORB オプションおよび BOA オプションの指定が不正です。

詳細 1 : %1

詳細 2 : %2

The ORB option and the BOA option of the file transfer service process is invalid.

Detail 1 : %1

Detail 2 : %2

(S)

ファイル転送サービスプロセスの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、詳細 1 (%1)、詳細 2 (%2) に示されている ORB オプションおよび BOA オプションの指定を見直してください。

表 3-19 要因別の対策一覧

詳細 1 (%1) に出力されるメッセージ	詳細 2 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
The file transfer service environment definition file. Location: [セクション名] エントリ名	The file transfer service environment definition file. Location: [セクション名] エントリ名  Environment variable: _HIEDMS_FTPORBBOA_OPTION	詳細 1 または詳細 2 に示す ORB オプションおよび BOA オプションの値のうち、どちらか、または両方が不正です。 なお、詳細 1 と詳細 2 の [セクション名] エントリ名は、ファイル転送サービスの実行環境ディレクトリ / etc (UNIX の場合) またはファイル転送サービスの実行環境ディレクトリ ¥etc (Windows の場合) の下位にある ftpsv.ini ファイルのセクション名とエントリ名です。	詳細 1、詳細 2 に示す ORB オプションおよび BOA オプションの指定を見直してください。

## KMBR03441-E <C,F>

ファイル転送サービスプロセスの VisiBroker プロパティの指定が不正です。

詳細 1 : %1

詳細 2 : %2

The VisiBroker property of the file transfer service process is invalid.

### 3. 機能別メッセージ

Detail 1 : %1

Detail 2 : %2

(S)

ファイル転送サービスプロセスの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、詳細 1 (%1)、詳細 2 (%2) に示されている VisiBroker プロパティの指定を見直してください。

表 3-20 要因別の対策一覧

詳細 1 (%1) に出力されるメッセージ	詳細 2 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
The file transfer service environment definition file. Location: [セクション名] エントリ名	The file transfer service environment definition file. Location: [セクション名] エントリ名 Environment variable: _HIEDMS_FTPVB_PROPERTY	詳細 1 または詳細 2 に示す VisiBroker プロパティの値のうち、どちらか、または両方が不正です。 なお、詳細 1 と詳細 2 の [セクション名] エントリ名は、ファイル転送サービスの実行環境ディレクトリ / etc (UNIX の場合) またはファイル転送サービスの実行環境ディレクトリ \etc (Windows の場合) の下位にある ftpsv.ini ファイルのセクション名とエントリ名です。	詳細 1、詳細 2 に示す VisiBroker プロパティの指定を見直してください。

#### KMBR03442-I <C,F>

ファイル転送サービス停止コマンドにより、ファイル転送サービス開始制御プロセス (%1) を強制終了します。

The file transfer service termination command is forcibly terminating the file transfer service start control process (%1).

(S)

ファイル転送サービス停止コマンドによって、ファイル転送サービス開始制御プロセス (%1) を強制終了します。

(O)

-

#### KMBR03443-I <C,F>

ファイル転送サービス停止コマンドにより、ファイル転送サービス開始制御プロセス (%1) を強制終了しました。

The file transfer service termination command forcibly terminated the file transfer service start control process (%1).

(S)

ファイル転送サービス停止コマンドによって、ファイル転送サービス開始制御プロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

### KMBR03444-I <C,F>

---

ファイル転送サービス停止コマンドにより、ファイル転送サービス監視プロセス(%1)を強制終了します。

The file transfer service termination command is forcibly terminating the file transfer service monitor process (%1).

(S)

ファイル転送サービス停止コマンドによって、ファイル転送サービス監視プロセス(%1)を強制終了します。

(O)

-

### KMBR03445-I <C,F>

---

ファイル転送サービス停止コマンドにより、ファイル転送サービス監視プロセス(%1)を強制終了しました。

The file transfer service termination command forcibly terminated the file transfer service monitor process (%1).

(S)

ファイル転送サービス停止コマンドによって、ファイル転送サービス監視プロセス(%1)を強制終了しました。

(O)

-

### KMBR03446-I <C,F>

---

ファイル転送サービス停止コマンドにより、ファイル転送サービスプロセス(%1)を強制終了します。

The file transfer service termination command is forcibly terminating the file transfer service process (%1).

(S)

ファイル転送サービス停止コマンドによって、ファイル転送サービスプロセス(%1)を強制終了します。

(O)

-

### KMBR03447-I <C,F>

---

ファイル転送サービス停止コマンドにより、ファイル転送サービスプロセス(%1)を強制終了しました。

The file transfer service termination command forcibly terminated the file transfer service process (%1).

(S)

ファイル転送サービス停止コマンドによって、ファイル転送サービスプロセス(%1)を強制終了しました。

(O)

-

## KMBR04000-E <C,F>

---

OIID 管理テーブルにアクセスできないため、DocumentBroker は処理を続行できません。エラーの詳細は直前のメッセージを参照してください。

DocumentBroker cannot continue processing because access to the OIID table failed.

For details of the error, see the previous message.

(S)

処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

## KMBR04001-E <C,F>

---

データベースでエラーが発生しました。

関数名 : %1

エラー情報 1 : %2

エラー情報 2 : %3

要因コード 1 : %4

要因コード 2 : %5

保守情報 : %6

A database error occurred.

Function name : %1

Error information 1 : %2

Error information 2 : %3

Reason code 1 : %4

Reason code 2 : %5

Maintenance information : %6

%1 : エラーが発生した DABroker の関数名

%2 : DABroker のエラーメッセージ

%3 : データベースのエラーメッセージ

%4 : DABroker のエラーコード

%5 : データベースのエラーコード

DocumentBroker サーバの停止時に、DB コネクション切断処理でエラーが発生した場合

%1 : Close

%2 : DABroker のエラーメッセージ

%3 : データベースのエラーメッセージ

%4 : DABroker のエラーコード

%5 : データベースのエラーコード

%6 : Database connection is disconnected. Success count : 成功数 Failed count : 失敗数

(S)

処理を中止します。

(O)

エラーメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

### KMBR04002-E <C,F>

---

データベースが停止したため、データベースへのアクセス中にタイムアウトが発生しました。

保守情報：%1

The database was stopped, so a time-out error occurred during an attempt to access the database.

Maintenance information：%1

(S)

処理を中止します。

(O)

データベースが停止した要因を取り除いてから、データベースを再起動して、再度実行してください。

### KMBR04003-E <C,F>

---

標準ライブラリでエラーが発生しました。

エラー情報：%1

保守情報：%2

An error occurred in the standard library.

Error information：%1

Maintenance information：%2

OSの標準ライブラリでエラーが発生しました。

(S)

処理を中止します。

(O)

エラー情報(%1)を基に、エラーの要因を取り除いてください。

### KMBR04004-E <C,F>

---

DocumentBrokerで、プログラムエラーが発生しました。

要因コード：%1

保守情報：%2

A program error occurred in the DocumentBroker.

Reason code：%1

Maintenance information：%2

(S)

処理を中止します。

(O)

保守員に連絡してください。

## KMBR04005-E <C,F>

---

メモリマップトファイルのオープンに失敗しました。

パス名 : %1

保守情報 : %2

A memory-mapped file could not be opened.

Path name : %1

Maintenance information : %2

(S)

処理を中止します。

(O)

システムエラーの詳細については、トレースファイルを参照してください。DocumentBroker のシステムファイルの構成が壊れている可能性があるため、システムファイルの構成を再度確認してください。

## KMBR04006-E <C,F>

---

メモリマップトファイルのクローズに失敗しました。

パス名 : %1

保守情報 : %2

A memory-mapped file could not be closed.

Path name : %1

Maintenance information : %2

(S)

エラーを無視して、メモリマップトファイルの終了処理を続行します。

(O)

システムエラーの詳細については、トレースファイルを参照してください。

## KMBR04007-E <C,F>

---

メモリマップトファイルのロックに失敗しました。

パス名 : %1

保守情報 : %2

A memory-mapped file could not be locked.

Path name : %1

Maintenance information : %2

(S)

処理を中止します。

(O)

システムエラーの詳細については、トレースファイルを参照してください。

### KMBR04008-E <C,F>

---

メモリマップトファイルのアンロックに失敗しました。

パス名 : %1

保守情報 : %2

A memory-mapped file could not be unlocked.

Path name : %1

Maintenance information : %2

(S)

処理を中止します。

(O)

システムエラーの詳細については、トレースファイルを参照してください。

### KMBR04009-E <C,F>

---

データベース接続時の環境変数の設定処理で、システムエラーが発生しました。

エラー情報 : %1

要因コード : %2

A system error occurred in the processing to set environment variables when connecting to a database.

Error information : %1

Reason code : %2

データベース接続時の環境変数を設定するために発行した `putenv()` システムコールでエラーが発生しました。

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、`errno.h` (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

処理を中止します。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてください。

### KMBR04013-E <C,F>

---

メモリマップトファイルの作成に失敗しました。

パス名 : %1

保守情報 : %2

The memory-mapped file could not be created.

Path name : %1

Maintenance information : %2

(S)

### 3. 機能別メッセージ

処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に対策を実施してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR04014-E <C,F>

---

メモリマップトファイルの不正を検出しました。

要因 : %1

詳細情報 : %2

Invalid data was detected in the memory-mapped file.

Reason : %1

Detail information : %2

(S)

処理を中止します。

(O)

保守員に連絡してください。

#### KMBR04015-E <C,F>

---

作成できるオブジェクトの最大数に達しました。

The number of objects that can be created has reached the maximum.

(S)

処理を中止します。

(O)

保守員に連絡してください。

#### KMBR04016-E <C,F>

---

メタ情報の取得でエラーが発生しました。

要因コード : %1

保守情報 1 : %2

保守情報 2 : %3

An error occurred during acquisition of meta-information.

Reason code : %1

Maintenance information 1 : %2

Maintenance information 2 : %3

%1 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

処理を中止します。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc/meta\_files (UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\etc\meta\_files (Windows の場合) の下に edmsys.ini ファイルが存在するかどうか、アクセス権 (読み取り権) が設定されているかどうかを確認してください。なお、ファイルが存在しない場合は、-F オプションを指定して EDMPrintMeta コマンドを実行してください。また、アクセス権 (読み取り権) がない場合は、アクセス権 (読み取り権) を設定してください。
2. このメッセージの前に KMBR00003-E が出力されている場合は、KMBR00003-E を基に、エラーの要因を取り除いてください。
3. 保守員に連絡してください。

## KMBR04017-E <C,F>

DocumentSpace 構成定義ファイルの内容が不正です。

要因 : %1

位置 : [%2]%3

The content of the DocumentSpace configuration definition file is invalid.

Reason : %1

Location : [%2]%3

(S)

処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてください。

表 3-21 要因別の対策一覧

要因 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
entry is not omissible.	docspace.ini のセクション [%2] にエントリ [%3] の指定がありません。	docspace.ini のセクション [%2] に、エントリ [%3] を指定してください。
entry value is invalid.	docspace.ini のセクション [%2] に指定されたエントリ [%3] の値が正しくありません。	エントリ [%3] に指定できる範囲内の値を指定してください。

## KMBR04209-W <C,F>

データベースコネクション割り当て待ちでタイムアウトが発生しました。

A time-out occurred during the wait for a database connection assignment.

指定した時間を越えたため、タイムアウトが発生しました。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

再度処理を実行してください。頻繁にこのエラーが発生する場合は、データベースコネクションプールの設定を見直してください。

## KMBR05005-E <C,P,F>

実行環境に必要なファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

An error occurred during the reading file, which require the operating-environment.

File Name : %1

(S)

起動処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力された KMBR00003-E を参照し、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

## KMBR06000-E <C,P,F>

アクセス制御機能のセキュリティ定義ファイルの読み込み中にエラーを検知したため、DocumentBroker サーバを起動できません。

ファイル : %1

詳細 : %2

位置 : [%3]%4

DocumentBroker server cannot start because an error occurred during a read of the security definition file (%1) of the access control function.

Reason : %2

Location : [%3]%4

アクセス制御機能のセキュリティ定義ファイル (%1) 読み込み中に、詳細 (%2) に示すエラーを検知したため、DocumentBroker サーバを起動できません。

(S)

DocumentBroker サーバを起動できません。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、DocumentBroker サーバを再起動してください。

表 3-22 詳細メッセージ別の対策一覧

詳細 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
file does not found.	セキュリティ定義ファイル (%1) がない。	セキュリティ定義ファイル (%1) を作成する。
parameter is not omissible.	セキュリティ定義ファイル (%1) に、位置 [%3]%4 に示す省略不可のエントリを指定していない。	セキュリティ定義ファイル (%1) に、位置 [%3]%4 に示すエントリを指定する。
parameter is incorrect.	セキュリティ定義ファイル (%1) の、位置 [%3]%4 に示すエントリの設定が不正である。	セキュリティ定義ファイル (%1) の、位置 [%3]%4 に示すエントリの設定を修正する。

## KMBR06001-E <C,P,F>

アクセス制御機能のユーザ権限定義ファイルの読み込み中にエラーを検知したため、DocumentBroker サーバを起動できません。

ファイル : %1

詳細 : %2

位置 : [%3]%4

DocumentBroker server cannot start because an error occurred during a read of the user permission definition file (%1) of the access control function.

Reason : %2

Location : [%3]%4

アクセス制御機能のユーザ権限定義ファイル (%1) の読み込み中に、詳細 (%2) に示すエラーを検知したため、DocumentBroker サーバを起動できません。

(S)

DocumentBroker サーバを起動できません。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、DocumentBroker サーバを再起動してください。

表 3-23 詳細メッセージ別の対策一覧

詳細 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
file does not found.	ユーザ権限定義ファイル (%1) がない。	ユーザ権限定義ファイル (%1) を作成する。
parameter is not omissible.	ユーザ権限定義ファイル (%1) に、位置 [%3]%4 に示す省略不可のエントリを指定していない。	ユーザ権限定義ファイル (%1) に、位置 [%3]%4 に示すエントリを指定する。
parameter is incorrect.	ユーザ権限定義ファイル (%1) の、位置 [%3]%4 に示すエントリの設定が不正である。	ユーザ権限定義ファイル (%1) の、位置 [%3]%4 に示すエントリを設定を修正する。
parameter for type of subject is incorrect.	ユーザ権限定義ファイル (%1) の、位置 [%3]%4 に示すエントリに指定したサブジェクト種別が不正である。	ユーザ権限定義ファイル (%1) の、位置 [%3]%4 に示すエントリに指定したサブジェクト種別を修正する。
parameter for permission is incorrect.	ユーザ権限定義ファイル (%1) の、位置 [%3]%4 に示すエントリに指定したパーミッションが不正である。	ユーザ権限定義ファイル (%1) の、位置 [%3]%4 に示すエントリに指定したパーミッションを修正する。

## KMBR06002-I <C,P,F>

アクセス制御機能が利用できる状態で、DocumentBroker サーバを起動します。

The DocumentBroker server will start, and the access control function will be available.

(S)

DocumentBroker サーバを起動しています。

### 3. 機能別メッセージ

(O)

-

#### KMBR06003-I <C,P,F>

---

アクセス制御機能が無効な状態で、DocumentBroker サーバを起動します。

The DocumentBroker server will start, but the access control function will not be available.

(S)

DocumentBroker サーバを起動しています。

(O)

-

#### KMBR06004-E <C,P,F>

---

アクセス制御機能を利用できないユーザ認証方式であるため、DocumentBroker サーバを起動できません。

認証方式：%1

The DocumentBroker server cannot start because the access control function is not available for user authentication (%1).

(S)

DocumentBroker サーバを起動できません。

(O)

DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に適切なユーザ認証方式を指定して、DocumentBroker サーバを再起動してください。

#### KMBR06007-W <F>

---

クライアントアプリケーション動作定義ファイル (%1) の読み込み中にエラーが発生しました。

要因：%2

付加情報：%3

Client Application continue, but an error occurred during a read of The Client Application Definition File (%1).

Reason:%2

Additional information:%3

%1：クライアントアプリケーション動作定義ファイルのファイル名

%2：表 3-24 の要因に示す値

%3：エントリ名、システムコール名、または保守情報

クライアントアプリケーション動作定義ファイル (%1) の読み込み中に、要因 (%2) に示すエラーを検知しました。

(S)

クライアントアプリケーション動作定義ファイルが指定されていないと仮定して、クライアントアプリケーションの処理を続行します。

(O)

次の表に示す要因別の対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、クライアントアプリケー

ションを再度実行してください。

表 3-24 要因別の対策一覧

要因 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
no memory.	付加情報 (%3) に示すメモリを確保できません。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてください。
parameter is too long.	クライアントアプリケーション動作定義ファイル (%1) の付加情報 (%3) に示すエントリの指定が、1,023 バイトを超えています。	付加情報 (%3) に示すエントリの値を、1,023 バイト以下で指定してください。
system call error.	クライアントアプリケーション動作定義ファイル (%1) のエントリの読み込み中に、付加情報 (%3) に示すシステムコールでエラーが発生しました。	付加情報 (%3) に示すシステムコール名とシステムコールが設定したエラー番号を基に、エラーの要因を取り除いてください。
registry get failed.	DocumentBroker Development Kit または DocumentBroker Runtime のインストールディレクトリの取得時にエラーが発生しました。	DocumentBroker Development Kit または DocumentBroker Runtime を再インストールしてください。

## KMBR08000-I <C,P,F>

DocumentBroker Server サービスを開始しています。

The DocumentBroker Server service is starting.

(S)

DocumentBroker Server サービスを開始しています。

(O)

-

## KMBR08001-E <C,P,F>

続行できない障害が発生したため、DocumentBroker Server サービスを開始できません。

The DocumentBroker Server service cannot start because an error that stops processing occurred.

(S)

エラーが発生したため、DocumentBroker Server サービスを開始できません。

(O)

イベントログに出力されているメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、DocumentBroker Server サービスを再起動してください。

なお、エラーの要因が KMBR00003-E のシステムコール「StartServiceCtrlDispatcher」の場合は、しばらくしてから DocumentBroker Server サービスを再起動してください。

## KMBR08002-W <C,P,F>

DocumentBroker Server サービスは既に起動しています。

### 3. 機能別メッセージ

The DocumentBroker Server service is already running.

(S)  
DocumentBroker Server サービスはすでに起動しています。

(O)  
-

#### KMBR08003-I <C,P,F>

---

DocumentBroker Server サービスを開始しました。

The DocumentBroker Server service has started.

(S)  
DocumentBroker Server サービスを開始しました。

(O)  
-

#### KMBR08004-I <C,P,F>

---

DocumentBroker Server サービスを停止しています。

The DocumentBroker Server service is terminating.

(S)  
DocumentBroker Server サービスを停止しています。

(O)  
-

#### KMBR08005-E <C,P,F>

---

続行できない障害が発生したため、DocumentBroker Server サービスを正常に停止できません。

The DocumentBroker Server service could not terminate normally because an error that stops processing occurred.

(S)  
エラーが発生したため、DocumentBroker Server サービスを正常に停止できません。

(O)  
イベントログに出力されているメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度停止コマンドを実行するか、強制終了コマンドを実行してください。

#### KMBR08006-W <C,P,F>

---

DocumentBroker Server サービスは既に停止しています。

The DocumentBroker Server service has already terminated.

(S)  
DocumentBroker Server サービスはすでに停止しています。

(O)  
-

### KMBR08007-I <C,P,F>

---

DocumentBroker Server サービスを停止しました。

The DocumentBroker Server service has terminated.

(S)

DocumentBroker Server サービスを停止しました。

(O)

-

### KMBR08008-W <C,P,F>

---

DocumentBroker Server サービスは起動処理中です。

The DocumentBroker Server service is now starting.

(S)

DocumentBroker Server サービスは起動処理中です。

(O)

-

### KMBR08009-W <C,P,F>

---

DocumentBroker Server サービスは停止処理中です。

The DocumentBroker Server service is now terminating.

(S)

DocumentBroker Server サービスは停止処理中です。

(O)

-



# 4

## 各ユティリティのメッセージ

この章では、DocumentBroker の各ユティリティに関するメッセージについて説明します。

---

4.1 KMBR10000 ~ KMBR19999

---

4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処

---

## 4.1 KMBR10000 ~ KMBR19999

---

### KMBR10203-E <C,P,F>

---

指定したファイルの読み出しができません。

%1 を中止します。

ファイル名 : %2

The specified file cannot be read.

%1 will now stop.

File name : %2

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

指定したファイルに対するアクセス権があるか確認してください。

### KMBR10204-E <C,P,F>

---

データベース定義文格納ファイルの書き込みでエラーが発生しました。

%1 を中止します。

データベース定義文格納ファイル名 : %2

要因コード : %3

An error occurred during a write to a DDL file.

%1 will now stop.

DDL file name : %2

Reason code : %3

%3 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

要因コード (%3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR10205-E <C,P,F>

---

メモリが不足しているため、コマンド処理を続行できません。

%1 を中止します。

Memory became insufficient, so command processing cannot continue.

%1 will now stop.

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

実行中のほかのプログラムの終了を待って、コマンド (%1) を再度実行してください。

## KMBR10207-E <C,P,F>

---

メタ情報の読み込みでエラーが発生しました。

%1 を中止します。

関数名 : %2

要因コード : %3

An error occurred while meta-information was being read.

%1 will now stop.

Function name : %2

Reason code : %3

%3 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

-f オプションに DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc/meta\_files/edms.ini (UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%etc%meta\_files%edms.ini (Windows の場合) を指定して、EDMChkMeta コマンドを実行してください。その後、出力されたメッセージを基に、メタ情報ファイルを修正してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

## KMBR10208-E <C,P,F>

---

文字列の最大長の設定が 0 であるか、文字列の長さがデータベース管理システムの制限値を超えています。

データベース定義文の出力処理を中止します。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

The maximum length of a string is set as zero, or exceeds the limit of the database system.

Output processing of the database definition statement will now stop.

Class name : %1

Property name : %2

PropertyDescription オブジェクトの dmaProp\_MaximumLengthString プロパティに 0 が指定されているか、dmaProp\_MaximumLengthString プロパティに指定されている値がデータベース管理システムの制限値を超えています。

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

クラス (%1) は、String 型プロパティを持つ ClassDescription オブジェクトの dmaProp\_DisplayName プロパティの値です。プロパティ (%2) は、String 型プロパティを持つ PropertyDescription オブジェクトの dmaProp\_DisplayName プロパティの値です。

(S)

データベース定義文の出力処理を中止します。

(O)

メタ情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10209-E <C,P,F>

---

データベースへの接続でエラーが発生しました。

%1 を中止します。

An error occurred during an attempt to connect to the database.

%1 will now stop.

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

データベースが起動されているか確認してください。また、DocumentSpace 構成定義ファイル

(docspace.ini) に指定したデータベースのエントリを確認してください。

syslog ファイルにエラーメッセージが出力されている場合、syslog ファイルのエラーメッセージを参照して、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

#### KMBR10210-E <C,P,F>

---

メタ情報が登録されていません。

%1 を中止します。

Meta-information is not registered.

%1 will now stop.

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

EDMInitMeta コマンドを実行してメタ情報を登録してから、コマンド (%1) を再度実行してください。

#### KMBR10211-I <C,P,F>

---

データベース定義文の出力を正常に終了しました。

Output of the database definition statement ended normally.

エラーは見つかりませんでした。

(S)

データベース定義文の出力を正常に終了しました。

(O)

## KMBR10212-E <C,P,F>

---

このメタ情報は、ほかのプロセスで使用中のため、処理を続行できません。

%1 を中止します。

Another process is using the meta-information, so processing cannot continue.

%1 will now stop.

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

このメタ情報にアクセスしているほかのプロセスの終了を待って、コマンドを再度実行してください。

## KMBR10221-W <P,F>

---

クラス名の指定がありません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

A class name is not specified.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目にあるデータの指定を確認してください。

## KMBR10222-W <P,F>

---

プロパティ名の指定がありません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

A property name is not specified.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目にあるデータの指定を確認してください。

## KMBR10223-W <P,F>

---

エリア名の指定がありません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An area name is not specified.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

ファイル(%1)の%2行目にあるデータの指定を確認してください。

## KMBR10224-W <P,F>

---

指定できないセクションが指定されています。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An unspecifiable section is specified.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

このメッセージが出力される前に実行したコマンドに応じて、次に示す対策を実施してください。

- EDMCrtSql コマンドの場合  
ファイル(%1)の%2行目にあるセクションの指定を修正してから、EDMCrtSql コマンドを再度実行してください。
- EDMAAddMeta コマンドの場合  
出力されたデータベース定義文格納ファイル内のエリア名を修正してから、データベースを作成してください。

## KMBR10225-W <P,F>

---

セクションの指定がありません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

A section is not specified.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

このメッセージが出力される前に実行したコマンドに応じて、次に示す対策を実施してください。

- EDMCrtSql コマンドの場合

セクションを指定してから、EDMCrtSql コマンドを再度実行してください。

- EDMAAddMeta コマンドの場合

出力されたデータベース定義文格納ファイル内のエリア名を修正してから、データベースを作成してください。

## KMBR10226-W <P,F>

---

文法が不正です。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

Syntax is invalid.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目にある文法を確認してください。

## KMBR10227-W <P,F>

---

エントリが重複しています。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An entry is duplicated.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目にあるデータの指定を確認してください。

## KMBR10228-I <P,F>

---

デフォルトのエリア名が設定されました。

エリア名 : %1

クラス名 : %2

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

The default area name was set.

Area name : %1

Class name : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

-

#### KMBR10229-I <P,F>

---

デフォルトのエリア名が設定されました。

エリア名 : %1

クラス名 : %2

プロパティ名 : %3

The default area name was set.

Area name : %1

Class name : %2

Property name : %3

(S)

処理を続行します。

(O)

-

#### KMBR10230-I <P,F>

---

RD エリア定義情報ファイルで 10 件のエラーを検知しました。

RD エリア定義情報ファイルの解析処理を中止します。

Analyzing the RD area definition information file will now stop because ten errors were detected in the file.

(S)

RD エリア定義情報の解析を中止して、処理を続行します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、RD エリア定義情報ファイルを修正してください。

#### KMBR10231-W <P,F>

---

LOB 用 RD エリア名が重複しています。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

RD エリア名 : %3

The name of the RD area for LOB is duplicated.

File name : %1

Line number : %2

RD area name : %3

RD エリア名 (%3) が、ファイル (%1) 内で重複しています。

[LobArea], [SGMLTEXTLobArea], [NgramIndexArea] および [SearchExtentionPropertyIndexArea] セクション内で指定する RD エリア名は、ファイル内で一意になっていなければなりません。

(S)

処理を続行します。

(O)

重複している RD エリア名 (%3) が、ファイル (%1) 内で一意になるように修正してください。

## KMBR10254-E <C,P,F>

---

インデクス情報ファイルのオープンでエラーが発生しました。

%1 を中止します。

インデクス情報ファイル名 : %2

An error occurred during the opening of the index information file.

%1 will now stop.

Index information file name : %2

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR10255-E <C,P,F>

---

インデクス情報ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

%1 を中止します。

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

An error occurred during a read of the index information file.

%1 will now stop.

Index information file name : %2

Line number : %3

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR10256-E <P,F>

---

プロパティの内容のチェック中に、エラーが発生しました。

%1 を中止します。

An error occurred during a check of the property contents.

%1 will now stop.

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR10257-W <P,F>

---

インデックスの数が、データベース管理システムの制限値を超えています。

クラス名 : %1

The number of indexes exceeds the limit of the database system.

Class name : %1

(S)

データベース定義文の出力処理を続行します。

(O)

インデックス情報ファイルを確認してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR10258-I <P,F>

---

インデックス情報ファイルで 10 件のエラーを検知しました。

インデックス情報ファイルの解析処理を中止します。

Analyzing the index information file will now stop because ten errors were detected in the index information file.

(S)

インデックス情報ファイルの解析を中止して、処理を続行します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、インデックス情報ファイルを修正してください。

## KMBR10259-W <P,F>

---

インデックス情報ファイル内の記述形式が不正です。

コンマ ( , ) 以外の文字がエスケープされています。

インデックス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A character other than a comma (,) is escaped.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル(%1)のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%1)の%2行目にあるデータの指定を確認してください。

### KMBR10260-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

行頭が(class=)で始まっていません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A line does not begin with class=.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル(%1)のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%1)の%2行目にあるデータの指定を確認してください。

### KMBR10261-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

UNIQUEの後にコンマ(,)がありません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A comma (,) is missing after UNIQUE.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル(%1)のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%1)の%2行目にあるデータの指定を確認してください。

### KMBR10263-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

( class= ) の後に ( prop= ) の記述がありません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

prop= is missing after class=.

Index information file name : %1

Line number : %2

( S )

インデクス情報ファイル ( %1 ) のチェック処理を続行します。

( O )

インデクス情報ファイル ( %1 ) の %2 行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10264-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

( order= ) に , ASC 又は DESC 以外の値を指定しています。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A value other than ASC or DESC is specified in order=.

Index information file name : %1

Line number : %2

( S )

インデクス情報ファイル ( %1 ) のチェック処理を続行します。

( O )

インデクス情報ファイル ( %1 ) の %2 行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10265-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

( order=ASC/DESC ) の次が改行 , コンマ ( , ) 又は終端になっていません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A line feed, comma ( , ), or end mark must be specified after order=ASC/DESC.

Index information file name : %1

Line number : %2

( S )

インデクス情報ファイル (%1) のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の %2 行目にあるデータの指定を確認してください。

### KMBR10266-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

コンマ (,) の次が (order=) 又は (prop=) になっていません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

order= or prop= must be specified after a comma (,).

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル (%1) のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の %2 行目にあるデータの指定を確認してください。

### KMBR10267-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

(prop= プロパティ名) の次が改行, コンマ (,) 又は終端になっていません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A line feed, comma (,), or end mark must be specified after prop=*property-name*.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル (%1) のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の %2 行目にあるデータの指定を確認してください。

### KMBR10268-W <P,F>

---

インデクスのキーに定義したプロパティの数が, データベース管理システムの制限値を超えています。

プロパティ数 : %1

行番号 : %2

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

The number of properties defined in the index key exceeds the limit of the database system.

Property number : %1

Line number : %2

(S)

データベース定義文の出力処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイルを確認してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10269-W <P,F>

---

キーの構成が同一のインデクスが既に定義されています。

プロパティ名 : %1

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

An index with the same key organization is already defined.

Property name : %1

Index information file name : %2

Line number : %3

(S)

データベース定義文の出力処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%2)を確認してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10270-W <P,F>

---

プロパティの最大長がデータベース管理システムの制限値を超えています。

プロパティ名 : %1

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

The maximum length of the property exceeds the limit of the database system.

Property name : %1

Index information file name : %2

Line number : %3

文字列の最大長がデータベース管理システムの制限値を超えています。

(S)

データベース定義文の出力処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%2)を確認してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR10271-W <P,F>**

---

指定したクラスには、指定したプロパティはありません。

プロパティ名 : %1

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

The specified property does not exist in the specified class.

Property name : %1

Index information file name : %2

Line number : %3

(S)

データベース定義文の出力処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%2)を確認してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR10272-W <P,F>**

---

指定したクラスは定義されていないか、永続化クラスではありません。

クラス名 : %1

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

The specified class is not defined, or is not a persistent class.

Class name : %1

Index information file name : %2

Line number : %3

(S)

データベース定義文の出力処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%2)を確認してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR10273-W <P,F>**

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

EXCEPT の次が改行又は終端になっていません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A line feed or end mark must be specified after EXCEPT.

Index information file name : %1

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%1)の%2行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10274-W <P,F>

---

インデクス名が不正です。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The index name is invalid.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%1)の%2行目にあるインデクス名は、次に示す文字を使って指定してください。なお、先頭1バイトには、英小文字または英大文字を指定してください。

- 英小文字
- 英大文字
- 数字
- 空白
- \_ (下線)
- - (ハイフン)

#### KMBR10275-W <P,F>

---

インデクス名の長さが制限長を超えています。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The length of the index name exceeds the limit.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%1)の%2行目にあるインデクス名を、30バイト以内にしてください。

#### KMBR10276-W <P,F>

---

インデクス名が重複しています。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The index name is duplicated.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%1)の%2行目にあるインデクス名は、重複しないように指定してください。

## KMBR10277-W <P,F>

---

インデクス名が複数指定されています。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

Two or more index names are specified.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%1)の%2行目には、インデクス名を一つだけ指定してください。

## KMBR10278-W <P,F>

---

指定したプロパティには、インデクスは定義できません。

プロパティ名 : %1

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

An index cannot be defined for the specified property.

Property name : %1

Index information file name : %2

Line number : %3

全文検索または概念検索用の登録情報を参照することを示すためのプロパティおよび全文検索機能付きプロパティに、インデクスは定義できません。

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%2)を確認してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR10279-W <P,F>

---

%1 が一つのインデクス定義内に複数指定されています。

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

%1 is duplicated in an index definition.

Index information file name : %2

Line number : %3

一つのインデクス定義内に、%1 は複数指定できません。

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%2)の%3行目にあるデータの指定を確認してください。

## KMBR10280-W <P,F>

---

%1 はこのセクションに指定できません。

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

%1 cannot be specified in this section.

Index information file name : %2

Line number : %3

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%2)の%3行目にあるデータの指定位置を確認してください。

## KMBR10281-W <P,F>

---

%1 の値が不正です。

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

%1 is invalid.

Index information file name : %2

Line number : %3

インデクス定義に指定した値が不正です。

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%2)の%3行目にあるデータの値を確認してください。

## KMBR10282-W <P,F>

---

文法が不正です。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax is invalid.

Index information file name : %1

Line number : %2

インデクス定義の文法が不正です。

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル(%1)の%2行目にあるインデクス定義の文法を確認してください。

## KMBR10301-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルはありません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

メタ情報ファイル名 : %1

The specified meta-information file does not exist.

Processing to register the meta-information file will now stop.

Meta-information file name : %1

引数で指定したメタ情報ファイル, またはメタ情報ファイル内で指定したメタ情報ファイルがありません。

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

メタ情報ファイル(%1)があるか確認してください。その後, EDMDelMeta コマンドを実行してから, EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10302-E <C,P,F>

---

メモリが不足しているため, メタ情報ファイルの登録処理を続行できません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

Memory became insufficient, so processing to register the meta-information file cannot continue.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

実行中のほかのプログラムの終了を待って, EDMDelMeta コマンドを実行してから, EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10303-E <C,P,F>

---

メタ情報ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the meta-information file was being read.

Processing to register the meta-information file will now stop.

File name : %1

Reason code : %2

%2 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

エラーの要因を取り除いて、EDMDelMeta コマンドを実行してから、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10304-E <C,P,F>

---

データベースへの接続でエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

An error occurred during an attempt to connect to the database.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

データベースが起動されているか確認してください。また、DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に、指定したデータベースのエントリがあるか確認してください。

syslog ファイルにエラーメッセージが出力されている場合、syslog ファイルのエラーメッセージを参照して、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

## KMBR10305-E <C,P,F>

---

データベースへの登録でエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

An error occurred while the file was being registered in the database.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

データベースで発生したエラー情報の詳細について syslog ファイルを参照して、エラーの要因を取り除いてください。その後、EDMDeMeta コマンドを実行してから、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10306-E <C,P,F>

---

メタ情報の登録は既に完了しています。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The meta-information has already been registered.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

再登録が必要な場合は、-d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10307-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、文書空間で作成するオブジェクトを定義するファイルではありません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The specified meta-information file does not define an object created in the document space.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

メタ情報ファイルを正しく指定してから、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10308-E <C,P,F>

---

このメタ情報は、ほかのプロセスで使用するため、メタ情報ファイルの登録処理を続行できません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

Another process is using the meta-information, so processing to register the meta-information cannot continue.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

メタ情報にアクセスしているほかのプロセスの終了を待って、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10311-I <C,P,F>

---

メタ情報ファイルの登録処理を正常に終了しました。

Processing to register the meta-information file completed normally.

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を正常に終了しました。

(O)

-

#### KMBR10312-E <C,P,F>

---

メタ情報ファイルと -v オプションに指定した VariableArray 型要素の格納先が一致していません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

格納先 : %1

The meta-information file and the storage destination of a VariableArray-type element specified in the -v option are not the same.

Processing to register the meta-information file will now stop.

Storage destination : %1

%1 : メタ情報ファイル内の VariableArray 型要素の格納先

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- -v オプションを指定しないで、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。
- -v オプションの値をメタ情報ファイルと合わせて、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10313-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、アクセス制御機能を使用しないファイルのため、-A オプションは指定できません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The -A option cannot be specified for the specified meta-information file because the file does not use the access control function.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-A オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10314-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、アクセス制御機能を使用したファイルのため、-A オプションを指定してください。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

Specify the -A option because the specified meta-information file uses access control.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-A オプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

## KMBR10315-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、File Link 連携機能を使用しないファイルのため、-L オプションは指定できません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The -L option cannot be specified for the specified meta-information file because the file does not use the file link function.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-L オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。

File Link 連携機能を使用する場合は、EDMInitMeta コマンドの -f オプションにシステム提供時のメタ情報ファイルを指定して、再度実行してください。

## KMBR10316-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、File Link 連携機能を使用したファイルのため、-L オプションを指定してください。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

Specify the -L option because the specified meta-information file use the file link function.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-L オプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

File Link 連携機能を使用しない場合は、EDMInitMeta コマンドの -f オプションにシステム提供時のメタ情報ファイルを指定して、再度実行してください。

## KMBR10317-E <C,P,F>

---

メタ情報ファイルと -u オプションに指定した値が一致していません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

データベース定義名称種別 : %1

The meta-information file and the value specified in the -u option are not the same.

Processing to register the meta-information file will now stop.

Database definition name type : %1

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

%1 : メタ情報ファイル内のデータベース定義名称種別

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

クラス名やプロパティ名をデータベース定義の名称とする環境の場合は、`-u` オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。それ以外の場合は、`-u` オプションの値をメタ情報ファイルと合わせて、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10318-E <C,P,F>

---

`-c` オプションの値が不正です。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The `-c` option is invalid.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

`-c` オプションに、2 ~ 4,096 の範囲の値を指定して、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10319-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、マルチファイル管理機能を使用しないファイルのため、`-c` オプションは指定できません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The `-c` option cannot be specified for the specified meta-information file because the file does not use the multi-file function.

Processing to register the meta-information file will now stop.

`-f` オプションに指定できないメタ情報ファイルを指定しています。

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

指定したメタ情報ファイルは、マルチファイル管理機能を使用できません。

`-c` オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10322-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、リファレンスファイル管理機能を使用しないファイルのため、`-R` オプションは指定できません。メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The `-R` option cannot be specified for the specified meta-information file because the file does not use the reference file function. Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-R オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。  
 リファレンスファイル管理機能を使用する場合には、EDMInitMeta コマンドの -f オプションに、システム提供時のメタ情報ファイルを指定して再度実行してください。

### KMBR10323-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、リファレンスファイル管理機能を使用したファイルのため、-R オプションを指定してください。メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

Specify the -R option because the specified meta-information file uses the reference file function. Processing to register the meta-information file will now stop.

( S )

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

( O )

-R オプションを指定して、コマンドを再度実行してください。  
 リファレンスファイル管理機能を使用しない場合には、EDMInitMeta コマンドの -f オプションに、システム提供時のメタ情報ファイルを指定して再度実行してください。

### KMBR10324-E <C,P,F>

---

%1 オプションの値が不正です。メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The %1 option is invalid. Processing to register the meta-information file will now stop.

%1 : -n または -g

( S )

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

( O )

%1 オプションに 255 ~ 512 の値を指定し、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10325-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、ユーザ識別子の最大長を拡張しないファイルのため、-n オプションは指定できません。メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The -n option cannot be specified for the specified meta-information file because the file does not extend maximum length of user-id. Processing to register the meta-information file will now stop.

( S )

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

( O )

次に示すどちらかの対処をしてください。

- -n オプションを省略して EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。
- ユーザ識別子の最大長を 255 バイト以上に拡張する場合 (-n オプションを指定する場合には、EDMInitMeta コマンドの -f オプションに、システム提供時のメタ情報ファイルを指定して再度実行してください。

## KMBR10326-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、グループ識別子の最大長を拡張しないファイルのため、-g オプションは指定できません。メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The -g option cannot be specified for the specified meta-information file because the file does not extend maximum length of group-id. Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

次に示すどちらかの対処をしてください。

- -g オプションを省略して EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。
- グループ識別子の最大長を 255 バイト以上に拡張する場合 (-g オプションを指定する場合) には、EDMInitMeta コマンドの -f オプションに、システム提供時のメタ情報ファイルを指定して再度実行してください。

## KMBR10327-E <C,P,F>

---

-C オプションの値が不正です。メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The -C option is invalid. Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-C オプションに「SJIS」または「UTF-8」を指定して、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10401-E <C,P,F>

---

メモリが不足しているため、メタ情報ファイルの削除処理を続行できません。

メタ情報の削除処理を中止します。

Memory became insufficient, so processing to delete the meta-information file cannot continue.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

実行中のほかのプログラムの終了を待って利用可能なメモリを増やしてから、EDMDelMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10402-E <C,P,F>

---

データベースへの接続でエラーが発生しました。

メタ情報の削除処理を中止します。

An error occurred during an attempt to connect to the database.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

データベースが起動されているか確認してください。また、DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に、指定したデータベースのエントリがあるか確認してください。

syslog ファイルにエラーメッセージが出力されている場合、syslog ファイルのエラーメッセージを参照して、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

## KMBR10403-E <C,P,F>

---

データベースでエラーが発生しました。

メタ情報の削除処理を中止します。

An error occurred in the database.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

データベースで発生したエラー情報の詳細について syslog ファイルを参照して、エラーの要因を取り除いてください。その後、EDMDelMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10404-E <C,P,F>

---

メタ情報は登録されていません。

メタ情報の削除処理を中止します。

The meta-information has not been registered.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

-

## KMBR10405-E <C,P,F>

---

このメタ情報は、ほかのプロセスで使用中のため、メタ情報の削除処理を続行できません。

メタ情報の削除処理を中止します。

Another process is using the meta-information, so processing to delete the meta-information cannot continue.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

メタ情報にアクセスしているほかのプロセスの終了を待って、EDMDelMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10406-E <P,F>

---

引数で指定したスーパークラス又はサブクラスが、データベースに登録されていません。

メタ情報の削除処理を中止します。

クラス名 : %1

The super class or subclass specified in the argument has not been registered in the database.

Processing to delete the meta-information will now stop.

Class name : %1

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

クラス(%1)があるか確認してください。

## KMBR10407-E <P,F>

---

引数で指定したサブクラスは、スーパークラスのサブクラスではありません。

メタ情報の削除処理を中止します。

The subclass specified in the argument is not a subclass of the super class.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

指定したサブクラスが指定したスーパークラスを継承しているか確認してください。

## KMBR10408-E <P,F>

---

指定したクラスに、指定したプロパティはありません。

メタ情報の削除処理を中止します。

The specified property does not exist in the specified class.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

指定したクラスに、指定したプロパティがあるか確認してください。

## KMBR10409-E <P,F>

---

ファイルの出力処理に失敗しました。

メタ情報の削除処理を中止します。

Output processing of the file failed.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)  
メタ情報の削除処理を中止します。

(O)  
ファイル名を確認してから , EDMDelMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10410-I <C,P,F>

---

メタ情報の削除処理を正常に終了しました。

Processing to delete the meta-information ended normally.

(S)  
メタ情報の削除処理を正常に終了しました。

(O)  
-

### KMBR10411-I <C,P,F>

---

サブクラス情報の削除処理を正常に終了しました。

サブクラス名 : %1

サブクラス GUID : %2

Processing to delete the subclass information ended normally.

Subclass name : %1

Subclass GUID : %2

(S)  
サブクラス情報の削除処理を正常に終了しました。

(O)  
-

### KMBR10412-I <C,P,F>

---

プロパティ情報の削除処理を正常に終了しました。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

Processing to delete the property information ended normally.

Class name : %1

Property name : %2

(S)  
プロパティ情報の削除処理を正常に終了しました。

(O)  
-

## KMBR10413-E <P,F>

---

指定したクラスにオブジェクトがあります。

メタ情報の削除処理を中止します。

An object exists in the specified class.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

指定したクラスのオブジェクトを削除してから、EDMDelMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10500-E <P,F>

---

プロパティの指定 (値) が %1 バイトを超えています。

行番号 : %2

The specification (value) of the property exceeds %1 bytes.

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10501-E <P,F>

---

プロパティの指定内容が重複しています。

行番号 : %1

The specified contents of the property are duplicated.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10502-E <P,F>

---

dmaProp\_DataType プロパティが指定されていないのに、%1 が指定されています。

行番号 : %2

%1 is specified even though the dmaProp\_DataType property is not specified.

Line number : %2

%1 には、次に示すプロパティのどれかが入ります。

- dmaProp\_DescriptiveText

- dmaProp\_Ids
- dmaProp\_Cardinality
- dmaProp\_IsSelectable
- dmaProp\_IsSearchable
- dmaProp\_IsOrderable
- dmaProp\_QueryOperatorDescriptions
- dmaProp\_IsValueRequired
- dmaProp\_IsHidden
- dmaProp\_MaximumLengthString
- dmaProp\_RequiredClass

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10503-E <P,F>

---

dmaProp\_DataType プロパティに DMA\_DATATYPE\_OBJECT を指定したときは、%1 も指定してください。

行番号 : %2

Specify %1 when DMA\_DATATYPE\_OBJECT is specified for the dmaProp\_DataType property.

Line number : %2

%1 には、次に示すプロパティのどれかが入ります。

- dmaProp\_Cardinality
- dmaProp\_RequiredClass
- dmaProp\_MaximumElements

VariableArray 型プロパティの要素の格納先が HiRDB の場合は、これらのプロパティを必ず指定してください。

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10504-E <P,F>

---

アクション中には、同じ名称のプロパティが既にあります。

アクション名 : %1

プロパティ名 : %2

行番号 : %3

A property with the same name exists in the action.

Action name : %1

Property name : %2

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10507-E <P,F>

---

全文検索機能付きクラス又は概念検索機能付きクラスには、%1 プロパティも指定してください。

行番号 : %2

Specify the %1 property for a class that has the full-text search function or a conceptual search function.

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10533-E <P,F>

---

GUID 値は重複しないように指定してください。

行番号 : %1

The GUID value must not be duplicated.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

重複している GUID 値をメタ情報ファイル内で一意にしてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10534-E <P,F>

---

~ QueryOperator ~ の指定が重複しています。

行番号 : %1

The specification of ~QueryOperator~ is duplicated.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

重複している ~ QueryOperator ~ の指定をメタ情報ファイル内で一意にしてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10550-E <P,F>

---

データベースへのアクセス準備に失敗しました。

処理名 : %1

要因コード : %2

An error occurred during preparation for database access.

Processing name : %1

Reason code : %2

データベースへのアクセス準備 ( %1 の処理 ) に失敗しました。

%2 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

( S )

メタ情報の追加処理を中止します。

( O )

データベースまたはネットワーク環境を見直してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10570-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

プロパティのデータが 1 件もありません。

テーブル名 : %1

セクション名 : %2

プロパティ名 : %3

ファイル名 : %4

行番号 : %5

The database search failed.

No property data exists.

Table name : %1

Section name : %2

Property name : %3

File name : %4

Line number : %5

( S )

メタ情報の追加処理を中止します。

( O )

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10571-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

テーブル名 : %1

セクション名 : %2

プロパティ名 : %3

ファイル名 : %4

行番号 : %5

The database search failed.

Table name : %1

Section name : %2

Property name : %3

File name : %4

Line number : %5

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10572-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

SQL : %1

ファイル名 : %2

行番号 : %3

The database search failed.

SQL : %1

File name : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10573-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

データベースには、指定したクラスはありません。

クラス名 : %1

SQL : %2

行番号 : %3

The database search failed.

The specified class does not exist in the database.

Class name : %1

SQL : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10574-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

データベースには、指定したプロパティはありません。

プロパティ名 : %1

SQL : %2

行番号 : %3

The database search failed.

The specified property does not exist in the database.

Property name : %1

SQL : %2

Line number : %3

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10575-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

dmaProp\_QueryOperatorDescriptions プロパティを指定できません。

アクション : %1

SQL : %2

セクション名 : %3

ファイル名 : %4

行番号 : %5

The database search failed.

The dmaProp\_QueryOperatorDescriptions property cannot be specified.

Action : %1

SQL : %2

Section name : %3

File name : %4

Line number : %5

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10576-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

EDMS\_METAINI テーブルの MAX\_OCCUR 検索でエラーが発生しました。

セクション名 : %1

ファイル名 : %2

行番号 : %3

The database search failed.

An error occurred during the search for MAX\_OCCUR in the EDMS\_METAINI table.

Section name : %1

File name : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10577-E <P,F>

---

指定したプロパティはデータベースにありませんでした。

プロパティ名 : %1

SQL : %2

行番号 : %3

The specified property does not exist in the database.

Property name : %1

SQL : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10587-E <P,F>

---

表識別子が重複しています。

アクション : %1

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

スーパークラス名 : %2

サブクラス名 : %3

SQL : %4

The table ID is duplicated.

Action : %1

Super class name : %2

Subclass name : %3

SQL : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

#### KMBR10588-E <P,F>

---

列名が重複しています。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

SQL : %3

行番号 : %4

The column name is duplicated.

Class name : %1

Property name : %2

SQL : %3

Line number : %4

列名は、すでに存在します。

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

#### KMBR10589-E <P,F>

---

全文検索又は概念検索用のプロパティは、既にあります。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

SQL : %3

行番号 : %4

The property for the full-text search or for a conceptual search already exists.

Class name : %1

Property name : %2

SQL : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

## KMBR10590-E <C,P,F>

---

データベースの内容に矛盾を検知しました。

メタ情報のテーブルのセクション内には、同じ名称のプロパティが既にあります。

メタ情報のテーブル名 : %1

セクション名 : %2

プロパティ名 : %3

ファイル名 : %4

行番号 : %5

A conflict was detected in the database contents.

A property with the same name already exists in the meta-information table section.

Meta-information table name : %1

Section name : %2

Property name : %3

File name : %4

Line number : %5

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータ

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

- ベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10591-E <C,P,F>

---

指定したサブクラスは既にあります。

アクション : %1

スーパークラス名 : %2

サブクラス名 : %3

SQL : %4

The specified subclass already exists.

Action : %1

Super class name : %2

Subclass name : %3

SQL : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

### KMBR10592-E <C,P,F>

---

データベースの内容に矛盾を検知しました。

SQL : %1

保守情報 : %2

ファイル名 : %3

行番号 : %4

A conflict was detected in the database contents.

SQL : %1

Maintenance information : %2

File name : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10594-E <C,P,F>

---

指定したプロパティは既にあります。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

SQL : %3

行番号 : %4

The specified property already exists.

Class name : %1

Property name : %2

SQL : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

## KMBR10597-E <P,F>

---

edmClass\_Struct クラスのサブクラスを指定してください。

行番号 : %1

Specify a subclass of the edmClass\_Struct class.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

## KMBR10610-E <C,P,F>

---

データベースへのメタ情報の更新で失敗しました。  
バックアップからデータベースを回復してください。

セクション名 : %1

プロパティ名 : %2

オカレンス名 : %3

ファイル名 : %4

行番号 : %5

The attempt to update meta-information in the database failed.

Restore the database from a backup.

Section name : %1

Property name : %2

Occurrence name : %3

File name : %4

Line number : %5

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

データベースのメッセージを基にエラーの要因を取り除いて、バックアップからデータベースを回復してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10611-E <C,P,F>

---

データベースへのメタ情報 (EDMS\_METAINI テーブル) の挿入に失敗しました。

バックアップからデータベースを回復してください。

処理名 : %1

セクション名 : %2

ファイル名 : %3

行番号 : %4

An error occurred during the attempt to insert meta-information (EDMS\_METAINI table) into the database.

Restore the database from a backup.

Processing name : %1

Section name : %2

File name : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

データベースのメッセージを基にエラーの要因を取り除いて、バックアップからデータベースを回復してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10612-E <C,P,F>

---

データベースへのメタ情報 (EDMS\_METAINI テーブル) の更新に失敗しました。

バックアップからデータベースを回復してください。

処理名 : %1

セクション名 : %2

ファイル名 : %3

行番号 : %4

An error occurred during the attempt to update meta-information (EDMS\_METAINI table) in the database.

Restore the database from a backup.

Processing name : %1

Section name : %2

File name : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

データベースのメッセージを基にエラーの要因を取り除いて、バックアップからデータベースを回復してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10630-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

プロパティが見つかりません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

The property was not found.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

## KMBR10631-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

プロパティオブジェクトが見つかりません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

The property object was not found.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

## KMBR10632-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

データタイプに誤りがあります。

データタイプ : %1

ファイル名 : %2

行番号 : %3

An internal conflict was detected.

The data type is invalid.

Data type : %1

File name : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

## KMBR10633-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

セクションオブジェクトが見つかりません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

A section object was not found.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

## KMBR10634-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

仮想ファイルにセクションオブジェクトが見つかりません。

仮想ファイル名 : %1

ファイル名 : %2

行番号 : %3

An internal conflict was detected.

A section object was not found in the virtual file.

Virtual file name : %1

File name : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

## KMBR10635-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

生成中間物のオブジェクトにエラーがあります。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

An error occurred in the work object.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

## KMBR10636-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

指定内容管理オブジェクトにエラーがあります。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

An error occurred in the control object.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

## KMBR10637-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

定義情報ファイルの指定内容管理オブジェクトにエラーがあります。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

An error occurred in the control object in the definition information file.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

## KMBR10638-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

指定内容管理オブジェクトがありません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

The specified control object does not exist.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10639-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

仮想メタ情報ファイルオブジェクトの生成中間物のオブジェクトにエラーがあります。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

An error occurred in the work object of the virtual meta-information file.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10640-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

GUID の自動設定に失敗しました。

要因コード : %1

An internal conflict was detected.

GUID auto-setting failed.

Reason code : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- エラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。
- 手動で GUID 値をメタ情報ファイルに設定してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10641-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

セクション内には、同じ名称のプロパティが既にあります。

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

仮想ファイル名 : %1

セクション名 : %2

プロパティ名 : %3

ファイル名 : %4

行番号 : %5

An internal conflict was detected.

A property with the same name already exists in the section.

Virtual file name : %1

Section name : %2

Property name : %3

File name : %4

Line number : %5

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10642-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

仮想ファイルにセクションオブジェクトが見つかりません。

オブジェクト名 : %1

仮想ファイル名 : %2

ファイル名 : %3

行番号 : %4

An internal conflict was detected.

A section object was not found in the virtual file.

Object name : %1

Virtual file name : %2

File name : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

## KMBR10643-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

GUID の自動設定に失敗しました。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

GUID auto-setting failed.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- エラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。
- 手動で GUID 値をメタ情報ファイルに設定してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10644-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

仮想ファイル内には、同じ名称のセクションが既にあります。

仮想ファイル名 : %1

セクション名 : %2

ファイル名 : %3

行番号 : %4

An internal conflict was detected.

A section with the same name already exists in the virtual file.

Virtual file name : %1

Section name : %2

File name : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

## KMBR10645-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

生成中間物のオブジェクトにエラーがあります。

オブジェクト名 : %1

ファイル名 : %2

行番号 : %3

An internal conflict was detected.

An error occurred in the work object.

Object name : %1

File name : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10650-I <C,P,F>

---

メタ情報の追加処理が正常に終了しました。

Processing to add the meta-information ended normally.

(S)

メタ情報の追加処理を終了しました。

(O)

-

#### KMBR10651-I <C,P,F>

---

メタ情報の追加処理が異常終了しました。

Processing to add the meta-information ended abnormally.

(S)

メタ情報の追加処理を異常終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力された EDMAAddMeta コマンドのメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR10652-I <C,P,F>

---

差分データベース定義文の出力に失敗しました。

The differential database definition statement could not be output.

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力された EDMAAddMeta コマンドのメッセージを基に、対策を実施してくだ

さい。

### KMBR10750-E <P,F>

---

アクションの指定がありません。

行番号 : %1

No action is specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10751-E <P,F>

---

アクションの指定が不正です。

行番号 : %1

The action is incorrectly specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10752-E <P,F>

---

アクションに、クラス名又はデータタイプが指定されていません。

行番号 : %1

A class name or a data type is not specified in the action.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10753-E <P,F>

---

アクションに、不要なクラス名又はデータタイプが指定されています。

行番号 : %1

An unneeded class name or data type is specified in the action.

Line number : %1

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10754-E <P,F>

---

アクションに不正なデータタイプを指定しています。

行番号 : %1

An invalid data type is specified for the action.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、再度 EDMAddMeta コマンドを実行してください。

#### KMBR10755-E <P,F>

---

指定できないアクションが指定されています。

行番号 : %1

An unspecifiable action is specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを実行してください。

#### KMBR10756-E <P,F>

---

定義を追加するためのアクションの指定がありません。

The action to add the definition is not specified.

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10770-E <P,F>

---

プロパティを追加できないクラス名を指定しています。

行番号 : %1

The name of a class that cannot add a property is specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10771-E <P,F>

---

指定したクラスには、%1 のプロパティを指定できません。

行番号 : %2

The %1 property cannot be specified for the specified class.

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10772-E <P,F>

---

サブクラス名が %1 バイトを超えています。

行番号 : %2

The length of the subclass name exceeds %1 bytes.

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10773-E <P,F>

---

指定できないスーパークラス名を指定しています。

行番号 : %1

An unspecifiable super class name is specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10789-E <P,F>

---

指定したクラスには、全文検索又は概念検索用のプロパティが既に指定されています。

行番号 : %1

The property for the full-text search or a conceptual search has already been specified for the specified class.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10791-E <P,F>

---

%1 プロパティを指定してください。

行番号 : %2

Specify the %1 property.

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10792-E <P,F>

---

dmaProp\_Ids プロパティの指定を省略する場合は、EDMAddMeta コマンドに -g オプションを指定してください。

アクション名 : %1

行番号 : %2

Specify the -g option in the EDMAddMeta command if the specification of the dmaProp\_Ids property is omitted.

Action name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

-g オプションを指定して、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10793-E <P,F>

---

指定したクラスには、同じ名称のプロパティが既にあります。

行番号 : %1

A property with the same name already exists in the specified class.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10794-E <P,F>

---

指定したデータタイプは、同じ名称のプロパティのデータタイプと一致していません。

行番号 : %1

The specified data type does not match the data type of a property that has the same name.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10795-E <P,F>

---

プロパティの指定(値)が長過ぎます。

行番号 : %1

The specified value of the property is too long.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR10796-E <P,F>

---

プロパティの指定(値)が不正です。

行番号 : %1

The specified value of the property is invalid.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10797-E <P,F>

---

指定できないプロパティが指定されています。

行番号 : %1

An unspecifiable property is specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10798-E <P,F>

---

プロパティの指定が不正です。

行番号 : %1

The property is incorrectly specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10799-E <P,F>

---

プロパティの指定 (データタイプ) が不正です。

行番号 : %1

The property (data type) is incorrectly specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR10800-E <P,F>

---

dmaProp\_Ids プロパティの指定を省略する場合は、EDMAddMeta コマンドに -g オプションを指定してください。

行番号 : %1

Specify the -g option in the EDMAddMeta command if the specification of the dmaProp\_Ids property is omitted.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

-g オプションを指定して、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR12000-I <C,P,F>

---

メタ情報ファイルの出力処理が正常に終了しました。

Output processing of the meta-information file ended normally.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を正常に終了しました。

(O)

-

### KMBR12001-E <C,P,F>

---

指定したディレクトリ名のディレクトリはありません。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

ディレクトリ名 : %1

The specified directory does not exist.

Output processing of the meta-information file will now stop.

Directory name : %1

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

ディレクトリ名を正しく指定して、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR12002-E <C,P,F>

---

指定したディレクトリ名と一致するディレクトリはありません。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

ディレクトリ名 : %1

No directory matches the specified directory name.

Output processing of the meta-information file will now stop.

Directory name : %1

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

ディレクトリ名を正しく指定して、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR12003-E <C,P,F>

---

指定したディレクトリに対する書き込み権限がありません。

ディレクトリ名 : %1

You lack write permission for the specified directory.

Directory name : %1

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

指定したディレクトリに対するアクセス権 (書き込み権) があるかどうかを確認してください。

### KMBR12004-E <C,P,F>

---

メタ情報は登録されていません。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

The meta-information has not been registered.

Output processing of the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

EDMInitMeta コマンドを実行してメタ情報を登録してから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR12005-E <C,P,F>

---

メモリが不足しているため、コマンド処理を続行できません。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

Memory became insufficient, so the command processing cannot continue.

Output processing of the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

実行中のプログラムの終了を待って、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

### KMBR12006-E <C,P,F>

---

メタ情報ファイルの出力処理でエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

An error occurred during output processing of the meta-information file.

Output processing of the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

syslog ファイルを参照して、このメッセージの前に出力されたメッセージを基にエラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

## KMBR12007-E <C,P,F>

---

データベースへの接続でエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

An error occurred during an attempt to connect to the database.

Output processing of the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

データベースが起動されているか確認してください。また、DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に、指定したデータベースのエントリがあるか確認してください。

syslog ファイルにエラーメッセージが出力されている場合、syslog ファイルのエラーメッセージを参照して、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

## KMBR12008-E <C,P,F>

---

データベースでエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

An error occurred in the database.

Output processing of the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

syslog ファイルを参照して、このメッセージの前に出力された KMBR04001-E のメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

## KMBR12009-E <C,P,F>

---

システムコールでエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

関数名 : %1

要因コード : %2

An error occurred during a system call.

Output processing of the meta-information file will now stop.

Function name : %1

Reason code : %2

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12010-E <P,F>

---

ディレクトリがありません。

メタ情報ファイル出力処理を中止します。

The directory does not exist.

Output processing of the meta-information file will now stop.

Directory name : %1.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

環境変数「DOCBROKERDIR」に指定した DocumentBroker の実行環境ディレクトリのパス名を確認してから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12101-I <C,P,F>

---

クラス定義情報ファイルの作成処理を開始しています。

Processing to create the class definition information file is starting.

(S)

クラス定義情報ファイルの作成処理を開始しています。

(O)

-

#### KMBR12102-I <C,P,F>

---

クラス定義情報ファイルの作成処理が正常に終了しました。

Processing to create the class definition information file ended normally.

(S)

クラス定義情報ファイルの作成処理を正常に終了しました。

(O)

-

### KMBR12103-I <C,P,F>

---

クラス定義情報ファイルの作成処理が異常終了しました。

Processing to create the class definition information file ended abnormally.

(S)

クラス定義情報ファイルの作成処理を異常終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に対策を実施してから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR12201-I <C,P,F>

---

%1 件のユーザ定義識別子を出力しました。

%1 user definition identifiers were output.

(S)

処理を続行します。

(O)

-

### KMBR12202-I <C,P,F>

---

ユーザ定義識別子は見つかりませんでした。

The user definition identifier was missing.

(S)

処理を続行します。

(O)

EDMAddMeta コマンドを実行してから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR12204-E <C,P,F>

---

プリフィックスの指定値が不正です。

値 : %1

The specified value of the prefix is invalid.

Value : %1

(S)

処理を中止します。

(O)

英小文字、英大文字、数字、「\_」(下線文字)を使用したプリフィックス(%1)を指定して、コマンドを再度実行してください。

## KMBR12205-E <C,P,F>

---

%1 オプションで指定するファイル名は、英小文字、英大文字、数字、「\_」(下線文字)、「-」(ハイフン)、及び「.」(ピリオド)以外は使用できません。

The file name that is specified in the %1 option cannot be used other than lowercase, uppercase, numeric, '\_' (underscore), '-' (hyphen) and '.' (period).

(S)

処理を中止します。

(O)

%1 オプションで指定するファイル名に、英小文字、英大文字、数字、「\_」(下線文字)、「-」(ハイフン)、「.」(ピリオド)を指定して、コマンドを再度実行してください。

## KMBR12301-E <C,P,F>

---

-i オプションで指定した実行環境 ID が既に登録されています。

実行環境のホスト名 : %1

実行環境のパス名 : %2

The execution-environment id specified in the -i option has already been registered.

Execution environment host name : %1

Execution environment path name : %2

(S)

処理を中止します。

(O)

登録されていない実行環境 ID (実行環境識別子)を指定して、コマンドを再度実行してください。

## KMBR12302-E <C,P,F>

---

既に実行環境が登録されているため、実行環境を登録する必要はありません。

実行環境 ID : %1

Registering the execution environment is not necessary because the execution environment has already been registered.

execution-environment id : %1

(S)

処理を中止します。

(O)

-

## KMBR12303-E <C,P,F>

---

既に実行環境が登録されているため、実行環境を変更できません。

実行環境 ID : %1

The execution environment cannot change because the execution environment has already been registered.

Execution-environment id : %1

(S)

処理を中止します。

(O)

登録済みの実行環境 (実行環境 ID (%1)) を変更してから、コマンドを再度実行してください。なお、実行環境の変更手順については、マニュアル「DocumentBroker Version 3 システム導入・運用ガイド」を参照してください。

### KMBR12304-E <C,P,F>

---

-i オプション又は -u オプションの値が不正です。

The -i option or -u option invalid.

(S)

処理を中止します。

(O)

-i オプションまたは u オプションに、1 ~ 254 の整数を指定して、コマンドを再度実行してください。

### KMBR12305-E <C,P,F>

---

この実行環境で OIID が既に割り当てられているため、実行環境を削除できません。

The execution environment cannot delete because OIID has already been allocated in the execution environment.

(S)

処理を中止します。

(O)

-

### KMBR12306-E <C,P,F>

---

実行環境 ID がシステムで扱える最大値を超えているため、登録できません。

The execution-environment id cannot register because the id exceeds the system limit.

システムに登録できる実行環境 ID (実行環境識別子) は 255 個です。

(S)

処理を中止します。

(O)

-

### KMBR12307-E <C,P,F>

---

現在の環境ではこのコマンドは実行できません。

The command cannot be executed for the current environment.

(S)

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

処理を中止します。

(O)

DocumentBroker 02-40 以降のメタ情報ファイルで構築した環境かどうか確認してください。

#### KMBR12308-E <C,P,F>

---

実行環境が登録されていないため、実行環境の変更ができません。

The execution environment cannot change because the execution environment is not registered.

(S)

処理を中止します。

(O)

登録済みの実行環境識別子を指定して、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12309-E <C,P,F>

---

実行環境ファイルが壊れているため、処理を続行できません。

Processing cannot continue because the execution-environment file is corrupted.

(S)

処理を中止します。

(O)

-p オプションを指定して、EDMRegEnvId コマンドを実行してください。その後、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12310-E <C,P,F>

---

実行環境ファイルの出力に失敗しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

The execution-environment file could not be output.

File name : %1

Reason code : %2

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

処理を中止します。

(O)

ファイル名 (%1) および要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、-p オプションを指定して、EDMRegEnvId コマンドを実行してください。

## KMBR12311-E <C,P,F>

---

この実行環境は実行環境 ID が 0 のため、登録、変更又は削除はできません。

The execution environment cannot register or change or delete because the execution-environment id is 0.

(S)

処理を中止します。

(O)

実行環境 ID (実行環境識別子) が 0 以外のときに、このメッセージが出力された場合は、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc (UNIX の場合) または DocumentBroker の実行環境ディレクトリ \etc (Windows の場合) を削除してから、実行環境を再構築してください。なお、実行環境の構築については、マニュアル「DocumentBroker Version 3 システム導入・運用ガイド」を参照してください。

## KMBR12312-I <P,F>

---

実行環境 ID を %1 で登録しました。

Registered a execution-environment id(%1).

(S)

処理を続行します。

(O)

-

## KMBR12313-E <C,P,F>

---

実行環境は登録されていません。

The execution environment has not been registered.

(S)

処理を中止します。

(O)

このコマンドを実行した実行環境は登録されていないため、-a オプションを指定できません。-a オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。

## KMBR12351-I <P,F>

---

実行環境の一覧を出力します。

A list of the execution environment.

このメッセージのあとに、登録されている実行環境の数だけ次に示すメッセージが出力されます。

「ID=%1 HOST-NAME=%2 ENVDIR=%3」

%1: 実行環境識別子

%2: ホスト名

%3: 環境変数「DOCBROKERDIR」に指定している DocumentBroker の実行環境ディレクトリパス

なお、実行環境識別子が 0 の場合は、HOST-NAME (%2) および ENVDIR (%3) には「----」が出力されます。

4. 各ユティリティのメッセージ

(S)  
処理を続行します。

(O)

KMBR12401-I <C,P,F>

障害情報取得カスタマイズファイルの読み込み中に、エラーを検知しました。

詳細 : %1

位置 : [%2]%3

An error was detected while the customize file for the command was being read.

Detail : %1

Location : [%2]%3

getrascustom.ini ファイルで指定した障害情報が取得できません。

(S)  
処理を続行します。

(O)  
次の表に示す対策一覧を基に、必要に応じてエラーの要因を取り除いてください。

表 4-1 要因別対策一覧

詳細 (%1) に示されるメッセージ	エラーの要因	対策
file cannot open.	getrascustom.ini ファイルのオープンに失敗しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
file cannot read.	getrascustom.ini ファイルの読み込みに失敗しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
entry name is invalid.	getrascustom.ini のセクション (%2) に指定されたエントリ (%3) のエントリ名が 32 バイトを超えています。	エントリ名を 32 バイト以内にしてください。
entry value is invalid.	getrascustom.ini のセクション (%2) に指定されたエントリ (%3) の値が不正です。	エントリ (%3) に指定したパス名を見直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>絶対パスを指定してください。</li> <li>1,023 バイト以内で指定してください。</li> </ul>

KMBR12402-E <C,P,F>

指定したディレクトリ下にディレクトリ (%1) が存在するため、処理を続行できません。

ディレクトリ名 : %2

Processing cannot continue because the directory (%1) exists in the specified directory.

Directory name : %2

(S)  
処理を中止します。

(O)

ディレクトリ名(%2)と異なるディレクトリを指定して、再度実行してください。または、しばらくしてからコマンドを再度実行してください。

### KMBR12501-I <P>

---

%1 を開始します。

%1 will start.

%1 : コマンド名

(S)

処理を開始します。

(O)

-

### KMBR12502-I <P>

---

%1 が終了しました。

%1 ended.

%1 : コマンド名

(S)

処理を終了しました。

(O)

-

### KMBR12503-I <P>

---

%1 が異常終了しました。

詳細 1 : %2

詳細 2 : %3

詳細 3 : %4

%1 ended abnormally.

Detail1 : %2

Detail2 : %3

Detail3 : %4

%1 : コマンド名

(S)

処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、詳細 1 (%2) に示されているメッセージの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

表 4-2 要因別の対策一覧

詳細 1 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
you are not super user.	実行者がスーパーユーザではありません	実行者をスーパーユーザに変更してから、再度実行してください。
command failed.	詳細 2 (%3) が詳細 3 (%4) の戻り値で異常終了しました。	しばらくしてから再度実行してください。再度実行してもエラーとなる場合は、システム管理者に連絡してください。

### KMBR12700-I <C,P,F>

---

ユーザ・グループ一括変更が完了しました。

user and group batch update completed.

(S)

ユーザ・グループ一括変更の処理を完了しました。

(O)

-

### KMBR12701-I <P,F>

---

ユーザ %1 を変更しました。

%1 user updated.

(S)

ユーザ %1 の変更処理が完了しました。

(O)

-

### KMBR12702-I <P,F>

---

グループ %1 を変更しました。

%1 group updated.

(S)

グループ %1 の変更処理が完了しました。

(O)

-

### KMBR12704-I <C,P,F>

---

変更情報ファイルのチェックが完了しました。

Check update information files completed.

(S)

変更情報ファイルのチェックが完了しました。

(O)

### KMBR12705-E <C,P,F>

---

変更情報ファイルの読み込み中に、エラーを検知しました。

ファイル : %1

行番号 : %2

詳細 : %3

An error occurred during a read of update information file.

File : %1

Line number : %2

Detail : %3

( S )

ユーザ・グループ一括変更の処理を中止します。

( O )

詳細 ( %3 ) を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR12706-E <C,P,F>

---

指定したクラス名が不正です。

ファイル : %1

行番号 : %2

詳細 : %3

A class name is invalid.

File : %1

Line number : %2

Detail : %3

( S )

ユーザ・グループ一括変更の処理を中止します。

( O )

詳細 ( %3 ) を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR12707-E <C,P,F>

---

指定したプロパティ名が不正です。

ファイル : %1

行番号 : %2

詳細 : %3

A property name is invalid.

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

File : %1

Line number : %2

Detail : %3

( S )

ユーザ・グループ一括変更の処理を中止します。

( O )

詳細 (%3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12708-E <C,P,F>

---

指定した変更値が不正です。

ファイル : %1

行番号 : %2

詳細 : %3

An update value is invalid.

File : %1

Line number : %2

Detail : %3

( S )

ユーザ・グループ一括変更の処理を中止します。

( O )

詳細 (%3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12709-E <C,P,F>

---

チェックアウト中のオブジェクトが存在しているため処理を続行できません。

Processing cannot continue, because some object has reservation.

( S )

ユーザ・グループ一括変更の処理を中止します。

( O )

すべてのオブジェクトのバージョンを確定してから、再度実行してください。

#### KMBR12710-E <C,P,F>

---

ユーザ・グループ一括変更中に、エラーを検知しました。

バックアップからデータベースを回復してください。

詳細 : %1

An error occurred during a user and group batch update.

Restore the database from a backup.

Detail : %1

(S)  
ユーザ・グループ一括変更の処理を中止します。

(O)  
詳細(%1), またはこのメッセージの前に出力されたメッセージを基に, エラーの要因を取り除いてバックアップからデータベースを回復してから, コマンドを再度実行してください。

### KMBR13001-I <C,P,F>

---

コマンド %1 を開始します。

The command %1 will start.

(S)  
コマンドの処理を開始します。

(O)  
-

### KMBR13002-I <C,P,F>

---

コマンド %1 を終了しました。

The command %1 ended.

(S)  
コマンドの処理を終了しました。

(O)  
-

### KMBR13003-E <C,P,F>

---

メモリが不足しているため, コマンド %1 の処理を中止します。

Memory became insufficient, so processing of the command %1 will now stop.

(S)  
メモリが不足しているため, コマンド処理を中止します。

(O)  
メモリを増設するか, メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して, 利用可能なメモリを増やしてから, 処理を再度実行してください。

### KMBR13004-E <C,P,F>

---

カレントディレクトリパスの取得に失敗したため, コマンド %1 の処理を中止します。

要因コード : %2

The command %1 will now stop because the current directory path could not be acquired.

Reason code : %2

システムコール「getcwd」によるカレントディレクトリパスの取得に失敗したため, コマンド %1 の処理を中止します。

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-3 要因コード別の対策一覧

要因コード	エラーの要因	対策
12	メモリ不足が不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、コマンド %1 を再度実行してください。
13	カレントディレクトリパスに対するアクセス権（読み取り権および実行権）がありません。	カレントディレクトリパスに対して、コマンド実行ユーザにアクセス権（読み取り権および実行権）を設定してから、コマンド %1 を再度実行してください。
その他	-	このメッセージおよび指定したオプションを記録してメタ情報ファイルを保存してから、保守員に連絡してください。

### KMBR13005-E <P,F>

プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_Cardinality プロパティの値をリストで定義するプロパティに、リストオブジェクトを記述するセクションを指定していません。

The section that codes the list-object is not specified in the property value.

The property uses LIST to define the value of the dmaProp\_Cardinality property in the section that codes the property definition.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティにリストオブジェクトを記述するセクションを指定してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

### KMBR13006-E <P,F>

dmaProp\_ClassDescription プロパティの値が不正です。

要因コード：%1

The value of the dmaProp\_ClassDescription property is invalid.

Reason code：%1

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

表 4-4 要因コード別の対策一覧

要因コード	エラーの要因	対策
-2147220981	dmaProp_ClassDescription プロパティがありません。	セクションに dmaProp_ClassDescription プロパティを追加してください。
-2147220889	dmaProp_ClassDescription プロパティのデータ型が Object 型ではありません。	セクションの dmaProp_ClassDescription プロパティと、プロパティの値の区切り文字を「=obj=」にしてください。
-2147220958	dmaProp_ClassDescription プロパティの値が NULL または空値です。	セクションの dmaProp_ClassDescription プロパティの値に、クラス定義を記述するセクションを指定してください。

### KMBR13007-E <P,F>

オブジェクト定義を記述するセクションのプロパティに指定したデータ型と、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_DataType プロパティに指定したデータ型が一致しません。

The data type specified in the property of the section that codes the object definition does not match the data type specified in the dmaProp\_DataType property in the section that codes the property definition.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

エラーが発生したプロパティのプロパティ値の区切り文字として指定するデータ型と、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_DataType プロパティに指定するデータ型を一致させてください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

### KMBR13008-E <P,F>

オブジェクト定義を記述するセクションのプロパティに指定したデータ型と、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_Cardinality プロパティに指定した基本単位が一致しません。

The data type specified in the property of the section that codes the object definition does not match the cardinality specified in the dmaProp\_Cardinality property in the section that codes the property definition.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティとプロパティ値の区切り文字を「=obj=」に修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

### KMBR13012-E <P,F>

クラス定義を記述するセクションから参照するプロパティの並びが、そのクラスで定義するオブジェクトのプロパティの並びと一致しません。

The list of properties referenced from the section that codes the class definition does not match the list of properties of objects that are defined in the class.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

エラーが発生したセクションの `dmaProp_ClassDescription` プロパティから参照するクラス定義を記述するセクションで、`dmaProp_PropertyDescriptions` プロパティから参照するセクションに記述するプロパティの並びを、エラーが発生したセクションに記述するプロパティの並びと同じにしてください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13013-E <P,F>

---

クラス定義の `dmaProp_DisplayName` プロパティに指定したクラス名が、オブジェクト定義に指定したクラス名と一致しません。

The class name specified in the `dmaProp_DisplayName` property of the class definition does not match the class name specified in the object definition.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

クラス定義を記述するセクションの `dmaProp_DisplayName` プロパティに指定するクラス名と、オブジェクト定義を記述するセクションに指定するクラス名を同じにしてください。その後、コマンドを再度実行してください。

## KMBR13015-E <P,F>

---

プロパティに指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティの最大値を超えています。

The property value exceeds the property's maximum value that was specified in the property definition.

プロパティに指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの `dmaProp_PropertyMaximumXXXX` プロパティに指定したプロパティの最大値を超えています。なお、XXXX には、DateTime、Float64 または Integer32 のどれかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティに、プロパティ定義を記述するセクションの `dmaProp_PropertyMaximumXXXX` プロパティに指定されている値以下を指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13016-E <P,F>

---

プロパティに指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティの最小値未満です。

The property value is less than the property's minimum value that was specified in the property definition.

プロパティに指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの `dmaProp_PropertyMinimumXXXX` プロパティに指定したプロパティの最小値未満です。なお、XXXX には、DateTime、Float64 または Integer32 のどれかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティに、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMinimumXXXX プロパティに指定されている値以上を指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13017-E <P,F>

---

リストオブジェクトの要素に指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティの最大値を超えています。  
The value of the list-object element exceeds the property's maximum value that was specified in the property definition.

リストオブジェクトを記述するセクションのリストの要素に指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMaximumXXXX プロパティに指定したプロパティの最大値を超えています。なお、XXXX には、DateTime、Float64 または Integer32 のどれかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

リストオブジェクトの要素に、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMaximumXXXX プロパティに指定されている値以下を指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13018-E <P,F>

---

リストオブジェクトの要素に指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティの最小値未満です。  
The value of the list-object element is less than the property's minimum value that was specified in the property definition.

リストオブジェクトを記述するセクションのリストの要素に指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMinimumXXXX プロパティに指定したプロパティの最小値未満です。なお、XXXX には、DateTime、Float64 または Integer32 のどれかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

リストオブジェクトの要素に、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMinimumXXXX プロパティに指定されている値以上を指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13020-E <P,F>

---

プロパティに指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティ値の選択値の範囲外です。  
The value specified in the property is out of the selectable range of property values specified in the property definition.

プロパティに指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertySelectionsXXXX プロパティが参照するセクションに指定したリストの要素以外の値です。なお、XXXX には、Binary、Boolean、DateTime、Float64、Id、Integer32、Object または String のどれかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティに、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertySelectionsXXXX プロパティが参照するセクションに指定されているリストの要素のどれかを指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13021-E <P,F>

リストオブジェクトの要素に指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティ値の選択値の範囲外です。

The value specified in the list-object element is out of the selectable range of property values specified in the property definition.

リストオブジェクトを記述するセクションのリストの要素に指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertySelectionsXXXX プロパティが参照するセクションに指定したリストの要素以外の値です。なお、XXXX には、Binary、Boolean、DateTime、Float64、Id、Integer32、Object または String のどれかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

リストオブジェクトの要素に、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertySelectionsXXXX プロパティが参照するセクションに指定されているリストの要素のどれかを指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13022-E <P,F>

「=obj=」型で指定したセクションの、ClassFactory プロパティに指定した値が不正です。

要因コード：%1

The value specified in the ClassFactory property in the section specified with the =obj= type is invalid.

Reason code：%1

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

表 4-5 要因コード別の対策一覧

要因コード	エラーの要因	対策
-2147220981	ClassFactory を指定する記述がありません。	プロパティまたはリストオブジェクトの要素に指定するセクションに ClassFactory の指定を記述してください。
-2147220889	ClassFactory のデータ型が text 型ではありません。	プロパティまたはリストオブジェクトの要素に指定するセクションの ClassFactory のデータ型の指定を区切り文字「=text=」にしてください。

要因コード	エラーの要因	対策
-2147220958	ClassFactory の値が NULL または空値です。	プロパティまたはリストオブジェクトの要素に指定するセクションの ClassFactory の値に、そのセクションに記述するオブジェクトのクラスを指定してください。
-2147220951	ClassFactory の値が不正です。	プロパティまたはリストオブジェクトの要素に指定するセクションの ClassFactory の値に、値を正しく指定してください。

### KMBR13023-E <P,F>

プロパティに指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティ値の最大長を超えています。

The property value exceeds the property's maximum length that was specified in the property definition.

プロパティに指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_MaximumLengthXXXX プロパティに指定したプロパティの最大長を超えています。なお、XXXX には、Binary または String のどちらかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティに、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_MaximumLengthXXXX プロパティに指定されているプロパティの値以下を指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

### KMBR13024-E <P,F>

リストオブジェクトの要素に指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティ値の最大長を超えています。

The value of the list-object element exceeds the property's maximum length that was specified in the property definition.

リストオブジェクトを記述するセクションのリストの要素に指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_MaximumLengthXXXX プロパティに指定したプロパティの最大長を超えています。なお、XXXX には、Binary または String のどちらかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

リストオブジェクトの要素に、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_MaximumLengthXXXX プロパティに指定されているプロパティの値以下を指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

### KMBR13025-E <C,P,F>

オプションに指定したメタ情報ファイル %1 はありません。

The meta-information file %1 specified in the option does not exist.

(S)

処理を中止しました。

(O)

メタ情報ファイル名を正しく指定してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR13026-E <C,P,F>

メタ情報ファイル %1 のオープンに失敗しました。

要因コード : %2

The meta-information file %1 could not be opened.

Reason code : %2

システムコール「open」によるメタ情報ファイル %1 のオープンに失敗しました。

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名 %1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

処理を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-6 要因コード別の対策一覧

要因コード	エラーの要因	対策
11	指定したファイルは、ほかのプロセスでロックされています。	ファイルをロックしているプロセスを終了してください。
13	指定したファイルまたはファイルパスに対するアクセス権がありません。	ファイルまたはファイルパスに対するアクセス権（読み取り権）を、コマンド実行ユーザに設定してください。
22	指定したファイルパスが不正です。	正しいファイルパスを指定してください。
23	ファイルテーブルがいっぱいです。	不要なプロセスを終了してください。
24	オープンファイル数がシステムの最大値を超えています。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>不要なプロセスを終了する。</li> <li>AIX の場合、chuser コマンドを実行して、nofiles の値を変更する。</li> </ul>
その他	-	次の手順で、対策を実施してください。 <ol style="list-style-type: none"> <li>このメッセージおよび指定したオプションを記録する。</li> <li>メタ情報ファイルをすべて保存する。</li> <li>保守員に連絡する。</li> </ol>

## KMBR13027-E <C,P,F>

メタ情報ファイル %1 の文字コードセットが %2 ではありません。

The character code set of the meta-information file %1 is not %2.

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名 %1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

処理を中止しました。

(O)

メタ情報ファイル %1 の文字コードセットを %2 に修正してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR13028-E <C,P,F>**

---

不正なメタ情報ファイル %1 を指定しています。

The invalid meta-information file %1 is specified.

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名 %1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

処理を中止しました。

(O)

メタ情報ファイルを正しく指定してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR13029-I <P,F>**

---

セクション名が 256 バイトを超えているため、ほかのセクションから参照できません。

The section name exceeds 256 bytes, so it cannot be referenced from other sections.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

このセクション名をほかのセクションのエントリの値に指定する可能性がある場合は、セクション名を 256 バイト以下に修正してから、コマンドを再度実行してください。該当するセクションについては、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

**KMBR13030-E <P,F>**

---

プロパティ名が 128 バイトを超えています。

The property name exceeds 128 bytes.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティ名を 128 バイト以下に修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

**KMBR13032-E <P,F>**

---

プロパティに指定した値又はリストオブジェクトの要素に指定した値が、256 バイトを超えています。

The value specified in the property or the list-object element exceeds 256 bytes.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティの値またはリストオブジェクトの要素に指定した値を 256 バイト以下に修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13033-E <P,F>

---

1 行の長さが 399 バイトを超えています。

The length of the line exceeds 399 bytes.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

1 行の長さを 399 バイト以下に修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13034-E <P,F>

---

クラス定義を記述するセクションの dmaProp\_ImmediateSubclassDescription プロパティに指定しているリストオブジェクトの要素のセクションで、dmaProp\_SuperclassDescription プロパティに、スーパークラスの ClassDescription オブジェクトを指定していません。

In the section of the list-object elements specified in the dmaProp\_ImmediateSubclassDescription property in the section that codes class definitions, the ClassDescription object of the super class is not specified in the dmaProp\_SuperclassDescription property.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

クラス定義を記述するセクションの dmaProp\_ImmediateSubclassDescription プロパティに指定している、リストオブジェクトの要素のクラス定義を記述するセクションで、dmaProp\_SuperclassDescription プロパティに、このクラス定義を記述するセクションを指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13037-E <P,F>

---

プロパティに指定した値又はリストオブジェクトの要素に指定した値には、%1 を指定してください。

Specify %1 for the value of the property or the value of list-object elements.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティの値またはリストオブジェクトに指定する要素の値に %1 を指定してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13040-E &lt;P,F&gt;

プロパティ %1 の値 %2 が不正です。

The value %2 of the property %1 is invalid.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、プロパティの値を修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

表 4-7 プロパティ別の対策一覧

プロパティ名	対策
dmaProp_DataType	指定したプロパティに応じて、次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>プロパティが dmaClass_EnumerationOfObject クラスのプロパティの場合 DMA_DATATYPE_RESULT_ROW または DMA_DATATYPE_OBJECT を指定してください。</li> <li>プロパティが dmaClass_ListOfXXXX<sup>1</sup> クラスまたは dmaClass_PropertyDescriptionXXXX<sup>1</sup> クラスのプロパティの場合 DMA_DATATYPE_YYYY<sup>2</sup> を指定してください。</li> </ul>
dmaProp_Cardinality	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_CARDINALITY_SINGLE</li> <li>DMA_CARDINALITY_LIST</li> <li>DMA_CARDINALITY_ENUM</li> <li>255 (VariableArray)</li> </ul>
dmaProp_OperandDataType	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_DATATYPE_BINARY</li> <li>DMA_DATATYPE_BOOLEAN</li> <li>DMA_DATATYPE_FLOAT64</li> <li>DMA_DATATYPE_ID</li> <li>DMA_DATATYPE_INTEGER32</li> <li>DMA_DATATYPE_OBJECT</li> <li>DMA_DATATYPE_STRING</li> </ul>
dmaProp_ResultType	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_DATATYPE_BINARY</li> <li>DMA_DATATYPE_BOOLEAN</li> <li>DMA_DATATYPE_FLOAT64</li> <li>DMA_DATATYPE_ID</li> <li>DMA_DATATYPE_INTEGER32</li> <li>DMA_DATATYPE_OBJECT</li> <li>DMA_DATATYPE_STRING</li> <li>DMA_DATATYPE_CLASS</li> </ul>
dmaProp_JoinParticipation	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_JOIN_PARTICIPATION_NONE</li> <li>DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERAND</li> <li>DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERATOR</li> </ul>
dmaProp_SuperclassPropertyCount	dmaProp_SuperclassDescription プロパティで指定したクラス定義から継承するプロパティの個数を指定してください。
dmaProp_MaximumElements	DMA_NO_MAXIMUM を指定してください。
dmaProp_SuperclassDescription	継承するクラスのクラス定義を記述するセクションを指定してください。

プロパティ名	対策
ClassFactory	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• dmaClass_ClassDescription クラス</li> <li>• dmaClass_PropertyDescriptionXXXX <sup>1</sup> クラス</li> <li>• dmaClass_ListOfXXXX <sup>1</sup> クラス</li> <li>• dmaClass_QueryYYYY <sup>3</sup> クラス</li> </ul>

注 1

XXXX には、次のどれかが入ります。

Binary , Boolean , DateTime , Float64 , Id , Integer32 , Object , String

注 2

YYYY には、次のどれかが入ります。

BINARY , BOOLEAN , DATETIME , FLOAT64 , INTEGER32 , OBJECT , ID , STRING

注 3

YYYY には、次のどれかが入ります。

空値 , ConstantBinary , ConstantBinaries , ConstantBoolean , ConstantBooleans ,  
 ConstantDateTime , ConstantDateTimes , ConstantFloat64 , ConstantFloat64s ,  
 ConstantId , ConstantIds , ConstantInteger32 , ConstantInteger32s , ConstantString ,  
 ConstantStrings , JoinOperator , Node , OperandDescription , Operator ,  
 OperatorDescription , OrderByNode , Property , SearchableClass

## KMBR13041-E <P,F>

プロパティ又は ListOfObject オブジェクトの要素に指定したセクションのメタ情報ファイル名を、相対パスで指定しています。

The meta-information file name of the section specified for the property or the ListOfObject object elements is specified with a relative path.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティまたは ListOfObject オブジェクトの要素に指定するセクションのメタ情報ファイル名を、絶対パスまたはカレントディレクトリパスに修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13042-E <P,F>

ユーザが定義したクラス又はプロパティの名称が、dma 又は edm で始まっています。

The user-defined class or property name begins with dma or edm.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

ユーザが定義するクラスまたはプロパティの名称を、dma または edm 以外で始まる名称に修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13043-E <P,F>

プロパティ及びリストの要素の組み合わせが不正です。

The combination of the property and the list elements is invalid.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

表 4-8 プロパティ別の対策一覧

プロパティ名	対策
dmaClass_PropertyDescriptionXXXX クラスの dmaProp_IsOrderable プロパティおよび dmaProp_IsSelectable プロパティ	dmaProp_IsOrderable プロパティに 1 を指定する場合は、 dmaProp_IsSelectable プロパティにも 1 を指定してください。 なお、XXXX には、Binary、Boolean、DateTime、 Float64、Id、Integer32、Object または String のどれか が入ります。
dmaClass_QueryOperandDescription クラスの dmaProp_AllowsSingleton プロパティおよび dmaProp_AllowsList プロパティ	dmaProp_AllowsSingleton プロパティまたは dmaProp_AllowsList プロパティの少なくとも一つに、1 を指定してください。
dmaClass_QueryOperandDescription クラスの dmaProp_AllowsContext プロパティ、 dmaProp_AllowsProperty プロパティおよび dmaProp_AllowsExpression プロパティ	dmaProp_AllowsContext プロパティ、 dmaProp_AllowsProperty プロパティまたは dmaProp_AllowsExpression プロパティの少なくとも一つ に、1 を指定してください。
dmaClass_QueryOperatorDescription クラスの dmaProp_JoinParticipation プロパティおよび dmaProp_ResultType プロパティ	dmaProp_JoinParticipation プロパティに DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERAND または DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERATOR を指定する 場合は、dmaProp_ResultType プロパティに DMA_DATATYPE_CLASS を指定してください。
dmaClass_QueryOperatorDescription クラスの dmaProp_JoinParticipation プロパティおよび dmaProp_IsList プロパティ	dmaProp_JoinParticipation プロパティに DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERAND または DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERATOR を指定する 場合は、dmaProp_IsList プロパティに 0 を指定してくだ さい。

## KMBR13046-E <P,F>

プロパティに指定した値又はリストオブジェクトの要素に指定した値が、プロパティ定義の

dmaProp\_RequiredClass プロパティに指定したクラス又はそのサブクラスのオブジェクトではありません。

The value specified in the property or the list-object element is not an object of the class or subclass specified in the  
dmaProp\_RequiredClass property of the property definition.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティまたはリストオブジェクトの要素に指定したセクションを、プロパティ定義の  
dmaProp\_RequiredClass プロパティに指定するクラスまたはそのサブクラスのオブジェクトのセク  
ションに修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、この

メッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

### KMBR13047-E <P,F>

---

プロパティ又は ListOfObject オブジェクトの要素に「=obj=」で指定した、セクションがありません。

A section specified with =obj= does not exist for the property or the ListOfObject object element.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティまたは ListOfObject オブジェクトの要素の「=obj=」に、セクションを正しく指定してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

### KMBR13048-E <C,P,F>

---

-s オプションに指定したセクション %1 は、-f オプションに指定したメタ情報ファイル %2 にはありません。

The section %1 specified for the -s option does not exist in the meta-information file %2 specified for the -f option.

(S)

処理を中止しました。

(O)

-s オプションに、-f オプションで指定したメタ情報ファイル内のセクションを指定して、コマンドを再度実行してください。

### KMBR13049-E <C,P,F>

---

-c オプションに指定したクラス %1 は、-f オプションに指定したメタ情報ファイル %2 にはありません。

The class %1 specified in the -c option does not exist in the meta-information file %2 specified in the -f option.

(S)

処理を中止しました。

(O)

-c オプションに、-f オプションに指定したメタ情報ファイル内のクラスを指定して、コマンドを再度実行してください。

### KMBR13050-E <C,P,F>

---

-c オプションに指定したメタ情報ファイル %1 のクラス %2 は、オブジェクト定義ではありません。

The class %2 of the meta-information file %1 specified in the -c option is not an object definition.

(S)

処理を中止しました。

(O)

-c オプションに、オブジェクト定義を記述するセクションを指定して、コマンドを再度実行してください。

## KMBR13051-E <C,P,F>

-s オプションに指定したメタ情報ファイル %1 のセクション %2 は、クラス定義及びプロパティ定義のセクションではありません。

The section %2 of the meta-information file %1 specified in the -s option is not a section of the class definition and the property definition.

(S)

処理を中止しました。

(O)

-s オプションに、クラス定義またはプロパティ定義を記述するセクションを指定して、コマンドを再度実行してください。

## KMBR13052-E <P,F>

セクション名 %1 がメタ情報ファイル %2 で重複しています。

The section name %1 is duplicated in the meta-information file %2.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

重複しているセクション名をファイル %2 内で一意にしてから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13053-E <P,F>

プロパティ %1 に値を指定していないか、基本単位をリストで定義し要素を持たないリストオブジェクトを指定しています。

No value is specified in the property %1, or a list-object is defined but the list-object does not have an element and a cardinality is defined in the list.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、プロパティ %1 の値を修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

表 4-9 プロパティ別の対策一覧

プロパティ名	対策
dmaProp_Ids	指定したプロパティに応じて、次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>プロパティが dmaClass_ClassDescription クラスのプロパティの場合 プロパティに指定するセクションの要素に、クラス識別子を指定してください。</li> <li>プロパティが dmaClass_PropertyDescription クラスのプロパティの場合 プロパティに指定するセクションの要素に、プロパティ識別子を指定してください。</li> </ul>

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

プロパティ名	対策
dmaProp_DataType	指定したプロパティに応じて、次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>プロパティが dmaClass_ListOfXXXX<sup>1</sup> クラスまたは dmaClass_PropertyDescriptionXXXX<sup>1</sup> クラスのプロパティの場合 DMA_DATATYPE_YYYY<sup>2</sup> を指定してください。ただし、XXXX のデータ型と YYYY のデータ型は一致している必要があります。</li> <li>プロパティが dmaClass_EnumerationOfObject クラスの場合 DMA_DATATYPE_OBJECT または DMA_DATATYPE_RESULT_ROW を指定してください。</li> </ul>
dmaProp_Cardinality	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_CARDINALITY_SINGLE</li> <li>DMA_CARDINALITY_LIST</li> <li>DMA_CARDINALITY_ENUM</li> <li>255 ( VariableArray )</li> </ul>
dmaProp_ResultType	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_DATATYPE_BINARY</li> <li>DMA_DATATYPE_BOOLEAN</li> <li>DMA_DATATYPE_FLOAT64</li> <li>DMA_DATATYPE_ID</li> <li>DMA_DATATYPE_INTEGER32</li> <li>DMA_DATATYPE_OBJECT</li> <li>DMA_DATATYPE_STRING</li> <li>DMA_DATATYPE_CLASS</li> </ul>
dmaProp_JoinParticipation	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_JOIN_PARTICIPATION_NONE</li> <li>DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERAND</li> <li>DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERATOR</li> </ul>
dmaProp_IsList	0 または 1 を指定してください。
dmaProp_OperandDataType	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_DATATYPE_BINARY</li> <li>DMA_DATATYPE_BOOLEAN</li> <li>DMA_DATATYPE_FLOAT64</li> <li>DMA_DATATYPE_ID</li> <li>DMA_DATATYPE_INTEGER32</li> <li>DMA_DATATYPE_OBJECT</li> <li>DMA_DATATYPE_STRING</li> </ul>
dmaProp_AllowsSingleton	0 または 1 を指定してください。
dmaProp_AllowsList	
dmaProp_AllowsConstant	
dmaProp_AllowsProperty	
dmaProp_AllowsExpression	
dmaProp_SuperclassDescription	継承するクラスのクラス定義を記述しているセクションを指定してください。

注 1

XXXX には、次のどれかが入ります。

Binary , Boolean , DateTime , Float64 , Id , Integer32 , Object , String

注 2

YYYY には、次のどれかが入ります。

BINARY , BOOLEAN , DATETIME , FLOAT64 , ID , INTEGER32 , OBJECT , STRING

## KMBR13054-E <P,F>

プロパティに指定した値又はリストオブジェクトの要素に指定した値 %1 は、プロパティ又はリストオブジェクトの要素に指定したデータ型に対して記述形式が不正です。

The value %1 specified in the property or the list-object element has a syntax that is invalid for the data type of the property or the list-object element.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示すデータ型別の記述形式一覧を基に、プロパティまたはリストオブジェクトの要素を修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

表 4-10 データ型別の記述形式一覧

データ型	記述形式
bin 型	PropertyName=bin=[ 0x ] 16 進数値文字 16 進数値文字は必ず偶数けた数を指定してください。
bool 型	PropertyName=bool=0 1
guid 型	PropertyName=guid=guid dmaNameCorrespondingToGuid <ul style="list-style-type: none"> <li>guid オペレーティングシステムの機能を利用して取得した GUID を指定してください。ただし、GUID は次の形式に従って 36 バイトで記述してください。 GUID の形式 : XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX</li> </ul> (凡例) X : 16 進数値文字 - : マイナス記号 <ul style="list-style-type: none"> <li>dmaNameCorrespondingToGuid GUID が定義されているクラス名、プロパティ名などを指定してください。</li> </ul>
int 型	PropertyName=int= 符号付き 10 進数値  dmaNameCorrespondingToEnum <ul style="list-style-type: none"> <li>dmaNameCorrespondingToEnum Enum の値が定義されているマクロ名を指定してください。</li> </ul>
float 型	PropertyName=float= 浮動小数点数

## KMBR13055-E <C,P,F>

環境変数 %1 を指定してください。

Specify the environment variable %1.

(S)

処理を中止しました。

(O)

環境変数 %1 を指定して、コマンドを再度実行してください。

## KMBR13056-E <C,P,F>

ファイルシステムに入出力エラーが発生しました。

対象 : %1

4. 各ユティリティのメッセージ

操作 : %2

要因コード : %3

保守情報 : %4

An I/O error occurred in the file system.

Object : %1

Operation : %2

Reason code : %3

Maintenance information : %4

ファイルシステム中のオブジェクト %1 に対して、操作 %2 を行った時にエラーが発生しました。

(S)

処理を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。  
 なお、次の表に示す要因コード以外の場合は、このメッセージおよび指定したオプションを記録して、  
 メタ情報ファイルを保存してから、保守員に連絡してください。

表 4-11 操作および要因コード別の対策一覧

操作	要因コード	エラーの要因	対策
open	2	次の要因が考えられます。 ・ ファイルパスの構成要素にディレクトリ以外のものがあります。 ・ ファイルの絶対パスが長過ぎます。	次のどちらかを実施してください。 ・ 環境変数「DOCBROKERDIR」に、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ (UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ ¥Server (Windows の場合) を指定しているかどうか確認してください。 ・ 環境変数「DOCBROKERDIR」に指定したディレクトリの下位にある adm ディレクトリを削除してから、DocumentBroker Server を再度インストールしてください (Windows の場合)。
	11	ファイルがほかのプロセスでロックされています。	対象 %1 に示すファイルをロックしているプロセスを終了してください。

操作	要因コード	エラーの要因	対策
	13	<p>次の要因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイルまたはファイルパスに対するアクセス権が不足しています。</li> <li>• ファイル %1 がディレクトリです (Windows の場合)。</li> </ul>	<p>次の手順で対策を実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• UNIX の場合 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境変数「DOCBROKERDIR」に指定したディレクトリの下位にある adm ディレクトリを削除してください。</li> <li>2. EDMSetup コマンドを実行して、DocumentBroker の実行環境を削除してください。</li> <li>3. EDMSetup コマンドを再度実行して、DocumentBroker の実行環境を作成してください。</li> </ol> </li> <li>• Windows の場合 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境変数「DOCBROKERDIR」に指定したディレクトリの下位にある adm ディレクトリを削除してください。</li> <li>2. DocumentBroker Server をインストールしてください。</li> </ol> </li> </ul>
	20	<p>ファイルパスの構成要素にディレクトリ以外のものがあります。</p>	<p>次のどちらかを実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 環境変数「DOCBROKERDIR」に、DocumentBroker の実行環境ディレクトリを指定しているかどうか確認してください。</li> <li>• EDMSetup コマンドを実行して、DocumentBroker の実行環境を削除してから、EDMSetup コマンドを再度実行して、DocumentBroker の実行環境を作成し直してください。</li> </ul>

4. 各ユティリティのメッセージ

操作	要因コード	エラーの要因	対策
	21	対象 %1 がディレクトリです。	次の手順で対策を実施してください。 1. 対象 %1 に示すディレクトリを削除してください。 2. EDMSetup コマンドを実行して、DocumentBroker の実行環境を削除してください。 3. EDMSetup コマンドを再度実行して、DocumentBroker の実行環境を作成し直してください。
	22	ファイルパスが不正です。	環境変数「DOCBROKERDIR」に、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ（UNIX の場合）または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server（Windows の場合）を指定しているかどうか確認してください。
	23	ファイルテーブルがいっぱいです。	不要なプロセスを終了してください。
	24	オープンファイル数が、システムの最大値を超えています。	AIX の場合、chuser コマンドを実行して、nofiles の値を変更してください。
	28	ファイルシステムがいっぱいです。	不要なファイルを削除してください。
	30	ファイルは読み取り専用のファイルシステムに存在します。	環境変数「DOCBROKERDIR」に、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ（UNIX の場合）または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server（Windows の場合）を指定しているかどうか確認してください。
fentl	24	ロック中のファイル数が、システムの上限值を超えています。	不要なプロセスを終了してください。
	46	次のどちらかがシステムの上限值を超えています。 • ロック中のファイル数 • ロック中のファイルセグメント数	不要なプロセスを終了してください。
write	28	ファイルシステムがいっぱいです。	不要なファイルを削除してください。

操作	要因コード	エラーの要因	対策
fopen	11	ファイルがほかのプロセスでロックされています。	対象 %1 に示すファイルをロックしているプロセスを終了してください。
	12	メモリが不足しています。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了してください。</li> <li>メモリを増設してください。</li> </ul>
	13	次の要因が考えられません。 1. ファイルに対するアクセス権がありません。 2. 対象 %1 がディレクトリです (Windows の場合)。	要因に応じて次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>要因 1 の場合 保守情報に出力される、fopen の第 2 引数の内容を基に、ファイルに対するアクセス権をコマンド実行ユーザに設定してください。</li> <li>要因 2 の場合 対象 %1 を正しく作成してください。</li> </ul>
	20	パスの指定に、ディレクトリ以外のものを指定しています。	%1 のファイルのパスに指定しているディレクトリが存在するかどうか確認してください。
	23	ファイルテーブルがいっぱいです。	不要なプロセスを終了してください。
	24	オープンファイル数が、システムの最大値を超えています。	AIX の場合、chuser コマンドを実行して、nofiles の値を変更してください。
remove	1	コマンド実行ユーザには、ファイルまたはディレクトリを削除する権限がありません。	対象 %1 に示すファイルまたはディレクトリは、コマンド実行ユーザ以外のユーザによって作成され、スティッキービットが設定されているため削除できません。対象 %1 に示すファイルまたはディレクトリを作成したユーザに削除を依頼してください。
	2	対象 %1 のファイル名またはファイルの絶対パスが長過ぎます。	対象 %1 を削除してください。

4. 各ユティリティのメッセージ

操作	要因コード	エラーの要因	対策
	13	次の要因が考えられます。 1. ファイルに対するアクセス権がありません。 2. 対象 %1 がコマンド実行ディレクトリです (Windows の場合)。 3. 対象 %1 のディレクトリが空ではありません (Windows の場合)。	要因に応じて次のどれかを実施してください。 • 要因 1 の場合 ファイル %1 のパスプリフィックスに対するアクセス権 (実行権) をコマンド実行ユーザに設定するか、ファイル %1 またはファイル %1 が格納されているディレクトリに対するアクセス権 (読み取り権または書き込み権) をコマンド実行ユーザに設定してください。 • 要因 2 の場合 別のディレクトリに移動してください。 • 要因 3 の場合 対象 %1 を削除してください。
	17	ディレクトリが空ではありません。	対象 %1 に示すディレクトリの下位にあるファイルまたはディレクトリを削除してください。
mkdir	2	パスの指定に、存在しないディレクトリを指定しています。	%1 のファイルのパスプリフィックスに指定しているディレクトリが存在するかどうか確認してください。
	13	次の要因が考えられます。 • パスの指定に、存在しないディレクトリを指定しています。 • 対象 %1 のファイル名またはファイルの絶対パスが長過ぎます (Windows の場合)。 • 対象 %1 のパスにディレクトリ以外のものを指定しています (Windows の場合)。	次のどちらかを実施してください。 • %1 のファイルのパスプリフィックスに指定しているディレクトリが存在するかどうか確認してください。 • 対象 %1 に示すファイル名またはファイルの絶対パスをシステムの上限值以下にしてください (Windows の場合)。
	20	パスの指定に、ディレクトリ以外のものを指定しています。	%1 のファイルのパスおよびプリフィックスに指定しているディレクトリが存在するかどうか確認してください。
	28	ファイルシステムがいっぱいです。	不要なファイルを削除してください。
	30	デバイスが読み取り専用です。	%1 のディレクトリを書き込み可能なデバイスにしてください。
	31	上位ディレクトリへのリンク数が、システムの上限值を超えています。	%1 のディレクトリの下位にある不要なファイルを削除してください。

操作	要因コード	エラーの要因	対策
lstat	13	リンクに対するアクセス権がありません。	次の手順で対策を実施してください。 1. EDMSetup コマンドを実行して、DocumentBroker の実行環境を削除してください。 2. EDMSetup コマンドを再度実行して、DocumentBroker の実行環境を作成し直してください。
	20	対象ファイルのパス中にディレクトリ以外のものがあります。	環境変数「DOCBROKERDIR」に、DocumentBroker の実行環境ディレクトリを指定しているかどうか確認するか、DocumentBroker の実行環境を作成し直してください。なお、DocumentBroker の実行環境を作成し直す場合、次の手順で実施してください。 1. EDMSetup コマンドを実行して、DocumentBroker の実行環境を削除してください。 2. EDMSetup コマンドを再度実行して、DocumentBroker の実行環境を作成し直してください。
opendir	12	メモリが不足しています。	次のどちらかを実施してください。 • 不要なプロセスを終了してください。 • メモリを増設してください。
	13	対象ファイルに対するアクセス権がありません。	次のどちらかを実施してください。 • %1 のファイルのパスプリフィックスに対するアクセス権（実行権）をコマンド実行ユーザに設定してください。 • %1 のファイルまたはファイルのディレクトリに対するアクセス権（読み取り権）をコマンド実行ユーザに設定してください。
	23	ファイルテーブルがいっぱいです。	不要なプロセスを終了してください。
	24	オープンファイル数が、システムの最大値を超えています。	AIX の場合、chuser コマンドを実行して、nofiles の値を変更してください。

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

操作	要因コード	エラーの要因	対策
GetFileAttribute		保守情報 %4 に示す要因によって、ディレクトリ %1 の属性の取得に失敗しました。	保守情報 %4 に示すエラーの要因を取り除いてください。
FindFirstFile		保守情報 %4 に示す要因によって、ディレクトリ %1 にあるファイルの検索に失敗しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。
FindNextFile		保守情報 %4 に示す要因によって、ディレクトリ %1 にあるファイルの検索に失敗しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。
FindClose		保守情報 %4 に示す要因によって、ディレクトリ %1 にあるファイルの検索に失敗しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。
GetFileInformationByHandle		保守情報 %4 に示す要因によって、ディレクトリ %1 にあるファイルの検索に失敗しました。	保守情報 %4 に示すエラーの要因を取り除いてください。

注

保守情報 %4 に対応する要因コードが出力されます。

#### KMBR13057-I <C,P,F>

エラー件数が %1 件に達したため処理を中止します。

The number of errors reached %1, so processing will now stop.

(S)

処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、メタ情報ファイルのエラーが発生した個所を修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR13058-E <C,P,F>

メタ情報ファイル %1 の行の終わりが不正です。

The end of a line of the meta-information file %1 is invalid.

(S)

処理を中止しました。

(O)

メタ情報ファイル %1 の行の終わりに、<LF>、<CR> または <CR>+<LF> のどれかを追加してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR13059-E <P,F>

セクションを指定した "[]" (角括弧) の中に、セクション名を指定していません。

No section name is specified in [ ].

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

セクションの [] の中に、セクション名を指定してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13103-E <P,F>

クラスに対応する表 %1 がありません。

The table %1 corresponding to the class does not exist.

エラーが発生したクラスについては、このメッセージのあとに出力される KMBR13161-E を参照してください。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

要因に応じて、次のどちらかの対策を実施してください。

メタ情報ファイルに不要なクラスを定義している場合

1. EDMDelMeta コマンドを実行して、KMBR13161-E に出力されたクラスを削除する。
2. コマンドを再度実行する。

クラスに対応する表がデータベースにない場合

1. EDMCrtSql コマンドを実行して、すべてのクラスのデータベース定義文を出力する。
2. 出力したデータベース定義文から、表 %1 のデータベース定義文だけを抽出する。
3. 抽出したデータベース定義文を基に、データベース定義ユティリティ (pddef) を実行して、表を作成する。
4. コマンドを再度実行する。

## KMBR13104-E <P,F>

プロパティに対応する列がありません。

The column corresponding to the property does not exist.

エラーが発生したクラス、プロパティ、表および列については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

表 4-12 KMBR13104-E のあとに出力されるメッセージ

メッセージ ID	メッセージの内容
KMBR13161-E	エラーが発生したクラスの情報
KMBR13162-E	エラーが発生したプロパティの情報
KMBR13165-E	メタ情報から作成する表および列の情報

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

データベース定義ユティリティ (pddef) を実行して、KMBR13165-E に出力された列を表に追加してから、コマンドを再度実行してください。

データベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

```
ALTER TABLE [ 認可識別子 . ] 表識別子 ADD 列名 データ型 [ ( データ長 ) ] [ ARRAY [ 最大要素数 ] ]
```

- 表識別子：KMBR13165-E の %1
- 列名：KMBR13165-E の %2
- データ型：KMBR13165-E の %3
- データ長：KMBR13165-E の %4
- 最大要素数：KMBR13165-E の %5

## KMBR13105-E <P,F>

プロパティと列のデータ型が一致しません。

The column data type does not match the property data type.

エラーが発生したクラス、プロパティ、表および列については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

表 4-13 KMBR13105-E のあとに出力されるメッセージ

メッセージ ID	メッセージの内容
KMBR13161-E	エラーが発生したクラスの情報
KMBR13162-E	エラーが発生したプロパティの情報
KMBR13165-E	メタ情報から作成する表および列の情報
KMBR13166-E	データベースにある表および列の情報

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の手順に従って、プロパティと列のデータ型を一致させてから、コマンドを再度実行してください。

1. データベース定義ユティリティ (pddef) を実行して、KMBR13166-E に出力された列を表から削除する。
2. データベース定義ユティリティ (pddef) を実行して、KMBR13165-E に出力された列を表に追加する。

表にデータが格納されている場合、列は削除できないので、KMBR13166-E に出力された列を任意の列名に変更してから、KMBR13165-E に出力された列を追加してください。

手順 1 のデータベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

```
ALTER TABLE [ 認可識別子 . ] 表識別子 DROP 列名
```

- 表識別子：KMBR13166-E の %1
- 列名：KMBR13166-E の %2

手順 2 のデータベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。  
ALTER TABLE [ 認可識別子 . ] 表識別子 ADD 列名 データ型 [ ( データ長 ) ] [ ARRAY [ 最大要素数 ] ]

- 表識別子：KMBR13165-E の %1
- 列名：KMBR13165-E の %2
- データ型：KMBR13165-E の %3
- データ長：KMBR13165-E の %4
- 最大要素数：KMBR13165-E の %5

## KMBR13106-E <P,F>

String 型で定義したプロパティの最大長又は Object 型で定義したプロパティと、列のデータ長が一致していません。

The maximum length of the property defined with a String type or the property defined with an Object type does not match the column data length.

エラーが発生したクラス、プロパティ、表および列については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

表 4-14 KMBR13106-E のあとに出力されるメッセージ

メッセージ ID	メッセージの内容
KMBR13161-E	エラーが発生したクラスの情報
KMBR13162-E	エラーが発生したプロパティの情報
KMBR13165-E	メタ情報から作成する表および列の情報
KMBR13166-E	データベースにある表および列の情報

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の手順に従って、プロパティの最大長と列のデータ長を一致させてから、コマンドを再度実行してください。

1. データベース定義ユティリティ (pddef) を実行して、KMBR13166-E に出力された列を表から削除する。
2. データベース定義ユティリティ (pddef) を実行して、KMBR13165-E に出力された列を表に追加する。

表にデータが格納されている場合、列は削除できないので、KMBR13166-E に出力された列を任意の列名に変更してから、KMBR13165-E に出力された列を追加してください。

手順 1 のデータベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

ALTER TABLE [ 認可識別子 . ] 表識別子 DROP 列名

- 表識別子：KMBR13166-E の %1
- 列名：KMBR13166-E の %2

手順 2 のデータベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

ALTER TABLE [ 認可識別子 . ] 表識別子 ADD 列名 データ型 [ ( データ長 ) ] [ ARRAY [ 最大要素数 ] ]

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

- 表識別子：KMBR13165-E の %1
- 列名：KMBR13165-E の %2
- データ型：KMBR13165-E の %3
- データ長：KMBR13165-E の %4
- 最大要素数：KMBR13165-E の %5

### KMBR13107-W <P,F>

クラスに定義していない列があります。

The column exists that is not defined in the class.

エラーが発生したクラス、表および列については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

表 4-15 KMBR13107-W のあとに出力されるメッセージ

メッセージ ID	メッセージの内容
KMBR13163-W	エラーが発生したクラスの情報
KMBR13168-W	データベースにある表および列の情報

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

KMBR13168-W の情報を基に、クラスに定義していない不要な列を削除してから、コマンドを再度実行してください。ただし、不要な列が存在しても DocumentBroker の動作に影響はありません。

データベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

ALTER TABLE [ 認可識別子 . ] 表識別子 DROP 列名

- 表識別子：KMBR13168-W の %1
- 列名：KMBR13168-W の %2

### KMBR13108-E <P,F>

VariableArray 型で定義するプロパティに対応する列の最大要素数が不正です。

The maximum number of elements of the column corresponding to a property defined with the VariableArray type is invalid.

エラーが発生したクラス、プロパティ、表および列については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

表 4-16 KMBR13108-E のあとに出力されるメッセージ

メッセージ ID	メッセージの内容
KMBR13161-E	エラーが発生したクラスの情報
KMBR13162-E	エラーが発生したプロパティの情報
KMBR13165-E	メタ情報から作成する表および列の情報
KMBR13166-E	データベースにある表および列の情報

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の手順に従って、プロパティの最大要素数と列の最大要素数を一致させてから、コマンドを再度実行してください。

1. データベース定義ユティリティ (pddef) を実行して、KMBR13166-E に出力された列を表から削除する。
2. データベース定義ユティリティ (pddef) を実行して、KMBR13165-E に出力された列を表に追加する。

表にデータが格納されている場合、列は削除できないので、KMBR13166-E に出力された列を任意の列名に変更してから、KMBR13165-E に出力された列を追加してください。

手順 1 のデータベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

```
ALTER TABLE [ 認可識別子 . ] 表識別子 DROP 列名
```

- 表識別子：KMBR13166-E %1
- 列名：KMBR13166-E %2

手順 2 のデータベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

```
ALTER TABLE [ 認可識別子 . ] 表識別子 ADD 列名 データ型 [ (データ長) ] [ ARRAY [最大要素数] ]
```

- 表識別子：KMBR13165-E の %1
- 列名：KMBR13165-E の %2
- データ型：KMBR13165-E の %3
- データ長：KMBR13165-E の %4
- 最大要素数：KMBR13165-E の %5

## KMBR13109-W <P,F>

---

クラスと対応しない表 %1 があります。

The table %1 does not correspond to the class.

VariableArray 型で定義しているプロパティの要素の格納先を、HiRDB の繰り返し列に指定しているのに、要素を格納する表 %1 が存在しています。

エラーが発生したクラスについては、このメッセージのあとに出力される KMBR13163-W を参照してください。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

不要な表を削除してください。その後、コマンドを再度実行してください。ただし、不要な表が存在しても DocumentBroker の動作には影響ありません。

## KMBR13121-E &lt;C,P,F&gt;

メタ情報として必要なプロパティ、又はリストに指定した要素の値 %1 が不正です。

One of the following items required as meta-information is invalid : the value %1 of the property or the element specified in the list.

エラーが発生したプロパティおよびリストに指定した要素については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

表 4-17 KMBR13121-E のあとに出力されるメッセージ

メッセージ ID	エラーの要因	メッセージの内容
KMBR13997-E	プロパティの値が不正です。	エラーが発生したプロパティの情報
KMBR13998-E	リストの要素の値が不正です。	エラーが発生したリストの要素の情報

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-18 エラーが発生したファイルおよびオプションの指定別の対策一覧

エラーが発生したメタ情報ファイル	オプション「-p」の指定	対策
edmsys.ini	該当しない	次の手順で、対策を実施してください。 1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。 2. メタ情報ファイルをすべて保存する。 3. 保守員に連絡する。
edmsysclass.ini edmsysprop.ini dmaclass.ini dmaprop.ini	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. KMBR13997-E または KMBR13998-E で示すエラーが発生したファイルを、DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc ( UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ ¥Server¥etc ( Windows の場合) の下位にあるメタ情報ファイルで上書きする。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
	なし	KMBR13997-E または KMBR13998-E で示すエラーが発生したファイルを、DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc ( UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ ¥Server¥etc ( Windows の場合) の下位にあるメタ情報ファイルで上書きしてください。
その他	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除く。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
	なし	EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除いてください。

## KMBR13122-E &lt;C,P,F&gt;

メタ情報として必要なセクション %1 がメタ情報ファイル %2 にありません。

The section %1 required as meta-information is not in the meta-information file %2.

セクション %1 が、VariableArray 型で定義するプロパティのオブジェクト定義を記述しているセクションの場合、このメッセージのあとにプロパティ定義を記述しているセクションについての情報が KMBR13996-E に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイルからエラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-19 エラーが発生したファイル、エラーが発生したセクションおよびオプションの指定別の対策一覧

エラーが発生したメタ情報ファイル	エラーが発生したセクション	オプション「-p」の指定	対策
edmsys.ini	該当しない	該当しない	次の手順で、対策を実施してください。 1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。 2. メタ情報ファイルをすべて保存する。 3. 保守員に連絡する。
オプション「-f」に指定するファイル	dmaClass_DocSpace	該当しない	-f オプションに指定したファイルに応じて、次のどちらかの対策を実施してください。 • オブジェクト定義を記述しているファイルの場合 このメッセージおよび指定したオプションを記録して、すべてのメタ情報ファイルを保存する。その後、保守員に連絡する。 • オブジェクト定義を記述していないファイルの場合 -f オプションに、オブジェクト定義を記述しているファイルを指定する。
	GUID	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. EDMChkTbl コマンドの -f オプションに指定したファイルに、セクション を追加する。 3. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。 4. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	次の手順で対策を実施してください。 1. EDMChkTbl コマンドの -f オプションに指定したファイルに、セクション を追加する。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。

4. 各ユティリティのメッセージ

エラーが発生した メタ情報ファイル	エラーが発生 したセクショ ン	オプション 「-p」の指定	対策
dsclass.ini edmclass.ini	該当しない	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc ( UNIX の場合 ) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%etc ( Windows の場合 ) の下位にあるメタ情報ファイル %2 を基に、セクション %1 を修正する。 3. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。 4. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	次の手順で対策を実施してください。 1. DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc ( UNIX の場合 ) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%etc ( Windows の場合 ) の下位にあるメタ情報ファイル %2 を基に、セクション %1 を修正する。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。

注

-f オプションに指定するファイルに追加するセクションを次に示します。

[セクション名]

```
dmaProp_ClassDescription=obj=edmclass.ini@edmClass_VariableArrayOfObject
dmaProp_This=obj=Self
dmaProp_DataType=int=DMA_DATATYPE_OBJECT
dmaProp_RequiresUniqueElements=bool=0
dmaProp_MaximumElements=int=最大要素数
dmaProp_MinimumElements=int=2
dmaProp_RequiredClass=obj=VariableArray型のプロパティの要素を格納するクラス
```

- セクション名  
KMBR13122-E の %1 を指定します。
- 最大要素数  
VariableArray 型プロパティの最大要素数を指定します。
- VariableArray 型のプロパティの要素を格納するクラス  
KMBR13996-E で示すセクションの、dmaProp\_RequiredClass プロパティの値を指定します。

## KMBR13123-E <C,P,F>

メタ情報として必要なプロパティ %1 がありません。

The property %1 required as meta-information does not exist.

エラーが発生したセクションおよびプロパティについては、このメッセージのあとに出力される KMBR13997-E を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイルからエラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-20 エラーが発生したファイル，エラーが発生したプロパティおよびオプションの指定別の対策一覧

エラーが発生した メタ情報ファイル	エラーが発生し たプロパティ	オプション 「-p」の指定	対策
オプション「-f」 に指定するファイル	dmaProp_Class Descriptions	該当しない	次の手順で、対策を実施してください。 1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。 2. メタ情報ファイルをすべて保存する。 3. 保守員に連絡する。
	dmaProp_Class Descriptions 以 外	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除く。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除いてください。
edmsysclass.ini edmsysprop.ini dmaclass.ini dmaprop.ini	該当しない	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. KMBR13997-E で示すエラーが発生したファイルを、DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc ( UNIX の場合 ) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%etc ( Windows の場合 ) の下位にあるメタ情報ファイルで上書きする。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	KMBR13997-E で示すエラーが発生したファイルを、DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc ( UNIX の場合 ) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%etc ( Windows の場合 ) の下位にあるメタ情報ファイルで上書きしてください。
その他	該当しない	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除く。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルにあるエラーの要因を取り除いてください。

## KMBR13124-E <C,P,F>

プロパティ又はリストの要素に値がありません。

There is no value in the property or in the list element.

エラーが発生したプロパティまたはリストの要素については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

4. 各ユティリティのメッセージ

表 4-21 KMBR13124-E のあとに出力されるメッセージ

メッセージ ID	エラーの要因	メッセージの内容
KMBR13997-E	メタ情報として必要なプロパティに、値がありません。	エラーが発生したプロパティの情報
KMBR13998-E	メタ情報として必要なリストに、要素がありません。	エラーが発生したリストの要素の情報

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-22 エラーが発生したファイル、エラーが発生したプロパティおよびオプションの指定別の対策一覧

エラーが発生したメタ情報ファイル	エラーが発生したプロパティ	オプション「-p」の指定	対策
edmsys.ini	該当しない	該当しない	次の手順で対策を実施してください。 1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。 2. メタ情報ファイルをすべて保存する。 3. 保守員に連絡する。
dmaclass.ini dmaprop.ini edmsysclass.ini edmsysprop.ini	該当しない	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. KMBR13997-E または KMBR13998-E で示すエラーが発生したファイルを、DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc (UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%etc (Windows の場合) の下位にあるメタ情報ファイルで上書きする。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	KMBR13997-E または KMBR13998-E で示すエラーが発生したファイルを、DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc (UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%etc (Windows の場合) の下位にあるメタ情報ファイルで上書きしてください。
その他	ユーザが追加したプロパティ	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。

エラーが発生したメタ情報ファイル	エラーが発生したプロパティ	オプション 「-p」の指定	対策
		なし	次の手順で対策を実施してください。 1. エラーが発生したプロパティに、任意の値を指定する。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。
	システムが定義するプロパティ	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc ( UNIX の場合 ) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%etc ( Windows の場合 ) の下位にあるメタ情報ファイルを基に、エラーが発生したプロパティの値を修正する。 3. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。 4. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	次の手順で対策を実施してください。 1. DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc ( UNIX の場合 ) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%etc ( Windows の場合 ) の下位にあるメタ情報ファイルを基に、エラーが発生したプロパティの値を修正する。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。

## KMBR13125-W <P,F>

使用しない edmClass\_Struct クラスのサブクラスがあります。

The subclass of the unused edmClass\_Struct class exists.

エラーが発生したセクションについては、このメッセージのあとに出力される KMBR13163-W を参照してください。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイルから不要なクラスを削除してから、コマンドを再度実行してください。

表 4-23 オプションの指定別の対策一覧

オプション 「-p」の指定	対策
あり	<p>次の手順で対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。</li> <li>2. 出力したメタ情報ファイルに記述されている、KMBR13163-W で示すセクションを削除する。</li> <li>3. edmcClass.ini ファイルの edmClass_Struct セクションに記述されている、dmaProp_ImmediateSubclassDescriptions プロパティが示すリストのセクションのエントリから、「2.」で削除したセクションへの参照を削除する。</li> <li>4. このコマンドの -f オプションに指定したメタ情報ファイルの dmaClass_DocSpace セクションに指定する、dmaProp_ClassDescriptions プロパティが示すリストのセクションのエントリから、「2.」で削除したセクションへの参照を削除する。</li> <li>5. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。</li> <li>6. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。</li> </ol>
なし	<p>次の手順で対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. メタ情報ファイルに記述されている、KMBR13163-W で示すセクションを削除する。</li> <li>2. edmcClass.ini ファイルの edmClass_Struct セクションの dmaProp_ImmediateSubclassDescriptions プロパティが示すリストのセクションのエントリから、「1.」で削除したセクションへの参照を削除する。</li> <li>3. このコマンドの -f オプションに指定したメタ情報ファイルに記述されている、dmaClass_DocSpace セクションに指定する、dmaProp_ClassDescriptions プロパティが示すリストのセクションのエントリから、「1.」で削除したセクションへの参照を削除する。</li> <li>4. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。</li> </ol>

## KMBR13126-E <C,P,F>

VariableArray 型で定義しているプロパティの最大要素数の指定が不正です。

The maximum number of elements of a property defined with the VariableArray type is invalid.

メタ情報の VariableArray 型で定義するプロパティのオブジェクト定義を記述しているセクションにある、dmaProp\_MaximumElements の値が不正です。

エラーが発生したセクションについては、KMBR13996-E を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-24 オプションの指定別の対策一覧

オプション 「-p」の指定	対策
あり	<p>次の手順で対策を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. -l オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 作業用ディレクトリにメタ情報ファイルが出力されます。</li> <li>2. KMBR13996-E で示すメタ情報ファイルのセクションに指定する、dmaProp_MaximumElements プロパティの値に、VariableArray 型プロパティの最大要素数を指定する。</li> <li>3. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。</li> <li>4. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。</li> </ol>

オプション 「-p」の指定	対策
なし	次の手順で対策を実行してください。 1. KMBR13996-E で示すメタ情報ファイルのセクションに指定する、dmaProp_MaximumElements プロパティの値に、VariableArray 型プロパティの最大要素数を指定する。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。

## KMBR13131-E <C,P,F>

データベースでエラーが発生しました。

関数名 : %1

エラー情報 1 : %2

要因コード 1 : %3

エラー情報 2 : %4

要因コード 2 : %5

保守情報 : %6

An error occurred in the database.

Function name : %1

Error information 1 : %2

Reason code 1 : %3

Error information 2 : %4

Reason code 2 : %5

Maintenance information : %6

エラー情報として次の情報を出力します。

%1 : エラーになった DABroker の関数名

%2 : DABroker のエラーメッセージ

%3 : DABroker のエラーコード

%4 : データベースのエラーメッセージ

%5 : データベースのエラーコード

%6 : 保守情報

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

出力された DABroker のエラーメッセージ (%2) およびエラーコード (%3), データベースのエラーメッセージ (%4) およびエラーコード (%5) を基に, エラーの要因を取り除いてから, コマンドを再度実行してください。

## KMBR13141-E <C,P,F>

DocumentSpace 構成定義ファイルに必要な情報がありません。

セクション名 : %1

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

エントリ名 : %2

Required information for the DocumentSpace configuration definition file is missing.

Section name : %1

Entry name : %2

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、DocumentSpace 構成定義ファイルのエラーを取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-25 エラーが発生したエントリ別の対策一覧

エラーが発生したエントリ	対策
DbType	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>エントリを追加する。</li><li>エントリの値に、「HIRDB」を指定する。</li></ul>
PdUser	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>エントリを追加する。</li><li>データベースにアクセスするために、エントリの値に、DocumentBroker の管理者のユーザ名およびパスワードを、次に示す形式で指定する。 "ユーザ名"/"パスワード"</li></ul>
その他	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>エントリ %2 を指定する。</li><li>エントリ %2 の名前を正しく指定する。</li></ul>

### KMBR13142-E <C,P,F>

DocumentSpace 構成定義ファイルがありません。

The DocumentSpace configuration definition file does not exist.

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

DocumentBroker のインストールディレクトリ /etc (UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\adm\etc\_org (Windows の場合) の下位にあるサンプルファイルを基に、DocumentSpace 構成定義ファイルを作成してから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR13151-E <C,P,F>

表識別子又は列名の取得に失敗しました。

種別 : %1

要因コード : %2

クラス名 : %3

クラスインデクス : %4

プロパティ名 1 : %5

プロパティ名 2 : %6

The table ID or the column name could not be acquired.

Type : %1

Reason code : %2

Class name : %3

Class index : %4

Property name 1 : %5

Property name 2 : %6

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の手順で、対策を実施してください。

1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。
2. メタ情報ファイルをすべて保存する。
3. 保守員に連絡する。

## KMBR13152-E <C,P,F>

---

ファイル %1 の読み込みに失敗しました。

保守情報 1 : %2

保守情報 2 : %3

要因コード : %4

Reading of file %1 failed.

Maintenance information 1 : %2

Maintenance information 2 : %3

Reason code : %4

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /adm ( UNIX の場合 ) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\adm ( Windows の場合 ) の下位にあるエラーが発生したファイル %1 を、DocumentBroker のインストールディレクトリ /adm ( UNIX の場合 ) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\adm\etc\_org ( Windows の場合 ) の下位にあるファイル %1 で上書きしてください。

## KMBR13161-E <P,F>

---

エラー位置 メタ情報 クラス名 : %1 メタ情報ファイル名 : %2 セクション名 : %3

Error location Meta-information Class name : %1 Meta-information file name : %2 Section name : %3

エラーが発生したクラスを示すメッセージです。

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従います。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

#### KMBR13162-E <P,F>

---

エラー位置 メタ情報 プロパティ名 : %1 メタ情報ファイル名 : %2 セクション名 : %3

Error location Meta-information Property name : %1 Meta-information file name : %2 Section name : %3

エラーが発生したプロパティを示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従います。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

#### KMBR13163-W <P,F>

---

エラー位置 メタ情報 クラス名 : %1 メタ情報ファイル名 : %2 セクション名 : %3

Error location Meta-information Class name : %1 Meta-information file name : %2 Section name : %3

エラーの発生したクラスを示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従います。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

#### KMBR13165-E <P,F>

---

定義内容 表定義 (メタ情報) 表識別子 : %1 列名 : %2 データ型 : %3 データ長 : %4 最大要素数 : %5

Definition content Table definition (meta-information) Table ID : %1 Column name : %2 Data type : %3 Data length : %4 Maximum number of elements : %5

メタ情報で定義した列の情報を示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従います。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

#### KMBR13166-E <P,F>

---

定義内容 表定義 表識別子 : %1 列名 : %2 データ型 : %3 データ長 : %4 最大要素数 : %5

Definition content Table definition Table ID : %1 Column name : %2 Data type : %3 Data length : %4 Maximum number of elements : %5

データベースに定義している列の情報を示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従います。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

### KMBR13168-W <P,F>

---

定義内容 表定義 表識別子 : %1 列名 : %2 データ型 : %3 データ長 : %4 最大要素数 : %5

Definition content Table definition Table ID : %1 Column name : %2 Data type : %3 Data length : %4 Maximum number of elements : %5

データベースに定義している列の情報を示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従います。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

### KMBR13171-E <C,P,F>

---

-c オプションで指定したクラス %1 を定義していないか、確認する必要のないクラスです。

The class %1 specified in the -c option is not defined, or the class does not require confirmation.

(S)

クラス %1 の処理を中止します。複数のクラスを指定している場合は、次に指定しているクラスの処理を続行します。

(O)

クラス名を正しく指定してから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR13172-E <C,P,F>

---

-p オプションを指定したときは、-f オプションにファイル名を指定してください。

When the -p option is specified, specify a file name in the -f option.

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

-f オプションにファイル名だけを指定して、コマンドを再度実行してください。

### KMBR13181-E <C,P,F>

---

メタ情報ファイルの出力に失敗しました。

The meta-information file could not be output.

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR13182-W <P,F>

---

作業用ディレクトリ %1 の削除に失敗しました。

The work directory %1 could not be deleted.

一時的に作成した作業用ディレクトリ %1 の削除に失敗しました。

エラーの内容については、このメッセージのあとに出力される KMBR13056-E を参照してください。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

このメッセージのあとに出力される KMBR13056-E を基に、エラーの要因を取り除いてから、OS のコマンドを実行して作業用ディレクトリ %1 を削除してください。

## KMBR13183-I <P,F>

---

作業用ディレクトリ %1 にメタ情報を出力します。

The meta-information will be output to the work directory %1.

作業用ディレクトリ %1 は、コマンド終了時に削除されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

-

## KMBR13184-E <C,P,F>

---

メタ情報が登録されていません。

No meta-information is registered.

(S)

処理を中止します。

(O)

EDMInitMeta コマンドを実行してメタ情報を登録してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR13199-E <C,P,F>

---

内部矛盾が発生しました。

An internal conflict occurred.

(S)

コマンドの処理を中止します

(O)

次の手順で、対策を実施してください。

1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。
2. メタ情報ファイルをすべて保存する。
3. 保守員に連絡する。

## KMBR13990-E <C,P,F>

---

内部矛盾が発生しました。

An internal conflict occurred.

(S)

このメッセージのあとに出力されるメッセージが KMBR13996-E の場合、コマンドの処理を続行します。それ以外の場合は、処理を中止します。

(O)

次の手順で、対策を実施してください。

1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。
2. メタ情報ファイルをすべて保存する。
3. 保守員に連絡する。

## KMBR13994-I <P,F>

---

エラー位置 メタ情報ファイル名 : %1 セクション名 : %2

Error location Meta-information file name : %1 Section name : %2

エラーが発生したセクションを示すメッセージです。

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名 %1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って処理します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

## KMBR13995-E <P,F>

---

エラー位置 メタ情報ファイル名 : %1 行番号 : %2

Error location Meta-information file name : %1 Line number : %2

メタ情報ファイル内のエラーの発生位置を示すメッセージです。

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名 %1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って処理します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

## KMBR13996-E <P,F>

---

エラー位置 メタ情報ファイル名 : %1 セクション名 : %2

Error location Meta-information file name : %1 Section name : %2

エラーが発生したセクションを示すメッセージです。

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名 %1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って処理します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR13997-E <P,F>

---

エラー位置 メタ情報ファイル名 : %1 セクション名 : %2 プロパティ名 : %3

Error location Meta-information file name : %1 Section name : %2 Property name : %3

エラーが発生したプロパティを示すメッセージです。

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名 %1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って処理します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR13998-E <P,F>

---

エラー位置 メタ情報ファイル名 : %1 セクション名 : %2 要素位置 : %3

Error location Meta-information file name : %1 Section name : %2 Element position : %3

エラーが発生したリストオブジェクトの要素を示すメッセージです。

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名 %1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って処理します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR13999-E <C,P,F>

---

エラー位置 ファイル名 : %1 行番号 : %2 要因コード : %3

Error location File name : %1 Line number : %2 Reason code : %3

エラーが発生した個所の詳細情報を示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って処理します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR16701-E <P,F>

---

データ行の前にヘッダ行を挿入してください。

Insert a header line before the data line.

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルにヘッダ行を挿入してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16710-E <P,F>

---

文書クラス定義ファイルの構成に誤りがあります。

定義 : %1

エン트리 : %2

The structure of the document class definition file is incorrect. Definition: %1 Entry: %2

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 文書クラス定義ファイルの定義内容

%2 : エン트리名

構成に誤りのあるエント리가複数ある場合は、「,(コンマ)」で区切りエン트리名が出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルで指定した定義(%1)のエン트리(%2)を修正してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16711-E <P,F>

---

TargetType エントりに VR を指定したときは、指定できないエン트리です。

定義 : %1

エン트리 : %2

The entry cannot be specified when VR is specified in the TargetType entry. Definition: %1 Entry: %2

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 文書クラス定義ファイルの定義内容

%2 : 文書クラス定義ファイルで指定したエン트리名 = 文書クラス定義ファイルで指定したエントリの値

指定できないエント리를複数定義した場合は、「,(コンマ)」で区切り「文書クラス定義ファイルで指定したエン트리名 = 文書クラス定義ファイルで指定したエントリの値」の形式で出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルで指定した定義(%1)のエン트리(%2)を修正してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16712-E <P,F>

---

エントりに指定した値が重複しています。

定義 : %1

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

エントリ : %2

The value specified in the entry is duplicated. Definition: %1 Entry: %2

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 文書クラス定義ファイルの定義内容

%2 : エントリ名

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルで指定した定義 (%1) のエントリ (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR16713-E <P,F>

---

インデクスのキーに定義したプロパティの数が、データベース管理システムの制限値を超えています。

定義 : %1

The number of properties defined in the index key exceeds the limit of the database system. Definition: %1

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 文書クラス定義ファイルの定義内容

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルで指定した定義 (%1) を修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR16720-E <P,F>

---

複数のプロパティをキーとするインデクスを定義する場合、2行目以降のインデクスには指定できないエントリです。

定義 : %1

エントリ : %2

When an index, for which two or more properties are used as keys, is defined, an entry cannot be specified for an index in the second or subsequent line. Definition: %1 Entry: %2

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 文書クラス定義ファイルの定義内容

%2 : 文書クラス定義ファイルで指定したエントリ名 = 文書クラス定義ファイルで指定したエントリの値

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルで指定した定義 (%1) のエントリ (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR16801-E <P,F>

---

エントリを指定できません。

定義 : %1

エントリ : %2

The entry cannot be specified. Definition: %1 Entry: %2

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 文書クラス定義ファイルの定義内容

%2 : エントリ名

指定できないエントリを複数定義している場合は、「,(コンマ)」で区切りエントリ名が出力されます。  
ヘッダで定義したエントリの数を超えてエントリを指定した場合は、超えたエントリの数分の「,(コンマ)」が出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルで指定した定義(%1)のエントリ(%2)を修正してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16802-E <P,F>

---

エントリが重複しています。

定義 : %1

エントリ : %2

An entry is duplicated. Definition: %1 Entry: %2

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 文書クラス定義ファイルの定義内容

%2 : エントリ名

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルで指定した定義(%1)のエントリ(%2)を修正してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16803-E <P,F>

---

エントリの指定が必要です。

定義 : %1

エントリ : %2

An entry must be specified. Definition: %1 Entry: %2

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 文書クラス定義ファイルの定義内容

%2 : エントリ名

指定が必要なエントリを複数定義していない場合は、「,(コンマ)」で区切りエントリ名が出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルで指定した定義 (%1) のエントリ (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16804-E <P,F>

---

エントリに指定した値に誤りがあります。

定義 : %1

エントリ : %2

The value specified in the entry is invalid. Definition: %1 Entry: %2

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 文書クラス定義ファイルの定義内容

%2 : エントリ

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルで指定した定義 (%1) のエントリ (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16805-E <P,F>

---

エントリの指定形式に誤りがあります。

行番号 : %1

入力行 : %2

The specification format of the entry is invalid. Line number : %1. Input line : %2

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 文書クラス定義ファイルの指定形式に誤りがあった行番号

%2 : 文書クラス定義ファイルの指定形式に誤りがあった行のうち、誤りがあった個所以降の行の内容

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルの入力行 (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16810-E <P,F>

---

文書クラス定義ファイル内に定義が見つかりませんでした。

The definition in the document class definition file is missing.

文書クラス定義ファイルに定義 (ヘッダ行およびデータ行、またはデータ行) がありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ヘッダ行およびデータ行を定義していない場合 : ヘッダ行とデータ行を定義してからコマンドを再度実行してください。

データ行を定義していない場合：データ行を定義してからコマンドを再度実行してください。

## KMBR16820-E <P,F>

---

ファイルの解析処理でエラーが発生しました。

ファイル名：%1

エラー情報：%2

An error occurred during the analysis processing of the file. File name: %1 Error information: %2

ファイルの解析でエラーが発生しました。

%1：エラー要因となる定義ファイル名。絶対パスまたは相対パスで表示されます。

%2：文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンドで発生したエラー情報。エラー情報の詳細については、「4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照し、指定したファイル(%1)のエラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16821-E <P,F>

---

クラスの定義でエラーが発生しました。

定義：%1

エラー情報：%2

An error occurred in the class definition. Definition : %1 Error information : %2

定義中にエラーが発生しました。

%1：文書クラス定義ファイルの定義内容

%2：文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンドで発生したエラー情報。エラー情報の詳細については、「4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照し、文書クラス定義ファイルで指定した定義(%1)を修正してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16822-E <P,F>

---

プロパティの定義でエラーが発生しました。

定義：%1

エラー情報：%2

An error occurred in the property definition. Definition : %1 Error information : %2

定義中にエラーが発生しました。

%1: 文書クラス定義ファイルの定義内容

%2: 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンドで発生したエラー情報。エラー情報の詳細については、「4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照し、文書クラス定義ファイルで指定した定義(%1)を修正してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16823-E <P,F>

---

インデクスの定義でエラーが発生しました。

定義: %1

エラー情報: %2

An error occurred in the index definition. Definition : %1 Error information : %2

定義中にエラーが発生しました。

%1: 文書クラス定義ファイルの定義内容

%2: 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンドで発生したエラー情報。エラー情報の詳細については、「4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照し、文書クラス定義ファイルで指定した定義(%1)を修正してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16829-E <P,F>

---

文書空間定義コマンドの実行中にエラーが発生しました。

エラー情報: %1

An error occurred while the document space definition command was being executed. Error information : %1

文書空間の定義中にエラーが発生しました。

%1: 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンドで発生したエラー情報。エラー情報の詳細については、「4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照し、エラー要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16830-E <P,F>

---

クラスの定義を先に記述してください。

定義 : %1

Code the class definition in advance. Definition : %1

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 文書クラス定義ファイルの定義内容

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルで指定した定義 (%1) より先にクラスの定義を記述してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16831-E <P,F>

---

プロパティの定義を先に記述してください。

定義 : %1

Code the property definition in advance. Definition : %1

文書クラス定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 文書クラス定義ファイルの定義内容

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文書クラス定義ファイルで指定した定義 (%1) より先にプロパティの定義を記述してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR16920-E <C,P,F>

---

文書空間構築コマンドの実行中にエラーが発生しました。

エラー情報 : %1

An error occurred while the document space structure command was being executed. Error information : %1

文書空間の構築中にエラーが発生しました。

%1 : 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンドで発生したエラー情報。エラー情報の詳細については、「4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照し、エラー要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR16930-I <C,P,F>

---

メタ情報ファイルの登録処理を開始しました。

Processing to register the meta-information file was started.

文書空間の構築で、メタ情報ファイルの登録処理を開始しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

-

### KMBR16931-I <C,P,F>

---

メタ情報の追加処理を開始しました。

Processing to add the meta information was started.

文書空間の構築で、メタ情報の追加処理を開始しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

-

### KMBR16932-I <C,P,F>

---

データベース定義文の出力処理を開始しました。

Processing to output of the database definition statement was started.

文書空間の構築で、データベース定義文の出力処理とデータベースの定義 (EDMCBuildDocSpace コマンドの `-m exec` 指定時)、または、データベース定義文の出力処理 (EDMCBuildDocSpace コマンドの `-m print` 指定時) を開始しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

-

### KMBR16933-I <C,P,F>

---

クラス定義情報ファイルの作成処理を開始しました。

Processing to create the class definition information file was started.

文書空間の構築で、クラス定義情報ファイルの作成処理を開始しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

-

## KMBR16990-I &lt;P,F&gt;

付加情報 : %1

Additional information : %1

文書空間定義または文書空間構築時に発生したエラーの要因を示すメッセージです。

%1 : 情報種別 = 値

出力される情報種別と値を次の表に示します。

表 4-26 付加情報の内容

情報種別	値
directory name	ディレクトリ名
file name	ファイル名 (絶対パスまたは相対パス)
line number	ファイルの行番号
item	項目 (セクション名, エントリ名, クラス名, プロパティ名, インデクス名などの項目)
item value	項目の値
backup file name	バックアップファイル名 (絶対パス)
command name	コマンド名
detail	詳細情報 <sup>1</sup>
item kind	項目種別 <sup>2</sup>
class name	クラス名
property name	プロパティ名
area name	エリア名
area size	エリアサイズ
environment	環境変数
argument name	文書空間定義構築ライブラリの引数の名前 (保守情報)
argument value	文書空間定義構築ライブラリの引数の値 (エントリの値, ディレクトリ名など)
index number	インデクスの番号 (単一列インデクスの場合は 0 が設定されます。複数列インデクスの場合, 文書クラス定義ファイルで定義した順に, 0 から順に値が設定されます)

注 1

詳細情報の出力内容と意味を次の表に示します。

表 4-27 詳細情報の出力内容と意味

出力内容	意味
alreadyset	設定済み
different cardinality	基本単位不一致
different id	ID 不一致
different max value	最大値不一致
different value	値不一致
different name	名前不一致
different type	データ型不一致
duplicate entry	エントリ重複
duplicate section	セクション重複

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

出力内容	意味
duplicate value	値重複
insufficient entry	エントリ不足
invalid character	文字不正
invalid count	数不正
invalid format	形式不正
invalid order	順序不正
invalid parameter	引数不正
invalid size	サイズ不正
invalid type	データ型不正
invalid value	値不正
invalid entry	エントリ不正
invalid index	インデクス不正
invalid environment	環境不正
no keyword	キーワード不正
no section	セクションなし
not found name	名前が見当たらない
not null parameter	不要なパラメタの設定 (引数 NULL 以外)
not set automatically	自動設定不可
null parameter	パラメタが未設定 (引数 NULL)
null value	値が未設定 (値 NULL)
out of range	範囲外
reserved value	予約済みの値
unmatched docinfo	文書空間情報ファイルと文書クラス定義ファイルのエントリの内容が不一致
unspecifiable value	指定不可の値

#### 注 2

項目種別の出力内容と意味を次の表に示します。

表 4-28 項目種別の出力内容と意味

出力内容	意味
DCR Object Count	リンクオブジェクト数
Link Count	リンク数
Object Count	オブジェクト数
Relation Count	リレーション数
VCR Object Count	リンクオブジェクト数
Content Size	コンテンツサイズ
Index Count	一つのクラスに対するインデクス数
Area Count	エリア数

(S)

(O)

付加情報 (%1) を基に、先に出力されたメッセージの対処を実施してください。

### KMBR16999-E <P,F>

---

初期処理に失敗しました。

Initialization failed.

初期処理に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

保守員に連絡してください。

### KMBR17000-I <C,P,F>

---

EDMXmlMap コマンドが正常終了しました。

処理内容 : %1

マッピング定義名 : %2

The EDMXmlMap command ended normally.

Processing content : %1

Mapping definition name : %2

(S)

EDMXmlMap コマンドの処理を終了します。

(O)

-

### KMBR17001-E <P,F>

---

必要なセクションを記述していません。

ファイル名 : %1

セクション名 : %2

A required section is not coded.

File name : %1

Section name : %2

(S)

EDMXmlMap コマンドの実行を中止します。

(O)

ファイル (%1) の記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

## KMBR17002-E <P,F>

---

必要なエントリを記述していません。

ファイル名 : %1

セクション名 : %2

エントリ名 : %3

A required entry is not coded.

File name : %1

Section name : %2

Entry name : %3

(S)

EDMXmlMap コマンドの実行を中止します。

(O)

ファイル (%1) の記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

## KMBR17003-E <P,F>

---

必要なエントリを記述していません。

ファイル名 : %1

セクション名 : %2

A required entry is not coded.

File name : %1

Section name : %2

(S)

EDMXmlMap コマンドの実行を中止します。

(O)

ファイル (%1) の記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

## KMBR17004-E <P,F>

---

エントリの記述形式が不正です。

ファイル名 : %1

セクション名 : %2

エントリ名 : %3

The syntax of an entry is invalid.

File name : %1

Section name : %2

Entry name : %3

(S)

EDMXmlMap コマンドの実行を中止します。

(O)

ファイル(%1)の記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR17005-E <P,F>

---

マッピング先クラス一覧セクションのエントリに記述したクラスはありません。

クラス名 : %1

A class coded in the entry of the mapping-destination class list section does not exist.

Class name : %1

(S)

EDMXmlMap コマンドの実行を中止します。

(O)

プロパティマッピング定義ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR17006-E <P,F>

---

マッピング先 VariableArray 型プロパティ用セクションのエントリに記述したプロパティはクラス内にありません。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

The property coded in the entry of the mapping-destination Variable array property section is not in the class.

Class name : %1

Property name : %2

(S)

EDMXmlMap コマンドの実行を中止します。

(O)

プロパティマッピング定義ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR17007-E <P,F>

---

マッピング先クラス一覧セクションのエントリに記述したクラスは使用できません。

クラス名 : %1

要因コード : %2

The class coded in the entry of the mapping-destination class list section cannot be used.

Class name : %1

Reason code : %2

(S)

EDMXmlMap コマンドの実行を中止します。

(O)

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

次の表に示すエラーの要因一覧を基に、プロパティマッピング定義ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

表 4-29 要因コード別のエラーの要因一覧

要因コード	エラーの要因
1	XML プロパティマッピングに使用できないクラスを指定しています。

### KMBR17008-E <P,F>

マッピング先 VariableArray 型プロパティ用セクションのエントリに記述したプロパティは使用できません。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

要因コード : %3

The property coded in the entry of the mapping-destination Variable array property section cannot be used.

Class name : %1

Property name : %2

Reason code : %3

(S)

EDMXxmlMap コマンドの実行を中止します。

(O)

次の表に示すエラーの要因一覧を基に、プロパティマッピング定義ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

表 4-30 要因コード別のエラーの要因一覧

要因コード	エラーの要因
2	XML プロパティマッピングに使用できないプロパティを指定しています。
3	VariableArray 型のプロパティを指定しています。
4	XML プロパティマッピングに使用できないデータ型のプロパティを指定しています。

### KMBR17009-E <P,F>

マッピング先 VariableArray 型プロパティ用セクションのエントリに記述したプロパティは VariableArray 型プロパティではありません。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

The property coded in the entry of the mapping-destination Variable array property section is not a Variable array property.

Class name : %1

Property name : %2

(S)

EDMXxmlMap コマンドの実行を中止します。

(O)

プロパティマッピング定義ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR17010-E <P,F>

---

マッピング先 VariableArray 型プロパティ用セクションのエントリに記述したプロパティは VariableArray 型プロパティの要素ではありません。

クラス名 : %1

VariableArray 型プロパティ名 : %2

プロパティ名 : %3

The property coded in the entry of the mapping-destination Variable array property section is not an element of a Variable array property.

Class name : %1

Variable array property name : %2

Property name : %3

(S)

EDMXmlMap コマンドの実行を中止します。

(O)

プロパティマッピング定義ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR17011-E <P,F>

---

エントリの記述位置が不正です。

ファイル名 : %1

セクション名 : %2

エントリ名 : %3

An entry is coded in an invalid position.

File name : %1

Section name : %2

Entry name : %3

(S)

EDMXmlMap コマンドの実行を中止します。

(O)

ファイル (%1) の記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR17012-E <P,F>

---

dmaClass\_ConfigurationHistory クラスのサブクラスと dmaClass\_DocVersion クラスのサブクラスをそれぞれ一つずつ又はどちらか一つについて記述してください。

ファイル名 : %1

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

セクション名 : %2

Please code a subclass of the dmaClass\_ConfigurationHistory class and/or the dmaClass\_DocVersion class.

File name : %1

Section name : %2

(S)

EDMXmlMap コマンドの実行を中止します。

(O)

ファイル(%1)の記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR17013-E <C,P,F>

---

メタ情報の読み込みでエラーが発生しました。

関数名 : %1

要因コード : %2

An error occurred during the reading of meta-information.

Function name : %1

Reason code : %2

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

要因コード(%2)を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

### KMBR17014-E <C,P,F>

---

システムコールエラーが発生しました。

関数名 : %1

要因コード : %2

付加情報 : %3

An error occurred during a system call.

Function name : %1

Reason code : %2

Additional Information : %3

%1 : システムコール関数の関数名

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

%3 : エラーが発生したファイル名またはエラーメッセージ

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

### KMBR17015-E <C,P,F>

---

EDMXmlMap コマンドが異常終了しました。

処理内容 : %1

マッピング定義名 : %2

The EDMXmlMap command ended abnormally.

Processing content : %1

Mapping definition name : %2

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に対策を実施してから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR17016-E <P,F>

---

必要なタグを記述していません。

ファイル名 : %1

タグ名 : %2

A required tag is not coded.

File name : %1

Tag name : %2

必要なタグ (%2) が記述されていません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ファイル (%1) の記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR17017-E <P,F>

---

エントリに記述したプロパティはセクション内で重複しています。

ファイル名 : %1

セクション名 : %2

プロパティ名 : %3

The property coded in the entry is duplicated in the section.

File name : %1

Section name : %2

Property name : %3

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

重複しているプロパティ (%3) が、セクション (%2) 内で一意になるように定義内容を修正してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR17018-W <P,F>

---

有効なマッピング定義がありません。

A valid mapping definition does not exist.

(S)

EDMXmlMap コマンドの処理を終了します。

(O)

有効なマッピング定義を追加してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR17019-I <P,F>

---

ファイルを削除しました。

ファイル名 : %1

The file was deleted.

File name : %1

(S)

EDMXmlMap コマンドの処理を続行します。

(O)

-

#### KMBR17020-I <P,F>

---

ファイルはありません。

ファイル名 : %1

The file does not exist.

File name : %1

(S)

EDMXmlMap コマンドの処理を続行します。

(O)

-

#### KMBR17021-W <P,F>

---

ファイルの削除に失敗しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

The file could not be deleted.

File name : %1

Reason code : %2

%1 : マッピング定義ファイル, マッピング元 XML タグ定義ファイルまたはフィルタリング定義ファイルのファイル名

%2 : unlink 関数 (UNIX の場合) または \_unlink 関数 (Windows の場合) が設定したエラー番号  
unlink 関数 (UNIX の場合) または \_unlink 関数 (Windows の場合) が設定したエラー番号については,  
errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMXmlMap コマンドの処理を続行します。

(O)

要因コード (%2) を基に, エラーの要因を取り除いてから, ファイル (%1) を削除してください。

## KMBR17022-W <P,F>

---

一時ファイルの削除に失敗しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

The temporary file could not be deleted.

File name : %1

Reason code : %2

%1 : 一時ファイルのファイル名

%2 : unlink 関数 (UNIX の場合) または \_unlink 関数 (Windows の場合) が設定したエラー番号  
unlink 関数 (UNIX の場合) または \_unlink 関数 (Windows の場合) が設定したエラー番号については,  
errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMXmlMap コマンドの処理を続行します。

(O)

要因コード (%2) を基に, エラーの要因を取り除いてから, ファイル (%1) を削除してください。

## KMBR17024-E <P,F>

---

ファイルのパス名の長さがシステムで扱える最大値を超えています。

ファイル名 : %1

最大値 : %2

The path name length of the file exceeds the system limit.

File name : %1

Maximum : %2

(S)

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

EDMXmlMap コマンドの処理を終了します。

(O)

ファイル (%1) のパスの長さを最大値 (%2) 以下にしてから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR17025-E <P,F>

---

指定したマッピング定義は、マッピングセット定義ファイルにありません。

マッピング定義名 : %1

The specified mapping definition does not exist in the mapping set definition file.

Mapping definition name : %1

(S)

EDMXmlMap コマンドの処理を終了します。

(O)

マッピング定義名を確認して、処理を再度実行してください。

#### KMBR17026-E <P,F>

---

指定したマッピング定義は、既にマッピングセット定義ファイルにあります。

マッピング定義名 : %1

The specified mapping definition already exists in the mapping set definition file.

Mapping definition name : %1

(S)

EDMXmlMap コマンドの処理を終了します。

(O)

マッピング定義名を確認して、処理を再度実行してください。

#### KMBR17027-I <P,F>

---

指定したファイルをコピーしました。

ファイル名 : %1

The specified file was copied.

File name : %1

(S)

EDMXmlMap コマンドの処理を続行します。

(O)

-

#### KMBR17028-E <P,F>

---

指定したファイルのコピーが、既に出力先にあります。

ファイル名 : %1

A copy of the specified file already exists at the output destination.

File name : %1

(S)

EDMXmlMap コマンドの処理を終了します。

(O)

次のどちらかの対策を実施してください。

- ファイル(%1)を削除してから、EDMXmlMap コマンドを再度実行する。
- -u オプションを指定して、EDMXmlMap コマンドを再度実行する。

## KMBR17030-W <P,F>

---

エラーが発生したため、一時ファイルが残ります。

ファイル名 : %1

A temporary file will remain because an error occurred.

File name : %1

(S)

EDMXmlMap コマンドの処理を終了します。

(O)

ファイル(%1)を削除してください。

## KMBR17033-E <C,P,F>

---

指定したマッピング定義名は使用できません。

マッピング定義名 : %1

The specified mapping definition name cannot be used.

Mapping definition name : %1

(S)

EDMXmlMap コマンドの処理を終了します。

(O)

マッピング定義名(%1)を確認してから、処理を再度実行してください。

## KMBR17034-E <P,F>

---

指定したマッピング定義名の長さがコマンドで扱える最大値を超えています。

マッピング定義名 : %1

最大値 : %2

The length of the specified mapping definition name exceeds the command limit.

Mapping definition name : %1

Maximum : %2

(S)

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

EDMXmlMap コマンドの処理を終了します。

(O)

マッピング定義名 (%1) の長さを最大値 (%2) 以内にしてから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR18000-E <C,P,F>

---

メモリが不足しているため、処理を続行できません。

Memory became insufficient, so processing cannot continue.

(S)

移行ツールの処理を中止しました。

(O)

実行中のほかのプログラムの終了を待って、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR18001-E <C,P,F>

---

データベースへのアクセス準備に失敗しました。

An error occurred during the preparation for database access.

(S)

移行ツールの処理を中止しました。

(O)

syslog ファイルを参照して、このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

#### KMBR18002-E <C,P,F>

---

指定した名称のファイルがありません。

ファイル名 : %1

The specified file does not exist.

File name : %1

(S)

移行ツールの処理を中止しました。

(O)

指定した名称のファイルがあるか確認してください。

#### KMBR18003-E <C,P,F>

---

指定したファイルに対するアクセス権がありません。

ファイル名 : %1

You lack access permission for the specified file.

File name : %1

(S)

移行ツールの処理を中止しました。

(O)

指定したファイルに対するアクセス権を確認してください。

### KMBR18004-E <C,P,F>

---

ファイルのオープンでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being opened.

File name : %1

Reason code : %2

(S)

移行ツールの処理を中止しました。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてください。

### KMBR18005-E <C,P,F>

---

ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being read.

File name : %1

Reason code : %2

(S)

移行ツールの処理を中止しました。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてください。

### KMBR18006-E <C,P,F>

---

ファイルの書き込みでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being written.

File name : %1

Reason code : %2

(S)

移行ツールの処理を中止しました。

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてください。

#### KMBR18007-I <P,F>

---

ファイルの内容で 10 件のエラーを検知したため、ファイルの解析処理を中止します。

Analyzing the file will now stop because ten errors were detected in the file.

(S)

ファイルの解析処理を中止して、移行処理を続行します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、ファイルを修正してください。

#### KMBR18008-E <C,P,F>

---

データベースでエラーが発生しました。

要因コード 1 : %1

要因コード 2 : %2

エラー情報 : %3

An error occurred in the database.

Reason code 1 : %1

Reason code 2 : %2

Error information : %3

%1 : DABroker のリターンコード

%2 : データベースのエラーコード

%3 : データベースのエラーメッセージ

(S)

移行ツールの処理を中止しました。

(O)

要因コード 1 (%1)、要因コード 2 (%2) およびエラー情報 (%3) を基に、エラーの要因を取り除いてください。

#### KMBR18010-W <P,F>

---

ファイル内の記述形式が不正です。

コンマ (,) 以外の文字がエスケープされています。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the file is invalid.

A character other than a comma is escaped.

File name : %1

Line number : %2

(S)

ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

ファイル(%1)の%2行目にあるデータの指定を確認してください。

### KMBR18011-W <P,F>

---

ファイル内の記述形式が不正です。

行頭が(prop=)で始まっていません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the file is invalid.

A line does not begin with prop=.

File name : %1

Line number : %2

(S)

ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

ファイル(%1)の%2行目にあるデータの指定を確認してください。

### KMBR18012-W <P,F>

---

ファイル内の記述形式が不正です。

(prop=)の後に,(maxelements=)の記述がありません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the file is invalid.

maxelements= is not coded after prop=.

File name : %1

Line number : %2

(S)

ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

ファイル(%1)の%2行目にあるデータの指定を確認してください。

### KMBR18013-W <P,F>

---

最大要素数の指定が不正です。

行番号 : %1

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

The maximum number of elements is invalid.

Line number : %1

(S)

移行処理を続行します。

(O)

最大要素数には、2 ~ 30,000 の範囲の値を指定してください。

#### KMBR18014-W <P,F>

---

指定したプロパティは、VariableArray 型プロパティではありません。

プロパティ名 : %1

The specified property is not a property of VariableArray type.

Property name : %1

(S)

移行処理を続行します。

(O)

指定したプロパティ名を確認してください。

#### KMBR18015-I <P,F>

---

%1 プロパティの移行が完了しました。

Shifting of the %1 property has finished.

(S)

次の VariableArray 型のプロパティを移行するため、処理を続行します。

(O)

-

#### KMBR18016-I <C,P,F>

---

VariableArray 型のプロパティ移行処理が正常に終了しました。

Shifting of property of the VariableArray type ended normally.

(S)

VariableArray 型のプロパティの移行処理を正常に終了しました。

(O)

-

#### KMBR18017-I <C,P,F>

---

VariableArray 型のプロパティ移行処理が異常終了しました。

Shifting of property of the VariableArray type ended abnormally.

(S)

VariableArray 型のプロパティの移行処理を異常終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

### KMBR18020-I <P,F>

---

%1 クラスにアクセス制御用プロパティを追加しました。

A property used for access control was added to the %1 class.

(S)

移行処理を続行します。

(O)

-

### KMBR18021-I <C,P,F>

---

アクセス制御機能を使用するための移行処理が正常に終了しました。

Shifting in order to use the access control function ended normally.

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

-

### KMBR18022-I <C,P,F>

---

アクセス制御機能を使用するための移行処理が異常終了しました。

Shifting in order to use the access control function ended abnormally.

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

### KMBR18023-E <C,P,F>

---

指定したパーミッション文字列が不正です。

エントリ名 : %1

The specified permission string is invalid.

Entry name : %1

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

エントリ (%1) のパーミッション文字列を修正してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR18024-E <C,P,F>

---

パーミッション文字列 NONE とほかのパーミッション文字列は同時に指定できません。

エントリ名 : %1

The permission string NONE cannot be specified at the same time as other permission strings.

Entry name : %1

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

エントリ (%1) のパーミッション文字列を修正してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR18025-E <C,P,F>

---

ユーザ識別子の指定値が 254 バイトを超えています。

The specified value of the user ID exceeds 254 bytes.

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

ユーザ識別子を修正してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR18026-E <C,P,F>

---

既にアクセス制御機能を使用できる環境になっています。

The environment already allows you to use access control.

(S)

移行処理を実行しません。

(O)

現在の環境に対してアクセス制御移行ツールを実行する必要はありません。

## KMBR18030-I <C,P,F>

---

検索機能拡張のための移行処理が正常に終了しました。

Shifting to expand the search function ended normally.

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

-

## KMBR18031-I <C,P,F>

---

検索機能拡張のための移行処理が異常終了しました。

Shifting to expand the search function ended abnormally.

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

## KMBR18050-I <C,P,F>

---

最大要素数格納ファイルへの出力が完了しました。

Output to the file storing the maximum number of elements has finished.

(S)

移行処理を続行します。

(O)

-

## KMBR18051-I <C,P,F>

---

最大要素数格納ファイルへの出力が失敗しました。

Output to the file storing the maximum number of elements failed.

(S)

移行処理を続行します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

## KMBR18052-W <P,F>

---

%1 プロパティの最大要素数の指定値にエラーがあるため、移行処理をスキップします。

移行前のオブジェクトの最大要素数(%2)以上を指定してから、再度実行してください。

An error occurred in the specified value for the maximum number of elements of the %1 property, so shifting will be skipped.

Specify a value greater than the maximum number of elements (%2) of the object before the shift, then re-execute.

(S)

移行処理を続行します。

(O)

最大要素数に %2 以上の値を指定してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR18053-W <P,F>

---

移行前のテーブルがないため、%1 プロパティの移行処理をスキップします。

要因コード 1 : %2

要因コード 2 : %3

エラー情報 : %4

The table before the shift does not exist, so shifting the property %1 is skipped.

Reason code 1 : %2

Reason code 2 : %3

Error information : %4

%2 : DABroker のリターンコード

%3 : データベースのエラーコード

%4 : データベースのエラーメッセージ

(S)

移行処理を続行します。

(O)

必要に応じて、要因コード 1 (%2)、要因コード 2 (%3) およびエラー情報 (%4) を基に、エラーの要因を取り除いてください。

## KMBR18054-E <P,F>

---

指定できないプロパティを指定しているため、プロパティの移行処理を中止します。

プロパティ名 : %1

An unspecifiable property is specified, so property shifting will now stop.

Property name : %1

(S)

移行処理を中止します。

(O)

プロパティ名を正しく指定してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR18055-E <P,F>

---

プロパティがないため、プロパティの移行処理を中止します。

プロパティ名 : %1

The property does not exist, so property shifting will now stop.

Property name : %1

(S)

移行処理を中止します。

(O)

プロパティ名を正しく指定してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行

してください。

### KMBR18056-I <C,P,F>

---

プロパティの移行処理が正常に終了しました。

プロパティ名 : %1

Property shifting ended normally.

Property name : %1

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

プロパティ (%1) の移行処理が終了したら、EDMPrintMeta コマンド実行してください。

### KMBR18057-I <C,P,F>

---

プロパティの移行処理が異常終了しました。

プロパティ名 : %1

Property shifting ended abnormally.

Property name : %1

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

### KMBR18058-I <C,P,F>

---

全文検索機能付きクラスの移行処理が正常終了しました。

Shifting of a class that has the full-text search function ended normally.

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

-m オプションを省略して EDMChangeContentIS コマンドを実行したときは、DocumentBroker Text Search Index Loader で、すべての全文検索インデクスを作り直してください。

### KMBR18059-I <C,P,F>

---

全文検索機能付きクラスの移行処理が異常終了しました。

Shifting of a class that has the full-text search function ended abnormally.

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。なお、

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

データベースのエラーで移行が異常終了した場合、次の手順で対策を実施してください。

1. バックアップからデータベースを回復する。
2. このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除く。
3. 全文検索機能付きクラスの移行処理を再度実行する。

#### KMBR18100-I <C,P,F>

---

データベース定義の名称の移行処理が正常終了しました。

Shifting of the database definition name ended normally.

(S)

データベース定義の名称を移行する処理を終了しました。

(O)

-

#### KMBR18101-I <C,P,F>

---

データベース定義の名称の移行処理が異常終了しました。

Shifting of the database definition name ended abnormally.

(S)

データベース定義の名称を移行する処理を終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR18102-W <P,F>

---

現在の環境に対して移行は必要ありません。

edmProp\_DBSchNamingRule : %1

Shifting is not necessary for the current environment.

edmProp\_DBSchNamingRule : %1

(S)

移行処理は実行しません。

(O)

edmProp\_DBSchNamingRule プロパティが DisplayName の場合、現在の環境に対して、データベース定義の名称を移行する必要はありません。

#### KMBR18103-W <P,F>

---

キーワードの指定がありません。

キーワード : %1

行番号 : %2

A keyword is missing.

Keyword : %1

Line number : %2

(S)

ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

%2 行目にある次のどれかに指定しているデータを確認してください。

- class=
- prop=
- DBAlias=

### KMBR18104-W <P,F>

---

クラス名の指定に誤りがあります。

行番号 : %1

A class name is incorrectly specified.

Line number : %1

(S)

移行処理を続行します。

(O)

クラス名を正しく指定してください。

### KMBR18105-W <P,F>

---

プロパティ名の指定に誤りがあります。

行番号 : %1

A property name is incorrectly specified.

Line number : %1

(S)

移行処理を続行します。

(O)

プロパティ名を正しく指定してください。

### KMBR18106-W <P,F>

---

DBAlias の指定に誤りがあります。

行番号 : %1

DBAlias is incorrectly specified.

Line number : %1

(S)

移行処理を続行します。

(O)

DBAlias を正しく指定してください。

## KMBR18107-E <P,F>

---

DBAlias の指定が制限長を超えています。

制限長 : %1

行番号 : %2

The specification of DBAlias exceeds the limit.

Limit : %1

Line number : %2

(S)

移行処理を終了します。

(O)

DBAlias を正しく指定してください。

## KMBR18108-E <P,F>

---

DBAlias の指定がありません。

class=%1, DBAlias=

DBAlias is not specified.

class=%1, DBAlias=

DBAlias の指定が必要なサブクラスに、DBAlias の指定がありません。クラス名が表識別子の表記規則に合っていないため、DBAlias の指定が必要です。

(S)

移行処理を終了します。

(O)

メッセージに出力された記述形式に従って、名称定義ファイルの DBAlias に表識別子を指定してください。

## KMBR18109-E <P,F>

---

DBAlias の指定がありません。

prop=%1, DBAlias=

DBAlias is not specified.

prop=%1, DBAlias=

DBAlias の指定が必要なプロパティに、DBAlias の指定がありません。プロパティ名が列名の表記規則に合っていないため、DBAlias の指定が必要です。

(S)

移行処理を終了します。

(O)

メッセージに出力された記述形式に従って、名称定義ファイルの DBAlias に列名を指定してください。

## KMBR18200-I <C,P,F>

---

バージョンアップのための移行処理が正常終了しました。

Shifting for a version upgrade ended normally.

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

-

## KMBR18201-I <C,P,F>

---

バージョンアップのための移行処理が異常終了しました。

Shifting for a version upgrade ended abnormally.

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。なお、データベースのエラーで移行が異常終了した場合、次の手順で対策を実施してください。

1. バックアップからデータベースを回復する。
2. このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除く。
3. バージョンアップのための移行処理を再度実行する。

## KMBR18220-I <C,P,F>

---

File Link 連携機能を使用するための移行処理が終了しました。

Shifting to use the file link function ended normally.

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

-

## KMBR18221-I <C,P,F>

---

File Link 連携機能を使用するための移行処理が異常終了しました。

Shifting to use the file link function ended abnormally.

(S)

移行処理を終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。なお、データベースのエラーで移行が異常終了した場合、次の手順で対策を実施してください。

1. バックアップからデータベースを回復する。
2. このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除く。
3. File Link 連携機能を使用するための移行処理を再度実行する。

## KMBR18260-I <C,P,F>

---

リファレンスファイル管理機能を利用するための移行処理が正常終了しました。

Shifting to use the reference file function ended normally.

リファレンスファイル管理機能を利用するための移行処理が正常終了しました。

( S )

移行処理を終了します。

( O )

-

## KMBR18261-I <C,P,F>

---

リファレンスファイル管理機能を利用するための移行処理が異常終了しました。

Shifting to use the reference file function ended abnormally.

リファレンスファイル管理機能を利用するための移行処理が異常終了しました。

( S )

移行処理を終了します。

( O )

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。なお、データベースのエラーで移行が異常終了した場合、次の手順で対策を実施してください。

1. バックアップからデータベースを回復する。
2. このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除く。
3. リファレンスファイル管理機能を使用するための移行処理を再度実行する。

## KMBR19001-E <P,F>

---

ほかのプロセスがメタ情報を使っているため、処理を続行できません。

%1 を中止します。

Another process is using the meta-information, so processing cannot continue.

%1 will now stop.

DocumentBroker サーバが起動しているか、ほかのコマンドを実行しているため、処理を続行できません。

%1 : コマンド名

( S )

コマンド ( %1 ) の処理を中止します。

( O )

要因に応じて次の対策を実施してください。

- DocumentBroker サーバが起動している場合は、DocumentBroker サーバを停止してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。
- DocumentBroker サーバが起動していない場合は、ほかのコマンドの終了を待って、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR19002-W <C,P,F>

---

データベース内のメタ情報は更新できましたが、出力処理でエラーが発生したため、動作環境メタ情報ファイルは出力できませんでした。

The meta-information in the database was updated; however, the operating-environment meta-information file could not be output because an error occurred in output processing.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

syslog ファイルを参照して、このメッセージの前に出力されたメッセージを基にエラーの要因を取り除いてください。その後、-i オプションを指定しないで、EDMPrintMeta コマンドを実行してください。EDMInitMeta コマンドの延長で出力された場合は、-F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行してください。

## KMBR19003-E <C,P,F>

---

ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being read.

File name : %1

Reason code : %2

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR19004-E <C,P,F>

---

ファイルのオープンでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being opened.

File name : %1

Reason code : %2

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR19005-E <C,P,F>

---

指定した名称のファイルがありません。

ファイル名 : %1

The specified file does not exist.

File name : %1

指定した名称のファイルがないか、メタ情報ファイル内に指定したメタ情報ファイルがありません。

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

ファイル(%1)があるか確認してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR19006-E <C,P,F>

---

メモリが不足しているため、処理を続行できません。

Memory became insufficient, so processing cannot continue.

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

実行中のほかのプログラムの終了を待って、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR19007-E <C,P,F>

---

文書空間 ID が見つかりません。

The document space ID was not found.

メタ情報ファイル内に文書空間 ID が見つかりません。

メタ情報ファイルからこのセクションが削除されているか、引数に指定したメタ情報ファイルが文書空間内に生成するオブジェクトの定義ファイル(edms.ini)ではありません。

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR19008-E <C,P,F>

---

指定したファイルは、ディレクトリ又はスペシャルファイルなどであり、通常のファイルではありません。

ファイル名 : %1

The specified file is a directory or a special file, and is not an ordinary file.

File name : %1

(S)  
コマンドの処理を中止しました。

(O)  
ファイル(%1)を確認してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR19009-E <C,P,F>

---

ファイルに対するアクセス権がありません。

ファイル名 : %1

You lack access permission for the file.

File name : %1

(S)  
コマンドの処理を中止しました。

(O)  
ファイル(%1)に対するアクセス権を設定してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR19010-E <C,P,F>

---

ディレクトリがありません。

ディレクトリ名 : %1

The directory does not exist.

Directory name : %1

(S)  
コマンドの処理を中止しました。

(O)  
ディレクトリ(%1)を確認してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR19011-E <C,P,F>

---

ディレクトリが不正です。

ディレクトリ名 : %1

The directory is invalid.

Directory name : %1

(S)  
コマンドの処理を中止しました。

(O)  
ディレクトリ(%1)を確認してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR19012-E <C,P,F>

---

ディレクトリに対するアクセス権がありません。

ディレクトリ名 : %1

You lack access permission for the directory.

Directory name : %1

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

ディレクトリ (%1) に対するアクセス権を設定してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

## KMBR19013-E <C,P,F>

---

コマンドの処理でエラーが発生したため、コマンドの処理を中止します。

付加情報 : %1 (%2)

An error occurred in command processing, so command processing will now stop.

Additional information : %1 (%2)

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

付加情報を記録してから、保守員に連絡してください。

## KMBR19014-W <P,F>

---

セクションが見つかりません。

ファイル名 : %1

セクション名 : [%2]

The section was not found.

File name : %1

Section name : [%2].

メタ情報ファイル内に必要なセクションが見つかりません。

メタ情報ファイルからこのセクションが削除されているか、引数に指定したメタ情報ファイルが文書空間内に生成するオブジェクトの定義ファイル (edms.ini) ではありません。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

要因に応じて次の対策を実施してください。

- セクション名が削除されている場合  
メタ情報ファイルから削除されているセクションを回復してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。
- 引数に指定したメタ情報ファイルが文書空間内に生成するオブジェクトの定義ファイル (edms.ini)

でない場合

引数を修正してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

### KMBR19015-W <P,F>

---

プロパティが見つかりません。

ファイル名 : %1 (%2)

セクション名 : [%3]

プロパティ名 : %4

The property was not found.

File name : %1 (%2)

Section name : [%3]

Property name : %4

メタ情報ファイル内に必要なプロパティが見つかりません。

メタ情報ファイルからこのプロパティが削除されているか、引数に指定したメタ情報ファイルが文書空間内に生成するオブジェクトの定義ファイル (edms.ini) ではありません。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目にあるセクション (%3) 内のプロパティ (%4) の指定を確認してください。

### KMBR19016-W <P,F>

---

セクション内に、同じ名称のプロパティが既に指定されています。

ファイル名 : %1 (%2)

セクション名 : [%3]

プロパティ名 : %4

A property with the same name is already specified in the section.

File name : %1 (%2)

Section name : [%3]

Property name : %4

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目にあるセクション (%3) 内のプロパティ (%4) の指定を確認してから、不要な指定を削除してください。

### KMBR19017-W <P,F>

---

ファイル内に、同じ名称のセクションが既に指定されています。

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

ファイル名 : %1 (%2)

セクション名 : [%3]

A section with the same name is already specified in the file.

File name : %1 (%2)

Section name : [%3]

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

ファイル(%1)内のセクション(%3)の指定を確認してから、不要な指定を削除してください。

#### KMBR19018-W <P,F>

---

GUID 値の形式が不正です。

GUID : %1

The format of the GUID value is invalid.

GUID : %1

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

GUID 値(%1)の指定を確認してください。

#### KMBR19019-W <P,F>

---

ファイルへの書き込みでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being written.

File name : %1

Reason code : %2

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR19020-W <P,F>

---

text 型のデータの指定が不正です。

ファイル名 : %1 (%2)

セクション名 : [%3]

プロパティ名 : %4

The text-format data is invalid.

File name : %1 (%2)

Section name : [%3]

Property name : %4

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目にあるセクション (%3) 内のプロパティ (%4) を確認してください。

## KMBR19021-E <P,F>

---

データベース定義の名称の取得に失敗しました。

要因コード : %1

GuidClass : %2

The database definition name could not be acquired.

Reason code : %1

GuidClass : %2

%1 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行したコマンドに応じて、次のどちらかの対策を実施してください。

- EDMAAddMeta コマンドや移行処理を実行して異常終了した場合  
バックアップからデータベースを回復してから、EDMAAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。データベースにエラーが発生したときは、エラーの要因を取り除いてから、EDMAAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。
- EDMPrintMeta コマンドを実行して異常終了した場合  
エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。
- その他のコマンドを実行して異常終了した場合  
エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを実行してください。その後、コマンドを再度実行してください。

## KMBR19022-E <P,F>

---

データベース定義の名称の取得に失敗しました。

要因コード : %1.

GuidProperty : %2.

The database definition name could not be acquired.

Reason code : %1

GuidProperty : %2

%1 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行したコマンドに応じて、次のどちらかの対策を実施してください。

- EDMAddMeta コマンドや移行処理を実行して異常終了した場合  
バックアップからデータベースを回復してから、EDMAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。データベースにエラーが発生したときは、エラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。
- EDMPrintMeta コマンドを実行して異常終了した場合  
エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。
- その他のコマンドを実行して異常終了した場合  
エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを実行してください。その後、コマンドを再度実行してください。

## KMBR19023-E <P,F>

---

データベース定義の名称の取得に失敗しました。

要因コード : %1.

GuidVArray : %2.

GuidElement : %3.

The database definition name could not be acquired.

Reason code : %1

GuidVArray : %2

GuidElement : %3

%1 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行したコマンドに応じて、次のどちらかの対策を実施してください。

- EDMAddMeta コマンドや移行処理を実行して異常終了した場合  
バックアップからデータベースを回復してから、EDMAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。データベースにエラーが発生したときは、エラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。
- EDMPrintMeta コマンドを実行して異常終了した場合  
エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。
- その他のコマンドを実行して異常終了した場合  
エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを実行してください。その後、コマンド

を再度実行してください。

## KMBR19024-E <P,F>

---

データベース定義の名称の取得準備に失敗しました。

関数名 : %1.

要因コード : %2.

Preparation to acquire the database definition name failed.

Function name : %1

Reason code : %2

%2 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行したコマンドに応じて、次のどちらかの対策を実施してください。

- EDMAAddMeta コマンドや移行処理を実行して異常終了した場合  
バックアップからデータベースを回復してから、EDMAAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。データベースにエラーが発生したときは、エラーの要因を取り除いてから、EDMAAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。
- EDMPrintMeta コマンドを実行して異常終了した場合  
エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。
- その他のコマンドを実行して異常終了した場合  
エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを実行してください。その後、コマンドを再度実行してください。

## KMBR19030-E <P,F>

---

表識別子に誤りがあります。

行番号 : %1

The table ID is invalid.

Line number : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR19031-E <P,F>

---

列名に誤りがあります。

行番号 : %1

The column name is invalid.

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

Line number : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19032-E <P,F>

---

インデクス名に誤りがあります。

行番号 : %1

The index name is invalid.

Line number : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19040-E <P,F>

---

表識別子が制限長を超えています。

制限長 : %1

行番号 : %2

The table ID exceeds the limit.

Limit : %1

Line number : %2

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19041-E <P,F>

---

列名が制限長を超えています。

制限長 : %1

行番号 : %2

The column name exceeds the limit.

Limit : %1

Line number : %2

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR19042-E <P,F>

---

インデクス名が制限長を超えています。

制限長 : %1

行番号 : %2

The index name exceeds the limit.

Limit : %1

Line number : %2

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR19050-E <P,F>

---

表識別子が重複しています。

行番号 : %1

The table ID is duplicated.

Line number : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

### KMBR19051-E <P,F>

---

列名が重複しています。

行番号 : %1

The column name is duplicated.

Line number : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップから

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

データベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

### KMBR19052-E <P,F>

---

インデクス名が重複しています。

行番号 : %1

The index name is duplicated.

Line number : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

### KMBR19100-E <C,P,F>

---

ファイルのクローズでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being closed.

File name : %1

Reason code : %2

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

要因コード(%2)を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

### KMBR19101-E <C,P,F>

---

ファイルの書き込みでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being written.

File name : %1

Reason code : %2

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

### KMBR19120-E <C,P,F>

---

データベースへの登録でエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの登録処理を中止しました。

An error occurred while the file was being registered in the database.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止しました。

(O)

データベースで発生したエラー情報の詳細について syslog ファイルを参照して、エラーの要因を取り除いてください。その後、コマンドを再度実行してください。

### KMBR19121-E <C,P,F>

---

データベースの検索でエラーが発生しました。

要因コード 1 : %1

要因コード 2 : %2

エラー情報 : %3

An error occurred during a database search.

Reason code 1 : %1

Reason code 2 : %2

Error information : %3

%1 : DABroker のリターンコード

%2 : データベースのエラーコード

%3 : データベースのエラーメッセージ

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

要因コード 1 (%1)、要因コード 2 (%2) およびエラー情報 (%3) を基に、エラーの要因を取り除いてください。

### KMBR19122-E <C,P,F>

---

データベースへの登録でエラーが発生しました。

要因コード 1 : %1

要因コード 2 : %2

エラー情報 : %3

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

An error occurred while the file was being registered in the database.

Reason code 1 : %1

Reason code 2 : %2

Error information : %3

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止しました。

(O)

データベースで発生したエラー情報の詳細について syslog ファイルを参照して、エラーの要因を取り除いてください。その後、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19190-I <C,P,F>

---

%1 を開始します。

%1 will start.

%1 : コマンド名

(S)

処理を開始します。

(O)

-

#### KMBR19191-E <C,P,F>

---

%1 オプションの値が不正です。

The %1 option is invalid.

(S)

処理を中止します。

(O)

%1 オプションの値を見直してから、再度実行してください。

#### KMBR19200-I <C,P,F>

---

%1 が終了しました。

%1 ended.

(S)

処理を終了しました。

(O)

-

#### KMBR19201-I <C,P,F>

---

%1 が異常終了しました。

%1 ended abnormally.

(S)

処理を終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

## KMBR19243-E <C,P,F>

---

システムコールでエラーが発生しました。

関数名 : %1

要因コード : %2

付加情報 : %3

An error occurred during a system call.

Function name : %1

Reason code : %2

Additional information : %3

システムコール(%1)でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

%2 : システムコールが設定したエラー番号

エラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

%3 : 保守情報

(S)

処理を中止します。

(O)

要因コード(%2)を基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

## KMBR19247-E <C,P,F>

---

データベースでエラーが発生しました。

要因コード 1 : %1

要因コード 2 : %2

エラー情報 : %3

An error occurred in the database.

Reason code 1 : %1

Reason code 2 : %2

Error information : %3

%1 : DABroker のリターンコード

%2 : データベースのエラーコード

%3 : データベースのエラーメッセージ

(S)

#### 4. 各ユティリティのメッセージ

処理を中止します。

(O)

要因コード 1 (%1), 要因コード 2 (%2) およびエラー情報 (%3) を基に, エラーの要因を取り除いて, コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19248-E <C,P,F>

---

データベースへの接続でエラーが発生しました。

An error occurred during an attempt to connect to the database.

(S)

処理を中止します。

(O)

データベースが起動されているか確認してください。また, DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に指定したデータベースのエントリを確認してください。  
syslog ファイルにエラーメッセージが出力されている場合, syslog ファイルのエラーメッセージを参照して, エラーの要因を取り除いてから, 再度実行してください。

#### KMBR19249-E <C,P,F>

---

%1 オプションと %2 オプションで指定するファイルが同じです。

The file that is specified in the %1 option and the %2 option is the same.

(S)

処理を中止します。

(O)

%1 オプションで指定するファイルと, %2 オプションで指定するファイルに異なるファイルを指定して, コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19250-E <C,P,F>

---

実行環境ファイルが壊れているため, 処理を続行できません。

Processing cannot continue because the execution-environment file is corrupted.

(S)

処理を中止します。

(O)

-p オプションを指定して EDMRegEnvId コマンドを実行して, 実行環境ファイルを出力してから, コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19251-E <C,P,F>

---

実行環境ファイルの出力に失敗しました。

ファイル名: %1

要因コード: %2

The execution-environment file could not be output.

File name : %1

Reason code : %2

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

処理を中止します。

(O)

ファイル名 (%1) および要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR19252-E <C,P,F>

---

この実行環境は実行環境 ID が 0 でないため、-e オプションは指定できません。

The -e option cannot be specified because the execution-environment id is not 0.

(S)

処理を中止します。

(O)

実行環境識別子が 0 の実行環境で、コマンドを再度実行してください。

DocumentBroker 02-40 より前のメタ情報ファイルで構築した環境の場合、-e オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。

## KMBR19253-E <C,P,F>

---

現在の環境ではこのコマンドは実行できません。

The command cannot be executed for the current environment.

(S)

処理を中止します。

(O)

DocumentBroker Version 3 の環境に移行してから、再度実行してください。

EDMChangeRefFile コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、

EDMChangeMultiEnv コマンドを実行して複数の実行環境機能を使用できる環境に移行してください。その後、EDMChangeRefFile コマンドを再度実行してください。

## KMBR19254-W <P,F>

---

現在の環境に対して移行は必要ありません。

Shifting is not necessary for the current environment.

(S)

移行処理は実行しません。

(O)

このコマンドを実行する必要はありません。

## KMBR19255-E <P,F>

---

-c オプションの値が不正です。

The -c option is invalid.

(S)

処理を中止します。

(O)

-c オプションに、2 ~ 4,096 の範囲の値を指定して、コマンドを再度実行してください。

## KMBR19256-E <C,P,F>

---

実行環境 ID が 0 ではありません。

The execution-environment id is not 0.

(S)

処理を中止します。

(O)

実行環境識別子が 0 の実行環境で、コマンドを再度実行してください。

## KMBR19257-W <P,F>

---

指定したオプションを無視します。

オプション : %1

The specified option is ignored.

Option: %1

(S)

指定したオプションを無視して、処理を続行します。

(O)

-

## KMBR19258-E <C,P,F>

---

必要なオプションを指定していません。

オプション : %1

The required option is not specified.

Option: %1

(S)

処理を中止します。

(O)

%1 に出力されたオプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

## KMBR19259-E <C,P,F>

---

本環境では処理を続行できません。

詳細 : %1

Processing cannot be continued in this environment.

Detail: %1

(S)

処理を中止します。

(O)

詳細(%1)を基に、環境の移行を行ってから、コマンドを再度実行してください。

## KMBR19300-I <P,F>

---

文書空間構築情報を削除しました。

The document space construction information was deleted.

(S)

処理を続行します。

(O)

-

## 4.2 文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンド実行時のエラー要因と対処

文書空間定義コマンドまたは文書空間構築コマンドにエラーが発生した場合、次の形式でエラー情報が出力されます。

エラー情報の出力形式

```
rc=要因コード, reason=理由コード [, func=関数名] [, pos=保守情報 (位置情報)] [, 保守情報]
```

エラーの要因と対処

エラーの要因と対処を次の表に示します。

表 4-31 エラーの要因と対処

要因コード	エラーの要因	対策
1	内部矛盾。	保守員に連絡してください。
3	システムコールエラーが発生しました。	システムコールが設定したエラー番号 (理由コード <sup>1</sup> ), システムコールの関数名 (関数名 <sup>2</sup> ) を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。  システムコールが設定したエラー番号 (理由コード <sup>1</sup> ), システムコールの関数名 (関数名 <sup>2</sup> ), およびこのメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
5	コマンドでエラーが発生しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。 定義情報ファイル, RD エリア定義情報ファイルまたはインデクス情報ファイルの定義でエラーが発生した場合は、次のように対処してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>このメッセージの前に出力されたメッセージと定義情報ファイル, RD エリア定義情報ファイル, またはインデクス情報ファイルの定義の内容からエラーの要因を特定し、エラー要因を取り除いてください。その後、コマンドを再度実行してください。</li> </ul>
6	パラメタ不正です。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
7	メモリ不足です。	メモリを増設してください。またはメモリを大量に消費しているアプリケーションを停止させて、コマンドを再度実行してください。
8	項目がありません。または、指定できない項目です。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
13	形式が不正です。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
18	ファイルが存在しません。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
19	ディレクトリが存在しません。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
21	環境が不正です。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。 UNIX の場合、DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc の下位にあるファイルを DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc の下位にコピーして、コマンドを再度実行してください。 Windows の場合、DocumentBroker のインストールディレクトリ ¥Server¥adm¥etc_org の下位にあるファイルを DocumentBroker の実行環境ディレクトリ ¥etc の下位にコピーして、コマンドを再度実行してください。

要因コード	エラーの要因	対策
30	必須項目が指定されていません。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
45	コマンドの実行順序が正しくありません。	EDMCDefDocSpace - e all コマンドを実行してから、コマンドを再度実行してください。
	EDMCBuildDocSpace コマンドは実行済です。	文書空間の再構築が必要な場合は、データベースを文書空間構築前の状態に回復してください。その後、コマンドを再度実行してください。
62	データベースでエラーが発生しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
63	値が不正です。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
64	値がオーバーフローしました。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

注 1 理由コード：システムコールが設定したエラー番号を出力します。

注 2 システムコールの関数名を出力します。



# 5

## 詳細エラーメッセージ

この章では、DocumentBroker で発生したエラーの詳細に関するメッセージについて説明します。

---

5.1 KMBR20000 ~ KMBR29999

## 5.1 KMBR20000 ~ KMBR29999

---

### KMBR20000-E <D>

---

次のメソッドでエラーを検知しました。

メソッド名 : %1

メジャーコード : %2

マイナーコード : %3

An error was detected in the following method.

Method name : %1

Major code : %2

Minor code : %3

メソッド (%1) で、メジャーコード (%2) およびマイナーコード (%3) のエラーを検知しました。

(S)

メソッド処理を実行しています。

(O)

このメッセージのあとに出力されるメッセージを基に、対策を実施してください。  
なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR21000-E <D>

---

指定ユーザ %1 は認証されませんでした。

要因 : オペレーティングシステムの /etc/passwd ファイル、LDAP 又は UOC に登録されていないユーザ名を指定しています。

The user %1 was not authenticated.

Reason : The specified user name is not registered in the /etc/passwd file of the operating system, LDAP, or UOC.

Windows の場合、要因の部分に表示される「オペレーティングシステムの /etc/passwd ファイル」を「Windows のユーザマネージャ」に読み替えてください。

(S)

文書空間との接続処理を中止します。

(O)

採用している認証方式に応じて次の対策のどれかを実施してください。

- オペレーティングシステムの /etc/passwd ファイル (UNIX の場合) または Windows のユーザマネージャ (Windows の場合) による認証の場合  
/etc/passwd ファイル (UNIX の場合) またはユーザマネージャ (Windows の場合) に登録されているユーザ名を指定してから、再度接続してください。
- LDAP 対応のディレクトリサービスによる認証の場合  
LDAP 対応のディレクトリサービスに登録されているユーザ名を指定してから、再度接続してください。
- UOC による認証の場合  
UOC に登録されているユーザ名を指定してから、再度接続してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR21001-E <D>

---

指定ユーザ %1 は認証されませんでした。

要因：パスワードが不正です。

The user %1 was not authenticated.

Reason : The password is invalid.

指定したユーザ名のパスワードが、オペレーティングシステムの /etc/passwd ファイル (UNIX の場合)、Windows のユーザマネージャ (Windows の場合)、LDAP 対応のディレクトリサービスまたは UOC に登録されているパスワードと一致していません。

(S)

文書空間との接続処理を中止します。

(O)

採用している認証方式に応じて次の対策のどれかを実施してください。

- オペレーティングシステムの /etc/passwd ファイル (UNIX の場合) または Windows のユーザマネージャ (Windows の場合) による認証の場合  
/etc/passwd ファイル (UNIX の場合) またはユーザマネージャ (Windows の場合) に登録されているユーザ名を指定してから、再度接続してください。
- LDAP 対応のディレクトリサービスによる認証の場合  
LDAP 対応のディレクトリサービスに登録されているユーザ名を指定してから、再度接続してください。
- UOC による認証の場合  
UOC に登録されているユーザ名を指定してから、再度接続してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR21002-E <D>

---

ファイル転送受付オブジェクトへのバインドに失敗しました。

オブジェクト名 : %1

Binding to an object for file transmission reception failed.

Object name : %1

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

ファイル転送サービスの開始モードの状態に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- 静的モードで、ファイル転送サービスの開始コマンドを実行していない場合  
ファイル転送サービスの開始コマンドを実行してから、クライアントアプリケーションを再度実行してください。
- 動的モードの場合  
ネットワーク環境を確認してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR21003-E <D>

---

トランザクション処理中のため、処理を続行できません。

Processing cannot continue because a transaction is being processed.

トランザクション処理中に、ほかのトランザクションを開始しようとしてしました。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

トランザクション終了後、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR21004-E <D>

---

トランザクションが開始されていないため、処理を続行できません。

Processing cannot continue because a transaction is not started.

トランザクションが開始されていない状態でトランザクションを有効または無効にしようとしてしました。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

トランザクション開始後、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR21005-E <D>

---

データベースへの処理中にエラーが発生しました。

SQL Code : %1

SQL State : %2

An error occurred during processing for a database.

SQL code : %1

SQL state : %2

データベースへのアクセスで SQL Code (%1), SQL State (%2) で示されるエラーが発生しました。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

エラーメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR22001-E <D>

---

CdbrEqStatement::Initialize メソッドを実行した CdbrEqStatement オブジェクトに対して、

CdbrEqStatement::Initialize メソッドは実行できません。

The CdbxEqlStatement::Initialize method cannot be executed for a CdbxEqlStatement object that executed the CdbxEqlStatement::Initialize method.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbxEqlStatement::Initialize メソッドを実行した CdbxEqlStatement オブジェクトに対して、CdbxEqlStatement::Terminate メソッドを実行してから、CdbxEqlStatement::Initialize メソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR22002-E <D>

---

CdbxEqlStatement::Set メソッドを実行していない CdbxEqlStatement オブジェクトに対して、%1 メソッドは実行できません。

The %1 method cannot be executed for the CdbxEqlStatement object for which the CdbxEqlStatement::Set method has not been executed.

CdbxEqlStatement::Set メソッドで設定する前の edmSQL 文を、CdbxEqlStatement::Execute メソッドで実行しようとしたため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbxEqlStatement::Set メソッドを実行していない CdbxEqlStatement オブジェクトに対して、CdbxEqlStatement::Set メソッドを実行してから、CdbxEqlStatement::Execute メソッドを実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR22003-E <D>

---

CdbxEqlStatement::Execute メソッドを実行していない CdbxEqlStatement オブジェクトに対して、CdbxEqlStatement::GetResult メソッドは実行できません。

The CdbxEqlStatement::GetResult method cannot be executed for the CdbxEqlStatement object for which the CdbxEqlStatement::Execute method has not been executed.

CdbxEqlStatement::Set メソッドで設定済みの edmSQL 文を、CdbxEqlStatement::Execute メソッドで実行する前に、CdbxEqlStatement::GetResult メソッドを実行しようとしたため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbxEqlStatement::Execute メソッドを実行していない CdbxEqlStatement オブジェクトに対して、CdbxEqlStatement::Execute メソッドを実行してから、CdbxEqlStatement::GetResult メソッドを実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR22011-E <D>

---

指定したパラメタ (%1) は未サポートのため、%2 メソッドは実行できません。

The %2 method cannot be executed because the specified parameter %1 is not supported.

%2 : CdbrEqLStatement クラスのメソッド

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

指定したパラメタ (%1) を修正してから、メソッド (%2) を再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR22021-E <D>

---

CdbrEqLStatement::Set メソッドを実行して、CdbrEqLStatement オブジェクトに設定した edmSQL 文に構文解析エラーがあるため、%1 メソッドは実行できません。

構文解析情報ファイル名 : %2

The %1 method cannot be executed because there is a syntax analysis error in the edmSQL statement that was set in the CdbrEqLStatement object by executing the CdbrEqLStatement::Set method.

Name of parse information file : %2

%1 : CdbrEqLStatement::Execute メソッド

%2 : 構文解析情報ファイル名または (null)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbrEqLStatement オブジェクトに設定した edmSQL 文を修正して、CdbrEqLStatement::Set メソッドを実行してから、メソッド (%1) を実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR24000-E <D>

---

構造体 %1 のメンバ %2 の値が %3 であったため、エラーになりました。

詳細 : %4

プロパティの出現インデクス : %5

プロパティの GUID 値 : %6

An error occurred because the value of the member %2 of the structure %1 is %3.

Details : %4

Index where the property appears : %5

GUID value of a property : %6

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の表に示す要因一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

表 5-1 %4 に出力される詳細別の要因一覧

詳細	エラーの要因
Bad PropId	そのクラスには、指定した GUID 値 (%6) のプロパティがありません。
Parameter is out of range	設定した値が許容値の範囲外の値です。
Parameter is incorrect	設定した値が不正です。
PropId duplicated	設定したプロパティが重複しています。
Property is not persistent.	設定したプロパティは永続プロパティではありません。
Property is unavailable.	設定したプロパティは操作できません。

## KMBR24001-E <D>

プロパティ構造体に指定した String 型プロパティの文字列長が許容範囲内がないため、メソッドを実行できません。

文字列長 : %1

プロパティの出現インデクス : %2

プロパティの GUID 値 : %3

The method cannot be executed because the length of a character string of a string- type property specified in a property structure exceeds the permitted range.

Character string length : %1

Index for which a property appears : %2

GUID value of the property : %3

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

プロパティ構造体に指定する String 型プロパティに応じて、次に示す対策を実施してから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

- dbrProp\_OwnerId プロパティを指定する場合  
1 バイト ~ 定義長 (dmaProp\_MaximumLengthString プロパティの値) の文字列を指定してください。
- dbrProp\_OwnerId プロパティ以外の String 型プロパティを指定する場合  
0 バイト ~ 定義長 (dmaProp\_MaximumLengthString プロパティの値) の文字列を指定してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR24002-E <D>

構造体 SDBR\_PATHLIST に指定した pItem の %1 番目に指定した要素でエラーになりました。

詳細 1 : %2

## 5. 詳細エラーメッセージ

詳細 2 : %3

An error occurred by the number %1 element of the specified pitem of the specified structure SDBR\_PATHLIST.

Details1 : %2

Details2 : %3

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の表に示す要因一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。詳細 1 に出力されたメッセージが項番 7 ~ 10 のとき、詳細 2 には、エラーとなったシステムコールのエラー番号が出力されます。それ以外のときは、「 - 」が出力されます。システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

表 5-2 %2 に出力される詳細別の要因一覧

項番	詳細	エラーの要因
1	FilePath is NULL.	ファイルパスに NULL を指定しています。
2	FileName is too long.	ファイル名の長さが 256 バイト以上です。
3	ComponentType is too long.	コンポーネントタイプの文字列長が 256 バイト以上です。
4	File is not found.	指定したファイルがありません。
5	Access Denied.	指定したファイルにアクセスできません。
6	URL is invalid.	指定した URL が不正です。
7	File open failed.	関数 open または fopen でファイルのオープンに失敗しました。
8	File read failed.	関数 fread でファイルの読み込みに失敗しました。
9	File seek failed.	関数 lseek でファイルのシークに失敗しました。
10	File close failed.	関数 close または fclose でファイルのクローズに失敗しました。

## KMBR24003-E <D>

構造体 SDBR\_CONTENTLIST に指定した pitem の %1 番目に指定した要素でエラーになりました。

詳細 1 : %2

詳細 2 : %3

An error occurred by the number %1 element of the specified pitem of the specified structure SDBR\_CONTENTLIST.

Details1 : %2

Details2 : %3

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の表に示す要因一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実

行したメソッドを再度実行してください。詳細 1 に出力されたメッセージが項番 8 ~ 11 のとき、詳細 2 には、エラーとなったシステムコールのエラー番号が出力されます。それ以外のときは、「 - 」が出力されます。システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

表 5-3 %2 に出力される詳細別の要因一覧

項番	詳細	エラーの要因
1	RetrievalName is NULL.	ファイル名に NULL を指定しています。
2	RetrievalName is empty.	ファイル名に空文字列を指定しています。
3	ComponentType is NULL.	コンポーネントタイプに NULL を指定しています。
4	ComponentType is empty.	コンポーネントタイプに空文字列を指定しています。
5	RetrievalName is too long.	ファイル名の長さが 256 バイト以上です。
6	ComponentType is too long.	コンポーネントタイプの文字列長が 256 バイト以上です。
7	Access Denied.	指定したディレクトリにアクセス権がないため、ファイルを作成できません。
8	File open failed.	関数 open または fopen でファイルのオープンに失敗しました。
9	File write failed.	関数 fwrite でファイルの書き込みに失敗しました。
10	File seek failed.	関数 lseek でファイルのシークに失敗しました。
11	File close failed.	関数 close または fclose でファイルのクローズに失敗しました。

## KMBR24004-E <D>

メモリが不足しているため、DocumentSpace 構成定義ファイルの BlobSubstrThreshold エントリに指定したサイズでファイルの取得・格納の処理を続行できません。

Memory became insufficient, so processing to acquire and store files cannot continue by the specified size of BlobSubstrThreshold entry in the DocumentSpace configuration definition file.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 利用可能なメモリを増やすために、メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。または、DocumentSpace 構成定義ファイルの BlobSubstrThreshold エントリに指定した値を利用可能なサイズに変更する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

## KMBR24005-E <D>

HiRDB File Link でエラーが発生したため、メソッドを実行できません。

詳細 1 : %1

## 5. 詳細エラーメッセージ

詳細 2 : %2

詳細 3 : %3

The method cannot be executed because an error occurred in the HiRDB FileLink.

Detail1 : %1

Detail2 : %2

Detail3 : %3

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、HiRDB File Link の詳細については、マニュアル「HiRDB File Link」を参照してください。

表 5-4 詳細別の対策一覧

詳細 1	詳細 2	詳細 3	エラーの要因	対策
-1	0	The environment value is invalid.	HiRDB File Link で使用する環境変数「FLINKDIR」の設定が不正です。	環境変数「FLINKDIR」を正しく設定してください。
-2	0	Cannot open configuration file.	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>HiRDB File Link のコンフィグレーションファイルが存在しない。</li> <li>HiRDB File Link のコンフィグレーションファイルを開けない。</li> </ul>	HiRDB File Link のコンフィグレーションファイルが存在するか、またはファイルに異常がないか確認してください。
-3	0	Configuration file error,not define [%1] section.	HiRDB File Link のコンフィグレーションファイルに省略不可セクション（%1）の記述がありません。	HiRDB File Link のコンフィグレーションファイルにセクション名（%1）を記述してください。
-4	0	Configuration file error,not define [%1] key.	HiRDB File Link のコンフィグレーションファイルに省略不可キー（%1）の記述がありません。	HiRDB File Link のコンフィグレーションファイルにキー名（%1）を正しく記述してください。
-5	%1	Configuration file error.	HiRDB File Link のコンフィグレーションファイルの行数（%1）の設定が不正です。次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>不正なセクション、またはキーがある。</li> <li>同じセクション、またはキーを複数記述している。</li> </ul>	HiRDB File Link のコンフィグレーションファイルの設定が正しいか確認してください。
-6	0	Log directory is not exist.	HiRDB File Link のコンフィグレーションファイルに指定したログファイルディレクトリが存在しません。	指定したログファイルディレクトリが存在するか確認してください。
-12	0	Not found file entry.	HiRDB File Link の関数でエラーが発生しました。	DocumentBroker の障害情報を採取して、保守員に連絡してください。

詳細 1	詳細 2	詳細 3	エラーの要因	対策
-30	0	%1(%2)	HiRDB File Link のプログラム (%2) との通信で、CORBA 例外が発生しました。	次の対策のどれかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• (%2) に出力されるプログラム名 FAM, または SIS が OAD に登録されていて、起動可能な状態か確認してください。</li> <li>• CORBA 例外のメッセージ (%1) を参照し、TPBroker の設定を見直してください。</li> <li>• HiRDB File Link の FAL コンフィグレーションファイルの ORB_TIMEOUT の設定が正しいか確認してください。</li> </ul>
-50	0	Parameter error.	メソッドの引数が正しくありません。	メソッドに指定したファイルまたはディレクトリの、URL またはパス、FAM 名、コンテンツ削除フラグ、およびコンテンツ名自動生成モードを示す引数を確認してください。 これらの引数に問題がない場合は、DocumentBroker の障害情報を採取して、保守員に連絡してください。
-51	0	No memory.	メモリ不足です。	十分なメモリを確保してください。
-52	0	Unknown error. (%1)	HiRDB File Link の内部関数 (%1) またはシステムコール (%1) で、予期せぬエラーが発生しました。	HiRDB File Link の障害情報を採取して、保守員に連絡してください。
-53	%1	Error occurred in FAM.	FAM でエラーが発生しました。 エラーコード：%1	FAM 通常ログ、ログファイルを参照して対処してください。
-54	%1	Error occurred in SIS.	SIS でエラーが発生しました。 エラーコード：%1	SIS 通常ログ、ログファイルを参照して対処してください。
-55	0	Not initialized.	HiRDB File Link のライブラリが初期化されていません。	DocumentBroker の障害情報を採取して、保守員に連絡してください。
-57	0	Invalid path.(%1)	パス名 (%1) の指定が正しくありません。	メソッドに引数として指定したファイルまたはディレクトリの、URL またはパスの内容を確認してください。
-58	0	Content-area is not registered.	登録先のパスがコンテンツエリアに登録されていません。	登録先のパスを HiRDB File Link の flsetarea コマンドでコンテンツエリアに登録するか、登録済みのコンテンツエリアを指定してください。

## 5. 詳細エラーメッセージ

詳細 1	詳細 2	詳細 3	エラーの要因	対策
-59	0	Cannot registered the contents.	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>登録済みのディレクトリの下位にあるコンテンツを登録しようとした。</li> <li>登録済みのコンテンツの上位ディレクトリを登録しようとした。</li> <li>HiRDB File Link の予約ディレクトリ “.FLSUBDIR ”, またはその管理ファイル “.flsubdir ” を登録しようとした。</li> <li>サイズが 2 ギガバイトを超えるファイルおよびそのファイルを含むディレクトリを登録しようとした。</li> <li>コピー登録の際、コピー元のパスに含まれるシンボリックリンクが存在しない。</li> </ul>	登録できるコンテンツを指定してください。
-60	0	The file or directory exist.	同一名称のファイルまたはディレクトリが存在します。	異なるファイル名またはディレクトリ名を指定してください。または、文書登録の場合、ファイル名自動生成機能を使用してください。
-61	0	File or directory copy failed.	コンテンツのコピーに失敗しました。	次の対策のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>コピー先のディスクの空き容量を確認してください。</li> <li>コピー先のディスクに異常がないか確認してください。</li> </ul>
-62	0	Cannot make the directory.	ディレクトリの作成に失敗しました。	ディスクに異常がないか確認してください。
-63	0	Access privilege cannot change.	コンテンツの所有者およびアクセス権の変更に失敗しました。	コンテンツに異常がないか確認してください。
-64	0	Invalid delete-flag.	複数の ContentFileLink オブジェクトが同一のコンテンツを管理しているときに、前回と異なるコンテンツ削除フラグが指定されました。	複数の ContentFileLink オブジェクトが同一のコンテンツを管理する場合、コンテンツ削除フラグはすべて同じ値を指定してください。
-65	0	Invalid handle.	HiRDB File Link のハンドルの内容が不正です。	DocumentBroker の障害情報を採取して、保守員に連絡してください。
-66	0	The handle cannot use.	ハンドルの有効期限を過ぎているため、現在のハンドルを使用できません。	エラーとなった操作を再度実行してください。
-67	0	Contents busy.	同一コンテンツを他プロセスが更新モードで使用しているため、現在のアクセスモードではアクセスできません。	コンテンツを更新モードで使用している他プロセスが終了してから再度実行してください。
-68	0	Invalid sequence.	HiRDB File Link の関数でエラーが発生しました。	DocumentBroker の障害情報を採取して、保守員に連絡してください。
-69	0	Invalid content-type.	HiRDB File Link の関数でエラーが発生しました。	DocumentBroker の障害情報を採取して、保守員に連絡してください。

詳細 1	詳細 2	詳細 3	エラーの要因	対策
-71	0	Invalid access-mode.	HiRDB File Link の関数でエラーが発生しました。	DocumentBroker の障害情報を採取して、保守員に連絡してください。
-79	0	Cannot open the file.	ファイルのオープンに失敗しました。	ファイルに異常がないか確認してください。
-80	0	Cannot read the file.	ファイルの読み込みに失敗しました。	ファイルに異常がないか確認してください。
-81	0	Cannot write the file.	ファイルの書き込みに失敗しました。	ファイルに異常がないか、またはディスクの空き容量を確認してください。
-82	0	Cannot use any function except "release"	HiRDB File Link の関数でエラーが発生しました。	DocumentBroker の障害情報を採取して、保守員に連絡してください。
-83	0	Contentarea is read only.	読み込み専用領域に対して、コピー登録をしようとした。	読み込み専用領域へのコピーはできません。
-84	0	The access object is invalid.	HiRDB File Link の関数でエラーが発生しました。	エラーとなった操作を再度実行してください。

## KMBR24006-E <D>

HiRDB File Link のファイルアクセスライブラリのロードに失敗したため、メソッドを実行できません。

詳細 : %1

The method cannot be executed because the loading of the FileAccessLibrary in the HiRDB FileLink failed.

Detail : %1

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

%1 には、システムから取得したエラー番号の値を出力します。

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

表 5-5 要因別の対策一覧 (Windows の場合)

詳細	エラーの要因	対策
126	ロードするライブラリが見つかりません。	次の内容を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>HiRDB File Link がインストールされているかどうか</li> <li>環境変数「PATH」に HiRDB File Link の実行環境が設定されているかどうか</li> <li>edmsfal.dll がインストールディレクトリ ¥DevKit¥lib またはインストールディレクトリ ¥Runtime¥lib に存在しているかどうか</li> </ul>
193	共有ライブラリではありません。	HiRDB File Link のライブラリのファイル、または edmsfal.dll が別のファイルに置き換えられていないか確認してください。
8	メモリ不足のため、実行できません。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてください。

## 5. 詳細エラーメッセージ

詳細	エラーの要因	対策
5	ライブラリにアクセスできません。	HiRDB File Link のライブラリ、または edmddfal.dll のファイルのアクセス権に実行パーミッションがないため、エラーになりました。ファイルの実行パーミッションを確認してください。
その他	-	winerror.h の内容を参照し、対処してください。

表 5-6 要因別の対策一覧（UNIX の場合）

詳細	エラーの要因	対策
2	ロードするライブラリが見つかりません。	次の内容を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• HiRDB File Link がインストールされているかどうか</li> <li>• 環境変数 LIBPATH に HiRDB File Link の実行環境ディレクトリが指定されているかどうか</li> <li>• libdsfal が /opt/HiEDMS/client/lib（TPBroker V3 を使用している場合）または /opt/HiEDMS/client/lib_tp5（TPBroker V5 を使用している場合）に存在しているかどうか</li> </ul>
8	共有ライブラリではありません。	HiRDB File Link のライブラリのファイルまたは libdsfal が別のファイルに置き換えられていないか確認してください。
12	メモリ不足のため、実行できません。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてください。
13	ライブラリにアクセスできません。	HiRDB File Link のライブラリまたは libdsfal のファイルのアクセス権に、読み込みまたは実行パーミッションがないため、エラーになりました。ファイルの読み込みまたは実行パーミッションを確認してください。
その他	-	errno.h の内容を参照し、対処してください。

## KMBR24007-E <D>

XML インデクスデータ作成機能は無効です。

The XML index data creation function is invalid.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

Preprocessing Library for Text Search がインストールされていないか、または Preprocessing Library for Text Search の実行環境が設定されていません。

Preprocessing Library for Text Search をインストールし、次に示す環境変数に Preprocessing Library for Text Search の実行環境を設定してください。そのあと、プログラムを再度実行してください。

- Windows の場合：PATH
- AIX の場合：LIBPATH

なお、このエラーメッセージは詳細エラーログファイルには出力されませんが、CdbSession::GetLastDetailError メソッドの引数としては出力されません。

## KMBR24009-E &lt;D&gt;

リファレンスファイル文書のコンテンツ操作でエラーが発生しました。

詳細 1 : %1

詳細 2 : %2

詳細 3 : %3

An error occurred in content operation of a reference file document.

Detail1 : %1

Detail2 : %2

Detail3 : %3

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の表に示す要因別の対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

表 5-7 %1 に出力される要因別の対策一覧

詳細 1	エラーの要因	対策
Access Denied.	指定したファイルにアクセスできません。	%3 に出力されるファイルのアクセス権を見直してください。また、%2 に出力されるエラー番号から <code>errno.h</code> の内容を参照し、対処してください。
File open / Directory make / Change permission failed.	次のどれかの要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>関数 <code>open</code> または <code>fopen</code> でファイルのオープンに失敗した。</li> <li>関数 <code>mkdir</code> でディレクトリの作成に失敗した。</li> <li>アクセス権の変更に失敗した。</li> </ul>	コンテンツ格納先ベースパス以下のディレクトリのアクセス権を見直してください。また、%2 に出力されるエラー番号から <code>errno.h</code> の内容を参照し、対処してください。%3 には、該当するパス情報が出力されます。
File read failed.	関数 <code>fread</code> でファイルの読み込みに失敗しました。	%2 に出力されるエラー番号から <code>errno.h</code> の内容を参照し、対処してください。%3 には、該当するパス情報が出力されます。
Fileread stopped.	関数 <code>fread</code> でファイルの読み込みが中断しました。	%3 に示すパス情報から該当するディスクに異常がないか確認してください。%2 に読み込み要求サイズと、中断した時点の読み込みサイズが「Request size=XXX Read size=XXX」の形式 (XXX : バイト数) で出力されます。
File write failed.	関数 <code>fwrite</code> でファイルの書き込みに失敗しました。	%2 に出力されるエラー番号から <code>errno.h</code> の内容を参照し、対処してください。%3 には、該当するパス情報が出力されます。
Filewrite stopped.	関数 <code>fwrite</code> でファイルの書き込みが中断しました。	%3 に示すパス情報から該当するディスクに異常がないか確認してください。%2 に書き込み要求サイズと、中断した時点の書き込みサイズが「Request size=XXX Write size=XXX」の形式 (XXX : バイト数) で出力されます。
File seek failed.	関数 <code>lseek</code> でファイルのシークに失敗しました。	%2 に出力されるエラー番号から <code>errno.h</code> の内容を参照し、対処してください。%3 には、該当するパス情報が出力されます。

5. 詳細エラーメッセージ

詳細 1	エラーの要因	対策
File close failed.	関数 close または fclose でファイルのクローズに失敗しました。	%2 に出力されるエラー番号から errno.h の内容を参照し、対処してください。%3 には、該当するパス情報が出力されます。
File unlink / Directory remove failed.	次のどちらかの要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>関数 unlink でファイルの削除に失敗した。</li> <li>関数 rmdir でディレクトリの削除に失敗した。</li> </ul>	%2 に出力されるエラー番号から errno.h の内容を参照し、対処してください。%3 には、該当するパス情報が出力されます。
FilePath is too long.	コンテンツの格納パスが長過ぎます。	指定したパス (%3) が長過ぎます。各引数の指定を見直してください。なお、CdbSession::SetReferencePath で指定したコンテンツ格納先のベースパスも長さを含める必要があります。 %3 に出力される次のパスを見直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>文書登録時  a ~ c のパス長の合計が長過ぎます (パスの区切り文字も含む)。  a : リファレンスパス情報構造体の pTargetPath メンバで指定したパス  b : DocumentBroker がコンテンツを管理するためのディレクトリ (35 バイト <sup>1</sup> または 6 バイト <sup>2</sup>)  c : リファレンスパス情報構造体の pEntry メンバで指定したパスのファイル名 <sup>1</sup> または DocumentBroker が指定するファイル名 (最大 59 バイト) <sup>2</sup></li> <li>コンテンツの更新時  a ~ c のパス長の合計が長過ぎます (パスの区切り文字も含む)。  a : 文書登録時に pTargetPath で指定したコンテンツ格納先パス  b : DocumentBroker がコンテンツを管理するためのディレクトリ (35 バイト <sup>1</sup> または 6 バイト <sup>2</sup>)  c : リファレンスパス情報構造体の pEntry メンバで指定したパスのファイル名 <sup>1</sup> または DocumentBroker が指定するファイル名 (最大 59 バイト) <sup>2</sup></li> </ul> 指定できるパス名の長さは、OS によって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>AIX の場合 1,022 バイト以内</li> <li>Windows の場合 259 バイト以内</li> </ul>
Delete path invalid.	削除パスの指定が不正です。	削除パス (%3) の指定を見直してください。
Memory insufficient.	メモリ不足です。	不要なアプリケーションの実行を止めるなどして、利用可能なメモリ容量を増やしてください。
Reference path invalid.	コンテンツ格納先ベースパスの指定が不正です。	コンテンツ格納先ベースパス (%3) の指定を見直してください。また、%2 に出力されるエラー番号から errno.h の内容を参照し、対処してください。
Reference path is not directory.	コンテンツ格納先ベースパスの指定がディレクトリではありません。	コンテンツ格納先ベースパス (%3) の指定を見直してください。

詳細 1	エラーの要因	対策
Already connected by other user.	UNC で指定したコンピュータはすでにほかのユーザを使用して接続されています。	%2 に出力されるコンピュータ名をネットワークリソース情報ファイルに定義したユーザで接続して使用するためには、DocumentBroker を再起動する必要があります。%3 に出力される接続済みのユーザを使用する場合には、ネットワークリソース情報ファイルのユーザを変更して DocumentBroker を再起動してください。
Network resource information invalid.	UNC で指定したコンピュータ名の指定がネットワークリソース情報ファイルの指定と一致していません。	%2 に出力されるコンピュータ名の指定およびネットワークリソース情報ファイルの指定を見直してください。
Network resource connection failed.	UNC で指定したコンピュータの接続でエラーが発生しました。	%2 に出力されるエラー番号から Win32API のエラー内容を参照し、対処してください。%3 にはコンピュータ名が出力されます。
Current version content not found.	次のどちらかの要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現在のカレントバージョンのオブジェクトにコンテンツが存在しません。</li> <li>• 操作の結果、新たにカレントバージョンとなるオブジェクトにコンテンツが存在しません。</li> </ul>	%2 に出力されるエラー番号から errno.h の内容を参照し、次の対処を実行してください。 %3 には該当するパス情報が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• バックアップが存在する場合 バックアップからコンテンツを回復し、再度実行してください。</li> <li>• バックアップが存在しない場合 該当メソッドに応じて次の対処を実行して、最新のコンテンツに回復してください。そのあと、メソッドを再度実行してください。 VersionCheckOut：バージョンを最新から順にさかのぼり、コンテンツが存在しないバージョンを削除する。 VersionCheckIn：VersionRevoke を実行する。 DeleteVersion/RemoveObject：バージョンを最新（カレントバージョン削除時は、1 バージョン前のバージョン）から順にさかのぼり、コンテンツが存在しないバージョンを削除する。 VersionRevoke：バージョンを最新から順にさかのぼり、コンテンツが存在しないバージョンを削除する。</li> </ul>
Reference type mismatch.	リファレンス種別の指定が、オブジェクトのリファレンス種別と一致していません。	%2 に示す「指定されたリファレンス種別」と %3 に示す「オブジェクトのリファレンス種別」を確認し、指定を見直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• RELATIVE コンテンツの格納先をユーザ任意のファイルシステム上の領域とし、コンテンツロケーションを相対パスで管理するオブジェクトです。</li> <li>• NONE コンテンツを持たなく、コンテンツロケーションを管理しないオブジェクトのことです。</li> </ul>

注 1

Document Space 構成定義ファイルの ReferenceStorageMode エントリに Origin を指定した場合

注 2

Document Space 構成定義ファイルの ReferenceStorageMode エントリに Divide を指定した場合

## KMBR24010-E <D>

引数 (%1) に指定した値 (%2) は不正です。

The value (%2) specified for the argument (%1) is invalid.

引数 (%1) に指定した値 (%2) が不正なため、処理を続行できません。

## 5. 詳細エラーメッセージ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

引数 (%1) に正しい値を指定してから、プログラムを再度実行してください。

### KMBR25000-E <D>

---

オブジェクトに対するアクセス権がないため、メソッドを実行できません。

クラス名 : %1

必要なパーミッション : %2

The method cannot be executed because you do not have access permission for the object.

Class name : %1

Required permission : %2

クラス (%1) のオブジェクトにアクセスする場合、パーミッション (%2) が必要です。

%1 には、次に示すクラスのどれかが出力されます。

- CdbrReferentialContainer
- CdbrConfiguratedReferentialContainer
- CdbrVersionTraceableContainer
- CdbrDocument
- CdbrVersionableDocument
- CdbrIndependentPersistence

%2 には、次の表に示すパーミッションのどれかが出力されます。

表 5-8 %2 に表示されるパーミッション

%2 に出力されるパーミッション	パーミッションの名称
PRIM_READ_PROPS	基本プロパティ参照権
PRIM_WRITE_PROPS	基本プロパティ更新権
PRIM_READ_CONTENTS	基本コンテンツ参照権
PRIM_WRITE_CONTENTS	基本コンテンツ更新権
PRIM_DELETE	基本オブジェクト削除権
PRIM_LINK	基本リンク権
PRIM_VERSION	基本バージョン管理権

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

セキュリティ管理者に、クラス (%1) のオブジェクトに対するパーミッション (%2) の設定を依頼してください。パーミッション (%2) が設定されたら、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR25001-E <D>

---

オブジェクト作成権がないため、メソッドを実行できません。

The method cannot be executed because you do not have create permission for the object.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

セキュリティ管理者に、オブジェクト作成権の設定を依頼してください。オブジェクト作成権が設定されたら、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR25002-E <D>

---

アクセス制御情報変更権がないため、メソッドを実行できません。

クラス名 : %1

The method cannot be executed because you do not have change permission for the access control information.

Class name : %1

%1 には、次に示すクラスのどれかが出力されます。

- CdbrReferentialContainer
- CdbrConfiguratedReferentialContainer
- CdbrVersionTraceableContainer
- CdbrDocument
- CdbrVersionableDocument
- CdbrIndependentPersistence
- CdbrPublicACL

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

セキュリティ管理者に、クラス (%1) のオブジェクトに対するアクセス制御情報変更権の設定を依頼してください。アクセス制御情報変更権が設定されたら、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR25003-E <D>

---

オブジェクトの所有者又はセキュリティ管理者ではないため、プロパティの値を更新できません。

プロパティの出現インデクス : %1

プロパティの GUID 値 : %2

The value of the property cannot be changed because you are not the owner of the object nor a security manager.

Index for which the property appears : %1

GUID value of the property : %2

(S)

## 5. 詳細エラーメッセージ

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次に示す対策のどちらかを実施してください。

- セキュリティ管理者にプロパティを更新できるパーミッションの設定を依頼する。パーミッションが設定されたら、プロパティの値を更新する。
- オブジェクトの所有者またはセキュリティ管理者に、プロパティの値の更新を依頼する。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR25004-E <D>

---

プロパティ構造体に指定したパーミッションが定義外のため、メソッドを実行できません。

プロパティの出現インデクス : %1

プロパティの GUID 値 : %2

パーミッション : %3

The method cannot be executed because the permission specified for the property structure is out of the definition.

Index for which a property appears : %1

GUID value of the property : %2

Permission : %3

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

プロパティ構造体に、基本パーミッションまたは組み合わせパーミッションを正しく指定してから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR25005-E <D>

---

指定した OIID に該当するパブリック ACL がないため、メソッドを実行できません。

OIID の出現インデクス : %1

OIID : %2

The method cannot be executed because there is no public ACL for the specified OIID.

Index for which OIID appears : %1

OIID : %2

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

文書空間にあるパブリック ACL の OIID (%2) を指定してから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR25006-E <D>

---

指定したパブリック ACL の OIID が不正なため、メソッドを実行できません。

OIID の出現インデクス : %1

OIID : %2

The method cannot be executed because the OIID of the specified public ACL is invalid.

Index for which OIID appears : %1

OIID : %2

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パブリック ACL の OIID (%2) を正しく指定してから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR25007-E <D>

---

指定した OIID に該当するパブリック ACL はバインドされていないため、メソッドを実行できません。

OIID の出現インデクス : %1

OIID : %2

The method cannot be executed because the public ACL for the specified OIID is not bound.

Index for which OIID appears : %1

OIID : %2

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

指定した OIID (%2) のパブリック ACL をバインドしてから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR25008-E <D>

---

dbrProp\_PublicACLIds プロパティを更新しようとしたが、パブリック ACL の OIID の個数が制限を超えたため、メソッドを実行できません。

プロパティの出現インデクス : %1

パブリック ACL の OIID の個数 : %2

An attempt was made to change the dbrProp\_PublicACLIds property, however, the method cannot be executed because the number of the OIIDs of the public ACL exceeds the limit.

Index for which a property appears : %1

Number of OIIDs of public ACL : %2

## 5. 詳細エラーメッセージ

dbrProp\_PublicACLIds プロパティに指定できるパブリック ACL の数は 10 個です。  
dbrProp\_PublicACLIds プロパティに、11 個以上のパブリック ACL を指定するとエラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

dbrProp\_PublicACLIds プロパティに、10 個以下のパブリック ACL を指定してから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。  
なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR25009-E <D>

---

プロパティ構造体に指定した ACE の個数が制限を超えたため、メソッドを実行できません。

プロパティの出現インデクス : %1

プロパティの GUID 値 : %2

ACE の個数 : %3

The method cannot be executed because the number of ACEs specified in the property structure exceeds the limit.

Index for which a property appears : %1

GUID value of the property : %2

Number of ACEs : %3

dbrProp\_ACL プロパティおよび dbrProp\_SACL プロパティに指定できる ACE の数は 64 個です。  
dbrProp\_ACL プロパティおよび dbrProp\_SACL プロパティに ACE を 65 個以上にすると、エラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

dbrProp\_ACL プロパティおよび dbrProp\_SACL プロパティに、64 個以下の ACE を指定してから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。  
なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR25010-E <D>

---

オブジェクトの所有者またはセキュリティ管理者ではないため、オブジェクトを削除できません。

The object cannot be removed because you are not the owner of the object nor a security manager.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

オブジェクトの所有者またはセキュリティ管理者に、オブジェクトの削除を依頼してください。  
なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR26000-E <D>

---

引数 (%1) に指定した値 (%2) は不正です。

The value (%2) specified for the argument (%1) is invalid.

引数 (%1) に指定した値 (%2) が不正なため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

引数 (%1) に正しい値を指定してから、プログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR26001-E <D>

---

%1 バイトのメモリが確保できません。

%1 bytes of memory cannot be allocated.

クライアント側のメモリが不足しているため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

不要なアプリケーションまたはメモリを大量に消費しているアプリケーションを終了してから、処理を再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR26002-E <D>

---

セッションは既に接続中のため、CdbrSession::Connect メソッドを実行できません。

The CdbrSession::Connect method cannot be executed because a session is already connected.

すでに接続中のセッションに対して CdbrSession::Connect メソッドを発行しようとしたため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

新規にセッションを生成しようとしている場合は、一度 CdbrSession::Disconnect メソッドを発行してください。接続中のセッションを利用する場合は、処理を続行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR26003-E <D>

---

セッションが接続されていないため、メソッドを実行できません。

The method cannot be executed because a session is not connected.

接続されていないセッションに対して CdbrSession::Connect メソッド以外のメソッドを実行しようとしたため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbrSession::Connect メソッドを発行して、セッションを接続状態にしてください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR26004-E <D>

---

オブジェクトは OIID (%1) で既に接続中のため、メソッドを実行できません。

The method cannot be executed because the object is already connected by OIID (%1).

すでに接続中のオブジェクトに対して CdbrDMA::SetOIID メソッド、CdbrDMA::ConnectObject メソッドまたは CdbrDMA::CreateObject メソッドを実行しようとしたため、処理を続行できません。

%1：接続しているオブジェクトの OIID

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

処理するオブジェクトに応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- 接続中のオブジェクトに対して処理を実行する場合  
メソッドを再度実行してください。
- 新規のオブジェクトに対して処理を実行する場合  
新規のオブジェクトを作成してから、メソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR26005-E <D>

---

オブジェクトが未接続状態のため、メソッドを実行できません。

The method cannot be executed because the object is unconnected.

未接続状態のオブジェクトに対して、CdbrDMA::SetOIID メソッド、CdbrDMA::ConnectObject メソッドおよび CdbrDMA::CreateObject メソッドを発行しないで、ほかのメソッドを実行しようとしたため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbrDMA::SetOIID メソッド、CdbrDMA::ConnectObject メソッドおよび CdbrDMA::CreateObject メソッドを実行して、オブジェクトを接続状態にしてください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR26008-E <D>

---

OIID が %1 のオブジェクトは既に削除されているため、メソッドを実行できません。

The method cannot be executed because the object with OIID %1 has already been deleted.

%1：削除されたオブジェクトの OIID

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbrEqlStatement::Execute メソッドで検索を実行してください。

なお、戻り値については、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

# 6

## オブジェクト操作ツールのメッセージ

この章では、オブジェクト操作ツールに関するメッセージについて説明します。

---

6.1 KMBR30000 ~ KMBR39999

## 6.1 KMBR30000 ~ KMBR39999

---

### KMBR30000-E <P,F>

---

オブジェクト操作ツール内部でエラーが発生したため、オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

付加情報 : %1 (%2)

An error occurred in the object operation tool, so execution of the tool was stopped.

Additional information : %1 (%2)

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

保守員に連絡してください。

### KMBR30010-E <P,F>

---

クラスのインスタンスを生成するためのメモリを確保できませんでした。

クラス名 : %1

There was insufficient memory to create a class instance.

Class name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。

### KMBR30011-E <P,F>

---

領域長のメモリを確保できませんでした。

領域名 : %1

領域長 : %2

Memory of the required size could not be allocated.

Area name : %1

Area size : %2

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。

## KMBR30020-E <P,F>

---

環境変数を設定していません。

環境変数名 : %1

The value of an environment variable is not set.

Environment variable : %1

環境変数 (%1) を設定していないため、処理を実行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

環境変数 (%1) を設定してから、処理を再度実行してください。

## KMBR30021-E <P,F>

---

環境変数を設定しています。

環境変数名 : %1

The value of the environment variable is already set.

Environment variable : %1

環境変数 (%1) を設定しているため、処理を実行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

環境変数 (%1) の設定を一時的に解除してから、処理を再度実行してください。

## KMBR30030-E <P,F>

---

システムコールでエラーが発生しました。

関数名 : %1

要因コード : %2

An error occurred during a system call.

Function name : %1

Reason code : %2

システムコール (%1) でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

## KMBR30031-E <P,F>

---

システムコールでエラーが発生しました。

関数名 : %1

要因コード : %2

付加情報 : %3

An error occurred during a system call.

Function name : %1

Reason code : %2

Additional information : %3

システムコール (%1) でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

## KMBR30040-E <P,F>

---

ディレクトリがありません。

ディレクトリ名 : %1

The directory does not exist.

Directory name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ディレクトリ (%1) が存在するか確認してください。

## KMBR30041-E <P,F>

---

ファイルがありません。

ファイル名 : %1

The file does not exist.

File name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイル (%1) が存在するか確認してください。

## KMBR30042-E &lt;P,F&gt;

パス名が長過ぎます。

パス名 : %1

The path name is too long.

Path name : %1

パス名の長さの上限値は、1,022 バイト (AIX の場合)、または 259 バイト (Windows の場合) です。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

1,022 バイト (AIX の場合)、または 259 バイト (Windows の場合) 以内の長さのパス名を指定してから、処理を再度実行してください。なお、パス名 (%1) に出力されたパスが次の表に示す対象パスに該当する場合は、表に示す対策一覧を基に対策を実施してください。

表 6-1 対象パス別の対策一覧

対象パス	対策
実行環境制御ファイル Log セクションの Directory エントリに指定したディレクトリパス	<p>次の手順で対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>次に示す条件を満たすように、Directory エントリを指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIX の場合 (Directory エントリに指定した文字列のバイト数) + (Prefix エントリに指定した文字列のバイト数) + 8 バイト 1,022 バイト</li> <li>・Windows の場合 (Directory エントリに指定した文字列のバイト数) + (Prefix エントリに指定した文字列のバイト数) + 8 バイト 259 バイト</li> </ul> </li> <li>処理を再度実行する。</li> </ol>
環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリパス	<p>次の手順で対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>次に示す条件を満たすように、環境変数「EDMCLASSDEFPATH」を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIX の場合 (環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリパスのバイト数) + 54 バイト 1,022 バイト</li> <li>・Windows の場合 (環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したパスのバイト数) + 54 バイト 255 バイト</li> </ul> </li> <li>処理を再度実行する。</li> </ol>

対象パス	対策
環境変数「DBRTOOLS DIR」に指定したディレクトリパス、または dbrtoolsetup コマンドの引数に指定した実行環境ディレクトリパス	<p>次の手順で対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>出力された値に応じて、次に示す条件を満たすように、環境変数「DBRTOOLS DIR」または dbrtoolsetup コマンドの引数を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt; 環境変数「DBRTOOLS DIR」に指定したディレクトリパスが出力されたとき &gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AIX の場合 (環境変数「DBRTOOLS DIR」に指定したディレクトリパスのバイト数) + 52 バイト 1,022 バイト</li> <li>・ Windows の場合 (環境変数「DBRTOOLS DIR」に指定したディレクトリパスのバイト数) + 52 バイト 255 バイト</li> </ul> </li> <li>&lt; dbrtoolsetup コマンドの引数に指定した実行環境ディレクトリパスが出力されたとき &gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AIX の場合 (dbrtoolsetup コマンドの引数に指定した実行環境ディレクトリパスのバイト数) + 52 バイト 1,022 バイト</li> <li>・ Windows の場合 (dbrtoolsetup コマンドの引数に指定した実行環境ディレクトリパスのバイト数) + 52 バイト 255 バイト</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>処理を再度実行する。</li> </ol>

## KMBR30043-E <P,F>

ファイルの入力又は出力でエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

関数名 : %2

要因コード : %3

A file I/O error occurred.

File name : %1

Function name : %2

Reason code : %3

ファイル (%1) の入力または出力操作時にエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

%3 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

## KMBR30100-E <P,F>

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2

付加情報 : %3

An error occurred during the referencing of a class definition file.

Method name : %1

Reason code : %2

Additional information : %3

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

表 6-2 要因コード別の対策一覧

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
InitializeForMulti	3	環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリに対してアクセス権（読み取り権、書き込み権または実行権）がありません。	環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリに対して、アクセス権（読み取り権、書き込み権または実行権）があるかどうか確認してください。
	7	共有メモリが不足しています。	共有メモリを使用しているほかのプロセスを終了してください。
	13	クラス定義情報ファイルのフォーマットが不正です。	クラス定義情報ファイルのフォーマットを確認してください。
	18	次の要因が考えられます。 1. キャッシュファイルの内容が不正です。 2. 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの下位にクラス定義情報ファイルがありません。 3. 02-30以降のバージョンの DocumentBroker Development Kit または DocumentBroker Runtime を使用している場合、クラス定義情報ファイルに対してアクセス権（読み取り権）がありません。	要因に応じて次のどれかを実施してください。 • 要因 1 の場合 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの下位の cache ディレクトリにあるキャッシュファイルを削除してください。 • 要因 2 の場合 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの下位に、クラス定義情報ファイルがあるかどうか確認してください。 • 要因 3 の場合 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの下位にあるクラス定義情報ファイルに対してアクセス権（読み取り権）があるかどうか確認してください。

6. オブジェクト操作ツールのメッセージ

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
	19	<p>次の要因が考えられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリが存在しません。</li> <li>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリに対してアクセス権（実行権）がありません。または、Windowsの場合は、環境変数「EDMCLASSDEFPATH」の指すディレクトリに読み取りの権限がありません。</li> </ol>	<p>要因に応じて次のどちらかを実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>要因 1 の場合 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に、存在するディレクトリを設定してください。</li> <li>要因 2 の場合 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に対するアクセス権（実行権）があるかどうか確認してください。または、Windowsの場合は、環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に対する読み取りの権限があるかどうか確認してください。</li> </ul>
	20	<p>次の要因が考えられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>クラス定義情報ファイルを使用するプロセスを同時に起動しています。</li> <li>先に起動したプロセスが、クラス定義情報ファイルをロックしています。</li> </ol>	<p>要因に応じて次のどちらかを実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>要因 1 の場合 クラス定義情報ファイルを使用するプロセスを、一つずつ起動してください。</li> <li>要因 2 の場合 クラス定義情報ファイルを使用するプロセスを終了してから、再度実行してください。</li> </ul>
	21	<p>次の要因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」が設定されていません。</li> <li>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリのパスが絶対パスではありません。</li> </ul>	<p>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に、クラス定義情報ファイルの格納先を絶対パスで指定してください</p>
	24	<p>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの直下で、ディレクトリ名以外で「cache」が使用されています。</p>	<p>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの直下では、「cache」はディレクトリ名だけに使用されるように見直してください。</p>
	52	<p>実行環境制御ファイルで指定した文書空間識別子とプリフィックスの一致するクラス定義情報ファイルが存在しません。</p>	<p>実行環境制御ファイルで指定した文書空間識別子とプリフィックスの一致するクラス定義情報ファイルがあるかどうか確認してください。</p>
	53	<p>DocumentBroker Development Kit 02-20 または DocumentBroker Runtime 02-20 を使用している場合、クラス定義情報ファイルに対してアクセス権（読み取り権）がありません。</p>	<p>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリにあるクラス定義情報ファイルに対してアクセス権（読み取り権）があるかどうか確認してください。</p>
InitializeForCache	7	<p>メモリが不足しています。</p>	<p>共有メモリを使用しているほかのプロセスを終了してください。</p>

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
	20	次の要因が考えられます。 1. オブジェクト操作ツールのプロセスを同時に起動しています。 2. 先に起動したプロセスが、クラス定義情報ファイルをロックしています。	要因に応じて次のどちらかを実施してください。 • 要因 1 の場合 オブジェクト操作ツールのプロセスを、一つずつ起動してください。 • 要因 2 の場合 クラス定義情報ファイルを使用するプロセスを終了してから、再度実行してください。
CreateCache	7	メモリが不足しています。	共有メモリを使用しているほかのプロセスを終了してください。
	18	クラス定義情報ファイルに対してアクセス権（読み取り権）がありません。	オブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ /etc (UNIX の場合) またはオブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ %etc (Windows の場合) の下位にコピーしたクラス定義情報ファイルに対して、アクセス権（読み取り権）があるかどうか確認してください。
	20	次の要因が考えられます。 1. オブジェクト操作ツールのプロセスを同時に起動しています。 2. 先に起動したプロセスが、クラス定義情報ファイルをロックしています。	要因に応じて次のどちらかを実施してください。 • 要因 1 の場合 オブジェクト操作ツールのプロセスを、一つずつ起動してください。 • 要因 2 の場合 クラス定義情報ファイルを使用するプロセスを終了してから、再度実行してください。

## KMBR30101-E <P,F>

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2

クラス名 : %3

An error occurred during the referencing of a class definition file.

Method name : %1

Reason code : %2

Class name : %3

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基にエラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

表 6-3 要因コード別の対策一覧

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
GetClassId	8	指定したクラス名は存在しません。	環境変数の設定に応じて、次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」を設定している場合 環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリ /etc (UNIX の場合) または環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリ ¥etc (Windows の場合) の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したクラス名があるかどうか確認してください。</li> <li>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」を設定していない場合 オブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ /etc (UNIX の場合) またはオブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ ¥etc (Windows の場合) の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したクラスがあるかどうか確認してください。</li> </ul>
	51	クラスライブラリのクラス名が指定されていません。	クラスライブラリのクラス名は指定できません。クラス名を見直してください。

## KMBR30102-E &lt;P,F&gt;

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2

プロパティ名 : %3

An error occurred during the referencing of a class definition file.

Method name : %1

Reason code : %2

Property name : %3

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いて、処理を再度実行してください。

表 6-4 要因コード別の対策一覧

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
GetRequiredClassName	8	指定したプロパティ名は存在しません。	<p>環境変数の設定に応じて、次のどちらかを実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」を設定している場合 環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリ /etc (UNIX の場合) または環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリ %etc (Windows の場合) の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したプロパティ名があるかどうか確認してください。</li> <li>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」を設定していない場合 オブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ /etc (UNIX の場合) またはオブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ %etc (Windows の場合) の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したプロパティがあるかどうか確認してください。</li> </ul>

## KMBR30103-E <P,F>

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2

クラス名 : %3

プロパティ名 : %4

An error occurred during the referencing of a class definition file.

Method name : %1

Reason code : %2

Class name : %3

Property name : %4

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いて、処理を再度実行してください。

表 6-5 要因コード別の対策一覧

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
GetPropertyId	8	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>指定したクラス名が存在しません。</li> <li>指定したプロパティ名がクラスに存在しません。</li> </ul>	環境変数の設定に応じて、次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」を設定している場合 環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリ /etc (UNIX の場合) または環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリ %etc (Windows の場合) の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したクラス名またはプロパティ名があるかどうか確認してください。</li> <li>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」を設定していない場合 オブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ /etc (UNIX の場合) またはオブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ %etc (Windows の場合) の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したプロパティ名またはクラス名があるかどうか確認してください。</li> </ul>
	51	クラスライブラリのクラス名が指定されていません。	クラスライブラリのクラス名は指定できません。クラス名を見直してください。

## KMBR30104-E &lt;P,F&gt;

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2

クラス名 : %3

プロパティ名 : %4

構成要素プロパティ名 : %5

An error occurred during the referencing of a class definition file.

Method name : %1

Reason code : %2

Class name : %3

Property name : %4

Constituent element property name : %5

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

表 6-6 要因コード別の対策一覧

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
GetPropertyId	8	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>指定したクラス名が存在しません。</li> <li>指定したプロパティ名がクラスに存在しません。</li> <li>指定した構成要素プロパティ名がクラスのプロパティに存在しません。</li> </ul>	環境変数の設定に応じて、次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」を設定している場合 環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリ /etc (UNIX の場合) または環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリ %etc (Windows の場合) の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したクラス名、プロパティ名、または構成要素プロパティ名があるかどうか確認してください。</li> <li>環境変数 「EDMCLASSDEFPATH」を設定していない場合 オブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ /etc (UNIX の場合) またはオブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ %etc (Windows の場合) の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したクラス名、プロパティ名、または構成要素プロパティ名があるかどうか確認してください。</li> </ul>
	51	クラスライブラリのクラス名が指定されていません。	クラスライブラリのクラス名は指定できません。クラス名を見直してください。

## KMBR30200-E <P,F>

クラスライブラリでエラーが発生しました。

クラス名 : %1

メソッド名 : %2

An error occurred in a class library.

Class name : %1

Method name : %2

クラスライブラリのメソッド (%2) 実行時にエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

## KMBR30201-E <P,F>

---

クラスライブラリでエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2,%3

An error occurred in a class library.

Method name : %1

Reason code : %2,%3

クラスライブラリのメソッド (%1) 実行時にエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2, %3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

なお、要因コードについては、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR30202-E <P,F>

---

クラスライブラリでエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2,%3

CORBA : %4

An error occurred in a class library.

Method name : %1

Reason code : %2,%3

CORBA : %4

クラスライブラリのメソッド (%1) 実行時にエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2, %3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

なお、要因コードについては、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR30203-E <P,F>

---

クラスライブラリでエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2,%3

Database : %4,%5

An error occurred in a class library.

Method name : %1

Reason code : %2,%3

Database : %4,%5

クラスライブラリのメソッド (%1) 実行時にエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2, %3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

なお、要因コードについては、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR30204-E <P,F>

---

クラスライブラリでエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2,%3

構文解析 : %4

An error occurred in a class library.

Method name : %1

Reason code : %2,%3

Parser : %4

クラスライブラリのメソッド (%1) 実行時にエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2, %3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

なお、要因コードについては、「8. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR31000-E <P,F>

---

ファイル中に処理できない文字コードが含まれています。

ファイル名 : %1

行 : %2

文字コード : %3

The file includes a character code that cannot be processed.

File name : %1

Line : %2

Character code : %3

指定したファイル (%1) 内に処理できない文字 (%3) が含まれています。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31001-E <P,F>

---

指定した文字列は長過ぎます。

ファイル名 : %1

行 : %2

文字列 : %3

The specified character string is too long.

File name : %1

Line : %2

Character string : %3

1,039 バイトを超える文字列 (%3) を指定しています。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31002-E <P,F>

---

構文が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

誤っている文字列 : %3

正しい文字列 : %4

Syntax error.

File name : %1

Line : %2

Incorrect character string : %3

Correct character string : %4

ファイル内の構文に不正な個所があります。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31003-E <P,F>

---

文字列 (%3) に指定している値を囲むためのシングルクォート ( ' ) が足りません。

ファイル名 : %1

行 : %2

文字列 : %3

One of the single quotation marks enclosing the specified value of %3 is missing.

File name : %1

Line : %2

Character string : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31004-E <P,F>

---

値がシングルクォートで囲まれていません。

ファイル名 : %1

行 : %2

エントリ名 : %3

A value is not enclosed in single quotation marks.

File name : %1

Line : %2

Entry name : %3

エントリ (%3) に指定している値は、シングルクォート ( ' ) で囲む必要があります。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31005-E <P,F>

---

指定した値が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

エントリ名 : %3

値 : %4

The specified value is invalid.

File name : %1

Line : %2

Entry name : %3

Value : %4

## 6. オブジェクト操作ツールのメッセージ

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31006-E <P,F>

---

ファイルが空です。

ファイル名 : %1

The file is empty.

File name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31007-E <P,F>

---

ファイルにセクションの記述がありません。

ファイル名 : %1

No section is coded in the file.

File name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31008-E <P,F>

---

文字列 (%3) に指定している値を囲むためのダブルクォート ( " ) が足りません。

ファイル名 : %1

行 : %2

文字列 : %3

One of the double quotation marks enclosing the specified value of %3 is missing.

File name : %1

Line : %2

Character string : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31009-E <P,F>

---

名前がダブルクォートで囲まれていません。

ファイル名 : %1

行 : %2

名前 : %3

The name is not enclosed in double quotation marks.

File name : %1

Line : %2

Name : %3

名前 (%3) は、ダブルクォート ( " ) で囲む必要があります。

( S )

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

( O )

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31100-E <P,F>

---

指定したセクション名が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

セクション名 : %3

The specified section name is invalid.

File name : %1

Line : %2

Section name : %3

( S )

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

( O )

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31101-E <P,F>

---

指定したエントリ名が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

エントリ名 : %3

## 6. オブジェクト操作ツールのメッセージ

A specified entry name is invalid.

File name : %1

Line : %2

Entry name : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31102-E <P,F>

---

必要なエントリを記述していません。

ファイル名 : %1

セクション名 : %2

エントリ名 : %3

A required entry is missing.

File name : %1

Section name : %2

Entry name : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31103-W <P,F>

---

指定した値が不正であるためデフォルト値を使用します。

ファイル名 : %1

セクション名 : %2

エントリ名 : %3

値 : %4

デフォルト値 : %5

A specified value is invalid, so the default value is used.

File name : %1

Section name : %2

Entry name : %3

Value : %4

Default value : %5

(S)

デフォルト値 (%5) を使用してオブジェクト操作ツールを実行します。

(O)

ファイルの記述内容を確認してください。

## KMBR31104-E <P,F>

---

指定した値の組み合わせが不正です。

ファイル名 : %1

セクション名 : %2

エントリ名 1 : %3

エントリ名 2 : %4

A combination of the values is invalid.

File name : %1

Section name : %2

Entry name 1 : %3

Entry name 2 : %4

エントリ名 1 (%3) とエントリ名 2 (%4) に指定した値の組み合わせが不正です。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

なお、エントリ名 1 (%3) およびエントリ名 2 (%4) に出力された値に応じて、次のどちらかの対策を実施してください。

- 指定していないエントリ名がエントリ名 1 (%3) またはエントリ名 2 (%4) に出力されている場合  
デフォルトの値が仮定されているため、デフォルト値を考慮してください。
- エントリ名 1 (%3) およびエントリ名 2 (%4) が、それぞれディレクトリまたはプリフィックスの場合  
次に示す条件を満たすようにパスを指定してから、処理を再度実行してください。

AIX の場合

(Directory エントリに指定したディレクトリパスのバイト数) + (Prefix エントリに指定した  
ディレクトリパスのバイト数) + 8 バイト 1,022 バイト

Windows の場合

(Directory エントリに指定したディレクトリパスのバイト数) + (Prefix エントリに指定した  
ディレクトリパスのバイト数) + 8 バイト 259 バイト

## KMBR31200-E <P,F>

---

1 行に複数の ID は記述できません。

ファイル名 : %1

行 : %2

## 6. オブジェクト操作ツールのメッセージ

Two or more IDs cannot be coded on one line.

File name : %1

Line : %2

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31201-E <P,F>

---

ファイルに ID の記述がありません。

ファイル名 : %1

No ID is coded in the file.

File name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31202-E <P,F>

---

指定した ID が不正です。

ID : %1

The specified ID is invalid.

ID : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ID を正しく指定してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31300-E <P,F>

---

指定したクラス名が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

クラス名 : %3

A specified class name is invalid.

File name : %1

Line : %2

Class name : %3

(S)  
オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)  
ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31301-E <P,F>

---

指定したプロパティ名が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

プロパティ名 : %3

A specified property name is invalid.

File name : %1

Line : %2

Property name : %3

(S)  
オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)  
ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31302-E <P,F>

---

指定した VariableArray 型プロパティの配列数又は構成要素プロパティ数が一致していません。

ファイル名 : %1

行 : %2

プロパティ名 : %3

The number of arrays of a VariableArray property or the number of constituent element properties is invalid.

File name : %1

Line : %2

Property name : %3

(S)  
オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)  
ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31303-E <P,F>

---

VariableArray 型の構成要素プロパティに VariableArray 型のプロパティを指定しています。

ファイル名 : %1

行 : %2

## 6. オブジェクト操作ツールのメッセージ

クラス名 : %3

プロパティ名 : %4

A VariableArray type property is specified for a VariableArray type constituent element property.

File name : %1

Line : %2

Class name : %3

Property name : %4

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31304-E <P,F>

---

指定したプロパティの基本単位又はデータ型はサポートされていません。

ファイル名 : %1

行 : %2

クラス名 : %3

プロパティ名 : %4

The cardinality or data type of the specified property is not supported.

File name : %1

Line : %2

Class name : %3

Property name : %4

指定した基本単位またはデータ型のプロパティに対する操作は、オブジェクト操作ツールではサポートされていません。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

クライアントアプリケーションを作成して実行してください。

### KMBR31305-E <P,F>

---

指定したエントリの配列数が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

エントリ名 : %3

The number of array that is specified entry is invalid.

File name : %1

Line : %2

Entry name : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31306-E <P,F>

---

指定したエントリ名が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

エントリ名 : %3

A specified entry name is invalid.

File name : %1

Line : %2

Entry name : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31307-E <P,F>

---

必要なエントリを記述していません。

ファイル名 : %1

行 : %2

エントリ名 : %3

A required entry is missing.

File name : %1

Line : %2

Entry name : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31501-E <P,F>

---

指定した edmSQL 文が長過ぎます。

## 6. オブジェクト操作ツールのメッセージ

ファイル名 : %1

The specified edmSQL statement is too long.

File name : %1

指定した edmSQL 文は、8,190 バイトを超えています。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

8,190 バイト以内の edmSQL 文を記述したファイルを指定してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32000-W <P,F>

---

コマンド実行ログを出力できませんでした。

The command execution log cannot be output.

(S)

コマンド実行ログの出力を中止しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

### KMBR32001-E <P,F>

---

%1 件目のオブジェクト操作時にエラーが発生しました。

An error occurred during operations on %1 objects.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

エラーの要因を取り除いて、%1 件目の処理から再度実行してください。

### KMBR32002-I <P,F>

---

%1 件のオブジェクトに対する操作を実行しました。

The operation on %1 objects finished executing.

(S)

-

(O)

-

### KMBR32003-I <P,F>

---

一覧取得又は検索の結果、該当するオブジェクトはありませんでした。

In the list acquisition results or the search results, the corresponding object does not exist.

(S)

-

(O)

### KMBR32004-E <P,F>

---

他のコマンドが実行中のため指定したコマンドを実行できません。

This command cannot be executed because another command is being executed.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ほかのコマンドの処理が終了してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32100-E <P,F>

---

指定したコマンドのオプション又は引数が不正です。

An option or an argument of the specified command is invalid.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

コマンドのオプションまたは引数を正しく指定してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32101-E <P,F>

---

引数又はフラグ引数にファイルは指定できません。

ファイル名 : %1

A file cannot be specified for an argument or flag argument.

File name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

コマンドのオプションまたは引数を正しく指定してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32102-E <P,F>

---

複数のオブジェクトを一括して操作することはできません。

You cannot operate on multiple objects in a batch.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

一件ずつ処理を実行してください。

### KMBR32103-E <P,F>

---

プロパティ情報ファイルに必要なエントリを定義していません。

エントリ名 : %1

A required entry is not defined in the property information file.

Entry name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

プロパティ情報ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32104-E <P,F>

---

二つのファイルに記述したオブジェクトの数が一致していません。

The numbers of objects coded in the two files do not match.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

各ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32105-E <P,F>

---

削除対象外のオブジェクトを削除対象に指定しています。

OIID : %1

An object that is not to be deleted is specified to be deleted.

OIID : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

コマンドのオプションまたは引数に指定しているファイルを確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32106-W <P,F>

---

ファイルが既にあるため処理をスキップします。

ファイル名 : %1

Processing will be skipped because the file already exists.

File name : %1

(S)

ファイルに対する処理をスキップします。

(O)

### KMBR32107-I <P,F>

---

オブジェクト操作ツールの実行環境を作成しました。

The execution environment of an object operation tool is created.

(S)

-

(O)

-

### KMBR32108-E <P,F>

---

オブジェクト操作ツールの実行環境作成中にエラーが発生したため、オブジェクト操作ツールの実行環境を作成できませんでした。

An error occurred during creation of an execution environment of an object operation tool, so the environment could not be created.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

### KMBR32109-I <P,F>

---

オブジェクト操作ツールの実行環境を更新しました。

The execution environment of an object operation tool was updated.

(S)

-

(O)

-

### KMBR32110-E <P,F>

---

オブジェクト操作ツールの実行環境作成中にエラーが発生したため、オブジェクト操作ツールの実行環境を更新できませんでした。

An error occurred during creation of an execution environment of an object operation tool, so the environment could not be updated.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

## KMBR32111-E <P,F>

---

オブジェクト操作ツールの実行環境を作成したユーザと異なるユーザによって実行されました。

The user who attempted to update an execution environment of an object operation tool was different from the user who created the environment.

オブジェクト操作ツールの実行環境を作成したユーザと異なるユーザが実行環境を更新しようとした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

オブジェクト操作ツールの実行環境を作成したユーザで、処理を再度実行してください。

## KMBR32112-W <P,F>

---

1行に出力できるサイズを超えたため、問い合わせファイルの選択式に指定したすべてのプロパティを出力できませんでした。

行 : %1

The command cannot output all properties specified in the selection expression of the query file because the data exceeds the size that can be output in one line.

Line : %1

(S)

可能な範囲でプロパティを出力します。

(O)

実行環境制御ファイルの Output セクションの LineSize を変更してから、処理を再度実行してください。

## KMBR32113-W <P,F>

---

1行に出力できるサイズを超えたため、すべての情報を出力できませんでした。

行 : %1

The command cannot output all information because the data exceeds the size that can be output in one line.

Line : %1

(S)

可能な範囲で情報を出力します。

(O)

実行環境制御ファイルの Output セクションの LineSize を変更してから、処理を再度実行してください。

## KMBR32114-E <P,F>

---

検索時にエラーが発生しました。

An error occurred during a search.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

## KMBR32115-I <P,F>

---

検索を実行しました。

The search has finished.

(S)

-

(O)

-

## KMBR32117-I <P,F>

---

指定したオブジェクトにはコンテンツが登録されていません。

OIID : %1

バージョン識別子 : %2

レンディションタイプ : %3

A no content registered in the specified object.

OIID : %1

Version ID : %2

Rendition Type : %3

バージョン識別子 (%2), レンディションタイプ (%3) の値のうち, コマンドのオプションに指定がない場合, または指定したオブジェクトに対して該当しない情報の場合について, 次の表に示します。

表 6-7 バージョン識別子とレンディションタイプの値

表示	値	説明
バージョン識別子 (%2)	latest	-v オプション省略時, 最新バージョンであることを示します。
	non apply	バージョンなし文書の場合に該当しない情報であることを示します。
レンディションタイプ (%3)	master	-M オプション省略時, マスタレンディションであることを示します。

(S)

-

(O)

-

## KMBR32118-E <P,F>

---

指定した URL が不正です。

## 6. オブジェクト操作ツールのメッセージ

URL : %1

The specified URL is invalid.

URL : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

次の内容を確認してエラーを取り除いてから、処理を再度実行してください。

- URL (%1) で指定したパスが正しいかどうか
- URL プロトコルに "file:" 以外を使用していないかどうか
- コマンドの -k オプションの指定 (文書のコンテンツの格納先) と URL の指定 (ファイルまたはディレクトリ) が一致しているかどうか

### KMBR32119-E <P,F>

---

アップロード情報ファイルに必要なエントリを定義していません。

エントリ名 : %1

A required entry is not defined in the upload information file.

Entry name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

アップロード情報ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32120-E <P,F>

---

プロパティ情報ファイルまたはアップロード情報ファイルに指定したディレクトリパスが不正です。

ディレクトリパス指定 : %1

A specified directory path is invalid in the property information file or upload information file.

Directory path : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

指定したディレクトリパスが存在するかどうか、URL プロトコルに "file:" 以外を使用していないかどうかを確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32121-E <P,F>

---

アップロード情報ファイルに指定したディレクトリパスにはファイルがありません。

ディレクトリパス指定 : %1

There is not a file in the directory path specified as an upload information file.

Directory path : %1

(S)  
オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)  
マルチファイル文書をアップロードする場合、マルチファイル文書として登録するファイルが必要です。登録するファイルが格納されているディレクトリパスを指定してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32122-E <P,F>

---

プロパティ情報ファイルまたはアップロード情報ファイルに指定したエントリに対する値が不正です。

エントリ名 : %1

値 : %2

A specified entry value is invalid in the property information file or upload information file.

Entry name : %1

Value : %2

(S)  
オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)  
プロパティ情報ファイルまたはアップロード情報ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32123-E <P,F>

---

ファイルサーバのFAM名またはコンテンツ保管先パスが指定されていません。

The FAM name of the file server or the path of the content area is not specified.

(S)  
オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)  
HiRDB File Link で使用するファイルサーバのFAM名またはコンテンツ保管先パスが、実行環境制御ファイル、コマンド引数、およびプロパティ情報ファイルのどれにも指定されていません。記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32124-W <P,F>

---

指定されたオブジェクトはマルチファイル文書ではありません。

OIID : %1

A specified object is not the multi file document.

OIID : %1

(S)  
オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)  
指定されたオブジェクトは、マルチファイル文書ではありません。OIID (%1) で示すオブジェクト

がマルチファイル文書であるか確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32125-E <P,F>

リファレンス種別が指定されていません。

The reference classification is not specified.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

リファレンスファイル管理機能で使用するリファレンス種別が、実行環境制御ファイル、コマンド引数、プロパティ情報ファイル、またはリファレンス情報ファイルのどれにも指定されていません。記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32126-E <P,F>

コンテンツ格納先ベースパスが指定されていません。

The path of the base content area is not specified.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

リファレンスファイル管理機能で使用するコンテンツ格納先ベースパスが、実行環境制御ファイル、コマンド引数、プロパティ情報ファイル、またはリファレンス情報ファイルのどれにも指定されていません。記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32127-W <P,F>

指定したオブジェクトに対する操作をスキップします。

OIID : %1

原因 : %2

The operation for the specified object is skipped.

OIID : %1

Cause : %2

(S)

オブジェクト操作ツールの処理を続行します。

(O)

OIID (%1) で示すオブジェクトに対する処理をスキップしました。次の表に示す対策一覧を基に、オブジェクトの状態を確認してから、コマンドを再度実行してください。

表 6-8 原因別の対策一覧

原因 (%2) に出力されるメッセージ	意味	対策
Convert Target Not Found	指定されたオブジェクトには、変換対象のコンテンツが存在しません。	存在するレンディションまたは変換元として指定したコンテンツ格納先が存在するオブジェクトを指定し、コマンドを実行してください。

原因 (%2) に出力されるメッセージ	意味	対策
Rendition Requiring Conversion Exist	DocumentBroker Rendering Option に対してレンディション変換を要求しているレンディションを検知しました。	DocumentBroker Rendering Option にてレンディション変換を行ったあと、再度コマンドを実行してください。
Rendition Conversion Error Exist	DocumentBroker Rendering Option でのレンディション変換時にエラーが発生したレンディションを検知しました。	マニュアル「DocumentBroker Rendering Option Version 3」または「DocumentBroker Rendering Option Version 3 (活文 PDFstaff 編)」を参考にエラー要因を取り除いてください。

## KMBR32200-E <P,F>

指定したオブジェクトに対する操作はサポートされていません。

オブジェクト種別 : %1

The operation is not supported for the specified object.

Object type : %1

指定したオブジェクトに対する操作は、オブジェクト操作ツールではサポートされていません。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ほかのコマンドで処理を実行するか、クライアントアプリケーションを作成して処理を実行してください。

## KMBR32201-E <P,F>

指定したオブジェクトに対する機能はサポートされていません。

機能 : %1

付加情報 : %2

The function is not supported for the specified object.

Function : %1

Additional information : %2

指定したオブジェクトに対する機能は、オブジェクト操作ツールではサポートされていません。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

クライアントアプリケーションを作成して処理を実行してください。



# 7

## 統計解析ツールのメッセージ

この章では、統計解析ツールに関するメッセージについて説明します。

---

7.1 KMBR50000 ~ KMBR59999

## 7.1 KMBR50000 ~ KMBR59999

---

### KMBR50000-E <C,P,F>

---

EDMRptAclog コマンドの実行中にエラーが発生したため、コマンドの実行を中止します。

Code : %1

Continuation not possible error has occurred, so processing stops.

Code : %1

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

保守員に連絡してください。

### KMBR50001-E <C,P,F>

---

メモリ不足が発生しました。

Insufficient memory has occurred.

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、EDMRptAclog コマンドを再度実行してください。

### KMBR50002-E <C,P,F>

---

ファイルを読み出せませんでした。

File Name : %1

Reason Code : %2

Could not read the file.

File Name : %1

Reason Code : %2

ファイル(%1)を読み出せないため、EDMRptAclog コマンドを実行できませんでした。

%1: 引数に指定したファイルのパス名

解析対象のファイルの指定を省略した場合は、\$DOCBROKERDIR/aru/input/Default Access Log Files (UNIX の場合) または \$DOCBROKERDIR¥Server¥aru¥input¥Default Access Log Files (Windows の場合) が出力されます。

%2: システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

次に示す手順で対策を実施してください。

1. ファイル(%1)の有無およびそのファイルに対するアクセス権を確認する。  
解析対象のファイルの指定を省略した場合は、EDMRptAclog コマンドのアクセスログファイル格納ディレクトリ (UNIX の場合「DocumentBroker 実行環境ディレクトリ /aru/input/spool/aclog」、Windows の場合「DocumentBroker インストールディレクトリ %aru%input%spool%aclog」) にあるアクセスログファイルの有無およびそのファイルに対するアクセス権を確認してください。
2. 要因コード(%2)を基に、エラーの要因を取り除いてから、EDMRptAclog コマンドを再度実行する。

## KMBR50003-E <C,P,F>

---

ファイルに書き込みできませんでした。

File Name : %1

Reason Code : %2

Could not write the file.

File Name : %1

Reason Code : %2

ファイル(%1)に書き込めなかったため、EDMRptAclog コマンドを実行できませんでした。

%2: システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

次に示す手順で対策を実施してください。

1. ファイル(%1)の有無、そのファイルに対するアクセス権、およびそのファイルの上位のディレクトリに対するアクセス権を確認する。
2. 要因コード(%2)を基に、エラーの要因を取り除いてから、EDMRptAclog コマンドを再度実行する。

## KMBR50004-E <C,P,F>

---

システムコールが失敗しました。

System Call : %1

Reason Code : %2

System call has failed.

System Call : %1

Reason Code : %2

%2: システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、EDMRptAclog コマンドを再度実行してください。

## KMBR50005-E <C,P,F>

---

環境変数が設定されていません。

Variable Name : %1

The environment variables are not set up.

Variable Name : %1

環境変数 (%1) を設定していないため、EDMRptAclog コマンドを実行できませんでした。

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

環境変数 (%1) を設定してから、EDMRptAclog コマンドを再度実行してください。

## KMBR50006-E <C,P,F>

---

プロパティ拡張情報ファイルの内容が不正です。

File Name : %1

Line Number : %2

The contents of the property extension information file are invalid.

File Name : %1

Line Number : %2

プロパティ拡張情報ファイル (propex.ini) に、不正な指定形式でセクションまたはエントリを指定しています。

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

プロパティ拡張情報ファイル (propex.ini) の %2 行目に、正しい指定形式でセクションまたはエントリを指定してください。

## KMBR50007-W <P,F>

---

アクセスログの内容が不正です。

File Name : %1

Line Number : %2

The contents of the access log file is invalid.

File Name : %1

Line Number : %2

(S)

EDMRptAclog コマンドの処理を続行します。

(O)

アクセスログファイル(%1)の%2行目を見直してください。

## KMBR50008-W <P,F>

---

データベースとの接続でエラーが発生しました。

Error Information SQLCODE : %1

SQLERRMC : %2

Error in database connection.

Error Information SQLCODE : %1

SQLERRMC : %2

データベース(HiRDB)との接続に失敗しました。

%1 : HiRDB のリターンコード

%2 : HiRDB のメッセージ

HiRDB のメッセージについては、マニュアル「HiRDB メッセージ」を参照してください。

(S)

EDMRptAclog コマンドの処理を続行します。

OIID または操作対象識別子はプロパティの値に変換しないで、OIID の末尾 16 バイトを出力します。

(O)

SQLCODE(%1)およびSQLERRMC(%2)を基に、データベース(HiRDB)の動作環境を見直してください。

## KMBR50009-W <P,F>

---

データベースの検索でエラーが発生しました。

Error Information SQLCODE : %1

SQL STATE : %2

SQLERRMC : %3

Error in database search.

Error Information SQLCODE : %1

SQL STATE : %2

SQLERRMC : %3

データベース(HiRDB)の検索に失敗しました。

%1, %2 : HiRDB のリターンコード

%3 : HiRDB のメッセージ

HiRDB のメッセージについては、マニュアル「HiRDB メッセージ」を参照してください。

(S)

EDMRptAclog コマンドの処理を続行します。

OIID または操作対象識別子はプロパティの値に変換しないで、OIID の末尾 16 バイトを出力します。

(O)

SQLCODE (%1), SQL STATE (%2) および SQLERRMC (%3) を基に、データベース (HiRDB) の動作環境を見直してください。

## KMBR50010-I <C,P,F>

---

指定した条件では、アクセスログファイルに処理すべきエントリがありません。

No entry found in the Access log file for the search criteria and the option combination specified.

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を終了しました。

(O)

アクセスログファイルまたはコマンドに指定したオプションを見直してください。

## KMBR50011-E <C,P,F>

---

ファイルディスクリプタが満杯です。

オープンしているファイルが多過ぎます。

The file descriptor table is full.

Too many files opened by the application.

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

不要なプログラムを終了してください。

## KMBR50012-E <C,P,F>

---

指定した集計終了時間が、集計開始時間より前か同じです。

Start time : %1

End time : %2

The value before or equal to start time is specified as the exit time.

Start time : %1

End time : %2

-e オプションに指定した終了時間 (%2) が、-s オプションに指定した開始時間 (%1) と同じ時間または開始時間より前の時間であるため、EDMRptAclog コマンドを実行できませんでした。

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

-s オプションおよび e オプションで指定した時刻を見直してください。

## KMBR50013-E <C,P,F>

---

オプションの組合せが不正です。

First option : %1

Second option : %2

Invalid combination of option specified.

First option : %1

Second option : %2

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

EDMRptAclog コマンドに指定した、オプション (%1, %2) の組み合わせを見直してください。

## KMBR50014-E <C,P,F>

---

-s オプション又は -e オプションで指定した時間のフォーマットが不正です。

Option : %1

Value : %2

Invalid format or value of date time specified for -s / -e.

Option : %1

Value : %2

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

-s オプションおよび -e オプションに、「yyyy/mm/dd hh:mm [:ss.sss]」(年/月/日時:分[:秒.ミリ秒])の形式で時間を指定してください。

## KMBR50015-E <C,P,F>

---

-d オプションで指定した値が不正です。

Value : %1

Invalid value of time interval specified for -d.

Value : %1

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

-d オプションに、1 ~ 43,200 の整数を指定してください。

## KMBR50016-E <C,P,F>

---

ディレクトリにアクセスできませんでした。

Directory Name : %1

Reason Code : %2

Could not access the directory.

Directory Name : %1

Reason Code : %2

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

次に示す手順で対策を実施してください。

1. ディレクトリ (%1) の有無およびそのディレクトリに対するアクセス権を確認する。
2. 要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、EDMRptAclog コマンドを再度実行する。

## KMBR50017-E <C,P,F>

---

指定したファイルが多過ぎます。

Too many filenames specified.

EDMRptAclog コマンドの引数に指定できるファイルの数は 160 個以下です。

EDMRptAclog コマンドの引数に、161 個以上のファイルを指定するとエラーになります。

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

160 個以下のファイルを指定して、EDMRptAclog コマンドを再度実行してください。

## KMBR50019-I <C,P,F>

---

プロパティ拡張情報ファイル (propex.ini) が見付かりません。

Reason Code : %1

propex.ini file not found.

Reason Code : %1

%1 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMRptAclog コマンドの処理を続行します。

OIID または操作対象識別子はプロパティの値に変換しないで、OIID の末尾 16 バイトを出力します。

(O)

プロパティ拡張情報ファイル (propex.ini) の有無およびそのファイルに対するアクセス権を見直してください。プロパティ拡張情報ファイル (propex.ini) は、必要に応じて作成してください。

## KMBR50020-I <C,P,F>

---

プロパティ拡張情報ファイル (propex.ini) でクラス ID が見付かりませんでした。

Class ID : %1

Could not find class id in propex.ini file.

Class ID : %1

(S)

EDMRptAclog コマンドの処理を続行します。

OIID または操作対象識別子はプロパティの値に変換しないで、OIID の末尾 16 バイトを出力します。

(O)

要因に応じて次に示す対策を実施してください。

- ClassId エントリを指定していない場合

ClassId エントリに、OIID 変換をするプロパティのクラス ID を表す GUID 文字列を指定してください。

- ClassId エントリを指定している場合

クラス名セクションの次の行に ClassId エントリを指定しているか、ClassId エントリに指定した値が正しいかどうか確認してください。

## KMBR50021-E <C,P,F>

---

指定したプロパティのデータタイプは、サポート対象外です。

Property name : %1

The data type of specified property is not supported.

Property name : %1

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

プロパティ拡張情報ファイル (propex.ini) の PrepresentProperties エントリには、データ型が MVARCHAR, INTEGER または CHAR の値を指定してください。

## KMBR50022-E <C,P,F>

---

指定したファイル又はディレクトリを読み出せませんでした。

File Name or Directory Name : %1

Reason Code : %2

Could not read the user specified file or directory.

File Name or Directory Name : %1

Reason Code : %2

ファイルまたはディレクトリ (%1) を読み出せないため、EDMRptAclog コマンドを実行できませんでした。

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

次に示す手順で対策を実施してください。

1. 指定したファイルまたはディレクトリ (%1) の有無、そのファイルまたはディレクトリに対するアクセス権を確認する。
2. 要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、EDMRptAclog コマンドを再度実行する。

## KMBR50023-W <P,F>

---

データベースで、PrepresentProperties が見つかりませんでした。

PrepresentProperties : %1

SQLERRMC : %2

Could not find PrepresentProperties in database.

PrepresentProperties : %1

SQLERRMC : %2

データベース (HiRDB) で、プロパティ拡張情報ファイル (propex.ini) の PrepresentProperties エントリに指定したプロパティ (%1) が見つかりませんでした。

%2 : HiRDB のメッセージ

HiRDB のメッセージについては、マニュアル「HiRDB メッセージ」を参照してください。

(S)

EDMRptAclog コマンドの処理を続行します。

OIID または操作対象識別子はプロパティの値に変換しないで、「(deleted)」を出力します。

(O)

SQLERRMC(%2) を基に、プロパティ拡張情報ファイル (propex.ini) の設定内容を見直してください。

## KMBR50024-W <P,F>

---

テーブルに対する SELECT 権がありません。

Table Name : %1

SQLERRMC : %2

Do not have the SELECT Access privilege to the specified table.

Table Name : %1

SQLERRMC : %2

データベース (HiRDB) の表 (%1) に対する SELECT 権限がありません。

%2: HiRDB のメッセージ

HiRDB のメッセージについては、マニュアル「HiRDB メッセージ」を参照してください。

(S)

EDMRptAclog コマンドの処理を続行します。

OIID または操作対象識別子はプロパティの値に変換しないで、「(deleted)」を出力します。

(O)

SQLERRMC(%2) を基に、DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に、データベース (HiRDB) の表 (%1) に対する SELECT 権限を持つユーザとして設定されているか確認してください。

## KMBR50025-I <C,P,F>

---

EDMRptAclog コマンドの実行を開始しました。

EDMRptAclog started.

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を開始しました。

(O)

-

## KMBR50026-I <C,P,F>

---

EDMRptAclog コマンドの実行を終了しました。

EDMRptAclog ended.

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を終了しました。

(O)

-

## KMBR50027-W <P,F>

---

データベースで、OIID の後ろ 16 バイトが見つかりませんでした。

EndBytes : %1

Could not find end sixteen bytes of OIID in database.

EndBytes : %1

オブジェクトが削除された可能性があります。

(S)

EDMRptAclog コマンドの処理を続行します。

OIID または操作対象識別子はプロパティの値に変換しないで、「(deleted)」を出力します。

(O)

必要に応じてプロパティ拡張情報ファイル (propex.ini) の設定内容を見直してください。

## KMBR50028-W <P,F>

---

データベースで、クラスが見つかりませんでした。

Class : %1

Could not find Class in database.

Class : %1

プロパティ拡張情報ファイル (propex.ini) のクラス名セクションに不正な値を指定しているか、クラス (%1) が削除された可能性があります。

(S)

EDMRptAclog コマンドの処理を続行します。

OIID または操作対象識別子はプロパティの値に変換しないで、「(deleted)」を出力します。

(O)

プロパティ拡張情報ファイル (propex.ini) のクラス名セクションに、OIID 変換または操作対象識別子変換をするプロパティのクラス名を正しく指定してください。

## KMBR50029-E <C,P,F>

---

指定したファイルの内容が不正です。

File Name : %1

Line Number : %2

The contents of the user specified file is invalid.

File Name : %1

Line Number : %2

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目に、正しい指定形式でセクションまたはエントリを指定してください。

## KMBR50031-E <C,P,F>

---

ファイル内にセクションが見つかりませんでした。

File Name : %1

Section Name : %2

Could not find the section in file.

File Name : %1

Section Name : %2

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

ファイル (%1) に、セクション (%2) を指定してください。

### KMBR50032-E <C,P,F>

---

ファイル内にエントリが見つかりませんでした。

File Name : %1

Entry : %2

Could not find the entry in file.

File Name : %1

Entry : %2

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

ファイル (%1) に、エントリ (%2) を指定してください。

### KMBR50033-E <C,P,F>

---

ファイル内にエントリの値が見つかりませんでした。

File Name : %1

Entry : %2

Could not find the value for the entry in file.

File Name : %1

Entry : %2

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

ファイル (%1) のエントリ (%2) に、値を指定してください。

### KMBR50034-W <C,P,F>

---

指定したディレクトリの下にファイルがありません。

There is no file under the specified directory(s).

(S)

処理を終了します。

(O)

処理対象のファイルがあるディレクトリを指定してください。

### KMBR50035-W <P,F>

---

データベースで、カラムの値が見つかりませんでした。

Column Name : %1

Table Name : %2

## 7. 統計解析ツールのメッセージ

OIID Value : %3

Could not find the column value in database.

Column Name : %1

Table Name : %2

OIID Value : %3

オブジェクトが削除された可能性があります。

(S)

EDMRptAclog コマンドの処理を続行します。

操作対象識別子はプロパティの値に変換しないで、「(deleted)」を出力します。

(O)

必要に応じて動作環境定義ファイルの内容を見直してください。

### KMBR50036-E <C,P,F>

---

動作環境定義ファイルの内容が不正です。

File Name : %1

Line Number : %2

The contents of the configuration file is invalid.

File Name : %1

Line Number : %2

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

動作環境定義ファイル (edmrpt.ini) の %2 行目に、正しい指定形式でセクションまたはエントリを指定してください。

### KMBR50037-E <C,P,F>

---

動作環境定義ファイル (edmrpt.ini) のセクションに値が設定されていません。

Section Name : %1

The value for the section in file edmrpt.ini is not specified.

Section Name : %1

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

動作環境定義ファイル (edmrpt.ini) のセクション (%1) にエントリを指定してください。

### KMBR50038-E <C,P,F>

---

動作環境定義ファイル (edmrpt.ini) 内にセクションが見つかりませんでした。

Section Name : %1

Could not find the section in edmrpt.ini file.

Section Name : %1

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

動作環境定義ファイル ( edmrpt.ini ) にセクション ( %1 ) を指定してください。

## KMBR50039-E <C,P,F>

---

動作環境定義ファイル ( edmrpt.ini ) が見付かりません。

Reason Code : %1

edmrpt.ini file not found.

Reason Code : %1

(S)

EDMRptAclog コマンドの実行を中止しました。

(O)

動作環境定義ファイル ( edmrpt.ini ) の有無およびそのファイルに対するアクセス権を見直してください。

## KMBR51000-E <C,P,F>

---

EDMRptTrace コマンドの実行中にエラーが発生したため、コマンドの実行を中止します。

Code : %1

Continuation not possible error has occurred, so processing stops.

Code : %1

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

保守員に連絡してください。

## KMBR51001-E <C,P,F>

---

メモリ不足が発生しました。

Insufficient memory has occurred.

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、EDMRptTrace コマンドを再度実行してください。

## KMBR51002-E <C,P,F>

---

ファイルを読み出せませんでした。

File Name : %1

Reason Code : %2

Could not read the file.

File Name : %1

Reason Code : %2

ファイル (%1) を読み出せないため、EDMRptTrace コマンドを実行できませんでした。

%1 : 引数に指定したファイルのパス名

解析対象のファイルの指定を省略した場合は、\$DOCBROKERDIR/aru/input/Default Trace Log Files (UNIX の場合) または \$DOCBROKERDIR¥Server¥aru¥input¥Default Trace Log Files (Windows の場合) が出力されます。

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

次に示す手順で対策を実施してください。

1. ファイル (%1) の有無およびそのファイルに対するアクセス権を確認する。

解析対象のファイルの指定を省略した場合は、EDMRptTrace コマンドのクライアントトレース格納ディレクトリ (UNIX の場合「DocumentBroker 実行環境ディレクトリ /aru/input/spool/client」、Windows の場合「DocumentBroker インストールディレクトリ ¥aru¥input¥spool¥client」) にあるトレースファイルの有無およびそのファイルに対するアクセス権を確認してください。

2. 要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、EDMRptTrace コマンドを再度実行する。

## KMBR51003-E <C,P,F>

---

ファイルに書き込みできませんでした。

File Name : %1

Reason Code : %2

Could not write the file.

File Name : %1

Reason Code : %2

ファイル (%1) に書き込めないため、EDMRptTrace コマンドを実行できませんでした。

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

次に示す手順で対策を実施してください。

1. ファイル (%1) の有無, そのファイルに対するアクセス権, およびそのファイルの上位のディレクトリに対するアクセス権を確認する。
2. 要因コード (%2) を基に, エラーの要因を取り除いてから, EDMRptTrace コマンドを再度実行する。

## KMBR51004-E <C,P,F>

---

システムコールが失敗しました。

System Call : %1

Reason Code : %2

System call has failed.

System Call : %1

Reason Code : %2

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については, errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2) を基に, エラーの要因を取り除いてから, EDMRptTrace コマンドを再度実行してください。

## KMBR51005-E <C,P,F>

---

環境変数が設定されていません。

Variable Name : %1

The environment variables are not set up.

Variable Name : %1

環境変数 (%1) を設定していないため, EDMRptTrace コマンドを実行できませんでした。

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

環境変数 (%1) を設定してから, EDMRptTrace コマンドを再度実行してください。

## KMBR51006-W <P,F>

---

トレースファイルの内容が不正です。

File Name : %1

Line Number : %2

The message format or the value specified in the fields of the trace file is invalid.

File Name : %1

Line Number : %2

(S)

EDMRptTrace コマンドの処理を続行します。

(O)

トレースファイル(%1)の%2行目を見直してください。

## KMBR51007-I <C,P,F>

---

指定した条件では、トレースファイルに処理すべきエントリがありません。

No entry found in the trace file for the search criteria and the option combination specified.

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を終了しました。

(O)

トレースファイルまたはコマンドに指定したオプションを見直してください。

## KMBR51008-E <C,P,F>

---

ファイルディスクリプタが満杯です。

オープンしているファイルが多過ぎます。

The file descriptor table is full.

Too many files opened by the application.

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

不要なプログラムを終了してください。

## KMBR51009-E <C,P,F>

---

指定した集計終了時間が、集計開始時間より前か同じです。

Start time : %1

End time : %2

The value before or equal to start time is specified as the exit time.

Start time : %1

End time : %2

-e オプションに指定した終了時間(%2)が、-s オプションに指定した開始時間(%1)と同じ時間または開始時間より前の時間であるため、EDMRptTrace コマンドを実行できませんでした。

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

-s オプションおよび e オプションで指定した時刻を見直してください。

### KMBR51010-E <C,P,F>

---

オプションの組合せが不正です。

First option : %1

Second option : %2

Invalid combination of option specified.

First option : %1

Second option : %2

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

EDMRptTrace コマンドに指定した、オプション (%1, %2) の組み合わせを見直してください。

### KMBR51011-E <C,P,F>

---

-s オプション又は -e オプションで指定した時間のフォーマットが不正です。

Option : %1

Value : %2

Invalid format or value of date time specified for -s / -e.

Option : %1

Value : %2

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

-s オプションおよび e オプションに、「yyyy/mm/dd hh:mm [:ss.sss]」(年/月/日時:分[:秒.ミリ秒])の形式で時間を指定してください。

### KMBR51012-E <C,P,F>

---

-d オプションで指定した値が不正です。

Value : %1

Invalid value of time interval specified for -d.

Value : %1

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

-d オプションに、1 ~ 43,200 の整数を指定してください。

## KMBR51013-E <C,P,F>

---

ディレクトリにアクセスできませんでした。

Directory Name : %1

Reason Code : %2

Could not access the directory.

Directory Name : %1

Reason Code : %2

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

次に示す手順で対策を実施してください。

1. ディレクトリ (%1) の有無およびそのディレクトリに対するアクセス権を確認する。
2. 要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、EDMRptTrace コマンドを再度実行する。

## KMBR51014-E <C,P,F>

---

指定したファイル又はディレクトリを読み出せませんでした。

File Name or Directory Name : %1

Reason Code : %2

Could not read the user specified file or directory.

File Name or Directory Name : %1

Reason Code : %2

ファイルまたはディレクトリ (%1) を読み出せないため、EDMRptTrace コマンドを実行できませんでした。

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、errno.h (UNIX の場合) または OS のマニュアルを参照してください。

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

次に示す手順で対策を実施してください。

1. ファイルまたはディレクトリ (%1) の有無、そのファイルまたはディレクトリに対するアクセス権を確認する。
2. 要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、EDMRptTrace コマンドを再度実行する。

## KMBR51015-E <C,P,F>

---

指定したファイルが多過ぎます。

Too many filenames specified.

EDMRptTrace コマンドの引数に指定できるファイルの数は 160 個以下です。

EDMRptTrace コマンドの引数に、161 個以上のファイルを指定するとエラーになります。

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

160 個以下のファイルを指定して、EDMRptTrace コマンドを再度実行してください。

## KMBR51016-I <C,P,F>

---

EDMRptTrace コマンドの実行を開始しました。

EDMRptTrace started.

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を開始しました。

(O)

-

## KMBR51017-I <C,P,F>

---

EDMRptTrace コマンドの実行を終了しました。

EDMRptTrace ended.

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を終了しました。

(O)

-

## KMBR51018-E <C,P,F>

---

指定したファイルの内容が不正です。

File Name : %1

Line Number : %2

The contents of the user specified file is invalid.

File Name : %1

Line Number : %2

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

ファイル(%1)の%2行目に、正しい指定形式でセクションまたはエントリを指定してください。

## KMBR51019-E <C,P,F>

---

ファイル内にセクションが見つかりませんでした。

File Name : %1

Section Name : %2

Could not find the section in file.

File Name : %1

Section Name : %2

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

ファイル(%1)に、セクション(%2)を指定してください。

## KMBR51020-E <C,P,F>

---

指定したディレクトリの下にファイルがありません。

There is no file under the specified directory(s).

(S)

EDMRptTrace コマンドの実行を中止しました。

(O)

処理対象のファイルがあるディレクトリを指定してください。

# 8

## 戻り値一覧

この章では、クラスライブラリのメソッドを実行したときに返される戻り値について説明します。また、クラスライブラリの戻り値一覧を掲載します。

---

8.1 クラスライブラリの戻り値

---

8.2 DMA の戻り値

---

8.3 クラスライブラリ独自の戻り値 (ERR\_DBR の場合)

---

8.4 データベースエラーが発生した場合の戻り値 (ERR\_DB の場合)

---

## 8.1 クラスライブラリの戻り値

クラスライブラリの戻り値には、`major_code` と `minor_code` があります。`major_code` の種類によって、エラーの種類を特定できます。`major_code` および `minor_code` は、`CdbrCore` で定義されている `GetLastError` メソッドによって返却されます。`major_code` はメソッドの戻り値として、`minor_code` はメソッドの引数として返却されます。

次の表に、戻り値の種類と `major_code` の関係を示します。

表 8-1 戻り値の種類と `major_code` の関係

戻り値の種類	<code>major_code</code>	<code>major_code</code> の戻り値
エラーがない場合	<code>ERR_NOERROR</code>	0
DMA の戻り値	<code>ERR_DMA</code>	1
CORBA の戻り値	<code>ERR_CORBA</code>	2
クラスライブラリ独自の戻り値	<code>ERR_DBR</code>	3
データベースエラーが発生した場合の戻り値	<code>ERR_DB</code>	4

`major_code` が、`ERR_DMA`、`ERR_DBR` または `ERR_DB` の場合、`minor_code` が取得できます。

なお、`major_code` が `ERR_CORBA` の場合の戻り値については、マニュアル「[VisiBroker for C++ プログラマーズガイド](#)」を参照してください。

## 8.2 DMA の戻り値

major\_code が ERR\_DMA の場合の minor\_code の一覧を次の表に示します。

表 8-2 major\_code が ERR\_DMA の場合の DMA の戻り値一覧

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
-2147024809	DMARC_BAD_PARAMETER	不正な引数が入力されました。	正しい引数を指定してください。
-2147024882	DMARC_NO_MEMORY	メモリ不足で実行できません。	メモリを増設してください。またはメモリを大量に消費しているアプリケーションを停止させて、処理を再実行してください。
-2147024891	DMARC_ACCESS_DENIED	要求された操作に対してアクセス権がありません。	正しいアクセス権を設定してください。
-2147217384	EDMRC_NOT_OUTTRANSACTION	トランザクション内でメソッドが呼ばれました。	CdbrSession::Begin() メソッドを呼び出す前に、この操作を実行してください。
-2147217386	EDMRC_FTPSERVICE_NOT_AVAILABLE	ファイル転送サービスが利用できません。	サーバのバージョンに対応したクライアントを利用してください。
-2147217387	EDMRC_FTPSERVICE_MAX_SESSION	ファイル転送サービスに同時に接続できるセッション数の上限に達しています。	時間を置いて、Connect ユーザ数が減ったあと、再度実行してください。または、ファイル転送サービス環境定義ファイルの FtpSessionMax エントリを見直してください。
-2147217388	EDMRC_NO_FTPSERVICE	使用できるファイル転送サービスがありません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク環境を確認してください。</li> <li>_HIEDMS_FTPMODE=STATIC を指定してファイル転送サービスを起動しているかどうかを、確認してください。</li> <li>時間を置いて、再度実行してください。</li> <li>ファイル転送サービスのセットアップコマンドを実行しているかどうかを、確認してください。</li> </ul>
-2147217389	EDMRC_FTPSERVICE_LOST_CONNECTION	ファイル転送サービスへのセッションが切断されました。	ネットワーク環境を確認してください。または、時間を置いて、再度実行してください。
-2147217390	EDMRC_QPARAM_INDEX_OUT_OF_RANGE	? パラメタの設定で指定した値の個数を超える出現順序が指定されています。	? パラメタの設定を見直して、正しい出現順序を指定してください。
-2147217391	EDMRC_QPARAM_BAD_VALUE	? パラメタの設定で指定した値が、不正である可能性があります。	設定した ? パラメタの値とデータ型を見直してください。
-2147217402	EDMRC_IN_ASYNC_EXECUTE	SQL 文の非同期実行中です。	この操作は実行できません。
-2147217404	EDMRC_NOT_IN_TRANSACTION	トランザクション外でメソッドが呼ばれました。	Begin メソッドを呼び出したあとに、この操作を実行してください。
-2147217407	EDMRC_PARSE_ERROR	XML 文書の構文解析エラーが発生しました。	XML 文書の内容を見直してください。
-2147220868	DMARC_CONFLICTING_OPERATION	メソッドの呼び出し順序が矛盾しています。	正しい呼び出し順序でメソッドをコールしてください。

## 8. 戻り値一覧

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
-2147220869	DMARC_MULTIPLE_CHECKIN_NOT_SUPPORTED	同一オブジェクト上の複数の異なるチェックインをサポートしません。	この操作は実行できません。
-2147220870	DMARC_BAD_DOC_SPACE	指定された識別子の文書空間は存在しません。	正しい文書空間を指定してください。
-2147220873	DMARC_AT_ENUM_END	EnumerationOfObject オブジェクトの現在位置は、要素であるオブジェクト群の末尾です。	DocumentBroker サーバのメタ情報ファイル (slocalreg.ini) を見直してください。
-2147220875	DMARC_RESULTS_TRUNCATED	結果集合は IdmaResultSet:TerminateResults の呼び出しによって切断されます。	この操作は実行できません。
-2147220876	DMARC_NETWORK_ERROR	ネットワーク環境でエラーが発生しました。	ネットワーク環境を確認してください。
-2147220885	DMARC_REQUIRED_VALUE_ABSENT	必要なプロパティ値が設定されていません。	値が必須のプロパティに値が設定されていません。
-2147220887	DMARC_CONSTRAINT_VIOLATED	制約違反の操作です。	この操作は実行できません。
-2147220889	DMARC_DATATYPE_MISMATCH	プロパティのデータ型に適切ではないメソッドです。	正しい型を指定してください。
-2147220900	DMARC_ILLEGAL_OPERATION	DMA 規約で禁止されている操作です。	この操作は実行できません。
-2147220903	DMARC_NOT_AUTHENTICATED	ユーザは認証されていません。	正しいユーザ ID およびパスワードを指定してください。
-2147220906	DMARC_NO_RESERVATION	バージョン識別子が予約されていません。 または、チェックアウトされていません。	チェックイン後に割り当てられる正式なバージョン識別子を、入力引数に設定してください。 または、チェックアウト状態を確認してください。
-2147220908	DMARC_BAD_PROTECTION_LEVEL	同時更新に対する保護レベルが不正です。	正しい保護レベルを設定してください。
-2147220912	DMARC_TIMEOUT	制限時間を超過しました。	タイムアウトしました。
-2147220921	DMARC_BAD_OPERAND	オペランドのデータ型、形式またはクラスが不正です。	オペランドに正しいデータ型や形式、クラスを指定してください。
-2147220925	DMARC_MAX_ROWS	検索結果の最大項目数を超えたため、検索結果の一部が切り捨てられました。	最大項目数を変更して、再度実行してください。
-2147220932	DMARC_RESERVATION_EXISTS	Version Series は Reservation をすでに保持しています。	この操作は実行できません。
-2147220933	DMARC_RESERVATION_NOT_ALLOWED	Reservation が現在存在しないのに、Version Series の条件によって Reservation が許可されませんでした。	この操作は実行できません。
-2147220934	DMARC_RESERVATION_PENDING	コネクションはすでに Reservation 要求を保持しています。一度に二つ以上は存在できません。	この操作は実行できません。
-2147220936	DMARC_NO_CURRENT_VERSION	VersionSeries が最新バージョンを保持していません。	この操作は実行できません。

minor_code の戻り値	minor_code	説明	対処
-2147220938	DMARC_NETWORK_UNAVAILABLE	この操作を実行するために必要なネットワークが利用できません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク環境を確認してください。</li> <li>クライアント側で接続する DocumentBroker サーバを選択している場合は、接続先の DocumentBroker サーバの docspace.ini の [Entry0001] セクションに「SelectServerInMultiServer=Yes」の定義があるか確認してください。クライアント側で接続する DocumentBroker サーバを選択していない場合は、「SelectServerInMultiServer=No」と定義しているか確認してください。</li> <li>DocumentBroker サーバが起動しているか確認してください。</li> <li>EDMRefresher コマンドが実行中の場合は、コマンド終了後、再度実行してください。</li> </ul>
-2147220943	DMARC_DEVICE_ERROR	データベースのアクセスエラーが発生しました。	エラーメッセージを参照してエラーの要因を取り除いてください。
-2147220945	DMARC_BAD_OIID	SetOIID メソッドで設定された OIID が不正です。 または、引数で指定された OIID が不正です。	正しい OIID を指定してください。
-2147220947	DMARC_READ_ONLY	読み取り専用のオブジェクトまたはプロパティのため、異常終了しました。	このプロパティの値は更新できません。
-2147220951	DMARC_BAD_VALUE	次の要因が考えられます。 1. プロパティやリストの値が、許される範囲外の値であるか、または最大値を超えました。 2. VariableArray 型プロパティに設定する可変長配列の要素数が最大値を超えました。 3. docspace.ini の [Entry0001] セクションに「VArrayElementCheck=Yes」の定義がある場合に、VariableArray 型プロパティの要素の値が、許される範囲外の値であるか、または最大値を超えました。	要因に応じて、次の対策を実施してください。 1. プロパティやリストの値の範囲を見直してください。 2. VariableArray 型プロパティに設定する可変長配列の要素数を見直してください。 3. VariableArray 型プロパティの要素の値の範囲を見直してください。
-2147220953	DMARC_BAD_URL	リソースの URL が不正です。	URL の内容を見直してください。
-2147220955	DMARC_URL_PROTOCOL_NOT_SUPPORTED	サポートしていない URL プロトコルです。	file:/// で始まっているか確認してください。
-2147220957	DMARC_RESOURCE_NOT_FOUND	指示されたリソースが見つかりません。	正しいリソースを指定してください。
-2147220958	DMARC_VALUE_NOT_SET	要求されたプロパティは値を保持していません。	この操作は実行できません。

## 8. 戻り値一覧

minor_code の戻り値	minor_code	説明	対処
-2147220962	DMARC_OBJECT_LOCKED	オブジェクトがロックされています。	時間をおいて、再度実行してください。
-2147220964	DMARC_NOT_SUPPORTED	次の要因が考えられます。 1. このセッションまたはオブジェクトではサポートされていないメソッドです。または、サポートされていないデータ型です。 2. 未サポートのモードを指定しています。 3. シングルスレッド対応のクライアントアプリケーションから発行されています。	要因に応じて、次の対策を実施してください。 1. この操作は実行できません。 2. このモードは指定できません。 3. マルチスレッド対応のクライアントアプリケーションから発行してください。
-2147220966	DMARC_NOT_FOUND	要求された要素が見つかりません。	正しいオブジェクトを設定してください。
-2147220968	DMARC_DISCONNECTED	文書空間との接続が切断されました。	セッションを接続してください。
-2147220971	DMARC_LOST_CONNECTION	現在のオブジェクトからデータベースへの論理的な接続が失われました。操作は完了できません。	文書空間に再接続してください。
-2147220979	DMARC_FOREIGN_OBJECT	そのオブジェクトは現在の文書空間ではありません。	正しいオブジェクトを指定してください。
-2147220981	DMARC_BAD_PROPID	プロパティの識別子が不正です。	正しいプロパティ識別子を指定してください。
-2147220984	DMARC_BAD_LOCK_TYPE	不正な種類のロックが指定されています。	正しいロックタイプを指定してください。
-2147220986	DMARC_BAD_INDEX	指定されたインデックスは、正当なプロパティまたはリスト要素を参照していません。	正しいインデックスを指定してください。
-2147220988	DMARC_BAD_CLASSID	指定された識別子は、利用できるオブジェクトのクラスではありません。	正しいクラス識別子を指定してください。
-2147418113	DMARC_UNEXPECTED	予期しないエラーが発生しました。	処理を終了してください。

minor_code の戻り値	minor_code	説明	対処
-2147467259	DMARC_FAILED	<p>次の要因が考えられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実行した操作の処理に失敗しました。</li> <li>2. DocumentBroker サーバのメタ情報ファイルが不正です。</li> <li>3. メモリが不足しています。</li> <li>4. DocumentSpace 構成定義ファイルの ProcessOrbBoaOption エントリに、-OThreadMax オプションを 129 以上の値で指定している環境で、同時に 129 以上のクライアントから CdbSession::Connect メソッドが発行されています。</li> <li>5. メソッドの発行順序が不正です。</li> <li>6. ディスク容量が不足しています。</li> </ol>	<p>要因に応じて、次の対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時間を置いてから再度実行するか、処理を見直してください。</li> <li>2. DocumentBroker の実行環境ディレクトリ /etc/meta_files (UNIX の場合) または DocumentBroker のインストールディレクトリ %Server%\etc\meta_files (Windows の場合) の下位にあるファイルを削除してから、-F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行してください。</li> <li>3. メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、処理を再度実行してください。</li> <li>4. 時間を置いて再度実行するか、または -OThreadMax オプションの値を 128 以下にしてください。</li> <li>5. メソッドの発行順序を見直してください。</li> <li>6. 不要なファイルを削除して空き容量を増やすか、空き容量のあるパスを指定してください。</li> </ol>
-2147467262	DMARC_BAD_INTERFACE	<p>要求したインターフェースは、このオブジェクトではサポートしていません。</p>	<p>正しいインターフェースを指定してください。</p>

## 8.3 クラスライブラリ独自の戻り値 (ERR\_DBR の場合)

major\_code が ERR\_DBR の場合の minor\_code の一覧を次の表に示します。

表 8-3 major\_code が ERR\_DBR の場合のクラスライブラリ独自の戻り値一覧

minor_code の戻り値	minor_code	説明	対処
4	ERR_SESSION_ALREADY_CONNECTED	セッションがすでに接続されています。	処理を継続してください。または、いったん切断してから、再度このメソッドをコールしてください。
5	ERR_SESSION_NOT_CONNECTED	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• セッションが接続されていません。</li> <li>• EDMRefresher コマンドが実行中です。</li> <li>• メモリサイズ監視によるサービスプロセスのリフレッシュが実行中です。</li> </ul>	要因に応じて、次のどちらかの対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• セッションを接続してください。</li> <li>• EDMRefresher コマンドが終了したあと、再度実行してください。</li> <li>• メモリサイズ監視によるサービスプロセスのリフレッシュが終了したあと、再度実行してください。</li> </ul>
7	ERR_BAD_INTERFACE	指定されたインターフェースが不正です。	正しいインターフェースを指定してください。
8	ERR_BAD_PARAMETER	不正な引数が入力されました。	正しい引数を指定してください。
10	ERR_OBJECT_ALREADY_CONNECTED	オブジェクトはすでに接続されています。	この操作は実行できません。
11	ERR_OBJECT_NOT_CONNECTED	オブジェクトは接続されていません。	オブジェクトを接続してください。
25	ERR_NONEXISTS_VERSION	指定されたバージョンは存在しません。	正しいバージョンを指定してください。
29	ERR_ACLIB_OBJECT_INVALID	クラスライブラリのオブジェクトは無効です。	有効なクラスライブラリのオブジェクトを指定してください。
30	ERR_OIID_NOT_SET	OIID が設定されていません。	SetOIID メソッドをコールしてから、このメソッドをコールしてください。
31	ERR_OBJECT_REMOVED	オブジェクトはすでに削除されています。	正しいオブジェクトを指定してください。
32	ERR_LAST_VERSION	指定されたバージョンは唯一のバージョンであるため、削除できません。	この操作は実行できません。
33	ERR_SESSION_OVERFLOW	制限を超えて Connect しようとしました。	時間を置いて、Connect ユーザ数が減ったあと、再度実行してください。
34	ERR_INVALID_STATUS	セッションの状態が不正です。一つのセッションに同時に複数のメソッド処理要求が出されています。	一つのセッションに対して一度に一つの処理要求しか出さないように見直してください。

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
35	ERR_NO_SERVICE	使用できるサービスプロセスがありません。	時間を置いて、再度実行してください。 EDMRefresher コマンドが実行中の場合は、コマンド終了後、再度実行してください。
36	ERR_NOTSUPPORT_CLIENT_VERSION	操作を実行するためのネットワークが使用できません。	サーバのバージョンに対応したクライアントライブラリを利用してください。
37	ERR_ACCESS_NOT_PERMITTED	アクセス権がありません。	必要なアクセス権を設定して、再度実行してください。
40	ERR_ACCESSCONTROL_NOT_SUPPORTED	アクセス制御機能が未サポートです。	この操作は実行できません。
41	ERR_BAD_PERMISSION	不正なパーミッションが指定されました。	正しいパーミッションを指定してください。
42	ERR_BAD_SUBJECT_TYPE	不正なサブジェクト種別が指定されました。	正しいサブジェクト種別を指定してください。
43	ERR_INVALID_SUBJECT_LENGTH	サブジェクトの長さが不正です。	サブジェクトの種別に応じた長さでサブジェクトを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>サブジェクトの種別がユーザ識別子の場合、1文字以上、ユーザ識別子の最大長以下の文字列を指定してください。ユーザ識別子の最大長は、通常 254 文字ですが、DocumentBroker の環境設定時に 512 文字まで拡張できます。</li> <li>サブジェクトの種別がグループ識別子の場合、1文字以上、グループ識別子の最大長以下の文字列を指定してください。グループ識別子の最大長は、通常 254 文字ですが、DocumentBroker の環境設定時に 512 文字まで拡張できます。</li> <li>サブジェクトの種別がシステムサブジェクトの場合、1文字以上、254 文字以下の文字列を指定してください。</li> </ul> ユーザ識別子とグループ識別子の最大長を拡張する方法の詳細については、マニュアル「DocumentBroker Version 3 システム導入・運用ガイド」を参照してください。
44	ERR_INVALID_ACE_COUNT	設定する ACE の個数が制限値を超えています。	ACE は 64 個以内で指定してください。
45	ERR_INVALID_PUBLICACL_COUNT	バインドするパブリック ACL の個数が制限値を超えています。	パブリック ACL は 10 個以内で指定してください。
47	ERR_INVALID_ACE	不正な ACE が指定されました。	ACE として正しい CdbrCompound を指定してください。

## 8. 戻り値一覧

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
48	ERR_PUBLICACL_ALRE DY_BOUND	指定されたパブリック ACL は すでにバインドされています。	すでにバインドされているパブ リック ACL を指定しないで処 理を再実行してください。
49	ERR_PUBLICACL_NOT_B OUND	指定されたパブリック ACL は バインドされていません。	バインドされているパブリック ACL を指定して処理を再度実 行してください。
50	ERR_NONEXISTS_PUBLIC ACL	指定されたパブリック ACL は 存在しません。	存在しないパブリック ACL を 指定しないで処理を再度実行し てください。
51	ERR_CONTENT_IS_EMPT Y	コンテンツが変換処理されてな くて空です。	この操作は実行できません。
52	ERR_IS_MASTERRENDITI ON	指定された RenditionType は マスタレンディションです。	RenditionType を見直してくだ さい。
53	ERR_LIMITNUM_OF_REN DITIONS	保持できるレンディション数の 上限に達しています。	この操作は実行できません。
54	ERR_MASTERRENDTYPE_ NOT_SET	マスタレンディションの RenditionType に値が設定され ていません。	この操作は実行できません。
55	ERR_NONEXISTS_RENDI TION	指定された RenditionType は 存在しません。	RenditionType を見直してくだ さい。
56	ERR_RENDITIONTYPE_D UPLICATED	RenditionType が重複していま す。	重複しない RenditionType を 指定してください。
57	ERR_RENDITION_NOT_C ONVERTED	コンテンツが更新処理されてい ません。	この操作は実行できません。
58	ERR_CONTENTTYPE_MIS MATCH	指定したレンディションタイプ のコンテンツに対して実行でき ません。	正しい文書オブジェクトを指定 してメソッドを実行してくださ い。
59	ERR_EQL_ALREADY_INIT IALIZED	すでに初期化されています。	この操作は実行できません。
60	ERR_EQL_NOT_INITIALI ZE	初期化が実行されていません。	初期化を実行してください。
61	ERR_EQL_STATEMENT_N OT_SET	実行する edmSQL 文が登録さ れていません。	CdbrEqStatement::Set メ ソッドで実行する edmSQL 文 を登録してください。
62	ERR_EQL_STATEMENT_N OT_EXEC	edmSQL 文が実行されていま せん。	CdbrEqStatement::Execute メソッドを実行し、edmSQL 文を実行してください。
63	ERR_EQL_BAD_STATEME NT	不正な edmSQL 文を実行しよ うとしました。	edmSQL 文を見直してくださ い。必要に応じて構文解析結果 情報を取得してください。
65	ERR_NOT_VERSION_TRA CEABLE	バージョントレース可能なオブ ジェクトではありません。	この操作はできません。オブ ジェクトのクラスを見直してく ださい。
66	ERR_OBJECT_NOT_INITI ALIZE	オブジェクトが初期化されてい ません。	初期化を実行してください。
67	ERR_OBJECT_ALREADY_I NITIALIZED	オブジェクトは初期化済みで す。	この操作は実行できません。
68	ERR_INVALID_DEFINITIO N	定義情報が不正です。	定義ファイルの内容を見直して ください。

minor_code の戻り値	minor_code	説明	対処
71	ERR_SESSION_ALREADY_AUTHENTICATED	文書空間にすでにログインしています。	処理を継続するか、文書空間からログアウトしてから、再度このメソッドをコールしてください。
72	ERR_SESSION_NOT_AUTHENTICATE	文書空間にログインしていません。	文書空間にログインしてください。
73	ERR_INVALIDENV	実行環境が不正です。	環境変数「DOCBROKERDIR」に、DocumentBroker の実行環境ディレクトリを正しく指定するか、syslog ファイルに出力されているメッセージを基に対処してください。
74	ERR_OPERATION_FAILED	初期化処理または終了処理に失敗しました。次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• docspace.ini メモリ常駐失敗</li> <li>• OIID 通番メモリ常駐失敗</li> <li>• メタ情報常駐失敗</li> <li>• 文書空間接続準備失敗</li> <li>• 実行環境情報のメモリ常駐失敗</li> <li>• プロセス間ロック制御失敗</li> </ul>	syslog ファイルに出力されているメッセージを基に対処してください。
75	ERR_NOT_MULTI_CONTENTS	マルチファイル文書ではありません。	マルチファイル管理機能を使用しない場合の形式で実行してください。
76	ERR_BAD_CONTENTSCOUNT	登録しようとするファイルの数が多過ぎます。	登録するファイルの数を見直してください。
77	ERR_RETRIEVALNAME_DUPLICATED	RetrievalName が重複して指定されています。	RetrievalName が重複しないように指定してください。
78	ERR_COMPONENTTYPE_DUPLICATED	ComponentType が重複して指定されています。	ComponentType が重複しないように指定してください。
80	ERR_SYSTEMDBSERVER_NOT_NOTIFY	DB コネクション管理オブジェクトのリファレンスが未通知です。	処理を終了してから、再度実行してください。
81	ERR_FILELINK_FAILED	HiRDB File Link でエラーが発生しました。	エラーの要因を取り除いて再度実行してください。
82	ERR_FAL_NOT_LOADED	HiRDB File Link のライブラリがロードできません。	詳細メッセージを基に対処してください。
83	ERR_CONTENT_NOT_REGISTERED	コンテンツが登録されていません。	コンテンツを登録してください。
84	ERR_BAD_ENV	環境変数が不正です。	環境変数に正しい値を指定してください。
85	ERR_FILE_REFERENCE_OPERATION_FAILED	リファレンスファイル管理機能で扱うサーバマシンでのコンテンツの操作でエラーが発生しました。	詳細メッセージを基に対処してください。

## 8. 戻り値一覧

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
86	ERR_FILE_REFERENCE_ MISMATCH_STATUS	リファレンスファイル管理機能 で扱うサーバマシンでのコンテ ントの操作でエラーが発生し、 オブジェクトとコンテンツが不 整合な状態となりました。	エラーが発生した操作に応じ て、次の対策を実施してくださ い。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 文書の更新のとき 文書を削除したあと、更新 後のコンテンツを使用して 文書を作成してください。</li> <li>• 文書の削除のとき 再度実行して文書を削除し てください。</li> <li>• バージョンの削除のとき 再度実行してバージョンを 削除してください。</li> <li>• チェックアウトの取り消し のとき 再度実行してチェックアウト を取り消してください。</li> </ul>
87	ERR_TARGETCONTENTPA TH_NOT_SET	リファレンスファイル管理機能 でコンテンツ格納先ベースパス が設定されていません。また は、UNC 形式のパスの場合、 コンテンツ格納先ベースパスに コンピュータ名または IP アド レスだけが使用されています。	コンテンツ格納先ベースパスを 設定してください。
88	ERR_REFERENCETYPE_ MISMATCH	オブジェクト種別が一致してい ません。	オブジェクト種別または指定し た操作モード (IContentOperateMode) を見 直してください。
91	ERR_FILE_REFERENCE_C URRENT_CONTENT_NOT FOUND	リファレンスファイル管理機能 でカレントバージョンのコンテ ントが存在しません。	エラーが発生したメソッドに応 じて、次の対策を実施してくだ さい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• VersionCheckOut 該当するレンディションを 削除し、必要に応じて、削 除したレンディションを追 加してください。または、 バージョンを最新から順に 確認し、コンテンツが存在 しないバージョンを削除し てください。</li> <li>• VersionCheckIn CdbrVersionable::VersionRe voke メソッドを実行し、 VersionCheckOut を実行し てください。必要に応じて コンテンツを更新してくだ さい。</li> <li>• DeleteVersion 該当するレンディションを 削除し、必要に応じて、削 除したレンディションを追 加してください。または、 バージョンを最新（カレン トバージョンを削除した場 合は一つ前のバージョン） から順に確認し、コンテ ントが存在しないバージョン を削除してください。</li> </ul>

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
			<ul style="list-style-type: none"> <li>• RemoveObject 該当するレンディションを削除し、必要に応じて、削除したレンディションを追加してください。または、バージョンを最新（カレントバージョンを削除した場合は一つ前のバージョン）から順に確認し、コンテンツが存在しないバージョンを削除してください。</li> <li>• VersionRevoke 該当するレンディションを削除し、必要に応じて、削除したレンディションを追加してください。または、バージョンを最新から順に確認し、コンテンツが存在しないバージョンを削除してください。</li> </ul>
92	ERR_CONVERT_CONTENT_TARGET_NOTFOUND	変換対象のコンテンツは存在しません。	オブジェクトのコンテンツ種別または指定した変換対象とするコンテンツ種別 (ISourceContentType) を見直してください。
93	ERR_CONVERT_CONTENT_NOT_RETRIEVALNAME	変換対象コンテンツの dmaProp_RetrievalName プロパティの値が設定されていない (値が NULL または空文字 ("")) ため、変換処理を実行できません。	dmaProp_RetrievalName プロパティの値を設定してメソッドを実行してください。

## 8.4 データベースエラーが発生した場合の戻り値 (ERR\_DB の場合)

major\_code が ERR\_DB の場合の minor\_code の一覧を次の表に示します。

表 8-4 major\_code が ERR\_DB の場合のクラスライブラリ独自の戻り値一覧

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
26	ERR_DB_LOCKED	オブジェクトがロックされています。	時間を置いて、再度実行してください。
27	ERR_DB_DEADLOCK_OCCURED	データベースでデッドロックが発生しました。	時間を置いて、再度実行してください。
28	ERR_DB_FAILED	データベースで障害が発生しました。	syslog ファイルを参照して、障害の原因を取り除いてください。

---

## 索引

### D

---

DMA の戻り値 339

### E

---

ERR\_DBR の場合のクラスライブラリ独自の戻り値  
一覧 344

ERR\_DB の場合のクラスライブラリ独自の戻り値一  
覧 350

ERR\_DMA の場合の DMA の戻り値一覧 339

### K

---

KMBR00000-E 8

KMBR00001-E 8

KMBR00002-E 8

KMBR00003-E 9

KMBR00004-E 9

KMBR02000-E 12

KMBR02001-E 12

KMBR02002-E 13

KMBR02003-E 13

KMBR02004-E 13

KMBR02005-E 14

KMBR02006-E 14

KMBR02007-E 16

KMBR03000-I 17

KMBR03001-I 17

KMBR03002-I 17

KMBR03003-I 17

KMBR03005-E 18

KMBR03006-E 19

KMBR03008-W 19

KMBR03009-E 20

KMBR03010-I 20

KMBR03011-I 20

KMBR03012-E 20

KMBR03013-W 21

KMBR03014-E 21

KMBR03015-I 21

KMBR03016-I 21

KMBR03017-I 22

KMBR03018-I 22

KMBR03019-I 22

KMBR03022-I 22

KMBR03023-I 23

KMBR03024-I 23

KMBR03025-I 23

KMBR03026-I 23

KMBR03027-I 23

KMBR03028-I 24

KMBR03029-I 24

KMBR03030-I 24

KMBR03031-I 24

KMBR03032-E 24

KMBR03034-E 25

KMBR03042-E 25

KMBR03043-E 26

KMBR03044-E 27

KMBR03045-I 28

KMBR03046-I 28

KMBR03047-I 29

KMBR03048-I 29

KMBR03049-I 29

KMBR03050-I 29

KMBR03051-I 30

KMBR03052-I 30

KMBR03053-E 30

KMBR03054-W 31

KMBR03115-W 31

KMBR03117-E 32

KMBR03207-E 32

KMBR03302-E 36

KMBR03309-I 36

KMBR03310-I 36

KMBR03311-I 36

KMBR03312-I 37

KMBR03313-W 37

KMBR03314-E 37

KMBR03315-E 37

KMBR03316-E 38

KMBR03317-E 38

KMBR03318-E 38

KMBR03319-I 38

KMBR03320-W 39

KMBR03321-E 39

KMBR03322-E 39

KMBR03323-E 40

KMBR03324-E 40

KMBR03325-E 40

KMBR03328-I 40

KMBR03329-E 41

KMBR03330-E 41

KMBR03331-E 41

- KMBR03332-E 42  
KMBR03333-E 44  
KMBR03334-I 45  
KMBR03335-I 45  
KMBR03336-E 45  
KMBR03337-E 46  
KMBR03350-E 46  
KMBR03351-E 46  
KMBR03352-I 46  
KMBR03353-I 46  
KMBR03354-E 47  
KMBR03355-E 47  
KMBR03356-E 47  
KMBR03357-I 47  
KMBR03358-E 48  
KMBR03359-E 48  
KMBR03360-E 48  
KMBR03361-E 48  
KMBR03362-I 49  
KMBR03363-I 49  
KMBR03364-E 49  
KMBR03365-E 50  
KMBR03366-E 50  
KMBR03367-I 50  
KMBR03368-E 50  
KMBR03373-I 51  
KMBR03377-I 51  
KMBR03378-I 52  
KMBR03379-I 52  
KMBR03380-I 52  
KMBR03381-E 53  
KMBR03382-E 53  
KMBR03383-E 54  
KMBR03384-W 54  
KMBR03385-E 54  
KMBR03386-E 55  
KMBR03387-I 55  
KMBR03388-E 55  
KMBR03389-W 55  
KMBR03390-I 56  
KMBR03391-I 57  
KMBR03392-I 57  
KMBR03393-I 58  
KMBR03394-I 58  
KMBR03395-E 59  
KMBR03401-I 59  
KMBR03402-I 59  
KMBR03403-I 60  
KMBR03404-I 60  
KMBR03405-I 60  
KMBR03406-I 60  
KMBR03411-I 60  
KMBR03412-I 61  
KMBR03413-I 61  
KMBR03414-I 61  
KMBR03415-I 61  
KMBR03416-I 62  
KMBR03419-I 62  
KMBR03420-I 62  
KMBR03421-I 62  
KMBR03422-I 62  
KMBR03423-E 63  
KMBR03424-W 63  
KMBR03425-I 63  
KMBR03426-E 63  
KMBR03427-E 64  
KMBR03428-E 64  
KMBR03431-E 64  
KMBR03432-E 64  
KMBR03435-E 65  
KMBR03436-E 65  
KMBR03437-W 65  
KMBR03438-W 65  
KMBR03439-E 66  
KMBR03440-E 67  
KMBR03441-E 67  
KMBR03442-I 68  
KMBR03443-I 68  
KMBR03444-I 69  
KMBR03445-I 69  
KMBR03446-I 69  
KMBR03447-I 69  
KMBR04000-E 70  
KMBR04001-E 70  
KMBR04002-E 71  
KMBR04003-E 71  
KMBR04004-E 71  
KMBR04005-E 72  
KMBR04006-E 72  
KMBR04007-E 72  
KMBR04008-E 73  
KMBR04009-E 73  
KMBR04013-E 73  
KMBR04014-E 74  
KMBR04015-E 74  
KMBR04016-E 74  
KMBR04017-E 75  
KMBR04209-W 75  
KMBR05005-E 76  
KMBR06000-E 76

KMBR06001-E 77  
KMBR06002-I 77  
KMBR06003-I 78  
KMBR06004-E 78  
KMBR06007-W 78  
KMBR08000-I 79  
KMBR08001-E 79  
KMBR08002-W 79  
KMBR08003-I 80  
KMBR08004-I 80  
KMBR08005-E 80  
KMBR08006-W 80  
KMBR08007-I 81  
KMBR08008-W 81  
KMBR08009-W 81  
KMBR10203-E 84  
KMBR10204-E 84  
KMBR10205-E 84  
KMBR10207-E 85  
KMBR10208-E 85  
KMBR10209-E 86  
KMBR10210-E 86  
KMBR10211-I 86  
KMBR10212-E 87  
KMBR10221-W 87  
KMBR10222-W 87  
KMBR10223-W 88  
KMBR10224-W 88  
KMBR10225-W 88  
KMBR10226-W 89  
KMBR10227-W 89  
KMBR10228-I 89  
KMBR10229-I 90  
KMBR10230-I 90  
KMBR10231-W 90  
KMBR10254-E 91  
KMBR10255-E 91  
KMBR10256-E 92  
KMBR10257-W 92  
KMBR10258-I 92  
KMBR10259-W 92  
KMBR10260-W 93  
KMBR10261-W 93  
KMBR10263-W 93  
KMBR10264-W 94  
KMBR10265-W 94  
KMBR10266-W 95  
KMBR10267-W 95  
KMBR10268-W 95  
KMBR10269-W 96  
KMBR10270-W 96  
KMBR10271-W 97  
KMBR10272-W 97  
KMBR10273-W 97  
KMBR10274-W 98  
KMBR10275-W 98  
KMBR10276-W 98  
KMBR10277-W 99  
KMBR10278-W 99  
KMBR10279-W 100  
KMBR10280-W 100  
KMBR10281-W 100  
KMBR10282-W 101  
KMBR10301-E 101  
KMBR10302-E 101  
KMBR10303-E 102  
KMBR10304-E 102  
KMBR10305-E 102  
KMBR10306-E 103  
KMBR10307-E 103  
KMBR10308-E 103  
KMBR10311-I 103  
KMBR10312-E 104  
KMBR10313-E 104  
KMBR10314-E 104  
KMBR10315-E 105  
KMBR10316-E 105  
KMBR10317-E 105  
KMBR10318-E 106  
KMBR10319-E 106  
KMBR10322-E 106  
KMBR10323-E 107  
KMBR10324-E 107  
KMBR10325-E 107  
KMBR10326-E 108  
KMBR10327-E 108  
KMBR10401-E 108  
KMBR10402-E 108  
KMBR10403-E 109  
KMBR10404-E 109  
KMBR10405-E 109  
KMBR10406-E 110  
KMBR10407-E 110  
KMBR10408-E 110  
KMBR10409-E 110  
KMBR10410-I 111  
KMBR10411-I 111  
KMBR10412-I 111  
KMBR10413-E 112  
KMBR10500-E 112

- KMBR10501-E 112  
KMBR10502-E 112  
KMBR10503-E 113  
KMBR10504-E 113  
KMBR10507-E 114  
KMBR10533-E 114  
KMBR10534-E 114  
KMBR10550-E 115  
KMBR10570-E 115  
KMBR10571-E 116  
KMBR10572-E 116  
KMBR10573-E 117  
KMBR10574-E 117  
KMBR10575-E 118  
KMBR10576-E 118  
KMBR10577-E 119  
KMBR10587-E 119  
KMBR10588-E 120  
KMBR10589-E 120  
KMBR10590-E 121  
KMBR10591-E 122  
KMBR10592-E 122  
KMBR10594-E 123  
KMBR10597-E 123  
KMBR10610-E 124  
KMBR10611-E 124  
KMBR10612-E 125  
KMBR10630-E 125  
KMBR10631-E 126  
KMBR10632-E 126  
KMBR10633-E 126  
KMBR10634-E 127  
KMBR10635-E 127  
KMBR10636-E 128  
KMBR10637-E 128  
KMBR10638-E 128  
KMBR10639-E 129  
KMBR10640-E 129  
KMBR10641-E 129  
KMBR10642-E 130  
KMBR10643-E 131  
KMBR10644-E 131  
KMBR10645-E 131  
KMBR10650-I 132  
KMBR10651-I 132  
KMBR10652-I 132  
KMBR10750-E 133  
KMBR10751-E 133  
KMBR10752-E 133  
KMBR10753-E 133  
KMBR10754-E 134  
KMBR10755-E 134  
KMBR10756-E 134  
KMBR10770-E 134  
KMBR10771-E 135  
KMBR10772-E 135  
KMBR10773-E 135  
KMBR10789-E 136  
KMBR10791-E 136  
KMBR10792-E 136  
KMBR10793-E 136  
KMBR10794-E 137  
KMBR10795-E 137  
KMBR10796-E 137  
KMBR10797-E 138  
KMBR10798-E 138  
KMBR10799-E 138  
KMBR10800-E 138  
KMBR12000-I 139  
KMBR12001-E 139  
KMBR12002-E 139  
KMBR12003-E 140  
KMBR12004-E 140  
KMBR12005-E 140  
KMBR12006-E 140  
KMBR12007-E 141  
KMBR12008-E 141  
KMBR12009-E 141  
KMBR12010-E 142  
KMBR12101-I 142  
KMBR12102-I 142  
KMBR12103-I 143  
KMBR12201-I 143  
KMBR12202-I 143  
KMBR12204-E 143  
KMBR12205-E 144  
KMBR12301-E 144  
KMBR12302-E 144  
KMBR12303-E 144  
KMBR12304-E 145  
KMBR12305-E 145  
KMBR12306-E 145  
KMBR12307-E 145  
KMBR12308-E 146  
KMBR12309-E 146  
KMBR12310-E 146  
KMBR12311-E 147  
KMBR12312-I 147  
KMBR12313-E 147  
KMBR12351-I 147

- KMBR12401-I 148  
KMBR12402-E 148  
KMBR12501-I 149  
KMBR12502-I 149  
KMBR12503-I 149  
KMBR12700-I 150  
KMBR12701-I 150  
KMBR12702-I 150  
KMBR12704-I 150  
KMBR12705-E 151  
KMBR12706-E 151  
KMBR12707-E 151  
KMBR12708-E 152  
KMBR12709-E 152  
KMBR12710-E 152  
KMBR13001-I 153  
KMBR13002-I 153  
KMBR13003-E 153  
KMBR13004-E 153  
KMBR13005-E 154  
KMBR13006-E 154  
KMBR13007-E 155  
KMBR13008-E 155  
KMBR13012-E 155  
KMBR13013-E 156  
KMBR13015-E 156  
KMBR13016-E 156  
KMBR13017-E 157  
KMBR13018-E 157  
KMBR13020-E 157  
KMBR13021-E 158  
KMBR13022-E 158  
KMBR13023-E 159  
KMBR13024-E 159  
KMBR13025-E 159  
KMBR13026-E 160  
KMBR13027-E 160  
KMBR13028-E 161  
KMBR13029-I 161  
KMBR13030-E 161  
KMBR13032-E 161  
KMBR13033-E 162  
KMBR13034-E 162  
KMBR13037-E 162  
KMBR13040-E 163  
KMBR13041-E 164  
KMBR13042-E 164  
KMBR13043-E 165  
KMBR13046-E 165  
KMBR13047-E 166  
KMBR13048-E 166  
KMBR13049-E 166  
KMBR13050-E 166  
KMBR13051-E 167  
KMBR13052-E 167  
KMBR13053-E 167  
KMBR13054-E 169  
KMBR13055-E 169  
KMBR13056-E 169  
KMBR13057-I 176  
KMBR13058-E 176  
KMBR13059-E 177  
KMBR13103-E 177  
KMBR13104-E 177  
KMBR13105-E 178  
KMBR13106-E 179  
KMBR13107-W 180  
KMBR13108-E 180  
KMBR13109-W 181  
KMBR13121-E 182  
KMBR13122-E 183  
KMBR13123-E 184  
KMBR13124-E 185  
KMBR13125-W 187  
KMBR13126-E 188  
KMBR13131-E 189  
KMBR13141-E 189  
KMBR13142-E 190  
KMBR13151-E 190  
KMBR13152-E 191  
KMBR13161-E 191  
KMBR13162-E 192  
KMBR13163-W 192  
KMBR13165-E 192  
KMBR13166-E 192  
KMBR13168-W 193  
KMBR13171-E 193  
KMBR13172-E 193  
KMBR13181-E 193  
KMBR13182-W 194  
KMBR13183-I 194  
KMBR13184-E 194  
KMBR13199-E 194  
KMBR13990-E 195  
KMBR13994-I 195  
KMBR13995-E 195  
KMBR13996-E 195  
KMBR13997-E 196  
KMBR13998-E 196  
KMBR13999-E 196

- KMBR16701-E 196  
KMBR16710-E 197  
KMBR16711-E 197  
KMBR16712-E 197  
KMBR16713-E 198  
KMBR16720-E 198  
KMBR16801-E 198  
KMBR16802-E 199  
KMBR16803-E 199  
KMBR16804-E 200  
KMBR16805-E 200  
KMBR16810-E 200  
KMBR16820-E 201  
KMBR16821-E 201  
KMBR16822-E 201  
KMBR16823-E 202  
KMBR16829-E 202  
KMBR16830-E 203  
KMBR16831-E 203  
KMBR16920-E 203  
KMBR16930-I 204  
KMBR16931-I 204  
KMBR16932-I 204  
KMBR16933-I 204  
KMBR16990-I 205  
KMBR16999-E 207  
KMBR17000-I 207  
KMBR17001-E 207  
KMBR17002-E 208  
KMBR17003-E 208  
KMBR17004-E 208  
KMBR17005-E 209  
KMBR17006-E 209  
KMBR17007-E 209  
KMBR17008-E 210  
KMBR17009-E 210  
KMBR17010-E 211  
KMBR17011-E 211  
KMBR17012-E 211  
KMBR17013-E 212  
KMBR17014-E 212  
KMBR17015-E 213  
KMBR17016-E 213  
KMBR17017-E 213  
KMBR17018-W 214  
KMBR17019-I 214  
KMBR17020-I 214  
KMBR17021-W 214  
KMBR17022-W 215  
KMBR17024-E 215  
KMBR17025-E 216  
KMBR17026-E 216  
KMBR17027-I 216  
KMBR17028-E 216  
KMBR17030-W 217  
KMBR17033-E 217  
KMBR17034-E 217  
KMBR18000-E 218  
KMBR18001-E 218  
KMBR18002-E 218  
KMBR18003-E 218  
KMBR18004-E 219  
KMBR18005-E 219  
KMBR18006-E 219  
KMBR18007-I 220  
KMBR18008-E 220  
KMBR18010-W 220  
KMBR18011-W 221  
KMBR18012-W 221  
KMBR18013-W 221  
KMBR18014-W 222  
KMBR18015-I 222  
KMBR18016-I 222  
KMBR18017-I 222  
KMBR18020-I 223  
KMBR18021-I 223  
KMBR18022-I 223  
KMBR18023-E 223  
KMBR18024-E 224  
KMBR18025-E 224  
KMBR18026-E 224  
KMBR18030-I 224  
KMBR18031-I 225  
KMBR18050-I 225  
KMBR18051-I 225  
KMBR18052-W 225  
KMBR18053-W 226  
KMBR18054-E 226  
KMBR18055-E 226  
KMBR18056-I 227  
KMBR18057-I 227  
KMBR18058-I 227  
KMBR18059-I 227  
KMBR18100-I 228  
KMBR18101-I 228  
KMBR18102-W 228  
KMBR18103-W 228  
KMBR18104-W 229  
KMBR18105-W 229  
KMBR18106-W 229

- KMBR18107-E 230  
KMBR18108-E 230  
KMBR18109-E 230  
KMBR18200-I 231  
KMBR18201-I 231  
KMBR18220-I 231  
KMBR18221-I 231  
KMBR18260-I 232  
KMBR18261-I 232  
KMBR19001-E 232  
KMBR19002-W 233  
KMBR19003-E 233  
KMBR19004-E 233  
KMBR19005-E 234  
KMBR19006-E 234  
KMBR19007-E 234  
KMBR19008-E 234  
KMBR19009-E 235  
KMBR19010-E 235  
KMBR19011-E 235  
KMBR19012-E 236  
KMBR19013-E 236  
KMBR19014-W 236  
KMBR19015-W 237  
KMBR19016-W 237  
KMBR19017-W 237  
KMBR19018-W 238  
KMBR19019-W 238  
KMBR19020-W 238  
KMBR19021-E 239  
KMBR19022-E 239  
KMBR19023-E 240  
KMBR19024-E 241  
KMBR19030-E 241  
KMBR19031-E 241  
KMBR19032-E 242  
KMBR19040-E 242  
KMBR19041-E 242  
KMBR19042-E 243  
KMBR19050-E 243  
KMBR19051-E 243  
KMBR19052-E 244  
KMBR19100-E 244  
KMBR19101-E 244  
KMBR19120-E 245  
KMBR19121-E 245  
KMBR19122-E 245  
KMBR19190-I 246  
KMBR19191-E 246  
KMBR19200-I 246  
KMBR19201-I 246  
KMBR19243-E 247  
KMBR19247-E 247  
KMBR19248-E 248  
KMBR19249-E 248  
KMBR19250-E 248  
KMBR19251-E 248  
KMBR19252-E 249  
KMBR19253-E 249  
KMBR19254-W 249  
KMBR19255-E 250  
KMBR19256-E 250  
KMBR19257-W 250  
KMBR19258-E 250  
KMBR19259-E 251  
KMBR19300-I 251  
KMBR20000-E 256  
KMBR21000-E 256  
KMBR21001-E 257  
KMBR21002-E 257  
KMBR21003-E 258  
KMBR21004-E 258  
KMBR21005-E 258  
KMBR22001-E 258  
KMBR22002-E 259  
KMBR22003-E 259  
KMBR22011-E 260  
KMBR22021-E 260  
KMBR24000-E 260  
KMBR24001-E 261  
KMBR24002-E 261  
KMBR24003-E 262  
KMBR24004-E 263  
KMBR24005-E 263  
KMBR24006-E 267  
KMBR24007-E 268  
KMBR24009-E 269  
KMBR24010-E 271  
KMBR25000-E 272  
KMBR25001-E 273  
KMBR25002-E 273  
KMBR25003-E 273  
KMBR25004-E 274  
KMBR25005-E 274  
KMBR25006-E 275  
KMBR25007-E 275  
KMBR25008-E 275  
KMBR25009-E 276  
KMBR25010-E 276  
KMBR26000-E 276

- KMBR26001-E 277  
KMBR26002-E 277  
KMBR26003-E 277  
KMBR26004-E 278  
KMBR26005-E 278  
KMBR26008-E 278  
KMBR30000-E 280  
KMBR30010-E 280  
KMBR30011-E 280  
KMBR30020-E 281  
KMBR30021-E 281  
KMBR30030-E 281  
KMBR30031-E 282  
KMBR30040-E 282  
KMBR30041-E 282  
KMBR30042-E 283  
KMBR30043-E 284  
KMBR30100-E 284  
KMBR30101-E 287  
KMBR30102-E 288  
KMBR30103-E 289  
KMBR30104-E 290  
KMBR30200-E 291  
KMBR30201-E 292  
KMBR30202-E 292  
KMBR30203-E 292  
KMBR30204-E 293  
KMBR31000-E 293  
KMBR31001-E 294  
KMBR31002-E 294  
KMBR31003-E 294  
KMBR31004-E 295  
KMBR31005-E 295  
KMBR31006-E 296  
KMBR31007-E 296  
KMBR31008-E 296  
KMBR31009-E 297  
KMBR31100-E 297  
KMBR31101-E 297  
KMBR31102-E 298  
KMBR31103-W 298  
KMBR31104-E 299  
KMBR31200-E 299  
KMBR31201-E 300  
KMBR31202-E 300  
KMBR31300-E 300  
KMBR31301-E 301  
KMBR31302-E 301  
KMBR31303-E 301  
KMBR31304-E 302  
KMBR31305-E 302  
KMBR31306-E 303  
KMBR31307-E 303  
KMBR31501-E 303  
KMBR32000-W 304  
KMBR32001-E 304  
KMBR32002-I 304  
KMBR32003-I 304  
KMBR32004-E 305  
KMBR32100-E 305  
KMBR32101-E 305  
KMBR32102-E 305  
KMBR32103-E 306  
KMBR32104-E 306  
KMBR32105-E 306  
KMBR32106-W 306  
KMBR32107-I 307  
KMBR32108-E 307  
KMBR32109-I 307  
KMBR32110-E 307  
KMBR32111-E 308  
KMBR32112-W 308  
KMBR32113-W 308  
KMBR32114-E 308  
KMBR32115-I 309  
KMBR32117-I 309  
KMBR32118-E 309  
KMBR32119-E 310  
KMBR32120-E 310  
KMBR32121-E 310  
KMBR32122-E 311  
KMBR32123-E 311  
KMBR32124-W 311  
KMBR32125-E 312  
KMBR32126-E 312  
KMBR32127-W 312  
KMBR32200-E 313  
KMBR32201-E 313  
KMBR50000-E 316  
KMBR50001-E 316  
KMBR50002-E 316  
KMBR50003-E 317  
KMBR50004-E 317  
KMBR50005-E 318  
KMBR50006-E 318  
KMBR50007-W 318  
KMBR50008-W 319  
KMBR50009-W 319  
KMBR50010-I 320  
KMBR50011-E 320

KMBR50012-E 320  
 KMBR50013-E 321  
 KMBR50014-E 321  
 KMBR50015-E 321  
 KMBR50016-E 322  
 KMBR50017-E 322  
 KMBR50019-I 322  
 KMBR50020-I 323  
 KMBR50021-E 323  
 KMBR50022-E 323  
 KMBR50023-W 324  
 KMBR50024-W 324  
 KMBR50025-I 325  
 KMBR50026-I 325  
 KMBR50027-W 325  
 KMBR50028-W 326  
 KMBR50029-E 326  
 KMBR50031-E 326  
 KMBR50032-E 327  
 KMBR50033-E 327  
 KMBR50034-W 327  
 KMBR50035-W 327  
 KMBR50036-E 328  
 KMBR50037-E 328  
 KMBR50038-E 328  
 KMBR50039-E 329  
 KMBR51000-E 329  
 KMBR51001-E 329  
 KMBR51002-E 330  
 KMBR51003-E 330  
 KMBR51004-E 331  
 KMBR51005-E 331  
 KMBR51006-W 331  
 KMBR51007-I 332  
 KMBR51008-E 332  
 KMBR51009-E 332  
 KMBR51010-E 333  
 KMBR51011-E 333  
 KMBR51012-E 333  
 KMBR51013-E 334  
 KMBR51014-E 334  
 KMBR51015-E 335  
 KMBR51016-I 335  
 KMBR51017-I 335  
 KMBR51018-E 335  
 KMBR51019-E 336  
 KMBR51020-E 336

---

## M

major\_code 338  
 minor\_code 338

---

## S

syslog ファイル 2  
 syslog ファイルに出力されるメッセージの出力形式 3

---

## い

イベントログ 2  
 イベントログに出力されるメッセージの出力形式 3

---

## く

クラスライブラリ独自の戻り値 344  
 クラスライブラリの戻り値 338

---

## こ

コマンドプロンプト 2

---

## し

詳細エラーログファイル 2

---

## て

データベースエラーが発生した場合の戻り値 350

---

## と

トレースファイル 2

---

## ひ

標準出力 2  
 標準出力, コマンドプロンプト, 詳細エラーログファイルおよびトレースファイルに出力されるメッセージの出力形式 3

---

## め

メッセージの記述形式 4  
 メッセージの出力形式 3  
 メッセージの出力先 2

---

## も

戻り値の種類と major\_code の関係 338